

博士論文

進行アスペクトとテンスに関する日本語と
キルギス語の対照研究

2016年9月

宇都宮大学国際学研究科博士後期課程

国際学研究専攻

134601U

スバゴジョエワ アセリ

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 目次..... | i |
| 序章..... | 1 |
| 1. 本研究の動機と対象、目的と方法 | 1 |
| 1.1 動機と対象 | 1 |
| 1.2 研究の目的..... | 6 |
| 1.3 本論文で用いる方法 | 6 |
| 2. 本論文の全体の構成..... | 7 |
| 3. その他書式上の留意事項..... | 7 |
| 3.1 本論文で使用する文字体系について..... | 8 |
| 3.2 本論文で採用する文法情報の略号について..... | 9 |
| 3.3 本論文における術語の使用「アスペクト」と「体」について..... | 10 |
| 4. 本論文が対象とするキルギス語 | 10 |
| 4.1 キルギス語の使用地域と言語史上の特徴..... | 10 |
| 4.2 キルギス語の文法的特徴..... | 12 |
| 4.3 キルギス語の音声的特徴..... | 13 |
| 4.4 本論文で扱う「補助動詞」と「副動詞」..... | 16 |
| 4.4.1 「補助動詞」の定義..... | 16 |
| 4.4.2 「副動詞」の定義..... | 18 |
| 4.4.3 $-(i)p$ 副動詞の意味..... | 19 |
| 4.5 キルギス語の分析的（合成的）動詞形式について..... | 21 |
| 4.6 本論文の言語資料..... | 23 |
| 4.6.1 資料の選定方法..... | 23 |
| 4.6.2 資料から得られた用例数..... | 24 |
| 第1章 先行研究の概観と問題点..... | 25 |
| 0. 本章の概要..... | 25 |
| 1. 一般言語学の観点から見た動詞のアスペクトとテンス..... | 25 |
| 1.1 テンス..... | 25 |
| 1.2 アスペクト..... | 27 |
| 1.3 アスペクトというカテゴリー | 28 |
| 1.3.1 一次的アスペクト..... | 29 |
| 1.3.2 二次的アスペクト | 30 |

| | | |
|---------|--|----|
| 1.4 | ロシア語の体のカテゴリーの持つ文法的意味..... | 30 |
| 1.5 | 不完了体の個別的意味 | 31 |
| 2. | 現代日本語のアスペクト研究の現状..... | 33 |
| 2.1 | 現代日本語のアスペクト研究史 | 33 |
| 2.2 | 現代日本語の基本的なアスペクト体系..... | 35 |
| 2.2.1 | 文法的アスペクト「～テイル」の意味..... | 36 |
| 2.2.2 | 工藤 (1982、1995) | 37 |
| 2.3 | 語彙的アスペクト..... | 38 |
| 2.3.1 | 「～テイル」と運動動詞の相関関係..... | 38 |
| 2.3.2 | 動作の時間の長さ (金田一 1950) | 38 |
| 2.3.3 | 主体のあり方 (奥田 1977) | 39 |
| 3. | キルギス語のアスペクト形式に関する捉え方..... | 40 |
| 3.1 | 現代キルギス語の動詞の語形成と動詞の分類..... | 43 |
| 3.1.1 | Oruzbaeva et al.,Red (2009)..... | 43 |
| 3.1.2 | Abduvaliev (2008)..... | 47 |
| 3.2 | 現在形：単純現在形と複合現在形..... | 49 |
| 3.2.1 | 単純現在形 | 49 |
| 3.2.2 | 複合現在形 | 52 |
| 3.3 | 本動詞としての jat-、tur-、jür-、otur の意味..... | 55 |
| 3.4 | 補助動詞 jat-、tur-、jür-、otur の先行研究..... | 58 |
| 3.4.1 | Yunusaliev (1949) <i>Vspomogatel`nie glagoli v kirgizskom yazıke</i> | 58 |
| 3.4.2 | Yudahin (1965) <i>Kirgizsko-russkiy slovar`</i> | 60 |
| 3.4.2.1 | 補助動詞 jat-..... | 60 |
| 3.4.2.2 | 補助動詞 tur-..... | 61 |
| 3.4.2.3 | 補助動詞 otur-..... | 61 |
| 3.4.2.4 | 補助動詞 jür-..... | 62 |
| 3.5 | 文法書の記述 Oruzbaeva et al.,Red (2009) <i>Azırki Kirgiz adabiy tili</i> | 62 |
| 3.5.1 | 補助動詞 jat- | 62 |
| 3.5.2 | 補助動詞 tur- | 63 |
| 3.5.3 | 補助動詞 otur- | 65 |
| 3.5.4 | 補助動詞 jür- | 66 |
| 3.6 | アクマタリエワ(2014)..... | 67 |
| 3.7 | 先行研究の問題点..... | 70 |
| 4. | 第1章のまとめ..... | 71 |

| | |
|---|-----|
| 第2章 言語資料に基づくキルギス語の進行を表す補助動詞の考察..... | 73 |
| 0. 本章の概要..... | 73 |
| 1. V-(i)p jat-形式: 補助動詞が jat-の場合..... | 73 |
| 1.1 本動詞が動作動詞の場合..... | 73 |
| 1.2 本動詞が変化動詞の場合..... | 82 |
| 1.3 本動詞が状態動詞の場合..... | 85 |
| 1.4 本動詞が内的感情動詞の場合..... | 86 |
| 1.5 jat-形式の過去と未来における〈動作の進行〉を表す場合..... | 88 |
| 1.6 まとめ..... | 90 |
| 2. V-(i)p tur-形式: 補助動詞が tur-の場合..... | 91 |
| 2.1 本動詞が動作動詞の場合..... | 91 |
| 2.2 本動詞が変化動詞の場合..... | 96 |
| 2.3 本動詞が状態動詞の場合..... | 98 |
| 2.4 本動詞が内的感情動詞の場合..... | 99 |
| 2.5 まとめ..... | 99 |
| 3. V-(i)p otur-形式: 補助動詞が otur-の場合..... | 100 |
| 3.1 本動詞が動作動詞の場合..... | 101 |
| 3.2 本動詞が変化動詞の場合..... | 106 |
| 3.3 本動詞が状態動詞の場合..... | 108 |
| 3.4 本動詞が内的感情動詞の場合..... | 108 |
| 3.5 まとめ..... | 109 |
| 4. V-(i)p jür-形式: 補助動詞が jür-の場合..... | 109 |
| 4.1 本動詞が動作動詞の場合..... | 110 |
| 4.2 本動詞が変化動詞の場合..... | 113 |
| 4.3 本動詞が状態動詞の場合..... | 115 |
| 4.4 本動詞が内的感情動詞の場合..... | 115 |
| 4.5 まとめ..... | 117 |
| 5. 第2章のまとめ..... | 117 |
| 第3章 日本語とキルギス語の従属節のテンス・アスペクト..... | 123 |
| 0 本章の概要..... | 123 |
| 1. 日本語の従属節のテンス・アスペクト..... | 123 |
| 2. 日本語とキルギス語の従属節におけるテンス・アスペクトの比較対照..... | 129 |
| 2.1 共起的時間関係を表すトキ(ニ)節..... | 129 |
| 2.2 主節が「ル」形の場合..... | 130 |
| 2.3 主節が「タ」形の場合..... | 133 |

| | |
|---------------------------------|-----|
| 2.4 主節が「テイル」形の場合..... | 136 |
| 2.5 主節が「テイタ」形の場合..... | 138 |
| 3. 共起的時間関係を表すアイダ(ニ)節..... | 142 |
| 4. 継起的時間関係を表すマエ(ニ)節とアト(デ)節..... | 146 |
| 4.1 継起的時間関係を表すマエ(ニ)節..... | 147 |
| 4.2 継起的時間関係を表すアト(デ)節..... | 148 |
| 5. 第3章のまとめ..... | 150 |
| 第4章 本論文の成果と今後の課題..... | 153 |
| 1. 本論文の成果..... | 153 |
| 2. 今後の課題..... | 166 |
| 参考文献..... | 168 |
| 引用例文出典..... | 173 |
| 謝辞..... | 175 |

序章

1. 本研究の動機と対象、目的と方法

1.1 動機と対象

本研究は、日本語とキルギス語の進行アスペクト現象とそれに関連する事象を論じるものである。動機の第一点は、キルギス語の進行アスペクトを表す形式は、異なる4つの補助動詞 V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-が用いられ、日本語の「～テイル」¹との対応関係を示している。本論文では、各補助動詞の使い分けをはじめ、どのような文法的な意味を表し、それらがどのような条件のもとで実現されるのかを明らかにしたい。

動機の第二点は、筆者自身が日本語を学習した経験と日本語教育に従事してきた経験から来るものである。キルギスにおける日本語教育現場では「～テイル」形式が、以前からしばしば言及され²、一つの形式が多様な意味機能(工藤(1995)によれば、〈動作の継続〉、〈変化の結果の継続〉、〈パーフェクト〉、〈反復〉、〈単なる状態〉)を示すため、形式と意味との関係は日本語学習者に理解しにくいものであり、さらにその運用となると困難を極める対象である。中上級レベルになっても明確に学習項目として意識されず、ただロシア語訳やキルギス語訳が教師によって与えられるのが現状である。そのため、現実の発話に接する際に、「～テイル」の意味を適切に理解できない、あるいは実際に言語形式を選択する際に、同形式が意味する特徴をつかんでいないまま使ってしまうという状況がしばしば生じる。キルギス語はチュルク諸語に属し、統語的な面で日本語に類似しているにも関わらず、現状では、キルギス教育機関において、あまり似ていないロシア語を媒介語として、教師や学生が日本語教育・学習を進めている。

上述の4つの進行アスペクトを表す形式をキルギスの日本語教育の中でどこまで学習項目として取り扱うべきかが明らかになれば、日本語教育に示唆できるのではないかと考えられる。仮に、ロシア語だけの知識に頼り「～テイル」の〈動作の継続〉の用法は、一般的に不完了体現在形で表されると教えられても、同形式(不完了体)の単純現在、現在進行中、習慣、または一般的事実などの用法の区別が難しい。あるいは、〈変化の結果の継続〉は完了体によって表され、完了体と不完了体はその意味と用法に明確な区別があるので、ロシア語との対応関係が重要な問題を投げかけるかもしれないと思われる。

キルギス語と日本語の構造は語順が類似しているが、ロシア語は異なる。キルギスは歴史的にロシアと深い関係があり、キルギス言語学の研究にはロシア言語学の影響が大きかったと言える。研究対象にする現象はスラヴ系のvid(体)がきっかけで世界の言語のアスペクト研究が始められ、理論が生まれたが、言語によっては事情が異なる。キルギス語とロシア語は、それぞれの文法体系も根本的に異なっており、時制の捉え方をはじめ、語彙の活用方法まで様々な点で異なるのにロシア語理論のモデルを適用し、文法カテゴリーが作られてきた。しかし、既製の文法理論

1 本研究では「～テイル」と表記する。

2 ターライバク キズ(2007)を参照されたい。

で済まないことがある。

以下では問題の所在を正確に確認するために、まず、日本語の「～テイル」形に対応するキルギス語の形式を見ていこう。(1)には日本語の例文が示されている。その後、ア)～エ)として対応するキルギス語の4つの可能性が示されている。さらに、ア)～エ)のそれぞれの次の行に日本語に基づくグロス(単語ごとに注釈)が付されている³。

| | | | | |
|-----|------|-----------|--------|-----------------------|
| (1) | 彼女は | キッチンで | 泣いている。 | |
| ア) | Al | kuhnya-da | ïyla-p | jat-a-t. ⁴ |
| | 彼/彼女 | キッチン-LOC | 泣く-CVB | jat-PRS-3 |
| イ) | Al | kuhnya-da | ïyla-p | jür-ö-t. |
| | 彼/彼女 | キッチン-LOC | 泣く-CVB | jur-PRS-3 |
| ウ) | Al | kuhnya-da | ïyla-p | tur-a-t. |
| | 彼/彼女 | キッチン-LOC | 泣く-CVB | tur-PRS-3 |
| エ) | Al | kuhnya-da | ïyla-p | otur-a-t. |
| | 彼/彼女 | キッチン-LOC | 泣く-CVB | otur-PRS-3 |

上記の(1)の例における「泣いている」は、キルギス語に対応する形式で言えば、ア)は *ïyla-p jat-a-t*、イ)は *ïyla-p jür-ö-t*、ウ)は *ïyla-p tur-a-t*、エ)は *ïyla-p otur-a-t* である。それぞれ本動詞 *ïyla* の後に副動詞接尾辞の *-p* が添えられている点で共通しているが、後続する補助動詞がそれぞれ異なっている。すなわち、ア)は *jat-*、イ)は *jür-*、ウ)は *tur-*、エ)は *otur-* となっている。ここでは4つの補助動詞が共通して〈動作の進行〉⁵という文法的な意味を表し、同時にそれぞれなんらかのニュアンスを持っている。すなわち、ア)は「横たわる」、イ)は「動く」、ウ)は「立つ」、エ)は「座る」を表している。いずれの文にしても発話時点における動作の進行を表すことは共通しているが、ア)の「横たわる」は他の3つより以下に述べる「姿勢」と語彙的な意味が関わらず、発話時点において継続している動作を表す。イ)の「動く」は「泣いている」動作が発話時点前から始まっており、現時点でもその動作が持続していることを表す。それに対して、ウ)の「立つ」とエ)の「座る」場合はある程度語彙的な意味が残っており、どのような姿勢でその動作を行っているのかが関係してくる。つまり、ウ)は、「立って泣いている」様子、エ)は「座って泣いている」様子が浮かぶ。しかし、こうした語彙的な意味が全く関係しない用例も多く存在するので、文脈や構文的な条件によって使い分けられると考えられる。

³ LOC など文中の大文字の英語で示されている文法情報の略号については9頁を参照されたい。

⁴ 本論文で引用している先行研究や小説などからの例文に付された下線、グロスおよび翻訳は、執筆者によるものである。また、太文字で示した *-p jat-*、*-p jür-*、*-p tur-*、*-p otur-* 形式とそれに対応する日本語の訳も太文字で示してある。

⁵ 〈 〉 は文法的な意味を表す。

(2) ア) 私は 手紙を 書いている。

Men kat jaz-**ip** jür-**ö-m**.
私 手紙 書く-CVB jür-PRS-1

イ) Men kat jaz-**ip** tur-**a-m**.
私 手紙 書く-CVB tur-PRS-1

ここの-*ip jür* と-*ip tur* は語彙的な意味または「姿勢」が問題ではなく、文脈によって使い分けられている用例になる。ア) の場合は誰にもわからないように習慣として「手紙を書いている」の意味が生じるのに対して、イ) の場合は、定期的に習慣として「手紙を書いている」という意味が取れる。文中に「毎月」とか「毎週」のような時間を表す副詞があると「動作のくりかえし」の意味はもっと明確に取れる。以上のことから、この場合の-*ip jür* と-*ip tur* は「動作のくりかえし」の用法を表すと言える。

このように〈動作の進行〉の用法には -(*i*)p jat-、-(*i*)p tur-、-(*i*)p jür-、-(*i*)p otur-の4つが使い、〈動作のくりかえし〉の用法には -(*i*)p tur-、-(*i*)p jür-の2つが用いられる。これに対して、〈変化の結果の状態〉の用法になると、

(3) 金魚が 死んでいる。

Altın balık öl-**üp** jat-**a-t**.
金 魚 死ぬ-CVB jat-PRS-3

(4) 花瓶が 割れている。

Vaza sin-**ip** jat-**a-t**.
花瓶 割れる-CVB jat-PRS-3

(5) 二階の 窓が 開いている。

2-etaj-din tereze-si aç-**il- ip** tur-**a-t**.
2階-GEN 窓-3:POSS 開く-PASS-CVB tur-PRS-3

のように、-*ip jat* か -*ip tur* を義務的に選択しなければならないことになる。(3) と (4) の場合は語彙的な意味から「横たわる」の意味であり、発話時に眼の前にそれらは横になっている状態を表し、「死ぬ」と「割れる」のような瞬間動詞と結びつく場合 -*ip jat*- が後接すると思われる。しかし、いつも-*ip jat* を使うのではなく、(5) のように〈変化の結果の状態〉の用法では、-*ip tur*-で表さなければならない場合がある。ここでは、おそらく前接する動詞の形が受け身であり、し

かも物主語であるということが関与していると考えられる。

(6) あの人はたくさんの小説を書いている。

Al kiši köptögön roman-dar-dī jaz-gan.

あの人 たくさん 小説-PL- ACC 書く-PST2

この(6)の日本語の例においては、「～テイル」が用いられ、過去の出来事を現在として述べており〈パーフェクト〉の用法である(詳細は、本論文 37 頁の工藤(1995)を参照)。一方、対応するキルギス語では、先述の4つの補助動詞のいずれも用いられず、代わりに-gan 接尾辞を用いた非確定過去形⁶で表される。

(7) あの人はずいぶん太っている。

Al kiši ayabay toluk eken.

その人 とても 太い MOD

そして、「～テイル」の用法の一つである単なる状態は、キルギス語では形容詞の形で表される。つまり、日本語の「ある、いる」には「～テイル」形式がなく、「優れている、そびえている」には「～テイル」形式しかないないが、これらはすべて時間的展開性のないものが「静態動詞 (static verb)」⁷と呼ばれている。

次は、日本語とロシア語の「～テイル」の対応関係を見ていく。日本語の「私は友人を待っている。」という文は、ロシア語では以下のように二通りに言うことができる。

(8) Ya jdu druga. (不完了体)

私 待つ-IPFV-PRS-1 友人-ACC

(9) Ya podojdu druga. (完了体)

私 待つ-PFV-PRS-1 友人-ACC

これらの用例においては、不完了体現在(8)と完了体現在(9)が用いられており、動作の継続を述べるのに用いられている。ロシア語は、同一の動作について完了体と不完了体の2つの動詞が対になっているものを体のペアと呼び、前者の場合、発話の瞬間と同時に進行中の過程を表すのに用いられているのに対し、後者の場合では完了のニュアンスが含まれており、その後の

⁶ キルギス語は過去形の種類は全部で4つあるが、ここでは「パーフェクト」の意味に近い非確定過去形の例だけを挙げる。

⁷ Zeno Vendler (1967)による。

結果や状態について言及する姿勢が表される。それと同時に、(9)のように完了体が用いられる場合、待つ時間は限られているというニュアンスがあるのに対して、(8)のような不完了体の場合、そのような意味が含まれていない。しかし、次の(10)の〈変化の結果の状態〉と(12)の〈パーフェクト〉の意味では、動作自体の完了及びその結果として生じた現在の状態は完了体過去形をとらなければならない。(11)では、現在における〈動作のくりかえし〉の意味は不完了体現在で表される。

(10) Zolotaya rib-ka **umer-la.** 〈変化の結果の状態〉

金-F 魚 死ぬ-PVF-PST-F

「金魚が死んでいる。」

(11) Ona kajdiy mesyats **pišet** pis'mo materi. 〈動作のくりかえし〉

彼女 毎 月 書く-IPFV-PRES 手紙 母-DAT

「彼女は毎月お母さんに手紙を書いている。」

(12) On **napisal** mnogo romanov. 〈パーフェクト〉

彼 書く-PFV-PAST-M たくさん 小説-PL

「彼はたくさんの小説を書いている。」

(13) On očen **tolstiy.** 〈単なる状態〉

彼 とても 太い-M

「彼はとても太っている。」

以上の「～テイル」に対応するロシア語の形式を考えると、〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉は不完了体で表され、〈変化の結果の状態〉と〈パーフェクト〉の用法は完了体過去で表されることが分かる。(13)もキルギス語の場合と同様、単なる状態は形容詞で表される。

このように、「～テイル」のような同形式が多様な意味を表す時、キルギスのような母語が互いに全く異なるどうしのキルギス語とロシア語のバイリンガル社会で、ロシア語を媒介語として日本語を学ぶ際に、さらに困難を引き起こしている。その裏付けとして、2013年9月にキルギス共和国の高等教育機関で実施した「～テイル」形式の日本語学習者の習得状況を調査分析した結果を提示したい。スバゴジョエワ(2014)では、以下のことが述べられている。

- ① 文法性判断テストと翻訳問題の結果から、〈変化の結果の継続〉と〈パーフェクト〉の用法を理解するのが難しい。
- ② キルギス語を母語とする学習者は、〈動作の継続〉以外の用法は十分明確に理解できていない。

③ jat-は補助動詞としてもっとも文法化しており、汎用性があるのに対し、他の tur-、jür-、otur-にはそれぞれ前接する動詞の意味によって生じるニュアンスがあり、これら4つの間で明確な使い分けがある。

以上から、学習者がどのような用法においても「～テイル」の意味を〈動作の継続〉だと理解する傾向が強いことが確認された。また、〈動作の継続〉以外の用法がどんな場面で使われるのかがわからない学習者や、それらの用法の存在について気付いてさえいない学習者に対して、日本語教育では特に対処を行っていない現状があることもわかった。

1.2 研究の目的

本研究の目的は、日本語の進行アスペクト「～テイル」形式に対応するキルギス語の文法形式及び本動詞 V に副動詞 -(i)p が添えられたあとに生じる補助動詞の jat-、tur-、otur-、jür-について実例に基づいて分析と考察を行い、それぞれの補助動詞の文法的な意味と使用される環境を考察することであり、あわせて進行アスペクト現象とそれに関連する事象を明らかにすることである。

1.3 本論文で用いる方法

上記のような問題意識の下に、本研究では、言語使用の実体を把握するという必要性から、用例を収集し、分析するという方法を探る。

本研究は、理論的な側面、実用的側面の双方において以下の意義を有すると考えられる。

まず 第一に、この論文では、日本語の進行アスペクト「～テイル」から出発して進行アスペクト「～テイル」から見た、キルギス語のテンス・アスペクトの実体を解明するという観点から考察するという姿勢が終始貫かれており、そのことが本論文の一つの特徴となっている。近年、類型論的な研究論文では、様々に構造の異なる言語を比較対照して、それぞれの言語の類型論的な特徴を明らかにするという研究が積み重ねられているが、ある言語の特徴を正確に捉えるためには、構造の類似した言語間での比較対照を行うことによって、詳細なレベルでの特徴を引き出すことができる。そこで、本論文では、互いに構造が類似しているキルギス語と日本語の考察や、適宜ロシア語との比較、そしてキルギスにおける日本語教育に活かせる成果を念頭において比較対照を行う。

第二に、実用的側面からの意義としては、キルギス語の補助動詞を扱う研究においては、実際の言語使用に対する観察から用例を収集した上で、言語使用の実態について考察をするという点が挙げられる。

2. 本論文の全体の構成

序章では、本論文における研究の動機、研究の対象、研究の目的及び方法について述べ、本論文が対象とするキルギス語の文法的特徴と音声的特徴及び本論文の構成について説明する。本論文は序章を含めて、全部で5章からなる。以下に各章の内容を概観する。

第1章では、まず、一般言語学の観点からテンス・アスペクトを概観し、ロシア語における「アスペクト」と「体」、主にロシア語の不完了体の文法的な意味を確認する。第2節では現代日本語のアスペクト研究の現状と日本語の基本的なアスペクト体系を明確にし、文法的アスペクトの研究として工藤(1995)、語彙的アスペクトの研究として金田一(1950)と奥田(1977)を取り上げ、「～テイル」と運動動詞(「状態動詞」と「存在する」)のような動詞以外の動詞、詳細は本論文の36頁を参照)の相関関係を中心に考察する。第3節では、キルギス語のアスペクト的な働きをする補助動詞に関わる諸記述をし、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-に関する先行研究の問題点などを検討する。

第2章では、日本語の進行アスペクト「～テイル」形式の観点から、本論文における言語資料に基づきキルギス語の4つの補助動詞を含む形式V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-が主に主節に現れる場合に生じるそれぞれの文法的な意味について考察と分析を行い、キルギス語におけるアスペクト形式の事象を明らかにする。

第3章では、日本語から出発してキルギス語の従属節のテンスとアスペクトについて比較対照し、そこから再び日本語のテンス・アスペクトの特徴を考える。第1節で日本語の従属節のテンス・アスペクトについて概観し、第2節で日本語とキルギス語の従属節の持つアスペクト的特徴について分析する。両言語の従属節のテンス・アスペクトについて従属節の出来事と主節の出来事との時間的順序関係の観点から、第3節で共起的時間関係を表すトキ(ニ)節、アイダ(ニ)節と、第4節で継起的時間関係を表すマエ(ニ)、アト(デ)節を中心に取り上げる。こうした比較対照を通じて、キルギス語から日本語の従属節に見られるテンス・アスペクトの特徴を改めて見出す。

第4章では、第1章から第3章までを考察した結果から、本論文の成果および今後の課題を述べる。

3. その他書式上の留意事項

ここでは、本論文で採用している書式面に関する、以下の留意事項について確認する。

- ① 本論文で使用する文字体系について
- ② 本論文で採用する文法情報の略号について
- ③ 本論文における術語の使用：「アスペクト」と「体」について

3.1 本論文で使用する文字体系について

本論文では、例文の表記は、キルギス語の正書法であるキリル文字を、ラテン文字に翻字したものを使用する。ロシア語のキリル文字に三つの文字 **н**、**у**、**ө** が加えられたのがキルギス語文字で、以下の表のようになる。

〈表 1〉 翻字一覧⁸

| | キリル文字 | ラテン文字 | | キリル文字 | ラテン文字 |
|----|-------|-------|----|-------|-------|
| 1 | А а | A a | 19 | П п | P p |
| 2 | Б б | B b | 20 | Р р | R r |
| 3 | В в | V v | 21 | С с | S s |
| 4 | Г г | G g | 22 | Т т | T t |
| 5 | Д д | D d | 23 | У у | U u |
| 6 | Е е | E e | 24 | Ү ү | Ü ü |
| 7 | Ё ё | Yo yo | 25 | Ф ф | F f |
| 8 | Ж ж | J j | 26 | Х х | X x |
| 9 | З з | Z z | 27 | Ц ц | C c |
| 10 | И и | I i | 28 | Ч ч | Č č |
| 11 | Й й | Y y | 29 | Ь ь | “ |
| 12 | К к | K k | 30 | Ш ш | Š š |
| 13 | Л л | L l | 31 | Щ щ | Šč šč |
| 14 | М м | M m | 32 | Ы ы | Ī ī |
| 15 | Н н | N n | 33 | Ь ь | ' |
| 16 | ң | ŋ | 34 | Э э | Ě ě |
| 17 | О о | O o | 35 | Ю ю | Yu yu |
| 18 | Ө ө | Ö ö | 36 | Я я | Ya ya |

⁸ なお、キリル文字のラテン文字への翻字方式に関しては、複数の方式があるが、本論文ではアクマタリエワ(2014)に倣っている。

3.2 本論文で採用する文法情報の略号について

本論文では、例文中の語に対して文法情報としてグロス(gloss)を付ける。グロスとは、未知の言語について単語ごとに意味や文法情報を付した注釈であり、通例原文のすぐ下に記載する。本論文のグロスにおいて用いている具体的な略号は下の表の通りである。それぞれの文法カテゴリーを示すための略号は、Leipzig Glossing Rules で採用されているものに従っている⁹。

〈表 2〉：本論文で採用している略号

| | | | | | |
|------|----------------|-------|--------------|------------------------|---------|
| 1 | first person | 1 人称 | MOD | modality | モダリティ |
| 2 | second person | 2 人称 | NEG | negative | 否定 |
| 3 | third person | 3 人称 | NMLZ | nominalization | 名詞化 |
| ABL | ablative | 奪格 | PASS | passive | 受身 |
| ACC | accusative | 対格 | PFV | perfective | 完了体 |
| ADJ | adjective | 形容詞 | PL | plural | 複数 |
| AUXV | auxiliary verb | 補助動詞 | POSS | possessive | 所有 |
| CAUS | causative | 使役 | PRS | present/future | 現在・未来 |
| COND | conditional | 条件 | PST1 | past1 | 確定過去 |
| COP | copula | コピューラ | PST2 | past2 | 不明過去 |
| CVB | converb | 副動詞 | PST3 | past3 | 不定過去 |
| DAT | dative | 与格 | PST4 | past4 | 習慣過去 |
| F | feminine | 女性 | PST/FUT PTCP | past/future participle | 過去/未来分詞 |
| FUT | future | 未来 | PTCP | participle | 分詞 |
| GEN | genitive | 属格 | Q | question marker | 疑問詞 |
| HON | honorific | 敬称 | RECP | reciprocal | 相互 |
| IMP | imperative | 命令 | REFL | reflexive | 再帰 |
| IPFV | imperfective | 不完了体 | SG | singular | 単数 |
| INTJ | interjection | 間投詞 | VN | verbal noun | 動名詞 |
| LOC | locative | 位格 | VOL | volutional | 意志 |
| M | masculine | 男性 | | | |

⁹ Leipzig Glossing Rules については以下の URL を参照されたい（2016年6月7日現在）：
<http://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php>

3.3 本論文における術語の使用「アスペクト」と「体」について

本論文において重要な対象となる「アスペクト」と「体」の術語について触れておく。

「アスペクト」と「体(たい)」という術語については、一般言語学における概念としての意味・文法的カテゴリーを指す場合には、「アスペクト」という術語を用いることとし、ロシア語をはじめとするスラヴ諸語における文法的(形態論的)カテゴリーについて述べる場合には、「体」という術語を用いることにする。

一般言語学の範囲では、「アスペクト」の他に「相」という術語が用いられることもあるが、本論文では、この文法的カテゴリー全体を表す場合には、「アスペクト」の術語を採用する。その下位概念である個々のアスペクトの種類をさす場合には「相」の術語を原則として用いている。

4. 本論文が対象とするキルギス語

この第4節では、本論文が対象とするキルギス語の使用地域と言語史上の特徴、文法的特徴、音声的特徴を概観する。そして本論文にとって重要な「補助動詞」と「副動詞」、分析的(合成的)動詞形式、言語資料について説明する。

4.1. キルギス語の使用地域と言語史上の特徴

キルギス語は、1991年にソ連から独立を果たしたキルギス共和国の国家言語である。アルタイ諸語の内、トルコ語やウズベク語と同じくチュルク諸語¹⁰の一つで、東西に長く帯状に広がるチュルク諸語の分布域の中でほぼ中央に位置している。天山山脈の北麓に国土を有するキルギス共和国を中心に、周辺のカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、中国新疆ウイグル自治区などに約260万人の話者をもつ。チュルク諸語の中で音声と語彙的な観点からアルタイ語とカザフ語ととても近い関係にあり、これらの母語話者が意思疎通することや互いの言語の習得はさほど困難ではない。

キルギスという名称は、チュルク民族の中で最も古い民族名の一つである¹¹。この名称は紀元前の『史記』や『漢書』などの古代中国の歴史などにも現れるとされている。古代キルギス民族の祖先は、9世紀ごろに南下をはじめ、もともとアルタイ山脈の麓、エニセイ川から現在のキルギス領にある天山地方に移ってきたと言われている。

先述したとおり、キルギス人はチュルク民族の中でもっとも古い民族であるが、中世の文献資料が殆ど残されていないために、キルギス語の通時的な観点からの考察は極めて困難である。

そして遊牧民として多くのキルギス人が誇りに思う『マナス』と呼ばれる民間口承英雄叙事詩がある。主人公であるマナスはキルギス人にとって英雄的な存在である。かつて文字をもたずこの叙事詩を、語り部ならぬ、吟唱歌人(マナスチと呼ばれる)の代々の伝承芸能で守りつたえて

¹⁰ チュルク諸語は、中央アジアを中心に、西は黒海沿岸、ヴォルガ河流域、東は中国新疆地方、東シベリアにかけて、ユーラシア大陸を横切る広大な地域に分布する言語である。

¹¹ Bartold V.V (1943:14) による。

きたのであるが、1922年、10月革命後に採録が始められた。ここで使われているキルギス語は現代キルギス語と大きな変わりがない。

言語の語源と歴史的な展開について確かな資料はないが、Oruzbaeva et al., Red (2009: 7-19)では、大きく7つに分類されている。

- 1) アルタイ時代。この時代のキルギス語の語源について資料がない。ここでは、アルタイ語族は、現代のツングース諸語、モンゴル諸語、チュルク諸語、日本諸語、朝鮮・韓国語に分かれていない時代の語族を指す。
- 2) シュメール時代（紀元前6世紀～1世紀）。この時代はシュメール族とキルギス族が住んでいる地域は一緒であり、シュメール語とキルギス語は構造的にだけではなく、語彙的にも音声的にも類似していたという資料がある。Oruzbaeva et al., Red (2009: 9)ではシュメール語とキルギス語の共通している単語が34語あげられている。
- 3) 匈奴時代（紀元前1世紀～5世紀）。この時代の確かな資料は残されておらず、キルギス語の歴史は白紙のままである。
- 4) 古代キルギス時代（5世紀～10世紀）。現代キルギス語の歴史的な展開、語彙的・音声的な規則、他の言語との関係や言語の表記はこの時代で作られたことがチュルク語研究者によって取り上げられている（Baskakov N.A., Samoylovich A.A (1950)）。さらに、オルホン碑文に残されているオルホン文字の史料は古代キルギス人に属すると主張する研究者もいる（Radlov V.V., Malov E. (1952) など）。
- 5) クルグス中世期（10世紀～15世紀）。この時代は11世紀のMahmud Kaşgariによるチュルク語辞書の*Diwanu I-Lugat al-Turk*、Yusuf Balasaghuniによる*Kutadgu Bilig*という最初期のチュルク語文学作品が代表される。Mahmud Kaşgari史料はチュルク民族、その中でもキルギス人の言語や文化、風習や歴史と密接な関係を示す偉大な文献史料であるが、それと同時にチュルク諸語の31の方言にも関係している。
- 6) クルグス最新時代（15世紀～20世紀の20年）。10～15世紀はアルタイ語族がチュルク諸語、モンゴル諸語とツングース諸語に分別され、それぞれの言語は言語と共に民族意識が成立される過程の時代として位置付けられている。Meliorianskiy の(1894)は『カザフ語・キルギス語の短文法』ではキルギス語をカザフ語から識別し、2つの方言を別々の言語と見ている。このように18世紀からロシア研究者たちによってチュルク言語を方言ではなく独立の言語と捉える政策が始まった。しかし、この時代の文献はまだ発見されていないと指摘されている（Oruzbaeva et al., Red 2009: 18）。1930年代には、ロシア帝国のロシア民族以外の民族の歴史を根絶しようとした政策により数多くのアラビア文字史料が燃やされ、埋葬された。
- 7) 新キルギス時代（20世紀の20年～現在）Arabaev E. (1924) はアラビア文字に基づき *Kirgiz alippesi* 『キルギス語のABC』としてタシケントで出版された。このことはキルギス語の研

究にとって大きな役割を果たしている。また、同じ年の11月7日に初めてキルギス語の新聞 *Erkin Too* が出版され、歴史的に重要な位置を示している。しかし、Arabaev, E はスターリン主義によって抑圧された。また、もう一人の重要な人物 Tinistanov K. (1927) の *Čoŋdor üčün alibbe* 『大人むけの ABC』があげられる。さらにキルギス語の文法についてアラビア文字で『私たちの母語』が出版された。そして、ローマ字に変化した後も、ローマ字で再出版される。

以上のように、キルギス語の正書法としては、17世紀頃からイスラム教の受容に伴ってアラビア文字が採用され、長い時間用いられた。この時代にアラビア文字によるキルギス語のパンフレットはたった3冊しか出版されなかった¹²。しかし、当時のアラビア語識字率が人口の1%も満たなかったことから文献語より口語の方が広く普及していた。

そしてキルギス共和国としてソ連邦の一部になった後、1927年からのローマ字の短期間の使用を経て、1940年からはキリル文字を採用して現在に至っている。

キルギス語には北と南に分けて大きく二つの方言がある。現在の標準キルギス語は北方言を中心に作られている。2000年から文の統語的な規則、いわゆるテキストのあらゆる問題を中心に研究が行われている。言語学の最新の方法により語彙・音声などについて歴史的な観点から研究する時代になったと指摘されている。

4.2 キルギス語の文法的特徴

以下は、キルギス語の文法的特徴について述べる。

キルギス語は他のチュルク語と同様に動詞語幹に様々な接尾辞や語尾が一定の順序で追加していくことで単語を形成する膠着型言語であるが、名詞述語、形容詞述語と同様に、動詞述語にも主語を表す人称語尾が必要となる。人称語尾がそれぞれの述語の語末に追加される点が同様の膠着語である日本語とは異なる点である。

以下は、現在進行を表す「行く途中です」と過去を表す「行って来た」の例を挙げて人称語尾について紹介する。

〈表 3〉 キルギス語の現在進行と過去を表す人称語尾

| 人称 | bar-a jat 「行く途中」 | bar-ıp kel 「行って来た」 |
|--------|---------------------------|---------------------------|
| 1 人称単数 | bar-a jat-a- mın | bar-ıp kel-di- m |
| 2 人称単数 | bar-a jat-a- sıŋ | bar-ıp kel-di- ŋ |
| 3 人称単数 | bar-a jat-a- t | bar-ıp kel-di |
| 1 人称複数 | bar-a jat-a- bız | bar-ıp kel-di- k |
| 2 人称複数 | bar-a jat-a- sıŋar | bar-ıp kel-di- ŋer |
| 3 人称複数 | bar-a jat- ıŝat | bar-ıp kel- iŝti |

¹² Karasaev X.K. (1970:73) による。

この表¹³から分かるように全ての述語に同じ人称語尾が追加されるわけではない。そして、「行く途中 bar-a jat」と「行って来た bar-ip kel」のように副動詞接尾辞¹⁴が異なる。つまり、「本動詞- (-a/-y か -ip) 副動詞接尾辞 +補助動詞」という構文で用いられる。

4.3 キルギス語の音声的特徴

次に音声的特徴について述べる。

母音

キルギス語の母音は a、o、e、ö、u、ü、ï、i の 8 つの短母音と aa、ee、oo、öö、uu、üü の 6 つの長母音からなり、次のような体系をもつ。

〈表 4〉 キルギス語の母音体系

| 前舌母音 | | | 後舌母音 | | |
|------|------|------|------|------|------|
| | 平唇母音 | 円唇母音 | | 平唇母音 | 円唇母音 |
| 狭母音 | i | ï | 狭母音 | u | ü |
| 広母音 | e | a | 広母音 | o | ö |

長母音であるか、短母音であるかにより、語義が区別される。

| | | | |
|-------------------|-----|------|----|
| jan | 命 | jaan | 雨 |
| sat ¹⁵ | 売って | saat | 時計 |
| tok | 満腹 | took | 鶏 |
| ër | 勇気 | ëër | 鞍 |

母音調和

キルギス語の母音は一定の先行母音には一定の母音しか続かない。つまり、前舌母音と後舌母音は 1 語の中で共存しないという現象があり、これを母音調和という。基本的に母音調和の法則は語幹内においても、語幹と接尾辞との間においても適応される。具体的な語例をいくつか挙げると以下の〈表 5〉のようになる。

¹³ 人称語尾の接尾辞は全部で 4 つの型がある。庄垣内(1988: 1420)『言語学大辞典』、第 1 巻を参照。

¹⁴ 副動詞とは、日本語動詞の連用形に相当するもので、主に副詞的な機能を果たす動詞の変化形の一つである。人称表示は取らない不変化詞類とも言える。

¹⁵ キルギス語では動詞の語幹が命令の意味で使われる。

〈表 5〉 キルギス語の母音調和

| | 先行母音 | 後続母音 | 例 |
|------|------|------|-----------------------------|
| 前舌母音 | i | i, e | iyin 「肩」 išen 「信じる」 |
| | e | i, e | erin 「顎」 ermek 「遊び」 |
| | ü | ö, ü | kübö 「証人」 kükük 「ナイチンゲール」 |
| | ö | ö, ü | köpölök 「ちょうちょう」 köpürö 「橋」 |
| 後舌母音 | i | ī, a | īsik 「熱い」 izat 「尊敬」 |
| | a | ī, a | akīl, 「知恵」 ata 「父」 |
| | u | a, u | uśak, 「噂」 uluu 「年上」 |
| | o | o, u | okšoś 「似ている」 otuz 「30」 |

子音

キルギス語は 25 の子音を持つ。子音については、庄垣内(1988: 1418)に基づけば、次のような体系を示すことができる。

〈表 6〉 キルギス語の子音体系

| | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|
| 閉鎖音 | 無声 | p | t | | k | q |
| | 有声 | b | d | | g | |
| 破擦音 | 無声 | | (c) | č | (šć) | |
| | 有声 | | | j | | |
| 摩擦音 | 無声 | (f) | s | š | | (x) |
| | 有声 | (v) | z | (ž) | y | ɣ |
| 鼻音 | | m | n | | ŋ | |
| 側音 | | | | l | | |
| 顫動音 | | | | r | | |

上で示した文字表記の内、() 内の文字はロシア語からの借用語のみに用いられる。そして c、šć、f、x、v、ž は、他の言語からの借用語に現れる子音である。また、k と q、及び g と ɣ は、音声的に明らかな違いがあるにも関わらず、これはキリル文字では表記上は区別されていない。

l、r、y、ŋ は語頭に来ない。また、b、g、z、d、j は語末に来ない。

子音の交替

キルギス語の語幹と接尾辞の間では、子音が同化と異化によって交替する。それぞれに固有の特徴があるので、分けて述べる必要がある。まず、同化現象には満同化と反同化の 2 つがある。

満同化とは語幹と接尾辞の間に **z+s** という子音の接続が現れると、後続する **s** が強くて先行する **z** に影響を与えて、ダブル **ss** というように同子音になることをいう。これらは話しことばにおいてのみ生じる。(Abduldaev 1998:66-74、Oruzbaeva et al., Red 2009: 42-53)

例：sözsüz > sössüz、 jász > jassa köz sal > kös sal

反同化とは、子音で始まる接尾辞が、接尾辞がつく語幹の最終子音によって交替することをいう。その多くは、次のような進行同化によるものである。

例：aalam-da 「世界で」 šaar-ga 「町へ」 sez-be 「感じるな」
 世界-LOC 町-DAT 感じる-NEG(IMP)

次は、異化によって起こる場合である。異化とは、**-la**、**-lar**、**-luu**、**-lik** という接尾辞が、接尾辞の付く語幹の最終子音が **z**、**l**、**n**、**ŋ**、**m** であれば **d** に交替することをいう。この異化による交替は、同化ほど多くない。

jil 「年」 + lar (複数接尾辞) jil-dar 「何年間」
 semiz 「太い」 + lik (名詞化接尾辞) semiz-dik 「太さ」
 muz 「氷」 + luu (形容詞接尾辞) muz-duu 「氷の」
 köz 「目」 + la (動詞化接尾辞) köz-dö 「狙う」

このような接尾辞初頭子音の同化や異化と母音調和によって、子音で始まる接尾辞は、多くの異形態を形成する。例えば、複数接尾辞-lar は次のような 12 種類の異形態をもつ。

〈表 7〉 複数接尾辞-lar の異形態

| 最終音節の母音 | -a, -i, -u | -i, -e | -o | -ö, -u |
|--------------|------------|--------|------|--------|
| 母音 y, r | -lar | -ler | -lor | -lör |
| y, r 以外の有聲子音 | -dar | -der | -dor | -dör |
| 無声子音 | -tar | -ter | -ter | -tör |

語幹末無声子音 p と k に見られる次のような音の交替は、逆行同化によるものである。

bak 「木」 +im (1 人称単数所有接尾辞) bag-im 「私の木」

juk 「うつせ」 +uu (動詞化接尾辞) jug-uu 「うつる」

tek 「祖先」 +i (3 人称所有接尾辞) teg-i 「彼の祖先」

čik 「出る」 +a (現在未来形接尾辞) čig-a-t 「彼は出る」

音節構造

音節のタイプには、次の 6 種類がある。

| | | |
|------|------|------|
| V | a | しかし |
| VC | ös | 成長して |
| CV | je | または |
| CVC | sen | あなた |
| VCC | ört | 火 |
| CVCC | jirt | 破れ |

4.4 本論文で扱う「補助動詞」と「副動詞」

4.4.1 「補助動詞」の定義

キルギス語研究者によって、補助動詞は *jardamči etišter*、*kömökčü etišter*、*tataal etišter* (この場合は直訳すると「複合動詞」に当たる) などの様々な名称の術語が用いられている。これらの中では、Davletov and Kudaybergenov (1980) の *jardamči etišter* 「補助動詞」が広く知られているので、本研究でもこの用語を取り入れる。

Davletov and Kudaybergenov (1980: 327) は、*jardamči etišter* 「補助動詞」を次のように定義している。

«Татаал этиштин составында туруп негизги этиш билдирген тушунукту грамматикалык маани жагынан толуктоо катарында айтылуучу этиштер жардамчы этиштер деп аталат ... (中略) Татаал этиштин составындагы жардамчы этиштер ар дайым эле оздорунун лексикалык маанилеринен ажырай беришпейт. Кээде алардын кайсы бириники сакталат, бирок буга окшогон кубулуш аз кезигет... (中略) Кыргыз тилинде этиштер коп, бирок этиштин баары эле жардамчы этиш боло бербейт. -a//e// -й жана -ып формаларындагы чакчылдар менен айкашканда баштапкы лексикалык маанисинин ордуна мезгил менен мейкиндикте кыймыл-аракеттин отушунун ар турдуу мунозун билдируго жондомдуу болгон гана этиштер жардамчы этиш боло алат.» (日本語訳は筆者による) 複合動詞の形式において、本動詞によって表される意味を文法的に補助する形で用いられる動詞群のことを、補助動詞と呼ぶ。(中略) 複合動詞の形式において補助動詞はいつも語彙的な意味を完全になくしているわけではない。中には語彙的な意味を保つ補助動詞もあるが、このような動詞は少ない。キルギス語には動詞が多く存在するが、動詞が

すべて補助動詞になれるわけではない。**-a/-e/-y** と **-(i)p** 副動詞と組み合わせられた時に、元の語彙的な意味の代わりに、時と空間で動作が行われていることを客観的に描写することができる動詞のみが補助動詞になることができる。

また、Davletov and Kudaybergenov (1980: 326) は、キルギス語の補助動詞とロシア語の体の関係を次のように述べている。

«Жардамчы этиштердин билгизген кошумча кээ бир маанилери орус тилиндеги тур категориясын тузо албайт. Анткени турду жасоо учун алар ар кандай этиштер менен айкаша турган универсалдык муноздо эмес, чакчыл формадагы бардык эле этиштер менен айкаша бербестен белгилуу этиштер менен гана айкашат» (日本語訳は筆者による) 補助動詞が表している文法的な意味はロシア語の「体」カテゴリーで表示することができない。そうした「体」を表示するためにはどんな動詞とも組み合わせることができる普遍的な形式でなければならないが、補助動詞は必ずしもそのような性質をもっていないからである。また、副動詞もすべての動詞と結合できるわけではなく、ある特定の動詞としか組み合わせられない。

そして以下のような例を示している。

türt-üp jiber-di 「プッシュしてしまう」 **čaa-p sal-di** 「叩いてしまう」のように組み合わせることができる動詞がある一方で、同じ **-ip** 副動詞と補助動詞であっても結合できない動詞がある。例えば、**uč** 「飛ぶ」を **uč-up jiber-di** や **uč-up sal-di** のように組み合わせさせて「飛んでしまう」の意味を表すことができない。

そして、「体」が表す意味の観点から見ると、キルギス語の補助動詞は不安定である。同じ補助動詞でも異なる副動詞と組み合わせることによって表示される文法的な意味が異なってくるからである。

jaz-ip sal-di と **jaz-a sal-di** 「書いてしまう」

ここでは両方とも「書いてしまう」になるが、**-ip** 副動詞の場合は、動作の完全の終了を表すが、**-a** 副動詞と組み合わせた場合は、動作が早いテンポで終了したことを表す。

また、Davletov and Kudaybergenov (1980: 449) は、補助動詞がどのような動詞と共起することができるかについて次のように述べている。

「動作が時によって行われることを表すために、本動詞の副動詞に後接する補助動詞は以下のとおりである。すなわち、**tur-** (立つ)、**otur-** (座る)、**jür-** (動く)、**jat-** (横たわる)、**sal-** (入れる)、**tašta-** (捨てる)、**koy-** (置く)、**jiber-** (送る)、**tüş-** (降りる)、**kel-** (来る)、**ket-** (行く)、**al-** (取る)、**ber-** (あげる) などである。」

このようにキルギス語には、**jardamči etišter** 「補助動詞」とみなされているものが多数存在する。その中から本研究では、以下の補助動詞は、本動詞に後接して、「動作の進行」を表し、他と比べて使用頻度が高いという理由から、次の4つの補助動詞を研究対象とする。

jat-, tur-, otur-, jür-

4.4.2 「副動詞」の定義

Oruzbaeva et al., Red (2009: 449)によると、「*чакчылдар- негизги этиштин кошумча кыймыл-аракетин билдируучу этиштин озгочо бир формасы, дайыма кантип? кандай? канчага чейин? качантан бери? эмнеликтен? эмнеге? деген суроого жооп берип, негизги кыймыл-аракеттин кандайча аткарылгандыгын, мезгилин, себебин, максатын билдирет.*」副動詞というのは、副詞的な動作を表す動詞の特別な形の一つであり、いつも「どうやって」、「どのように」、「いつまで」、「いつから」、「なぜ」、「どうして」という質問に答え、本動詞の動作がどのように実現されたのか、動作の時間、原因、目的を表すものである」と記述している。

- (14) Ümüt uyal-*ip* kīzara tūš-tū.
ウムット 恥ずかしくなる-CVB 赤く なる-PST1
「ウムットは恥ずかしくなって、赤くなってしまった。」

ここでは、*uyal-*ip** (恥ずかしくなる) が「動詞語幹+(-i)p 副動詞接尾辞」の形式をなしており、この(-i)p 副動詞が「どうして」という質問に答え、後続する本動詞が表す事態の理由を表している。

副動詞には、次のような副動詞の変種が存在する。

- a/-e/-y
- ip*/-*ip*
- ganča/-genče
- gīča/-giče
- gani/-geni
- gali/-geli
- mayin(ča)/-meyin(če)

これらの副動詞は、① *jönököy čakčıldar* 「単純副動詞」¹⁶である-a/-e/-y、-*ip*/-*ip* と、② *tataal čakčıldar* 「複合副動詞」-ganča/-genče、-gīča/-giče、-gani/-geni、-gali/-geli、-mayin(ča)/-meyin(če) との2つに分類される。

この2つの類のうち単純副動詞すなわち *ip*/-*p*、-a/y は、本動詞と一番よく組み合わせられるものとして知られている。学校文法では、*oku-p čik* 「読んでしまう」の-*ip* 副動詞接尾辞は過去を表す接尾辞であり、*kat-a sal* 「隠してしまう」の-a/y 接尾辞は、現在を表す接尾辞で時制に関するものとして取り扱われる¹⁷。しかし、現代キルギス語ではこれらの副動詞接尾辞は時制に関わるこ

¹⁶ 副動詞接尾辞「-a/y」と「(-i)p」には、それぞれ母音調和にかかわる異形態がある。
-a/yは、子音で終わる語では -a, -e, -o, -ö となり、母音で終わる語では、-y となる。
-i

¹⁷ Oruzbaeva (2004: 14) *Kirgiz til ilimi* を参照されたい。

と以外に、それぞれ異なる文法的な意味を含んでいると指摘されている。

以下の用例では、構文上から見ると、「動詞の語幹+ ip、a/y 副動詞+ jat 補助動詞」という形になるが、副動詞によって意味が異なる。

(15) Al bassey-n-ge bar-a jat-a-t.
彼 プール-DAT 行く-CVB jat-PRS-3SG
「彼はプールに行く途中だ。」

(16) Al bassey-n-ge bar-ïp jat-a-t.
彼 プール-DAT 行く-CVB jat-PRS-3SG
「彼はプールに通っている。」

これらの用例において、(15)は〈進行〉(向かっている途中)の意味になり、(16)は動作が繰り返されているので〈反復〉(よく行く)の解釈になる。

本論文では、上の①の単純副動詞形の中で-ïp が用いられた補助動詞の jat-、tur-、otur-、jür-を対象とし、当該副動詞を-(i)p と表記する。それは、この副動詞接尾辞の場合、本論文の対象である各補助動詞が〈動作の進行〉というアスペクト的な意味を表すためである。以下、-(i)p 副動詞の意味について概説する。

4.4.3 -(i)p 副動詞の意味

Oruzbaeva et al., Red (2009: 453) はこの副動詞の意味について次のように述べている。

① *Кобунчо негизги кыймыл-аракеттин кандайча кандай муноздо аткарылгандыгын корсотот. Ошону менен бирге ошол негизги кыймыл-аракеттен мурда болгон кыймылды билдирет.* (p.453) 「主に、主要な動作がどのように実現したのかを示す。それと同時にその主要な動作より先に行われた動作を表す。」

(17) Daniyar öç-üp bar-at-kan¹⁸ ot-tu üylö-p küy-güz-dü.
PSN 消える-CVB 行く at-PART 火-ACC 吹く-CVB 火をつける-CAUS-PAST1
「ダニヤルは消えそうになった火を吹いてつけた。」

② *Негизги кыймыл-аракеттин аткарылыш себебин корсотот.* (p.453) 「主要な動作の実現に至った原因を示す。」

¹⁸ baratkan は、本来の bar-a jat-kan からの音韻縮約形で前接動詞と接合した形となっているが、意味の面においては両方とも変わらないものとする。なお、この形は主に話しことばにおいて用いられる。

(18) Bala kork-up iyladi.
 子 怖がる-CVB 泣く-PAST1
 「子供は怖がって泣いた。」

③ *Негизги кыймыл-аракеттин аткарылыш мезгилин корсотот.* (p.453) 「主要な動作の実現の時間を示す。」

(19) Men aga iş-ten kelat-ip¹⁹ joluk-tu-m.
 私 彼-DAT 仕事-ABL 来ている-CVB 会う-PAST1-1SG
 「私は彼に仕事から帰る途中で会った。」

④ *Максатты билдирет.* (p.453) 「目的表す。」

(20) Mında Sultan-dī izde-p kel-gen-biz.
 ここに スルタン-ACC 探す-CVB 来る-PAST2-1PL
 「ここにスルタンを探しに来ました。」

⑤ *Негизги кыймыл-аракеттин кандай денгээлде болгондугун олчомун билдирет.* (p.453)
 「主要な動作がどの程度行われたか、という動作の程度を表す。」

(21) Jamgīr kayradan küçö-p jaa-y başta-dī.
 雨 再び 強まる-CVB 降る-CVB 始める-PAST1
 「雨は再び強く降り始めた。」

このように-(i)p 副動詞は、いろいろな意味で使われやすい。リズムを取りやすいため、特に詩などでもよく用いられる²⁰。そして、否定の場合も -bay 接尾辞を用いることに問題はない。なお、次の例では進行同化により -pay となっている。

(22) šaš-ip kel-di と šaš-pay kel-di
 急ぐ-CVB 来る-PAST 急ぐ-NEG 来る-PAST
 「急いで来た」 「ゆっくりと来た」

¹⁹ *kelatip* も *baratkan* と同様に *kel-e jat-ip* からの音韻縮約形である。

²⁰ Oruzbaeva et al., Red (2009)はこのように述べているが、実際には本論文で示している小説や新聞などの例文にも-(i)p が用いられている。

以上のように-(i)p 副動詞は多様な意味を表し、多様なジャンルで用いられる使用頻度が高い副動詞であると考えられる。

4.5 キルギス語の分析的（合成的）動詞形式について

Oruzbaeva et al., Red (2009)では、動詞が合成的な手続きによって形成されるという方法は古代から広く使われている形式であると述べられている。合成的な形式は二つかそれ以上の動詞の結合から成り立ち、一つの複合動作を表す。意味的な面では互いに関係を持たない語ではなく、一方を欠くと成り立たないような意味をもった動詞である。

Tohnina (2006)によれば、チュルク諸語で分析的動詞形式は複合動詞の概念に誤解されることがある。両方とも二つの動詞が結合して作られていることは確かであるが、複合動詞と分析的動詞の主な違いとして、複合動詞は意味的に二つの動詞の意味をほぼ対等に結合しているのに対して、分析的動詞形式は前項動詞が語彙的な意味を担い、後項動詞が主として文法的機能を果たしている。分析的動詞形式によって、以下の3つの文法カテゴリーの意味が表示される。

- ①モダリティ 「oku-y al-ba-dī」
読む-CVB 取る-NEG- PAST1 「読めなかった」
- ②アスペクチュアリティ 「oku-p jiber-di」
読む-CVB 送る-PAST1 「読んでしまった」
- ③テンポラリティ 「oku-p jat-a-t」
読む-CVB jat-PRS-3 「(今) 読んでいる」

しかし、分析的動詞形式はその他に以下の文法的な意味も表せる。

- ④動作の試みを表す： je-p kör
食べる-CVB 見る 「食べてみる」

キルギス語の動詞 kör は、日本語の「見る」と同じ意味であり、本動詞と補助動詞として文法的な意味を表すのが日本語と共通している。

- ⑤授受関係を表す： ayt-ip ber (誰かのために行われる動作)
話す あげる 「話してあげる」
jaz-ip al (自分のために行われる動作)
書く 取る 「書き取った」

Karibaev and Kasimova (2001) は V-(i)p jat-, V-(i)p jür-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-のような動詞の結合²¹形式で現れる同音異義語の問題について指摘している。一つの文の中に5つ6つまでの動詞が連鎖して使われることもある。

- (23) Süy-gön at-tar-iŋ-din bir-in **min-ip** **al-ïp**
 好く-VN 馬-PL-2:POSS-GEN 一つ-ACC 乗る-CVB 取る-CVB
čaa-p **bar-ïp** **kel-ip** **tur-ba-i-siŋ-bi?**
 乗って走る-CVB 行く-CVB 来る-CVB tur-NEG-PRS-2SG-Q
 「好きな馬に乗って行ったり来たりしていれば？」

そして、同書では、動詞の結合の3つの種類を以下のようにまとめている。

- ① V-p V = sal-ïp jat 形式の場合：両方の動詞がそれぞれ語彙的な意味を保っており、分析的動詞形式とも複合動詞とも解釈でき、区別が難しい。

- (24) Birok, anin bul söz-ü-nö Ešen išen-be-y
 しかし 彼:GEN この 言葉-3:POSS-ACC PSN 信じる-NEG-CVB
ėšik-ke kulpu **sal-ïp** **jat-kan.**
 ドア-DAT 鍵 かける-CVB jat-PAST2

この文は二通りに解釈できる。

- 1) 「エシェン は 彼の言葉を信じないでドアに鍵をかけようとしていた。」
- 2) 「エシェン は彼の言葉を信じないでドアに鍵をかけて寝た。」

1) の場合は、過去において鍵をかけている最中だったという意味になるが、2) の場合は、jat が本動詞の意味「横たわる」、つまり「寝る」という意味で使われている。

また、次のような同様な例もあり、oylon-up jatat は二通りに解釈可能である。すなわち、「(今) 考えている」と「考えながら横たわっている」であり、後者では本動詞の意味で前者は補助動詞として使われている。

しかし、muštaš-ip jatat のような動作動詞の場合、横たわりながら喧嘩する(口喧嘩ではない方)ということが考えられないので、ここでは「(今) 喧嘩をしている」という意味に限られる。

- ② V-p V = kir-ip čik 形式の場合：両方とも語彙的な意味が保たれておらず、一つを欠くと成り

²¹ 動詞の結合とはロシア語の глагольное сочетание を筆者が訳したものである。本動詞と補助動詞から成る形式の前項動詞が語彙的な意味を担い、後項動詞が文法的機能を果たしている場合に、分析的(合成的)動詞と呼ぶことにするが、キルギス語における動詞の結合とは、-ïp 副動詞と接続した動詞のうち後項動詞が文法的な意味でも語彙的な意味でも用いられる形式のことをいう。

立たない語句を表す。kir-ip čik は文字通り「入って出る」だが、「誰かの家に招待されたので、家に入り、用事を済ませて、帰った」という意味になる。

- ③ V-p V=oyno-p jat 形式の場合：-p 副動詞が後接する動詞は語彙的な意味を保ち、jat 補助動詞は文法的な意味で使われ、いわゆる分析的動詞である。

本論文では、主に③のような補助動詞が文法的な意味を担う分析的形式を考察の対象とするが、①と②のような動詞の結合も排除することなく、適宜言及していく。

4.6 本論文の言語資料

本論文では、言語資料として実例を収集し、考察と分析を行い、各補助動詞形式の文法的な意味を記述するという方法をとる。

4.6.1 資料の選定方法

本節では、本論文で考察・分析の対象とした言語資料について述べる。用例の収集に際しては、主なものとしてウェブ上の作品データを利用した。キルギス語を対象とした言語コーパスは現時点では開発されていない。用例収集に当たってはどの時代の作品かも注意する必要がある。例えば、1950年代の作品のみから用例を抽出すると、大分月日が流れてしまっていることから来る「古さ」が挙げられるだろう。最新のキルギス語の動向を追う場合には、その年代の作品では言語使用の事態を反映していないのではないかという疑念が生じる恐れがある。しかしながら、今回の研究の用途に照らした場合、その対象がいずれも基本的な語であると考え、その時代の作品でも十分目的を果たすことができると判断した。

本研究では、文字言語資料を研究対象とする。用例収集の際にできるかぎり多様なジャンルから用例を集めることを心掛けた。文字資料として最近の流行小説、新聞や雑誌などから用例の収集を行った。

最近の流行小説とは、キルギスの独立後（1991年以降）に書かれた小説のことである。これらの作品をキルギスのサイト <http://www.literatura.kg/>、<http://bizdin.kg> に掲載されている書籍から収集した。最終アクセス日は、2016年1月30日である。新聞や雑誌は2010年～2016年に出版されたものを対象とした。

4.6.2 資料から得られた用例数

〈表 8〉 本論文全体の用例数

| 補助動詞 | -(i)p 副動詞接尾辞 | 合計 |
|-------|--------------|------|
| | 用例数 | 割合 |
| jat- | 426 | 29% |
| tur- | 503 | 34% |
| otur- | 233 | 16% |
| jür- | 321 | 21% |
| 合計 | 1483 | 100% |

この表には、各補助動詞の用例数として-(i)p 副動詞接尾辞の場合のみを示している。

第1章 先行研究の概観と問題点

0. 本章の概要

本章は、本論に入る前段階の導入としての位置付けにある。

第1節では、一般言語学的な観点から動詞のAspectとTenseを概観し、ロシア語の体とAspectカテゴリーを例に確認する。Aspect研究はロシア語の体の研究を基盤にして始められたと言っても過言ではない。このことを踏まえて、外国語とりわけ日本語から見た筆者の母語であるキルギス語のAspectについて論じていく礎とする。

第2節では、現代日本語のAspect研究の現状及び研究史や日本語の基本的なAspect体系を示し、文法的Aspect「～テイル」の意味と語彙的Aspectと運動動詞の相関関係について検討をする。現代日本語の研究の中で、Aspect研究は、比較的、研究の進んだ分野であると言われている。確かに、多くの研究者がAspectについての研究論文を発表しているし、記述的な研究によって多くの事実が明らかになっている。

第3節では、まず、キルギス語における動詞のAspectの先行研究を概観して、研究対象の補助動詞が関わっている現在形の種類と特徴を述べる。そして動作の進行を表す補助動詞を含む形式 V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür-に関する先行研究を概観し、問題点をあげる。

1. 一般言語学の観点から見た動詞のAspectとTense

一般言語学の枠組みから、Tenseとロシア語の「Aspect (аспект; aspect,)」のカテゴリーを概観する。また、ロシア語の言語体系内でAspectを表す主要な言語形式の一つである「体」という文法カテゴリーについて確認する。

1.1 Tense

Aspectにもっとも近い文法範疇は知られるとおり動詞のTense範疇である。多くの言語研究史ではAspectとTenseの範疇が混同されたこともまれではなく、多くの場合、ある言語学者はAspectに属するものとして扱い、またある言語学者はTenseの分野に入るものとして扱っており、論争は現在まで続いている。

Tense (Tense・時制) という範疇とAspect (Aspect・相) という範疇はいずれも時制に関するという点では類似している。しかし、それぞれの時間に関する仕方が異なるため、明確に区別して理解する必要がある。

Tenseには、発話時点と出来事時との外的関係をとらえるTense (絶対的Tense) と発話時と参照時との外的関係をとらえるTense (参照時Tense²²と呼ぶ) とがある。絶対的Tenseについては Comrie (1976: 1-2) に倣い、次のように定義する。

²² 参照時Tenseは相対的Tenseとも呼ばれる。

Tense relates the time of the situation referred to to some other time, usually to the moment of speaking. Comrie (1976: 1-2)

(テンスは、さしだされた場面 situation の時間を別の時間にふつうは発話の瞬間 moment に関係づける。 (山田訳 1988: 10)

Since tense locates the time of situation relative to the situation of the utterance, we may describe tense as deictic.

(テンスは、発話時の場面との関係において、場面の時間を位置づけるので、指示的 deictic である、ということが出来る。 (同書: 10)

テンスとは、話し手がある場面 (situation) を述べる際に、場面を構成する運動や状態が、発話時 (speech time) を基準として時間的にどういう位置にあるかということを示すための文法的なカテゴリーである。特に、運動を表す場面に注目すると、発話時と出来事時との外的関係を捉える文法的なカテゴリーということになる。

- (1) a 私、手紙を**書く**わよ。
b 私、手紙を**書いた**わよ。
- (2) a 鈴木が手紙を**書いている**わよ。
b 鈴木が手紙を**書いていた**わよ。

(1a)と(2a)の「書く」と「書いている」は、発話時を基準にして、発話時以後に「書く」、あるいは、発話時と同時に「書いている」という運動及び状態がそれぞれ存在することを示している。これに対し、(1b)と(2b)の「書いた」と「書いていた」は、発話時を基準にして、発話時以前に、運動及び状態がそれぞれ存在していることを示している。

このように、日本語の場合、「スル (シテイル)・シタ (シテイタ)」という文法的な形によって示される運動及び状態を、発話時を基準にして、以前 (過去) に位置づけるか、同時 (現在) に位置づけるか、以後 (未来) に位置づけるか、という対立がテンス (絶対的テンス) である。

一方で、発話時と参照時との外的関係をテンスとして捉える場合、参照時テンスがある。Reichenbach (1947)は、動詞の時制論の中で発話時と出来事時だけでは、完了 (perfect) と過去 (simple past) を区別することができないことから「参照時」を設けることによって、この問題を解決しようとしている。

1.2 アスペクト

ロシア語の動詞には、主にアスペクトの意味を表すカテゴリーとして、体 вид という文法的(形態的)カテゴリーが備わっている。ほぼすべての動詞が、完了体(совершенный вид)か不完了体(несовершенный вид)に属するとされる。このような言語的特徴を有するため、ロシア語においては、アスペクトのカテゴリーと他の文法的カテゴリーとの相関関係についてしばしば取り上げられ、議論の対象となっている。

一般言語学の分野における、アスペクトというカテゴリー²³についての本格的な試みは、Comrie (1976)によるものが最初と考えてよいだろう。Comrie (1976)は、様々な言語に見られる言語現象を調査・分析し、スラヴ諸語における体の研究での学術上の蓄積(主に Maslov (1959), Bondarko (1971))を基盤としつつ、そこでの成果をスラヴ諸語以外の様々な系統の言語に適用・検討するという方法で、アスペクトというカテゴリーを一般言語学の観点から述べようと試みた。

そこでの述べ方によれば、アスペクトは、「ある状況の時間的な内部構造の様々な捉え方(different ways of viewing the internal temporal constituency of a situation)」を表すものであり、完了相(perfective)と不完了相(imperfective)にまず大きく二分される。完了相とは、ある状況を構成する異なる別個の相に分割することなく、その状況を一つの全体として見る捉え方(the view of a situation as a single whole, without distinction of the various separate phases that make up that situation)を表すものである(Comrie 1976: 16)。それに対して、不完了相とは、状況の内部構造に基本的に注意を向けているものであり、ある状況を内部から捉えた上で、時間的な内部構造を明示的に示すものである(Comrie 1976: 16-24)。

以下、ロシア語の体が内包する、性質の異なる二つの意味の対立軸について考えてみる。

ロシア語において、アスペクトの意味を表す機能を担っている、主たる言語形式の一つである「体」のカテゴリーの示す意味的対立の具体例について見てみよう。

- (3) On **pisal** knigu.
彼 読む-IPFV-PAST-M 本:ACC
「彼は(その時)本を書いていた。」

- (4) On **napisal** knigu.
彼 読む-PFV-PAST-M 本:ACC
「彼は(その時)本を書いた。」

不完了体が用いられている、前者の例では、完了のニュアンスを含まないので、発話の瞬間と同時に進行中の「過程」を表している。また、不完了体の文は文脈が異なれば、当該状況の「反

²³ 本論文では日本語とキルギス語に関する文レベルの対照を主な目的とするため、談話レベルのテクスト的機能については基本的に扱わない。

復性」、「習慣性」などの意味を表すことができる。それに対して、完了体が用いられている、後者の例では、その後の結果や状態について言及する姿勢が表される「完了」を表している。ここには、状況の在り方について、異質のものが混在していることが分かる。

1.3 アスペクトというカテゴリー

一般言語学的の枠組からのアスペクトに関する記述は、Plungyan (2011)における記述に多くの点で拠っている。その理由は、現在のロシア語アスペクト論においては、様々な研究者がそれぞれの概念や術語を乱立させながら用いているとも言えるような状況の中 Plungyan (2011) は一般言語学的な枠組みからの考察を行い、術語の対比なども試みているからである。

Plungyan (2011: 384)によれば、自然言語における状況を捉える際には、「状況」を構成する以下の断片が最も重要であるという。

- ① 準備の段階 (подготовительная стадия)
- ② 開始点 (начало)
- ③ 中間 (середина)
- ④ 終了点 (финал)
- ⑤ 結果の段階 (результативная стадия)

①の「準備の段階」とは、ある状況がこれから生じるという特徴が存在している状態を指す。②の「開始点」とは、ある状況が生じていない状態から、生じている状態へ移行する瞬間である。③の「中間」とは、上の「開始点」と下の「終了点」との間を指す。④の「終了点」とは、ある状況が生じている状態から、生じていない状態へ移行する瞬間を指す。⑤の「結果の段階」とは、ある状況が終了したあとに生じる状態を指す。

話者によってこのような認識・把握された状況のどの部分(局面)を、話者の主観に基づいて、聞き手にどのように提示するかというのが、アスペクトの表す文法的機能であると言ってよいだろう。

Plungyan (2011)は、アスペクトの意味をまず、大きく以下の二つに分けている。

- ① 一次的アスペクト (первичный аспект)
- ② 二次的アスペクト (вторичный аспект)

これらは、それぞれ線状のアスペクト (линейный аспект)、数量的アスペクト (количественный аспект) とも呼ばれる。

一次的アスペクトとは、その発生の過程において原初的なアスペクトであるということから一次的と名付けられている。この一次的アスペクトは、状況を構成している部分を指し示すもので

ある。これに対して、ある状況が持つ、元々の状況の性質が別の異なる状況の性質を持ったものとして認識されることがある。この場合、この新たな性質は二次的なものということになり、それに応じて、アスペクトの意味も一次的なものから二次的なものへ変化することになる。このようなアスペクトの意味を、二次的アスペクトと呼んでいる。

1.3.1 一次的アスペクト (первичный аспект)

Plungyan (2011) によれば、一次的アスペクトには以下のような7つの型があるとしている。

- ① 前望相 (проспектив)
- ② 起動相 (инцептив)
- ③ 持続相 (дуратив)
- ④ 進行相 (прогрессив)
- ⑤ 終結相 (комплетив)
- ⑥ 結果相 (результатив)
- ⑦ 完了相 (перфект)

以下、それぞれを詳しく述べる。

①の「前望相 (проспектив)」は、英語の *be going to do* とフランス語の *aller* などの形式によって表されるアスペクトである。つまり、分析的な構造で、未来時制と翻訳されることが多い。ロマンス諸語、ゲルマン諸語などの他に、チュルク諸語、バントウ諸語などに見られる (Plungyan 2011: 288)。

②の「起動相 (инцептив)」は、上述した「状況」の開始点を表すアスペクトである。

③の「持続相 (дуратив)」と④の「進行相 (прогрессив)」は起動相と前望相が示す「状況」の中間に位置付けられる。持続相という表現は、当該状況が、静態的な状態の場合でも、動的なプロセスの場合でも用いられる。それに対して、進行相は、限りのあるプロセスについて言う場合に用いられる。すなわち、動的でかつ持続している状況を表すのに限って用いられるアスペクトが進行相である。

⑤の「終結相 (комплетив)」は上記の「状況」のうち終了点を表すアスペクトである。限りのあるプロセスが、その自らの終結点に到達したことを表す。(Plungyan 2011: 289)

⑥の「結果相 (результатив)」と⑦の「完了相 (перфект)」は結果の段階を表すアスペクトである。この両方の間にある差異は、次のようにまとめることができる (Plungyan 2011: 290)。結果相は当該動作が生じた後の状態について述べているだけなのに対して、完了相の場合には、当該動作が生じた後の状態を述べるのではなく、発話時点よりも前の状況を意味しているという点で結果相とは異なる。

1.3.2 二次的アスペクト (вторичный аспект)

ある動詞の状況の性質 (X) が、別の異なる状況の性質 (Y) に変化することでアスペクト形式が表す意味にも変化が生じることがある (Plungyan 2011: 295)。これを二次的アスペクトという。二次的アスペクトとして、以下のような5つの型があるとしている。

- ① 反復相 (итератив)
- ② 習慣相 (хабитуалис)
- ③ 多回相 (мультипликатив)
- ④ 単一相 (семельфактив)
- ⑤ 配分相 (дистрибутив)

この二次的アスペクトは数量的アスペクト (количественный аспект) とも呼ばれる。以下、それぞれについて述べる。

①の反復相 (итератив) は、ある動作が、ある一定の期間において、反復することを表す。②の習慣相 (хабитуалис) は、定期的に反復される動作を表し、それが当該動作の主体の特徴付けになることもある。③の多回相 (мультипликатив) は、多数回にわたり反復される動作を表す。それに対して、そうした状況の一回を表現するのが、④の単一相 (семельфактив) である。⑤の配分相 (дистрибутив) は、次々と連続して同種の動作が生じることを表すものである。

1.4 ロシア語の体のカテゴリーの持つ文法的意味

ロシア語の動詞は、ほぼ全てに体のカテゴリーが備わっており、それらの動詞は完了体もしくは不完了体のどちらかに属している。この体のカテゴリーは、主に、上に見た、種々のアスペクトの意味を表す主たる言語形式として機能している。

体のカテゴリーの文法形式が表す意味は一般的意味 (общее значение) あるいは不変的意味 (инвариантное значение) と個別的意味 (частное значение) とに大きく二分される。

個別的意味とは、個々の文において、ある特定の条件において現れてくる意味を指す。それに対して一般的意味とは、ある文法形式が、あらゆる用法において共有していると考えられる意味のことである (Remčukova 2007:12)。

一般的意味とは、統語論的、意味論的文脈などの可変的要素を排除した後に残る、当該の文法形式に共有されている、抽象度の高い意味を指す。

本論文の目的が、体のカテゴリーの一般的意味の諸相を直接論じることではないため、ここではこうした意味があることを指摘するにとどめ、以下では不完了体の個別的意味を確認する。

1.5 不完了体の個別的意味

不完了体の個別的な意味については、様々な研究者が分類を行っている。ここでは Bondarko (1971)での記述を中心に見ていく。Bondarko (1971)は、師にあたる Maslov の研究を発展させる形で、体のカテゴリーの表す意味の体系的な記述を行っている。

Bondarko (1971)では、以下のような不完了体の個別的意味を挙げている(1971: 24-36)。

- ① 具体的過程の意味 (конкретно-процессное значение)
- ② 制限のない多回性の意味 (неограниченно-кратное значение)
- ③ 一般的事実の意味 (обобщенно-фактическое значение)
- ④ 恒常的・不断の動作の意味 (постоянно-непрерывное значение)
- ⑤ 潜在的・性質的動作の意味 (потенциально-качественное значение)
- ⑥ 制限のある多回性の意味 (ограниченно-кратное значение)

これらに対応する例文を見ながら、それぞれの個別的意味を確認していく。まず、①の「具体的過程の意味」である。

- (5) Kogda ya vošyol, Lyuba sidela
いつ 私 入る-IPFV-PAST-M リューバ 座る-IPFV-F
na stule i čitala gazetu.
椅子 そして 読む-IPFV-PAST-F 新聞-ACC
「部屋に入ると、リューバは椅子に腰掛け、新聞を読んでいた。」

- (6) Včera ya celiy den` rešal zadaču.
昨日 私は 間ずっと 日 解ける-IPFV-PAST-M 問題-ACC
「昨日私は一日中ずっと問題を解けていた。」

これは、具体的な、つまり時間軸に一定の位置を占め、かつ動作がその完遂に向かって進行している過程にあるものとして動作を提示している。(Bondarko 1971: 24)

②の「制限のない多回性の意味」は、以下のような例で見ることができる。これは無制限に反復する動作を表す (Bondarko 1971: 27)。

- (7) Kajdiy god Lyuba priezjala k nam na dve nedeli.
毎 年 リューバ 来る-IPFV-PAST-F 私たち 2 週-PL
「毎年リューバは二週間の予定で私たちの家にやってきた。」

③の「一般的事実の意味」は、当該動作があるのかないのか（あったのか無かったのか）を現在と切り離して表すというのがその基本的な意味である。(Bondarko 1971: 29)

- (8) Ya uje **zapolnyal** anketu. Začem je ešyo raz?
私 もう 書き込む-IPFV-PAST-M アンケート なぜ もう一回
「アンケートはもう記入しました。どうしてもう一度やれというのですか。」

④の「恒常的・不断の動作の意味」は、完遂の途上にある動作が、途切れることなく恒常的に進行していることを表している。

- (9) Zemlya **vrašetsya** vokrug solnca.
地球 廻る-PRS-3 周り 太陽
「地球は太陽の周りを廻る。」

⑤の「潜在的・性質的動作の意味」は、主体の持つ性質や特徴としての動作を潜在的な可能性として提示する。(Bondarko 1971: 28)

- (10) Anna **govorit** na četiryoh yazıkah.
アンナ 話せる-IPFV-PRS-3SG 4つ 言語-PL
「アンナは4ヶ国語が話せる。」

次の例に見られるように、⑥の「制限のある多回性の意味」は、完了体の「一括化の意味」の場合と同様に、「dva raza (二回)」、「neskol'ko raz (何度か)」といった回数を表す指標を伴って、(有限の回数として) 反復する動作が表される (Bondarko 1971: 31)。

- (11) Dva raza **vıpadal** zazimok, nasıpal sugrobı.
二 回 雪降る-IPFV-PST-M 冬 作る-PFV-PAST-M 雪山
「二度雪が降って、雪の山を作った。」

そして、ロシア語の体のカテゴリーが持つ、大きな言語的な特徴の一つとして、動詞が不定詞という形態であっても、(例えば、時制のカテゴリーとは異なり) 体のカテゴリーが保持されるという点がある。

以上、少数ではあるが、不完了体の個別的意味を見てきたが、個々の動詞の語義に対する日本人とキルギス人の捉え方とロシア語のアスペクトの捉え方とは異なる。例えば、日本語の「死ぬ、起きる、終わる」は変化動詞で、「読む、走る、食べる」は動作動詞になる。日本語の変化動詞

は完了体に対応するが、動作動詞は不完了体に対応する。したがって、ロシア語の体が表す動詞の語義の意味と日本語との対応を正確に理解しないと誤解が生じる傾向がある。キルギス語の動詞のアスペクトは日本語と同様、合成的な形式で補助動詞によって実現され、本動詞の語彙的な意味によってアスペクト的な意味が決まるため、補助動詞と本動詞の結合する条件の記述と説明が大きな課題となる。

2. 現代日本語のアスペクト研究の現状

本節では、次の二つの点について概観・考察を行う。

- ① 現代日本語のアスペクト研究史
- ② 現代日本語の基本的なテンス・アスペクト体系

2.1 現代日本語のアスペクト研究史

現代日本語のアスペクト研究史は、戦前から今日に至るまでの長い研究史をもっている。中でも、金田一（1950）と奥田（1977）による研究は、今日のアスペクト研究の根源を成すもので、その研究史的意義が極めて大きい。

金田一（1950）は、最初に「～テイル」がアスペクト形式であることを確認した上で、「～テイル」と動詞との相関性を明らかにした。そして、奥田（1977）が、「ル（タ）」を「テイル（テイタ）」に対立するもう一つのアスペクト形式であることを論証し、こうして現代日本語のテンス・アスペクト体系が確立されたとされている。

金田一（1950）は、その当時の学校文法で唱えられていた形式主義的な観点からの分析方法を批判して、「～テイル」を一つの有意味なアスペクト単位として認め、「～テイル」との共起関係を中心に動詞分類を行った。その動詞分類は、次のように藤井（1966: 99-100）によってまとめられている。

- 第一種 状態動詞。「ている」をつけることのできないもので、時間を超越した概念を表す。（例、「ある」「いる」「話せる」「値する」等）
- 第二種 継続動詞。「ている」をつけることができ、つけると動作が進行中であることを表すもの。ある時間内続いて行われる動作・作用を表す。（例、「読む」「書く」等）
- 第三種 瞬間動詞。「ている」をつけることができ、つけると動作・作用が終わって、その結果が残存していることを表すもの。瞬間に終わってしまう動作・作用を表す。（例、「死ぬ」「結婚する」等）
- 第四種 いつも「ている」のつけた形で状態を表すのに用いられ、単独の形で動作・作用を表すために用いられることのないもの。（例、「そびえる」「おもだつ」等）

金田一（1950）は、上記の四種の動詞のうち、「～テイル」をもたない第一種動詞と「～テイル」しか用いられない第四種動詞を除いて一般化を試みている。その結果第二種動詞は「～テイル」と共起し、動作の進行を表すことから継続動詞、そして第三種動詞は「～テイル」を用いると結果の残存を表すことから瞬間動詞と一般化している。つまり、継続動詞と瞬間動詞の相違を動作の時間の長さから求めたのである。しかしこの動詞の分類は、周知のようにあとで見る奥田（1977）によって批判されている。

以上、金田一（1950）は、「～テイル」がアスペクト形式であることを確認した上で、「～テイル」との関係から動詞分類を行っている。その後、金田一（1950）のアスペクト研究は、鈴木（1976）、藤井（1966）、吉川（1973）などに影響を与え、当時のアスペクト研究の主流を占めることになる。しかし、「～テイル」との関係から動詞の語彙的アスペクトに偏っていたため、アスペクトの全体像を描くところまでに至らなかったといえる。

上述したように、金田一（1950）の限界は、次のように奥田（1977: 87）によって明らかにされている。

「アスペクトの理論的な研究において、まず、はじめに考慮しておかなければならないことは、hanasite-iru、kaite-iru、aruite-iru、odotte-iru、aratte-iruのような形態論的なかたちが動詞のアスペクトであるとすれば、hanasu、kaku、aruku、odoru、arauのような、suruで代表される形態論的なかたちもアスペクトであって、これらの、ふたつのかたちが「ついで」をなしながら、oppositionalな関係のなかにあるという事実である。ところが、金田一から吉川にいたるまでの研究においては、この事実はまったくといってよいほど無視されている。」

また、奥田（1977: 89）は、次のように、「動詞」の、ふたつのアスペクチュアルなかたちは、一方がなければ他方もありえないという、きりはなすことのできない有機的な関係のなかにある。」と述べ、「ル（タ）」を完成相として、「テイル（テイタ）」を継続相として位置づけ、これらの形式は相補的な対立関係を成していることを主張した。

このことは、現代日本語のアスペクトが、完成相と不完成相（＝継続相）の対立を成す形態論的なカテゴリーであることを、初めて確認したことになる。そして同時に、ここから文法的アスペクトと語彙的アスペクトの分離と統合による本格的なアスペクト研究が始まったことを意味する。

奥田は、語彙的アスペクト研究に大きな影響を与え、それまでの動詞分類の中心にあった金田一（1950）の動作の時間の長さによる動詞分類は、奥田（1977）によって最終的に否定され、主体のあり方に代替されたのである。

(12) 廊下へ出てみると、もう刑事たちは、遙かあなたを走っている。

「動作の継続」

(13) 傍に、この間、三枝が見かけた女子事務員が、べったりくっつくように
座っている。

「変化の結果の継続」

奥田は、動詞が「～テイル」と共起し、(12)のように動作の継続として解釈されるか、(13)のように変化の結果の継続として解釈されるかは、動詞の語彙的意味における性格の違いにあるとし、前者の動詞を動作動詞、後者の動詞を変化動詞と一般化した。動詞二分法の誕生である。

その後、奥田の研究は、工藤 (1982、1995)に受け継がれ、現代日本語のアスペクト研究の主流となり、今日に至ることになる。しかし、奥田の研究に問題点がまったくないわけではない。これまで、森山 (1984)、三原 (1997)などによって、奥田 (1977)の動詞二分法にも問題があることが指摘されている。²⁴

工藤 (1995)は、テンス・アスペクトのテキスト的機能を研究対象に取り入れ、テンス・アスペクト研究に新たな展開をさせ、高く評価を得ている。しかし、工藤 (1995)の理論的なベースは、奥田 (1977)のテンス・アスペクト研究のパラダイムをそのまま受け継いでいるため、奥田の延長線にあるといえる。

2.2 現代日本語の基本的なアスペクト体系

ここで、現代日本語のアスペクト体系について明確にしておきたい。

奥田 (1977)は、「ル」、「タ」、「テイル」、「テイタ」をテンス・アスペクト形式として認めた上で、無標形式 (unmarked form) と有標形式 (marked form) による相補的な対立関係を成すテンス・アスペクト体系をまとめている。表にすると次のようになる。

<表 9>現代日本語のテンス・アスペクト体系

| アスペクト テンス | | 完成相 | 継続相 |
|--------------|---|-----|-----|
| | | 非過去 | ル |
| 過去 | タ | テイタ | |

奥田 (1977)によれば、現代日本語の基本的なテンス・アスペクト体系は、<表 9>のように、まず、「ル (テイル)」と「タ (テイタ)」が基本的には〈非過去：過去〉でテンス的に対立し、そして「ル (テイル)」と「タ (テイタ)」が基本的には〈完成相：継続相〉でアスペクト的に対

²⁴ 三原 (1997: 117)は、一つの運動動詞が動作の継続も結果の継続も表す場合があるとし、奥田の動詞二分法で「テイル」の意味記述が尽きる訳では決してない指摘している。一方、森山 (1984: 73)は「設ける、見つける、終える」などの動詞を挙げ、“進行中の意味にならない主体動作動詞”と指摘している。

立する。つまり、それぞれの形式は二重の対立を成す形式として、すなわちテンスとアスペクトという文法的意味を同時に表す形式として位置づけられている。

日本語の動詞は、すべてが「ル」と「テイル」が共起し、対立を成しているわけではない。日本語の状態動詞「ある、いる、できる」のように、ル形しか持たないものと、「優れている、そびえている」のように「テイル」形しか共起できない動詞類がある。これらの動詞は、どちらか一方の文法的アスペクトが欠けているため、アスペクトの対立が存在しない動詞として分類されている。

このような状態動詞の他、もう一つ文法的アスペクトの対立を成さない一群の動詞がある。それは「存在する」と「存在している」のように、形式上にはル形とテイル形の対立があるものの、意味的に完成相と不完成相との対立を成さない動詞として位置づけられる。

したがって、基本的なアスペクト体系を成す動詞とは、状態動詞と「存在する」のような動詞を除外した運動動詞、すなわち下記のように形式上では「ル」、「テイル」を共に用いることができ、意味的には完成相と不完成相の対立を成す動詞が該当する。

(14) それから一時間ほどぼくは乱雑な小部屋のなかで太郎と遊んだ。

〈完成相〉

(15) 枯れた藤棚の下に、ぼろを着た子供が二人でめんこをして遊んでいる。

〈継続相〉

(14)の「遊ぶ」、(15)の「遊んでいる」は、「ル」と「テイル」を用いて完成相と不完成相の対立を成している。

以上のことから、現代日本語の基本的なテンス・アスペクトの体系を成す動詞は運動動詞に限られる。そして、これらの動詞は、基本的には「ル」と「テイル」と共起し、完成相と不完成相という文法的カテゴリーを表し分ける。

このように、現代日本語の不完成相（＝継続相）の研究は、「テイル」の表すアスペクト的意味と運動動詞の持つ語彙的意味は不完成相（＝継続相）の解明に重要な役割を果たしているといえる。

以下では本稿の研究対象であるアスペクト、特に継続相（＝不完成相）に焦点を当てて、文法的アスペクトと語彙的アスペクトについて検討していく。

2.2.1 文法的アスペクト「～テイル」の意味

この節では継続相がどのように捉えられてきたのか、工藤(1982)を取り上げ、見ていく。

現代日本語の継続相を表す文法形式「～テイル」は、いくつかの意味を持っている。現在、「～テイル」の表す意味は、動詞の語彙的意味との関係から、大きく基本的意味〈動作の継続〉、〈変化の結果の継続〉と派生的意味として〈パーフェクト〉、〈反復〉、〈単なる状態〉に分けられる²⁵。

²⁵ 以上の「～テイル」の表す名称と分類は、工藤(1995)に従ったものである。

2.2.2 工藤 (1982、1995)

工藤 (1982)では、理論的な枠組みの中で「～テイル」の表す意味について詳細な分析を行ったことで知られている。工藤 (1982: 53-54)は、奥田 (1977)による形態論的なテンス・アスペクト研究のパラダイムを受け継いで、「～テイル」の表す意味を次のように5つにまとめている。

①基本的意味

- (16) a. 廊下を先生が歩いている。 〈動きの継続〉
 b. 玄関の戸が開いていた。 〈変化の結果の継続〉

②派生的意味

- (17) a. 私達は去年の三月に結婚している。 〈現在有効な、過去の運動の実現〉
 b. 私は朝日新聞を読んでいる。 〈反復〉
 c. 太陽は地球から遠く離れている。 〈単なる状態〉

工藤 (1982)は、その後工藤 (1995)へとさらに発展するが、工藤 (1995)では派生的意味を中心に豊富な実例を用いて詳細な分析を行った。その際に、上記の(16a)の〈動きの継続〉は〈動作の継続〉へ、そして(17b)の〈現在有効な、過去の運動の実現〉は〈パーフェクト〉へと、その名称を変更している。

ここでの基本的意味には(16a)のような〈動作の継続〉と(16b)のような〈変化の結果の継続〉が属しており、これらのアスペクト的意味は、継続という意味を持っている点においては共通しているものの、何の継続であるかにおいて対立していると工藤は述べている。

それに対して、派生的意味²⁶には、上記の(17)のように〈パーフェクト〉、〈反復〉、〈単なる状態〉があるとし、それぞれの意味を次のように定義している。

- (a) パーフェクト: 後続時点における、それ以前に成立した運動の効力の現在をあらわすもの
(b) 反復: 幅広い期間において繰り返し起こる、ポテンシャルな運動をとらえるもの
(c) 単なる状態: もはや時間のなかでの展開性を問題にしなくなって、ものの性質や、空間的配置関係をとらえるもの

(工藤 1995: 39)

本論文も、工藤 (1995)と同様「～テイル」には二種のタイプがあるという立場をとる。すなわち、二つの基本的意味を、現代日本語の継続相を実現する文法的アスペクト形式として位置づける。そして派生的意味のうち、パーフェクトと反復は、それ自身アスペクト性が認められる

²⁶派生的意味は準アスペクト的意味とも呼ばれる。

ことから、本論文も文法的アスペクト形式から派生したものと見なし、準アスペクト形式として位置づけておく。

2.3 語彙的アスペクト

現代日本語の継続相は、基本的に「運動動詞+テイル」という構造の上で、動作の継続と変化の結果の継続という二つのアスペクトの意味が実現される。「～テイル」という継続相を実現する文法的形式と、「～テイル」と共起する運動動詞の語彙的意味との相関関係を考察することが本節の目的である。

2.3.1 「～テイル」と運動動詞の相関関係

現代日本語のアスペクト研究史では、継続相を実現する文法的形式「～テイル」が二つのアスペクトの意味を表すことから、「～テイル」の意味と動詞分類との相関関係が重要な研究テーマの一つとして扱われてきた。動詞分類には、最も知られているものとして、金田一 (1950)の時間の長さとの奥田 (1977)の主体のあり方によるものが挙げられる。

この時間の長さとの主体のあり方という概念を取り入れることによって、現代日本語のアスペクト研究は発展し、多くの事実が明らかにされるに至った。

そこで、現代日本語の語彙的アスペクトを明確に記述していくためにも、二人による動詞分類を考察する必要があると思われる。以下では、金田一 (1950)の時間の長さとの奥田 (1977)の主体のあり方について検討を行う。

2.3.2 動作の時間の長さ (金田一 1950)

金田一 (1950)は「～テイル」との共起関係から運動動詞を四種類に分け、さらに時間の長さをもとに継続動詞を動作の進行を表すものとして、瞬間動詞を結果の残存²⁷を表すものとして位置づけている。

① 継続動詞：動作・作用がある時間内続いて行われる動詞

読む、書く、洗う、見る、飲む、歩く、考える、燃える、散る、…

② 瞬間動詞：動作・作用が瞬間に終わってしまう動詞

死ぬ、点く (電燈が)、消える、到着する、止む、結婚する、剃る…

(金田一 1950: 10)

金田一 (1950)の動詞分類 (進行相と結果相との関係に限っていえば) は、継続動詞=(動作進行)、瞬間動詞=(結果の残存)という動詞二分法である。これは、動作・作用が持続的であるか瞬間的であるかという時間の長さによる一般化である。しかし、この時間の長さによる動詞分類は、

²⁷ 〈結果の残存〉という文法的な意味は、先行研究で出されたまま使用している。

その後奥田 (1977)を始めとし²⁸、多くの先行研究から次のような点が問題として指摘された。

- (18) a. 庭に桜の花弁が散っている。 (継続動詞)
b. 桜の花弁がヒラヒラと散っている。 (継続動詞)
(三原 1997: 117)

- (19) a. その僧と行きあったとき、みんなびっくりしました。その僧はまだ若い人で、
頭はすっかり剃っています。 (瞬間動詞)
b. 大書院の老師の部屋へゆく。そういうことの巧い副使さんが、老師の頭を
剃っている。 (瞬間動詞) (金閣寺)

金田一(1950)は(18)の「散る」を(18a)のように継続動詞として分類しているのので、その「～テイル」の意味は、〈結果の残存〉と(18b)のように〈動作の進行〉を表している。

また、(19)の「剃る」は瞬間動詞と分類しているのので、「～テイル」のアスペク的な意味は、(19a)のように〈結果の残存〉として用いられる。しかし、瞬間動詞の「剃る」は、(19b)のように〈動作の進行〉としても用いられる。

2.3.3 主体のあり方 (奥田 1977)

前節で見た金田一 (1950)による動詞分類は、奥田 (1977)によって批判され、最終的には次のように動作動詞と変化動詞へと修正された。

- (20) a. 動作動詞：動作の持続を実現する動詞グループ
歩く、飛ぶ、話す、踊る、洗う、砕く、割る、食べる、飲む、話す…
b. 変化動詞：結果の継続を実現する動詞グループ

²⁸ 奥田 (1977)は、金田一(1950)による「動詞二分法」における問題点について次のように指摘している。

「金田一春彦の一般化が正当ではないことは、二、三の動詞を引き合いに出すだけで、十分である。例えば、瞬間動詞は瞬間的に終わる動作(あるいはうごき)をあらわすものであるはずだが、*hutoru*、*yaseru*、*hageru*、*iku*、*kaeru*のような動詞がさししめず動作(あるいはうごき)は、けっして瞬間的なものではない。だが、これらの動詞は、*site-iru*というかたちで、アスペクチュアルな意味の(二)(=〈結果相〉)を実現するがゆえに、瞬間動詞でなければならない。*tataku*、*ataru*、*suretigau*、*matataku*、*kiru*のような動詞は、アスペクチュアルな意味の(一)(=〈進行相〉)を実現するがゆえに、継続動詞だがこれらがさししめず動作は瞬間的、あるいは瞬間的にちかいものである。*kekonn-suru*、*syusyoku-suru*のような動詞が瞬間動詞であるか、継続動詞であるか、という愚劣な質問がでてくる。そんなことで、「動作の長さ」という方向での一般化が、アスペクトとかかわっておこなう、動詞の語彙的な意味の一般化として失敗であることが、だれの目にもはっきりしている。」(奥田 1977: 97-98)

行く、帰る、入る、座る、死ぬ、煮える、壊れる、倒れる、痩せる…

(奥田 1978: 93)²⁹

上記の動詞分類は、主体のあり方という観点から行った分析であり、(20a)のような動詞には動作という語彙的意味が、(20b)のような動詞には変化という語彙的意味が内在されているとし、奥田は前者を動作動詞、後者を変化動詞と命名した。奥田 (1977:)による、いわゆる動詞二分法を簡単にまとめると、次のようになる。

〈表 10〉 動詞二分法

| | | |
|----------|------|----------|
| 動詞の語彙的意味 | 運動動詞 | アスペクト的意味 |
| 動作 | 動作動詞 | 動作の継続 |
| 変化 | 変化動詞 | 変化の結果の継続 |

動作という語彙的意味を持つ動作動詞は、「～テイル」と共起すると〈動作の継続〉を表し、変化という語彙的意味を持つ変化動詞は〈変化の結果の継続〉を実現する、と奥田はいう。

奥田の動詞二分法における問題点は、〈表 10〉でまとめた二つの動詞のグループに納まらない動詞があるなど、これまですでに多くの研究者からその問題点が指摘されている。

以上、現代日本語における文法的アスペクトと語彙的アスペクトの基本的なことを概観したが、それぞれにはいくつかの問題点があることも確認した。

3. キルギス語のアスペクト形式に関する捉え方

歴史的にキルギスはロシアと同じ時代を歩み、キルギスは経済的にも、精神的にも自由の存在であったと言えば歴史的に嘘になるだろう。当然、キルギス語の研究も科学を代表とするロシア語と密接に関係している。第一に、科学的な情報の入手はすべてロシア語を通してとなっており、ソビエト言語学は科学としてロシア語の科学的な研究の発展に寄与し、多くの言語学者は伝統的な考え方で育てられてきた。特に社会主義の時代、ロシア語は他の言語より優位の立場にあり、文字のない時代が長かったキルギス語は、ロシア語の優位性を認めている。一方、ロシア語のみからことばの一般性を引き出し、それをキルギス語に対して無批判に適用したりするという、人間のことばの本質を無視した方法をとってきたことも否めない(Karibaev and Kasimova 2001: 5-9)。

現代日本語についても、英語をはじめとする欧米の諸言語をもとにして開発された考え方をそのまま日本語に当てはめようとする姿勢が強かった(井上 2002)。

以上の条件の下で、キルギス語を含むチュルク語の動詞のアスペクトの問題の提起は、ロシア

²⁹ 上記の(20)で挙げた動詞は、奥田 (1977)ではすべてローマ字で挙げられているが、便宜上、漢字かな混じりの表記で記す。

語を代表とするスラヴ語の *vid* (体) の外的な類似の意識と結びつき研究が始められたが³⁰、同じ語族の言語間さえ、相違点が十分あり得るから、語族が異なるスラヴ諸語とチュルク諸語には当然ロシア語の体のようなものがキルギス語にも存在するとは言えない。さらに、問題を複雑にしているのは、概念や術語が乱立していることである。同一の概念が使われても必ずしも同じ現象が示されてこなかった。また、用語法自体がキルギス語の現象を説明するのに適切に機能しているかどうか問い直そうという努力も特に行われてこなかった。

キルギス語を含むチュルク諸語のアスペクトは、ロシア語に *vid*、すなわち動詞の完了体と未完体の区別があるのとは異なり、動詞の合成的な形式(補助動詞)や時制のカテゴリーの区別に緊密に関わっているということが多くのキルギス語学者によって指摘されている³¹。ロシア語学のアスペクトつまり、体 (*vid*) の *tür* というキルギス語訳の用語がそのまま使われている。そして、国語として標準化された文法でも文法カテゴリーとして個別に扱われず、テンスのカテゴリーとして扱われているのである。

チュルク諸語の動詞のアスペクトを見る時に重要なのは、当然異なる言語の観点からみてはいけないということであろう。キルギス語の文の構成を把握するには、様々な種類の文、その使われ方を注意深く観察し、背後にある一般的なパターンがあるかどうかを考える必要がある。

チュルク諸語研究の中で動詞のアスペクトを理論的に説明する試みが Nasilov (1989)によって行われ³²、ウズベク語の言語資料を例に機能・意味的観点から語彙的に動詞の示す様々な局面により種類別に分類する *Aktionsart*³³を中心に論を展開している。それは Bondarko (1987)において提唱されたアスペクチュアリティーという概念を基に、文法的・形態的カテゴリーとしてのアスペクトを構文論的及び語彙的な *Aktionsart* と分離する研究成果に基づくものであった。動作の経過が示す内容が、形態的、形成的あるいは統語論的な環境によって表示されるという機能意味論的カテゴリーが対象となる。このように理解すると、動詞のアスペクトは必ずしも二項対立的に表示されねばならぬという基準設定から脱することができる。普遍的な基準のもとでキルギスの学者が動詞の結合という矛盾した定義を行うことになったのは二項対立の基準に合わなかったことが原因であろう。動詞結合は語彙単位ではないので、辞書に載っていない。さらに動詞の結合はチュルク諸語の研究では統一した用語がなく、多様な用語が用いられているため、問題をより複雑にしている。キルギス語の文法では複合動詞と補助動詞という用語を使用しているが、それ以外に分析的動詞や迂言的動詞という用語がしばしば使用されているからである。

これらのことを踏まえると、キルギス語では動詞アスペクトに関しては次のようにまとめることができる。

³⁰ Nasilov, D (1989) *Problema tyurkskoy aspektologii* による。

³¹ Oruzbaeva, B (2004) *Kirgiz til ilimi* を参照されたい。

³² Nasilov (1989)が指摘しているように、チュルク諸語に属する言語はどれも補助動詞の数がおおよそ 20 種類である。

³³ 語彙範疇としてのアクツィオースアールトのこと。

- ・ キルギス語を含むチュルク諸言語のアスペクト研究は、ロシア語に **vid**、すなわち動詞の完了体、不完了体の区別があるのとは異なり、動詞の合成的な形式（補助動詞）や時制のカテゴリーの区別に緊密に関わっている。
- ・ キルギス語学では、アスペクト的動詞の問題が十分議論されていない。キルギス語にはロシア語の体のようなものが存在しないという論拠を示す必要がある。
- ・ キルギス語学ではアスペクトの意味を表示する言語単位の問題を巡る研究が行われていない。ある時にある言語学者の主張を証拠として引用するだけで、実際の言語資料に基づいた分析がなされていない。

以上のことに関して、チュルク諸語の研究者（Baskakov1969、Serebrennikov1958、Dmitriev1962、Ganiev1963、Nasilov1989）の研究を踏まえて、現代チュルク諸語は完了体と不完了体のようなカテゴリーが存在しないとする説が一般的になっている。

キルギス語のアスペクトは多くの場合、「本動詞+副動詞接尾辞+補助動詞」で表されるが、若干動詞から動詞を派生する接尾辞によっても表現される。

Karibaev and Kasimova（2001）では、形態的にマークされた動詞を以下の接尾辞パターンに分類し、多回性を表すとしている。

①- **kila, -kula, -kile, -külö** 「何度も…する」、「…しまくる」などのように、激しく力をもった動作の反復を表す

čap（たたく） **čap**kila****（何度もたたく）

ur（殴る） **urgula**（何度も殴る）

soz（伸ばす） **soz**gula****（伸ばしまくる）

tep（蹴る） **te**pkile****（何度も蹴る）

öp（キスする） **öp**külö****（何度もキスする）

② **-la, -lo, -le, lo**（何度も…する）

čimči（つまむ） **čim**čila****（何度もつまむ）

siypa（なでる） **siy**pala****（何度もなでる）

atake（お父さん） **ata**kele****（何度もお父さんと言う）

③ **-mala, -molo, -mele, -molo**（何度も…する）

sura（聞く） **suram**ala****（色々聞く）

čeč（決める） **čeč**mele****（解きまくる）

čiy（線を引く） **čiy**mele****（いっぱい線で書き込む）

- ④ -ilda, -ulda, -ilde, -üldö (何度も...する)
 tars et/de (パーンとなる/する) tarsilda (ガン/花火の音が何度もする)
 künk-et-ti (ひとことつぶやく) künküldö (何度もつぶやく)

以上、形態論的な手続きによって動詞から別の動詞を派生する4つの接尾辞パターンに分類された動詞類を見てきた。キルギス語の研究では、このような多回性を表すという Karibaev and Kasimova (2001) の指摘は初めて取り上げられたものである。

3.1 現代キルギス語の動詞の語形成と動詞の分類

本節では、キルギス語の動詞の語形成と動詞の分類に関して Oruzbaeva et al., Red (2009)、Abduvaliev (2008)を取り上げる。これらの先行研究は異なる観点から現代キルギス語の動詞について記述している。Oruzbaeva et al., Red (2009)は動詞の語形性に重点をおいているが、Abduvaliev (2008)は動詞の意味に重点をおいて記述している。

3.1.1 Oruzbaeva et al., Red (2009)

Oruzbaeva et al., Red (2009)は、キルギス語の動詞の語形成を2種類に分けている。

- ① 形態論的な手続きによって形成される動詞
- ② 統語論的な手続きによって形成される動詞

① の形態論的な手続きによって形成される動詞とは、名詞や動詞、形容詞に様々な尾辞がつくことによって作られる動詞のことをさす。以下では、生産性が高い接尾辞の順に簡単に紹介する。

- 名詞に-la³⁴がついている場合

| | |
|-------------|-------------------|
| bičak (ナイフ) | bičak-ta (ナイフで切る) |
| tokmok (殴り) | tokmok-to (殴る) |
| suu (水) | suu-la (濡らす) |
| iš (仕事) | iš-te (仕事をする) |
| ört (火) | ört-tö (燃やす) |
| muz (氷) | muz-da (冷やす) |

- 形容詞に-la がついている場合

| | |
|------------|------------------|
| taza (きれい) | taza-la (きれいにする) |
|------------|------------------|

³⁴ la-接尾辞は12種類の異形態を作る。

kooz (奇麗) kooz-do (飾る)

- ロシア語からの借用語についている場合

asfal't (アスファルト) asfal't-ta (アスファルトする)

gips (石こう) gips-te (石こうする)

- 名詞に**-lan** がついている場合

-lan 接尾辞がつくことによって作られる動詞は、主に自分自身にむけた動作を表す。

oy (考え) oy-lon (考える)

sīymik (誇り) sīymik-tan (誇りに思う)

namīs (威信) namīs-tan (威信をもつ)

arīz (文句) arīz-dan (文句を言う)

- 名詞に**-laš** がついている場合

名詞に-lāš 接尾辞がつくことによって、二人又は三人以上の主体が一緒に動作を相互に行うことを表す。

akīl (知恵) akīl-daš (相談する)

tamaša (冗談) tamaša-laš (冗談を言う)

koš (さようなら) koš-toš (さようならを言う)

また、いつも何人かで相互に行うだけではなく、一人で行う動作の場合もある。

jardam (手助け) jardam-daš (手助けをする)

jakīn (近い) jakīn-daš (関係をよくする)

kōmök (協力) kōmök-tōš (協力する)

- その他

ここからは生産性が低い接尾辞 -a; -ar; -sa; -ša/-ši; -ča/-či; -kar/-kyr; -ik/-ik; -ay/ey; -tar/-dar から成り立つ動詞の例をあげる。

kūč (力) kūčö (強くなる)

jaš (歳) jašar (若くなる)

ak (白) agar (白くなる)

suu (水) suusa (喉が乾く)

uyku (眠り) uykusura (眠くなる)

語幹が簡単に分裂できないもの

ěčrci (後ろからついて来る) čarča (疲れる)

uyatkar (恥をかかせる) sakay (治る) aŋtar (裏返しにする)

② の統語論的な手続によって形成される動詞とは、名詞と動詞の組み合わせから作られる動詞のことをいう。この類の動詞には以下の補助動詞がある。

• **ět-**

ět は単独で用いられない動詞である。擬声語・擬態語や名詞などと組み合わせられることが多い。

tars-tars ět (ガチャガチャする)

jardam ět (手伝う)

sabir ět (我慢する)

• **de-**

de- は数が少ないが、et- と同じく擬声語・擬態語と組み合わせられることが多い。

tars de (パーンとする)

oh de (疲れた時のため ooh という)

• **bol-**

bol- は語彙的な意味をもった (なる) の意味で単独でも用いられる。

naarazī bol (不満になる)

kaza bol (死亡する)

adam bol (人間になる)

dos bol (友達になる)

• **kil-**

kil- も語彙的な意味をもった (する・やる) の意味で単独で使われる。

talap kil (要求する)

šiltoo kil (言い訳をする)

ubada kil (約束する)

Oruzbaeva et al., Red (2009) は、統語論的な手続によって形成される動詞として、複合動詞をあげている。複合動詞は、さらに①名詞+補助動詞 ②動詞+補助動詞によるものに大別されるとしている。

①名詞+補助動詞

これらは名詞の格と以下の補助動詞によって文中での様々な意味を表す。

| | | |
|----|---------------------|----------|
| 主格 | aşik bol | (好きになる) |
| 与格 | kaygı-ga sal | (悲しむ) |
| 対格 | karız-dı joy | (借金をなくす) |
| 位格 | öküt-tö kal | (後悔する) |
| 奪格 | til-den kal | (話せなくなる) |

② 動詞+補助動詞

この種の動詞は-(i)p 副動詞、または-a/y 副動詞と組み合わさり、ある複合動作を示すとして
いる。そして次のような文法的な意味に応じて使用する補助動詞が異なってくる。

a) 動作の発展・方向性を表す補助動詞

- kel-** (来る) = kir-ip kel (入る+来る=入って来る)
- ket-** (行く) = kaç-ıp ket (逃げる+行く=逃げてしまう)
- bar-** (行く) = al-ıp bar (持つ+行く=持って行く)

b) 動作の進行を表す補助動詞

- jür-** (動く) = ayt-ıp jür (言う+動く=言い続ける)
- tur-** (立つ) = küt-üp tur (待つ+立つ=待っている)
- jat-** (横たわる) = oyno-p jat (遊ぶ+横たわる=遊んでいる)
- otur-** (座る) = ugu-p otur (聞く+座る=聞いている)
- ber-** (あげる) = iç-e ber (飲む+あげる=飲み続ける)
- tüş-** (降りる) = ırda-y түş ((もう少し) 歌う+降りる=歌い続ける)

c) 動作の終了を表す補助動詞

- tašta-** (やめる) = ırgıt-ıp tašta (捨てる+やめる=捨ててしまう)
- sal-** (入れる) = jaz-ıp sal (書く+入れる=書いてしまう)
- koy-** (置く) = jasa-p koy (作る+置く=作っておく)
- jiber-** (送る) = içi-p jiber (飲む+送る=飲んでしまう)
- kal-** (残る) = sakta-p kal (守る+残る=守ってしまう)
- çik** (出る) = oku-p çik (読む+出る=読んでしまう)
- al-** (取る) = tög-üp al (こぼす+取る=こぼしてしまう)

以上、動詞の形態論的と統語論的な手続によって形成される動詞を見てきた。Oruzbaeva et al., Red (2009)では、それぞれの動詞が形成される接尾辞や補助動詞の意味が詳しく記述されている。②の統語論的な手続によって形成される動詞の中でb)の動作の進行を表す補助動詞である jür-, tur-, jat-, otur-は本研究の対象になる。

3.1.2 Abduvaliev (2008)

Abduvaliev (2008)は、キルギス語の動詞を 4 つのタイプに分類している。

- [1] Kiyimil etišter (動作動詞)
- [2] Abal etišter (状態動詞)
- [3] Özgörüm etišter (変化動詞)
- [4] Sezim etišter (感情動詞)

Abduvaliev (2008: 156-158)は、それぞれの動詞のタイプについて、次のように記述している。

[1] Kiyimil etišter (動作動詞)

動作動詞は、動作を明確に表し、動作主体と動作客体によってさらに分類される。

- a) 主体が動きをし、何かの為に向かうことを表す動詞が入る。jügür- (走る)、čurka- (走る)、bas- (歩く)、jort- (探し回る)、čap- (早く走る)、ur- (叩く)、kayt- (戻る)、čik- (出る)、kötörül- (上がる)、kalki- (浮かぶ)、serüündö- (散歩する)、tara- (広がる) (kabar taradi 情報が広がった)、tarka- (別れる) などである。これらの動詞の場合、主体自身が動作をすることになる。
- b) 客体を変化させるような意味を示す動詞が入る。kaz- (掘る)、kurut- (根絶する)、mayla- (油で塗る)、saminda- (石けんをつける)、kötör- (あげる)、alip ber- (取ってあげる)、alip kel- (持ってくる)、jür- (動かす šaxmatti 「チェスを」、kartani (トランプを) などである。これらの動詞の場合、主体の動作が客体を変化させる。

[2] Abal etišter (状態動詞)

これらは動作ではなく、主体のなんらかの空間的な状態を表わす。このタイプは otur- (座る)、jat- (横たわる)、tur- (立つ)、bol- (なる) などが属する。

- (21) Stol-do čalka-lap Asan agay **oltur-a-t.**
 椅子-LOC 寄り掛かる-CVB アサン 先生 座る-PRS-3
 「椅子に寄り掛かってアサン先生は座っている。」

- (22) **üč okuuču üč burč-ta tur-a-t.**
 三 生徒 三 角-LOC 立つ-PRS-3
 「三人の生徒が三カ所の(部屋の)角に立っている。」

Abduvaliev (2008: 156-157)によれば、これらの例文での *olturat* と *turat* という動詞は動作ではなく、アサン先生と 3 人の生徒のある場所での空間的な状態を示している。状態動詞は文脈によって決定される。人や物が何らかの空間的な状態にあるということは、動作が行われ、それが終了したということを表す。したがって、その裏には動作が含意されているため、このような動詞のことを状態動詞という。状態動詞は、複合形式でも用いられるとしている。

- (23) **Orto-do il-in-gen kooz lyustra üy-dü jarik**
 真中-LOC 掛ける-PASS-PART 美しい 照明 家-ACC 明るい
kil-ıp tur-a-t.
 する-CVB 立つ-PRS-3
 「真ん中にかかっている美しい照明が家中を明るくしている。」

- (24) **Biz-din mektep-tin klass bölmö-lör-ü**
 私達-GEN 学校-GEN クラス 教室-PL-3:POSS
dayıma taza bol-up tur-a-t.
 いつも 綺麗な なる-CVB 立つ-PRS-3
 「私達の学校の教室はいつも綺麗になっている。」

[3] **Özgörüm etişter** (変化動詞)

変化動詞は客体あるいは主体の数および質の面からなんらかの変化を受けたことを表し、次のような動詞が属する。*agar-* (白くなる)、*jaşa-* (柔らかくなる)、*tülö-* (色あせる)、*toy-* (満腹になる)、*čanay-* (腹一杯になる)、*kampay-* (腹一杯になる)、*içirken-* (身震いする)、*semir-* (太る)、*arıkta-* (痩せる)、*az-* (痩せる)、*öñdön az* (青白い顔になる) などである。

- (25) **Akmat-tin bak-kan mal-i biyil jakši semir-di.**
 PSN-GEN 育てる-PART 家畜-3:POSS 今年 良い 太る-PST1
 「アクマトが育てている家畜は今年、よく太った。」

Abduvaliev (2008: 157)によれば、動作を表しているとは考えにくい動詞の *semirdi* (太った) は、物の動作ではなく、質の面から変化したことを表し、徐々に質の変化が起こっていることが分かる。もちろん、物の数の変化や質の変化は動作の結果によって生じるものである。その為、

よって成り立つもの

キルギス語のテンスの研究者である Tursunov (1959)においては、単純現在形の(i)の種類は、現在において行われる動作を表すという基本的な意味以外に、文の中にある語彙的な条件によって以下の意味を表すとしている。

- ① 文中に時を示す副詞成分が現れて、発話時点で動作が行われなくても、長い時間前から行われている動作を表す場合:

(27) Al Burma-nin tobu-n-da kečke üron tazala-š-a-t.
彼 ブルマ-GEN グループ:3POSS-LOC ずっと 種 精査する-RECP-PRS-3PL
「彼はブルマのグループですずっと前からシードを精査している。」

- ② 一般自然現象を表す場合:

(28) Jer öz ogu-n-da aylan-a-t.
地球 自分 軸-POSS-LOC 回る-PRS-3SG
「地球は自分の軸を回っている。」

- ③ 時折繰り返して行われる動作の場合:

(29) ... ěki jag-in-dagī-lar-ga birde kiyigī menen
二 側-POSS:3-LOC-PL-DAT ある時 横 と
kara-sa, birde aldīrtan alaya kara-y-t.
見る-COND ある時 前から じっと 見る-PRS-3
「左右にいる人々をある時横から見たり、ある時前からじろじろ見たりしている。」

- ④ ずっと前から動作が始まっており、現時点でも行われている動作を表す。いわゆる長期的な動作を表す場合:

(30) Ošon-don beri jeti-nči lampa šiše-siz küy-ö-t.
それ-ABL 7番目 ランプ ガラスなしで 火がつく-PRS-3
「それから七番目のランプはガラスなしで火がついている。」

- (31) Ĕrmek ĕkĕĕ-büz ar išembi sayın keĕkurun šaar-dan kel-üüĕü avtobus-tu **tos-o-buz.**
 PSN 二人:1:PL 毎土曜日 ごと 夕方 街-ABL 来る-VN バス-ACC 迎える-PRS-1:PL
 「エルメクと二人で毎土曜日の夕方に町から来るバスを**迎えに行きます。**」

⑤ 過去に行われた動作、いわゆる歴史的な現在の場合:

- (32) Bala-nĕ Ayımjan törĕ-dü bol-up, döŋ-dĕ otur-gan
 子供-ACC PSN 生む-PST1 なる-CVB 丘-LOC 座る-PART
 Bektur-ga süyünĕü **bar-a-t.** İyla-p otur-gan Bektur
 PSN-DAT いい知らせ 行く-PRS-3 泣く-CVB 座る-PART PSN
 özü min-ip jür-üüĕü toru kaška at-ın süyünĕü-gĕ **ber-e-t.**
 自分 乗る-CVB 動く-VN 白黒 馬-3:POSS いい知らせ-DAT あげる-PRS-3
 「アイムジャンが赤ちゃんを生み、丘に座っているベクトルによいニュースを**知らせる。**泣
 いていたベクトルは自分が乗っていた馬をよい知らせをしてくれた人に**あげる。**」

また、この種類の単純現在形の動詞に助動詞 **ĕle** が付加される場合、過去に起きた動作を表すよ
 うになる。次の例を見よう。

- (33) Al šaar-da **jašay-t** **ĕle.**
 彼 都会-LOC 住む-PRS-3 **ĕle**
 「彼は都会に**住んでいた。**」

なお、過去に行われた動作について尋ねる場合、**ĕle** の前に **b** が付き、**bel-e** になる。

- (34) Al šaar-da **jaša-y-t** **bel-e?**
 彼 都会-LOC 住む-PRS-3 Q-**ele**
 「彼は都会に**住んでいたの？**」

- (35) Ušul jak-ta birĕĕ altın **sat-a-t** **ĕken.**
 この 辺-LOC 誰か 金 売る-PRS-3 **ĕken**
 「この辺で誰か金を**売っているようだ。**」

ここでは、助動詞 **ĕken** によって、現在行われている動作について誰かから聞いた意味、または、
 偶然聞いた意味を表す。

次に、単純現在形のもう一つの種類を見ていこう。(ii)に示したように-uuda/-oodo は-uu/ -oo という分詞の接尾辞と-da -do 位格語尾によって成り立つ。

この現在形は使用範囲が限られ、特に文献などでしか使用されず、以下のような意味を表す。

① ある動作・出来事が発話時点において行われ、継続される動作を表す場合:

(36) Karangilik parda-sin jamın-ganday köl üstün iñirt **kaptoo-do.**
闇 カーテン-POSS:3 冠る:REFL のように 湖 上 夕暮れ 覆う-PRS
「闇のカーテンをかぶったように湖は夕暮れに覆われている。」

② 文脈によってある動作・出来事が昔から継続され、現在も続けられ、将来も続けられる場合:

(37) Ayıl -kištak-tar-da ėl-ge bilim berüü iš-i-nin
田舎-PL:LOC 国民-DAT 教育 あげる 仕事-POSS-GEN
abal-ı jıl sayın **jakšır-uuda.**
状況-POSS:3 年 ごと よくなる-PRS
「田舎で学校教育機関の水準が毎年上がっている。」

3.2.2 複合現在形

次は、本研究の対象である補助動詞 jat-、tur-、otur-、jür-によって構成される複合現在形を見る。この複合現在形は、動詞の語幹に-(i)p 副動詞接尾辞と補助動詞 jat-、tur-、otur-、jür-が後接することによって作られ、動作の進行を表す。(Tursunov 1959, Oruzbaeva et al., Red 2009)

| | |
|-------------------------|-------|
| 本動詞の語幹-(i)p 副動詞接尾辞+補助動詞 | jat- |
| 本動詞の語幹-(i)p 副動詞接尾辞+補助動詞 | tur- |
| 本動詞の語幹-(i)p 副動詞接尾辞+補助動詞 | otur- |
| 本動詞の語幹-(i)p 副動詞接尾辞+補助動詞 | jür- |

Tursunov (1959)では、複合現在形の形式は一般に動作・出来事が発話時点において行われていることを示しているも、本動詞や補助動詞の意味によって動作・出来事の時間軸上の展開を明確に示すアスペクトと厳密に関係してくると述べている。現在でもこのような指摘が主流である。しかし、動作の進行を表す上記の補助動詞について包括的に記述する研究は未だに行なわれていないのが現状である。

また、キルギス語の伝統文法書では以上の補助動詞は現在形の形としてしか認められていない。

しかし、以下のとおり、これらは、過去形³⁷、未来形でも用いられる。

- (38) Bir neče kün tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-tī.
いくつ 日 寝床-ABL 起きる-NEG 泣く-CVB jat-PAST1
「何日か寝床から起き上がらないで、泣いていた。」(単なる過去)

- (39) Bir neče kün tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-kan.
いくつ 日 寝床-ABL 起きる-NEG 泣く-CVB jat-PAST2
「何日か寝床から起き上がらないで、泣いていた。」(過去のある特定の日について述べる場合)

- (40) Bir neče kün tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-iptir.
いくつ 日 寝床-ABL 起きる-NEG 泣く-CVB jat-PAST3
「何日か寝床から起き上がらないで、泣いていたそうです。」(誰かに聞いた場合又は発見)

- (41) Bir neče kün tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-ču.
いくつ 日 寝床-ABL 起きる-NEG 泣く-CVB jat-PAST4
「何日か寝床から起き上がらないで、(よく)泣いていた。」(誰かの過去の習慣について)

- (42) Ošol kez-de tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-kan bol-o-t.³⁸
その時-LOC 寝床-ABL 起きる-NEG 泣く-CVB jat-PART なる-PRS-3
「その時(彼は)寝床から起き上がらないで泣いているだろう。」

³⁷ キルギス語の過去を表す時制には、以下の4つの区別が存在する。

aykīn ötkön čak (PST1: 確定過去) kapiskī ötkön čak (PST3: 不定過去)

belgisiz ötkön čak (PST2: 不確定過去) adat ötkön čak (PST4: 習慣過去)

aykīn ötkön čak (PST1) は、動詞の語幹に-dī という接尾辞が付加され、単なる過去に行われた動作を表し、比較的近い過去の動作を示す。belgisiz ötkön čak (PST2) は、動詞の語幹に-gan という接尾辞が付加され、終了時期を明確にさせる必要のない一般的な動作の完了、完了した結果の状態、あるいは過去の経験などを表す。kapiskī ötkön čak (PST3) は、動詞語幹に-iptir という接尾辞が付加され、時期や実現がはっきり確認されていない過去の動作を表す。人から聞いた動作や予想外の動作、推定に基づく過去の動作などを示す。adat ötkön čak (PST4) は、動詞語幹に-ču という接尾辞が付加され、過去の繰り返しや経験などを表す。また、現在も続いている習慣的な動作を表す場合もある。なお、ここで使われている過去形の各用語は B. Tokubek (2009) *Learn the Kyrgyz Language* での英語訳に倣い、Past Definite Tense を確定過去、Past Indefinite Tense を不確定過去、Unexpected Past Tense を不定過去、Past Habitual Tense を習慣過去とした。

³⁸ この文にある ošol kez-de (その時) は文全体を未来の解釈にしているが、kačan barsam tōšök-tön tur-bay iyla-p jat-kan bol-o-t. とすると、kačan barsam (いつ行けば) のように条件法を取ると、「いつ行っても寝床から起き上がらないで泣いている」として現在の意味で使われることになる。

上記の(38)~(41)には過去形の接尾辞として **-di** (確定過去)、**-gan** (不確定過去)、**-iptir** (不定過去)、**-çu** (習慣過去) という4つの種類があり、それぞれ補助動詞の語幹に接続され、過去において行われた出来事を表している。(42)は「**jat+kan** 分詞+**bol-o-t**(なる-PRS-3)」とう形式で未来の意味を表す例である。

Serebrennikov (1979)は、以上の複合現在形は英語の Present Continuous Tense に相当するものだが、この4つの補助動詞が **be** 動詞の代わりに使われると指摘している。

(43) a. Al kat jaz-**ip** otur-**a-t**.
 彼 手紙 書く-CVB otur-PRS-3SG
 「彼は手紙を**書**いている。」

b. Soldat-tar tizil-**ip** tur-**a-t**.
 兵士-PL 並ぶ-CVB tur-PRS-3PL
 「兵士が**並**んでいる。」

c. Kiz radio ug-**up** jat-**a-t**.
 女の子 ラジオ 聞く-CVB jat-PRS-3SG
 「女の子はラジオを**聞**いている。」

d. Bala koroo-do oyno-**p** jür-**ö-t**.
 男の子 外-LOC 遊ぶ-CVB jür-PRS-3SG
 「男の子は外で**遊**んでいる。」

これらの用例では、いずれの場合においても人がどんな姿勢で動作を行っているかということが関係してくる。つまり、それぞれの基本的な意味が完全になくなっている訳ではなく、ある程度残っていると思われる。例えば、(43a)は「彼は手紙を座って書いている」、(43b)は「兵士が立って並んでいる」、(43c)「女の子は横になってラジオを聞いている」、(43d)は「男の子は庭で動きながら遊んでいる」という意味を持っている。もっとも(43c)は他のものと比べ、動作が行われる場所、動作主の姿勢に関係なく自由に使われるから、制約がなく、どの動詞に付加しても発話時における動作を表し得るので中立とも言える。残りの「**tur-**」、「**jür-**」、「**otur-**」は、動詞の種類によっては結びつきにくいものもある。この点に関しては、ターライベク キズ(2007)の論文を引用したい。

発話時における動作・出来事を表す場合、「**-tur-**」、「**-otur-**」、「**-jür-**」は動詞の種類に結びつきにくいものがある。「**-tur-**」は移動動詞には用いられない。「**-otur-**」は活動性の強い動詞

や自然現象を表す動詞、移動動詞（「行く」、「来る」）には付加されない。もともと動作動詞である「-jür」は、状態性の動詞（「寝る」など）には用いられない。一方「-jat」にはそのような結びつきの制約がなく、どの動詞に付加しても発話時における動作・出来事を表し得る。
(ターライベク キズ 2007: 312)

しかし、この中で *otur-* と *tur-* は、実際の例と少し異なる。それは、*otur-* も *tur-* も移動動詞「行く」、「来る」、「走る」、「動く」、「歩く」と結合することがあり、*otur-* の場合、動作がある継続する時間の間中断せずに行われていることを表す（例 *čurka-p otur-a-m*（私は走っている）、*jür-üp otur-a-m*（私はどこかに行く途中である）、*bas-ïp otur-a-m*（私は歩いている））が、*tur-* の場合、（例 *čurka-p tur-a-m*、*bas-ïp tur-a-m*）当該動作が定期的に行われることを表す。

3.3 本動詞としての *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-* の意味

単純現在形のこの形は「*jat-*、*jür-*、*tur-*、*otur-*+*-a* 現在形の接尾辞+人称語尾」によって構成される。この形式の場合、補助動詞としてではなく、本動詞として語彙的な意味を示すものとして使われ、発話時点での状態を表す。

- (44) *Men-in jakši sanaš-kan agay-ïn-tuugan-darïm jana*
私-GEN いい 思う-PART 先生 親戚-PL:1POSS と
kayïn-dar-ïm-dïn bardigï mïn-da otur-a-sïnar.
義理の親戚-PL:1POSS-GEN 皆 ここ-LOC 座る-PRS-2PL
「私のいい先生や親戚と義理の親戚の皆様はここに座っている。」

- (45) *Ušintip Kanïbek, tattuu kïyal-dïn kučagï-nan čïga*
こうして PSN 甘い 夢-GEN 抱き-ABL 出る-CVB
al-bay, kubaničtuu tur-a-t.
al-NEG-CVB 嬉しい 立つ-PRS-3SG
「こうしてカヌベックは甘い願望の抱きから出られなく、喜んで立っている。」

- (46) *Anda-sanda onto-p, tik-tik jötöl-üp, Sansiz jat-a-t.*
時々 うめき声する-CVB 咳をする-CVB PSN 横たわる-PRS-3SG
「時々うめき声をしながら咳をしてサンスズは横になっている。」

- (47) *-Begim! Tetigin-de ördök jür-ö-t...*
ベギム あそこ-LOC アヒル 動く-PRS-3SG
「ベギム！あそこにアヒルがいる。」

上記の(44)~(47)は、それぞれ *otur-*、*tur-*、*jat-*、*jür-*の本動詞の例である。このように単独で用いられる場合、本動詞の意味になり、発話時点において行われている状態を表す。

- (48) *Bir künü ėl-de tur-sa-m, on kün-ü too-do jür-ö-m.*
 一日 人々-LOC 立つ-COND-1 十 日-3:POSS 山-LOC 動く-PRS-1SG
 「一日人々と住んでいれば、10日間は山にいる。」

この(48)においては、*tur-*と *jür-*は語彙的な意味の「立つ」、「動く」より、両方とも「いる」という意味で使われている。また、*jat-*、*jür-*、*otur-* 動詞は文中に現れている名詞の格によって、現在形を表したり、未来形を表したりする。

- (49) *Al oorukana-da jat-a-t.*
 彼 病院-LOC 横たわる-PRS-3SG
 「彼は病院に入院している。」

- (50) *Al oorukana-ga jat-a-t.*
 彼 病院-DAT 横たわる-PRS-3SG
 「彼は病院に入院する。」

ここでの *jat-*は、語彙的な意味「横たわる」は「入院する」の意味で用いられている。しかし、(49)と(50)は構文上同様な形をしていても格が異なることによって実現する出来事の時間が異なる。名詞が位格の場合、現在形を表し、名詞が与格の場合、未来形の意味を表す。また、Karibaev and Kasimova (2001)は(49)が不完了体の意味になり、(50)が完了体に当たると指摘している。

- (51) a. *Men stul-da otur-a-m.* b. *Men stul-ga otur-up jat-a-m.*
 私 椅子-LOC 座る-PRS-1-SG 私 椅子-DAT 座る-CVB jat-PRS-1SG
 「私は椅子に座っている。」 「私は椅子に座ろうとしている。」

(51a)の例においては *otur-*は本動詞で、単純現在の形で「座る」という語彙的な意味で用いられている。しかし、(51a)のように名詞が位格の場合、椅子に座っている状態を表しているが、(51b)のように名詞が与格の場合、座る動作が時間的過程の途中にあることを表す。したがって、日本語の「椅子に座っている」は、進行の意味なのか、状態の意味を表しているのかが不明であり、キルギス語では格の役割が重要になっている。

(52) Men šaar-**da** tur-a-m.
私 都会-LOC 立つ-PRS-1SG
「私は都会に住んでいる。」

(53) Men šaar-**ga** tur-a-m.
私 都会-DAT 立つ-PRS-1SG
「私は都会に住もうとしている。」

(54) Men šaar-**da** jür-ö-m.
私 都会-LOC 動く-PRS-1SG
「私は都会にいる。」

(55) Men šaar-**ga** jür-ö-m.
私 都会-DAT 動く-PRS-1SG
「私は都会に行こうとしている。」

このように jür-, tur-は単独でも本動詞として用いられる場合、語彙的な意味である「動く」「立つ」の他に「生きる」、「いる」、「ある」などの意味で使用される。(53)と(55)の例においては、名詞が与格の場合、未来において行われる動作を表す。これは、「住もうとしている」と「行こうとしている」という未来の意味で使われるのがもっとも自然である。

(56) Orozbek Karl-Marks köčö-sün-dö tur-a-t.
PSN 通りの名 通り-POSS-LOC 立つ-PRS-3SG
「オロズベックはカルルマルクス通りに**住んでいる**。」

(57) Jalgız uulu-m Kasein kazat-ta jür-ö-t.
唯一一人 息子-1 SG:POSS PSN 戦争-LOC 動く-PRS-3SG
「一人っ子の息子カセインは戦争に行つて**戦っている**。」

(56)と(57)の例においては、位格名詞とともに使われる tur-は、位格名詞によって現在「住んでいる」の意味になり、jür-は一般に「いる」という意味だが、文脈によって「戦っている」と訳すことができる。このように、本動詞の意味は、位格名詞と与格名詞の使われ方や文脈によって拡大する。

3.4 補助動詞 jat-, tur-, otur-, jür-の先行研究

3.4.1 Yunusaliev (1949) *Vspomogatel'nie glagoli v kirgizskom yazıke*

Yunusaliev³⁹ (1949)は、キルギス語の一番古い先行研究であり、ソビエト時代に書かれたキルギス語学の研究史で補助動詞を初めて取り上げた先行研究である。同氏は、補助動詞は豊かな文法的意味を表すと述べ、これらの知識が翻訳する上でも重要なポイントとなると記述し、以下のロシア語からキルギス語への翻訳を挙げている。

ロシア語:

- (58) Ivan Ignatič, **zametiv** vo mne znaki neudovolstviya i **vspomniv**
PSN 気づく-PAST-PRF 私 サイン 不満 思い出す PAST-PRF
svoyo obeščanie, **smutilsya** i **ne znal**, što otvečat.
自分 約束 照れる PAST-PRF-M そして NEG 知る PAST-IMPF 何答える
「イヴァン・イグナティチは私の不満な顔を見て、約束したことを思い出し、
何と答えればいいのかわからなくて困ってしまった。」

キルギス語:

- (59) Ivan Ignatič men-in naarazı bol-gon-um-du **bayka-y**
PSN 私-GEN 不満足 なる-VN-1:POSS-ACC 気づく-CVB
koy-up, özü-nün ubada-sı êsine **tüş-ö** **kal-ıp**,
置く -CVB 自分-GEN 約束-POSS 記憶 乗る-CVB 残る-CVB
ontoysuzdan-ıp ket-ti da, êmne dep joo-p ber-er-in
てれる-CVB 行く-PST1 何 と言う-CVB 答え-CVB あげる-PRS: 3
bil-bey **kal-dı**.
知る-NEG-CVB 残る-PST1
「イヴァン・イグナティチは私の不満な顔を見て、約束したことを思い出し、何と答えれば
いかわからなくて困ってしまった。」

この(59)の例では、従属節と主節の述語が、副動詞と補助動詞の組み合わせで構成され、(58)のロシア語の述語が本動詞だけで表せるのとは異なり、キルギス語の場合には本動詞に koy-, kal-, ket-補助動詞が必ず後接されると述べている。

次に、Yunusaliev(1949)では構文論的な観点から補助動詞を2つのタイプに分けて考察している。

³⁹ Yunusaliev (1949)はキルギスでも入手できない状況で、オリジナル文献はモスクワのレーニン図書館に保管されているため、ここでは紹介論文 (avtoreferat) を取り上げる。

a) Деепричастие сложное сказуемое (直訳：複合副動詞述語)

この複合副動詞述語の中で最後の述語だけが時制と人称語尾の接辞をとり、残りの副動詞は連続して人称などによって変化しないと述べ、以下の用例を挙げている。

- (60) Men köpurö-dön öt-üp bar-a jat-íp,
 私は 橋-ABL 渡る-CVB 行く-CVB jat-CVB
 jīgīl-íp ket-e jazda-p kal-dī-m.
 転ぶ-CVB 行く-CVB しそうになる-CVB 残る-PST1-1
 「橋を渡ろうとした時、転びそうになった。」

b) Деепричастно –причастное сложное сказуемое (直訳：複合副動詞分詞述語)

これは、分詞の êken、êle、turabymĩnbĩ、čĩgarmin⁴⁰の中でいずれかが用いられる述語のことをいう。

- (61) Men jīgīl-íp ket-e jazda-p kal-gan êle-m.
 私は 転ぶ-CVB 行く-CVB しそうになる-CVB 残る-PST2 MOD-1
 「私は転びそうになっていた。」

また、述語としての副動詞の組み合わせが連続し、理解することが困難な場合があると次の例を示している。

- (62) Muunu-m boš-op čĩda-y alba-y bar-a jat-a-m.
 関節-POSS:1 弱くなる-CVB 我慢する-CVB 取る-NEG 行く-CVB jat-PRS-1
 「我慢することができなくなっている。」

(62)における述語の部分→ čĩda-y al-ba-y bar-a jat-a-mのうち最初の čĩda-yは本動詞としての意味を保っているが、残りの動詞は語彙上の意味を失って、文法的な意味を表している。また、同氏はロシア語の体の存在を意識してチュルク諸語では、単純動詞が単独である場合、運動の区分(開始、継続、完了)を表すことができない。そのために「本動詞+副動詞接尾辞+補助動詞」という構造を用いて表すと主張しているが、キルギス語の場合にも「本動詞+副動詞接尾辞+補助動詞」という形式で動作の開始や動作の継続などを表すと考える。

以上のことをまとめるとキルギス語の補助動詞とは、本動詞が持っている意味を中心として、何らかの意味を補完する役割を果たすものである。つまり、本動詞だけでは表すことのできない文法的な意味が、補助動詞を添えることによって具現化されるということである。

⁴⁰ これらは、日本語では助動詞の「そうだ」に相当する。

3.4.2 Yudahin (1965) *Kirgizsko-russkiy slovar`*

Yudahin (1965)はキルギス語・ロシア語辞典である。以下、jat-、tur-、otur-、jür-の項目を順に引用する。

3.4.2.1 補助動詞 jat-

jat-については、補助動詞として2つの意味が記述されている。

まず、同辞典の 239 ページに«*в роли вспомогательного глагола ① обычно выражает длительность действия, соответствие действия данному моменту*» (補助動詞として機能している時、通常、現時点における動作の持続を表す) という記述があり、以下の例文を挙げている。

(63) **oyno-p jat-a-t**
遊ぶ-CVB jat-PRS-3
「彼は遊んでいる。」

(64) **biz jat-ïp jat-kan-da**
私たち 横たわる-CVB jat-PART-LOC
「私たちが寝ようとしている時」

(65) **ubakït öt-üp jat-tï.**
時間 過ぎる-CVB jat-PST
「時間が過ぎていた。」

次に同辞典の同ページに② «*с предшеств. формой на ганы намерение быть готовым вот-вот сделать что-либо*» (前接動詞は副動詞の-gani と組み合わせたり、何かをするつもりであるという意味を表す。) という記載があり、以下の例文を挙げている。

(66) **ket-keni jat-a-t.**
帰る-CVB jat-PRS-3
「彼は帰ろうとしている。」

(67) **ertenj ekzamen ber-geñi jat-a-biz.**
明日 試験 あげる-CVB jat-PRS-1PL
「私たちは明日試験を受けるつもりである。」

そして、jat-には以下のような慣用表現もあり、同ページに *обычно неодобр. он всем существом предается* (напр. *почувяв выгоду, вкусную еду и т.п*) (誰かの良くない態度について:何かに夢中になる時、例えば、得を感じた時、美味しい料理を見たときなどに使われる。) という説明が付されている。

(68) jat-ïp ič-er
横たわる-CVB 飲む- (者)
「自分の努力ではなく、誰かに頼って生活する人」

(69) jat-a kal-a-t
横たわる-CVB 残る-PRS-3SG
「(何かをすぐにでも手に入れたいとき)」

3.4.2.2 補助動詞 tur-

tur-については 269 ページに«*в роли вспомогательного глагола указывает на длительность или постоянство действия, на пребывании в каком-либо состоянии*» (補助動詞として機能するとき、動作の持続、あるいは、なんらかの状態にある時の動作の恒常性を示す) という記述があり、次の例文を挙げている。

(70) kel-ip tur
来る-CVB tur:IMP
「また時々来なさい (これを自分の習慣にしてください)」

(71) bil-ip tur-up jašir-a-t
知る-CVB tur-CVB 隠す-PRS-3SG
「彼は知っていて (わざと) 隠している。」

3.4.2.3 補助動詞 otur-

otur-については 68 ページに«*в роли вспомогательного глагола, указывает на длительность действия; встречается и в форме отуру*» (補助動詞として機能する場合、動作の持続と連続を表す。そして oturu という形式でも表示される。) と記述され、次の例文を挙げている。

(72) jaz-ip otur-u
書く-CVB otur-PRS-3
「彼は書いている。」

- (73) **ište-p otur-u-mun**
働く-CVB otur-PRS-1SG
「私は働いている。」

3.4.2.4 補助動詞 **jür-**

jür-については274ページに«*в роли вспомогательного глагола придает действию основного глагола характер длительности, постоянства*»(補助動詞としての機能を果たす場合、本動詞の動作に持続や恒常性性質を加える。)と記載され、次の例文を挙げている。

- (74) al Frunze-de **oku-p jür-ö-t.**
彼 フルンゼ-DAT 勉強する-CVB jur-PRS-3SG
「彼はフルンゼで勉強している。」

- (75) bul kitep-ti **oku-p jür.**
この 本-ACC 読む-CVB jur:IMP
「この本を読み続けてください。」

- (76) murda da **sotto-l-up jür-gön adam.**
以前 も 裁く-PASS-CVB jür-PART 人
「この人は以前も裁かれたことがある。」

以上、Yudahin (1965)に記載されている補助動詞 **jat-**、**tur-**、**otur-**、**jür-**の記述を紹介した。ここでは、各補助動詞として機能する場合の簡潔な説明しか記述されていない。各補助動詞の共通点として「動作の持続」、「動作の恒常性」や「動作の連続性」の用語が使われている。しかし、それぞれはどのように区別され、いかなる条件で使い分けられているのかについて記述がない。

3.5 文法書の記述 (Oruzbaeva et al., Red 2009) *Azirkı kırıgız adabiy tili*

ここでは、Oruzbaeva et al., Red (2009)から **jat-**、**tur-**、**otur-**、**jür-**の項目を引用し、補助動詞として機能する場合、どのような文法的な意味を実現するかについて例文を挙げながら記述する。

3.5.1 補助動詞 **jat-**

Oruzbaeva et al., Red (2009: 396)の **jat-**の項目では、*«ып формасындагы чакчылдар менен айкашып, жардамчы этиш катары колдонулганда, кыймыл-аракеттин коптон бери болуп*

жаткандыгын, кийинчерээк да созула тургандыгын билдирет» (-ip 副動詞と組み合わせたり、補助動詞として機能する場合、動作が以前から行われていて、その後も継続することを示す。)と記述（下線は筆者による）され、次の例文を挙げている。

- (77) Kol-don kel-gen dayardig-in kör-üp,
 手-ABL 来る-PART 準備-3:POSS-ACC 見る-CVB
 jol-go dayardan-ip jat-a-t.
 道-DAT 準備する-CVB jat-PRS-3SG
 「できるかぎりの準備をして、旅の準備をしている。」

- (78) Jooptuu iŝter-ge jaŝtar-dī körsöt-üp jat-a-t.
 責任ある 仕事-DAT 若者-ACC 見せる-CVB jat-PRS-3SG
 「責任ある仕事に若者を紹介している。」

また、同書 397 ページでは *«мындай татаал этиштер кээде азыркы учурда жаныдан гана баишталып жаткан кыймыл-аракетти да билдирет»*（このような複合動詞は時々、現時点での動作の開始を表す）と指摘し、次の例文を挙げている。

- (79) Bala-nī jönöt-üp jat-a-biz.
 子供-ACC 出発させる-CVB jat-PRS-1PL
 「子供を送っている。」

3.5.2 補助動詞 tur-

Oruzbaeva et al., Red (2009: 396) の tur- の項目では、*«ып формасындагы чакчылдар менен айкашып айтылганда, кыймыл-аракеттин узакка созулгандыгын, же дайыма болуп тургандыгын билдирет»* (-ip 副動詞と組み合わせるとき、動作が長く継続していること、あるいは動作がいつも行われることを表す。)と記述（下線は筆者による）され、以下の例文を挙げている。

- (80) Bul jol ŝaar-da-gī čoŋ köčö-lör-dün biri
 この 道路 町-LOC-ky 大きい 道路-PL-GEN 一つ
 bol-gon-duktan, maŝina-lar tin-bay öt-üp tur-a-t.
 なる-PART-ために 車-PL 休む-NEG 通る-CVB tur-PRS-3SG
 「この道は町の大きな道路の一つなので、車が絶えることなく走っている。」

- (81) Bul kİR-dan aylana-nİN bardİgİ **kÖrün-üp** **tur-a-t.**
 この 丘-ABL 周り-GEN 全部 見える-CVB tur-PRS-3SG
 「この丘から周りの全部がよく見えている。」

また、同ページに «тур жардамчы этиши менен бирге мезгил-мезгили менен кайталанып турган кыймыл-аракетти да билдирет» (補助動詞 tur-は時折繰り返される動作のことも表す) として、次の文を挙げている。

- (82) Kız-İ-nİN da kelin-in da jol-u-n tos-po-y,
 娘-3:POSS:GEN も 義理の娘-3:POSS-GEN も 道-3:POSS-ACC 妨げる-NEG-CVB
 likbez-ge alar-dİ özü **jiber-ip** **tur-a-t.**
 教育プログラム-DAT 彼ら-ACC 自分 送る-CVB tur-PRS-3SG
 「娘の道も義理の娘の道も妨げないで教育プログラムに参加できるように自分から行かせている。」

さらに、396 ページに«бул жардамчы этиши контекстке ылайык кээде кыймыл-аракеттин учурда болуп жаткандыгын да билдирет» (この補助動詞は文脈によって動作が現時点で行っていることを示す) とあり、次の例文を挙げている。

- (83) Kün alay-dülöy tüş-üp **jaa-p** **tur-a-t.**
 太陽 めちゃくちゃ 降りる-CVB 降る-CVB tur-PRS-3SG
 「空が真っ暗になって強い雨が降っている。」

そして、同ページに «Эгерде тур жардамчы этиши -a /-y формасындагы чакчылдар менен айкашып, озү откон чактын –ган формасында айтылса, дайыма болуп туруучу адаттанган кыймылды абалды туюндурат.» (前接動詞が-a /-y 副動詞接尾辞で、tur 補助動詞が、-gan 接尾辞の過去形で使われる場合、動作・状態がいつも習慣的に起こることを表す) として、次の例文を挙げている。

- (84) SamtİR kün İsi-p tur-sa da, dayİma ĩski
 PSN 日 暑くなる-CVB tur-COND も いつも 古い
 ĩepken-in kiy-ip **jür-ö** **tur-gan.**

コート-3:POSS:ACC 着る-CVB 動く-CVB tur-PST2

「サムテイルは暑くてもいつも古いコートを**着ていた。**」

最後に、同ページに«Эгерде-а /-у формасындагы чакчылдар менен айкашкан тур жардамчы этиши буйрук ынгай формасында турса анда кыймыл-аракеттин убактысынча кыска моонотко иштелишин билдирет» (もし同じ-a /-y 副動詞接尾辞と組み合わせたり、補助動詞の tur-が命令の形で使われたら、短い時間で継続する意味を表す) という記述があり、次の例文を挙げている。

(85) Sen aldīŋkī kašat-ka **tur-a** **tur.**
あなた 前の 門-DAT 立つ-CVB tur :IMP
Men artī-n-dan jet-ip bar-a-m.
私 後ろ-2:POSS-ABL 着く-CVB 行く-PRS-1SG

「あなたは前の門で**待って**いなさい。私は後ろから付いて行く。」

3.5.3 補助動詞 otur-

Oruzbaeva et al., Red (2009: 397) の otur- の項目では、*«отур жардамчы этиши катары колдонулганда, дайыма -ып формасындагы чакчыл этиши менен айкашып айтылат. Контекстке карай кыймыл-аракеттин белгилүү бир убакыттан тартып азыркы мезгилге чейин созулгандыгын, үстүбүздөгү учурда да болуп жаткандыгын билдирет»* (otur-が補助動詞として使われる時はいつも-(i)p 副動詞接尾辞と組み合わせ、文脈によって動作はある時から現在まで継続し、発話時点でも行われていることを表す) としいう記述 (下線は筆者による) があり、次の例文を示している。

(86) Meyli köz-ün aç-sa, apa-si baş-in jöl-öp,
PSN 目-3:POSS 開ける-COND 母-3:POSS 頭-3POSS 寄りかかる-CVB
köz-ü-nün jaš-in köldöt-üp, **ıyla-p** **otur-a-t.**
目-3:POSS-GEN 涙-3:POSS 流す-CVB 泣く-CVB otur-PRS-3SG

「メイリが目を開けるとお母さんは頭を寄りかけて涙を流して**泣いていた。**」

また、397 ページに«кээде кыймыл-аракеттин белгилүү бир убакыттын аралыгында болгондугун, созулгандыгын билдирет» (時々ある動作が限られた時間内に行われ、継続していることを表す) という記述があり、次の例文を挙げている。

(87) Tünü boyu tütün ëš-ler-i-nin at-tar-i-na
夜-3:POSS 間中 煙 持ち主-PL-3:POSS-GEN 名前-PL-3:POSS-DAT
čačim kagaz-dar-i-n **jaz-ip** **oltur-uš-tu.**

招待 紙-PL-3:POSS-ACC 書く-CVB oltur-RECP-PAST1
「夜中にずっとお客さんの宛名に招待状を書いていた。」

また、同ページに «кыймыл-аракеттин сүйлөп жаткан учурда болуп жаткандыгын туюндурат» (発話時点に動作が行われていることを表す) という記載があり、次の例文を挙げている。

(88) Mīna, jooker-ler üčün jīluu baypak tok-up otur-a-m.
ほら、 軍人-PL ため 暖かい 靴下 編む-CVB otur-PRS-1SG
「ほら、軍人のため、暖かい靴下を編んでいる。」

そして、«кээде контексттеги мезгилдик мааниге карай кыймыл-аракеттин келечекте болорун билдирип калат» (文脈の時間副詞によって動作が将来行われることを表すことがある。) という同ページの記載があり、次の例文を挙げている。

(89) Erten delegat-tar-dīn süylö-gön söz-ün jaz-īp otur-a-m.
明日 訪問団-PL-GEN 話す-PART 話し-3:POSS 書く-CVB otur-PRS-1SG
「私は明日訪問団の話を書く。」

3.5.4 補助動詞 jür-

Oruzbaeva et al., Red (2009: 396)では jür- について、«Жүр. Бул этииш -ып формаларындагы чакчылдар менен айкашып айтылганда кыймыл-аракеттин үзгүлтүк менен узакка созулушу корсотулот» (jür は-(i)p 副動詞と組み合わせさせた時、動作が時折、長く持続することを表す。) と記述し、次の例文を挙げている。

(90) Sakalduu-lar-dīn bul ěmne-si degen söz-ün ěki-üč kiši-nin
髭のある-PL-GEN これ 何-POSS という 言葉-POSS 2-3 人-GEN
baş-i koşul-a kal-gan jer-de Omur dale ayt-a koy-up jür-dü.
頭-3:POSS 加わる-CVB しまう-PART ところ-LOC PSN まだ 言う-CVB 置く-CVB jür-PST1-3
「年配の方々のこれはどういうことという言葉をも 2-3 人が集まったところでオムルは言い続けていた。」

また、同ページで «Жардамчы этииш жүр кээде контекстке карай үзгүлтүксүз созулган кыймыл-аракетти билдирет» (補助動詞 jür-は、時々文脈によって連続して持続する動作も表す。) と述べ、次の例文を挙げている。

(91) Men ökmöt-tün mildet-in atkar- ip jür -ö-m.

私は 政府-GEN 仕事-3:POSS する-CVB jür-PRS-1SG
「私は政府の仕事をしている。」

そして、同396ページで *«Жүр жардамчы этишии-а /-у формасындагы чакчылдар менен айкашса, анда чакчыл формадагы биринчи компоненти жүр жардамчы этиши менен бирге аткарыла турган кошумча кыймылды билдирип калат.»* (補助動詞のjür-は副動詞の-a /-yと接続されると、前接する動詞が補助動詞のjür-と同時に実現される動作を表すことになる。)と述べ、次の例文を示している。

(92) Ooruluu bala-ni kör-ö jür .
病気の 子-ACC 見る-CVB jür:IMP
「病気の子供のことを配慮しておいて。」

以上、Oruzbaeva et al., Red (2009)に示されている jat-, tur-, otur-, jür-補助動詞の記述を紹介した。前述した辞典のYudahin (1969)で述べられていることが基本的に繰り返されている。

Oruzbaeva et al., Red (2009)は各補助動詞の文法的な意味について代表的な例を示し、簡潔な記述でとどまっておき、それぞれの使い分けや、それぞれの共通点である、〈動作の進行〉についても具体的にどのような相違点があり、補助動詞が接続される本動詞の関わり方がどのようになっているかについても言及されていない。jat-, tur-, otur-, jür-は語彙的な意味がある程度残っており、完全に文法化されているとはとていえないが、その中で、前接する動詞の種類によって〈動作の進行〉の意味を表すだけでなく〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表す。しかし、少なくとも以上に取り上げた伝統文法書では、〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉の意味が中心に記述され、〈変化の結果の状態〉の文法的な意味は無視されている。

3.6 アクマタリエワ(2014)

アクマタリエワ(2014)は、キルギス語の持続を表す補助動詞 jat-, tur-, otur-, jür-を対象にして、大量の実例に基づき、工藤 (1982)の研究方法を参考に補助動詞に先行する主動詞の語彙的な意味に注目して補助動詞の文法的な意味について論じた研究である。その文法的な意味は、補助動詞の種類によって決まるのではなく、文の他の要素も関係してくると主張し、それらの条件を具体的に提示している。

同論文では「主動詞の意味的なタイプ」から動詞全体を「動作動詞」、「変化動詞」、「状態動詞」、「内的感情動詞」の4つのグループに分類し、V-(i)p と V-a/y jat-の各補助動詞が後接すると、なんらかのアスペク的な意味が生じると述べている。その例として、動作動詞によって〈動作の持続〉、変化動詞によって〈変化の結果の状態〉というアスペク的な意味が表されるが、これらのアスペク的な意味が、一定の語彙的・文法的な条件の下では、動作動詞が〈変化の結果の状態〉の意味を表し、変化動詞が〈動作の持続〉を表す場合がでてくるであるとしている。状

態動詞、内的感情動詞に各補助動詞が後接する場合、基本的に〈状態〉という文法的な意味を表すとアクマタリエワ自身が認めている。

このような主動詞の意味的なタイプが、一番参考になるのは、各補助動詞がどのような種類の主動詞と組み合わせられ、どんな動詞とは結合しないかということであろう。例えば、動作動詞は、V-(i)p otur と V-(i)p jür がもっとも多く現れていることと、変化動詞の場合は、V-(i)p jat と V-(i)p tur の数が他の補助動詞より多いということなどである。そして、主動詞の意味的なタイプの分類では jat 形式の場合、《主体の再帰的な動作を表す動詞》があるが、このような分類は tur 形式には欠けており、その代わり、《主体の視覚・聴覚活動動作を表す動詞》が取り出されている。他の補助動詞形式にみられた《自然現象の動きを表わす動詞》、《主体の生理的な動きを表わす動詞》は、V-(i)p jür-形式には現れない。V-(i)p jür-形式に現れる状態動詞の場合は、他の補助動詞と異なり、《主体の空間的な関係を表わす動詞》、《主体の擬態的な様態を表わす動詞》のタイプの動詞が出て来なくて、V-(i)p jür-形式に特有の《主体の状態的な性質を表わす動詞》のタイプが取り出され、この類の動詞の場合、主体の〈状態的な性質〉を表わすと位置付けたことなどである。以上のようなことは大量の実例に基づき明らかになっている点で評価できる。

その一方、賛同できない点もいくつかある。以下、アクマタリエワ(2014)が述べているそれぞれ補助動詞の考察の中から重要だと思われる点を取りあげ、述べていく。これは、この方法の妥当性を検討する上でも、本研究を進める上でも不可欠なことだと考えられる。

- ① 各補助動詞の構文的な位置、すなわち主節と連用節における場合の述語が区別されず、一つの基準で分析されていること。語幹に様々な接辞が付くことによって、文中で使われている語間のつながりが明確になるという膠着言語の性質から見ると、連用節で補助動詞が現れる場合に付加される接辞と主節で現れる場合の接辞が異なるので、当然、それぞれは異なる文法的な意味を表すことになる。

例えば、次の連用節における述語の用例では、otur-が、tarazalap oturup (検討し続けて) というように、動作がくりかえして行われ、主体の〈動作のくりかえし〉の意味を表していると主張している。

(93) ...ošo-nun baarī-n kayra-kayra tarazala-p oltur-up
 それ-GEN 全て-ACC 再び 再び 検討する-CVB otur-CVB

biz-ge baškar-uu-nun parlamenttik iŋgay-i tuura
 私達-DAT 指導する-VN-GEN 議会制 方式-3:POSS 正確
 kel-ëër-i-ne köz-übüz jet-ti. (Ėrkin Too·No2)
 来る-AOR:3:POSS-DAT 目-1PL:POSS 着く-PAST1

「...それらを何回も検討し続けて、私達は議会制が正しいことに気がつきました。」

(アクマタリエワ 2014: 165、(343) の例文)

しかし、この用例を *tarazalap oturat* のように主節文に変えると、(検討している) のように主体の〈動作の進行〉の意味が生じる。つまり、連用節では、*tarazalap oturup* の-up 副動詞接尾辞で現れているために、主体が動作をくりかえしているように思われるにすぎない。

(94) Al ěmi Kĭtay mamleket-i-nen **kel-ip jat-kan**

そして 今 PLN 政府-3:POSS-ABL 来る-CVB jat-PART

jük-tör tokto-bo-gon-u menen

荷物-PL 絶える-NEG-PART-3:POSS と

ötö ěle az kölöm-dö bol-gon. (Kĭrgĭz Tuusu・№57)

とても EMPH 少ない 量-LOC なる-PST2

「そして、今、中国政府からきている荷物は絶えないが、量はとても少なかった。」

(アクマタリエワ 2014: 84、(78)の例文)

(94)の場合も *jat-*は *kan* 分詞の形式で連用節に現れる場合、常に「～テイル」と訳される。この場合、〈動作のくりかえし〉の意味を表すとされているが、主節文に置き換えると〈動作の進行〉を表すことになると思われる。このように連用節の場合と主節文の場合と区別せず分析しているので、それぞれの補助動詞が表す文法的な意味が異なってくる。

② 複数主語による動作が文法的な意味に影響しているということ。例えば、(95)の *ooru-p ja-tĭ-ša-t* 「病気になっている」と(96)の *ajĭraš-ip jat-a-biz* 「離婚している」は両方とも複数主語であるが、(95)では〈動作のくりかえし〉を表しているのに対して、(96)では〈変化の結果の状態〉を表しており、これらの違いがどうして生じているのだろうか。(95)に *Kiyinki ubak-ta* (最近) が最初にあるから〈動作のくりかえし〉を表すとしても、(96)における *ajĭraš-ip jat-a-biz* は「離婚しようとしている」の意味で〈変化の結果の状態〉ではなく、現在進行中の〈動作の進行〉を表すと考えられる。

(95) Kiyin-ki ubak-ta jaštar-ĭbiz-dĭn 50 payĭz-i

後-ki 時期-LOC 若者-1PL:POSS-GEN パーセント-3:POSS

kantamĭr oorū-su menen kōp oorū-p **ja-tĭ-ša-t.** (Šookum・№7)

血管 病気-3:POSS で 多い 痛む-CVB jat-RECIP-PRES-3

「最近、若者の 50 パーセントの層は血管の病気で多く悩んでいる。」

(アクマタリエワ 2014: 90、(96)の例文)

(96) Birok amal-sız ajıraš-ıp jat-a-biz. (Kanıbek)

しかし 仕方-NEG 離婚-CVB jat-PRES-1PL

「しかし、仕方なく離婚している。」 (アクマタリエワ 2014: 94、(109)の例文)

- ③ 主動詞自体の語彙的な意味が〈動作の開始〉や〈変化の進展〉という文法的な意味に影響すること。例えば、《主体の漸進的な変化を表す動詞》のグループに入る動詞の例として、以下の(97)、(98)の「増える」「育つ」などを挙げているが、主体(物事)の変化が一定の方向に進展するということは、動詞自体の語彙の意味からくるものと思われる。つまり、ここでの〈変化の進展〉という文法的な意味を表すのは補助動詞 *jat-*からくるものではない。

(97) Antkeni migraciya tolkun-u kiskar-mak tursun,

というのは 移民 波-3:POSS 減る-VN どころか

jil-dan-jil-ga küçö-p jat-pa-y-bi. (Kutbilim・№4)

年-ABL 年-DAT 増える jat-NEG-PRES-Q

「というのは、移民の波が減るどころか、年ごとに、増えているじゃないか。」

(アクマタリエワ 2014: 95、(111)の例文)

(98) Anda jalgız karagay ös-üp tur-a-t. (Turmuştan jaralğan čoku)

あそこ:LOC 唯一 木 育つ-CVB tur-PRES-3

「あそこに唯一一本の木が育っている。」

(アクマタリエワ 2014: 143、(274)の例文)

3.7 先行研究の問題点

キルギスの先行研究を整理した結果、以下のような問題点があることが分かった。

- 伝統的な文法書では、本研究の考察対象である4つの補助動詞 *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*が動作の進行を表す「複合現在時制」として位置づけられている。しかし、これらは過去形でも未来形でも使用される。
- キルギス語の動詞がアスペクトの観点から研究されていない。その理由は、補助動詞の数が多くあり、本動詞や副動詞接尾辞など他の要素との関連性が関わってくるからである。同じ構文的な形式であっても、本動詞・補助動詞・複合動詞と見る場合があり、文法的な役割を果たしているのか、本動詞の意味で使われているのかが区別する基準がない。
- Oruzbaeva et al., Red (2009)では、各補助動詞の文法的な意味について代表的な例を示し、簡潔な記述にとどまっており、それぞれの使い分けや、それぞれの共通点である、〈動作の進行〉についても具体的にどのような相違点を持っているのか、補助動詞が接続される本動詞の関わり方がどのようになっているのかについて言及されていない。*jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*

は語彙的な意味がある程度残っており、完全に文法化されているとはいえないが、その中で、前接する動詞の種類によって〈動作の進行〉の意味を表すだけでなく〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表す。しかし、〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉の意味が中心に記述され、〈変化の結果の状態〉の文法的な意味は無視されている。

- アクマタリエワ(2014)では、各補助動詞の構文的な位置、すなわち主節における述語の場合と従属節における述語の場合とが区別されず、一つの基準で分類されている。
- アクマタリエワ(2014)では、複数主体による動作が変化の結果の状態などの文法的な意味に影響していることを説明していない。
- アクマタリエワ(2014)では、主動詞自体の語彙的な意味が動作の開始や変化の進展という文法的な意味に影響を与えることを論じていない。

4. 第1章のまとめ

第1章の第1節では、まず一般言語学から見た動詞のアスペクトとテンスについて、主に Comrie (1976)と Plungyan (2011)を取り上げ、アスペクト研究がロシア語から出発したとされるので、ロシア語における「アスペクト」と「体」についても大まかに概観した。本研究は、主にアスペクトの中で不完了体を中心に考察するので、ロシア語の不完了体の文法的な意味を取り上げた。そして、第2節では日本語のアスペクト研究の現状と日本語の基本的なアスペクト体系を明確にした後、文法的アスペクト研究として工藤 (1995)、語彙的アスペクト研究として金田一 (1950)と奥田 (1977)を取り上げ、「～テイル」と運動動詞の相関関係を中心に述べた。これらは、キルギス語の補助動詞のアスペクト的な意味を考察する際に参考になると思われたからである。そして第3節では、キルギス語のアスペクト的な補助動詞に関わる諸記述を行い、先行研究の問題点をあげた。研究対象である補助動詞 jat-, tur-, otur-, jür-に関する先行研究として辞書と文法書などによる意味について述べた。これらの先行研究では、jat-, tur-, otur-, jür-について取り上げられており、様々な文法的な意味が指摘されている。Oruzbaeva et al., Red (2009)による文法書の場合、各補助動詞の文法的な意味について代表的な例をあげて説明しているが、どのような語彙的・文法的な条件の下でその文法的な意味が実現されるのかについて示されていない。なお、最近の新しい研究としてアクマタリエワ(2014)があげられる。この研究は補助動詞を構成する本動詞の語彙的な意味がアスペクトの意味の実現に関与していると考えられ、動詞分類を行い、大量の実例に基づき各補助動詞のアスペクト的な意味を考察していることは重要な点であるが、主に3つの点で賛同できないことを述べた。

この第1章で概観した日本語とキルギス語の先行研究を踏まえ、筆者の研究の立場をまとめると以下ようになる。

- キルギス語の補助動詞を考察する際に、日本語の文法的アスペクトとして工藤 (1995)の「～テイル」の文法的な意味である〈動作の継続〉と〈変化の結果の状態〉及び文中での語彙的

な条件によって生じる〈反復〉⁴¹という三つのアスペクト的な意味に注目する。なお、〈パーフェクト〉を除外する。

- 工藤 (1995)とアクマタリエワ (2014)と同様の方法で分析する。具体的には各補助動詞のアスペクト的な意味が前接する本動詞の語彙的な意味によって異なるという分析を行い、その際に本動詞を動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞の4つに分類する。

以下の2章と3章ではこうした立場を前提に論じていく。すなわち、この第1章を踏まえた上で、次の第2章では、日本語の進行アスペクト「～テイル」から見て、基本的に主節に現れるキルギス語の補助動詞 *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*の文法的な意味を考察し、第3章では日本語の従属節を出発点にして、キルギス語のアスペクト・テンス形式を比較対照し、そこから再度日本語のアスペクト・テンス体系を見ることにする。

⁴¹ 本論文では〈動作のくりかえし〉としている。

第2章 言語資料に基づくキルギス語の進行を表す補助動詞の考察

0. 本章の概要

この章では、V-(ip) jat-、V-(ip) tur-、V-(ip) otur-、V-(ip) jür-形式が主に主節に現れる場合に生じるそれぞれの文法的な意味について考察する。考察するに当たり、日本語のアスペクト・テンス体系を扱った工藤 (1995)の研究方法を採用してキルギス語のアスペクト形式を詳述したアクマタリエワ(2014)に基づき、本動詞の分類の基準として動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞の4つを設定する。すなわち、本章では日本語の進行アスペクト「～テイル」とその研究方法の観点からキルギス語の補助動詞を考察していく。その理由は、日本語を通して見ると、ロシア語では十分に捉えられなかったキルギス語のアスペクト形式がうまく捉えられるからである。

1. V-(i)p jat-形式：補助動詞が jat-の場合

1.1 本動詞が動作動詞の場合

V-(ip) jat-形式において、本動詞 V が動作動詞の場合、以下の(1)~(3)の用例は、現在における〈動作の進行〉を表す。まず、人間の動作を表すものを見る。

- (1) Azir biz kïrgïz, orus til-inde okutuu mektep-ter üçün
今 私達 キルギス ロシア 言語:3POSS-LOC 教授する 学校-PL ため
okuu plan-in-in dolboor-un talkuula-p jat-a-bïz. (Kutbilim)
カリキュラム:3POSS-GEN プロジェクト-ACC 議論する-CVB jat-PRS-1PL
「今、私達がキルギス語、ロシア語で教授する学校のためにカリキュラムのプロジェクトを議論している。」

- (2) Azir joob-u-n küt-üp jat-a-bïz. (Super.kg)
今 返事-3:POSS-ACC 待つ-CVB jat-PRS-1PL
「今、返事を待っている。」

- (3) Ėmi ěki sabak-ti birdey bilgen adis-ter jogorku
今 二つ 科目-ACC 同時 知る-VN 専門家-PL 高い
okuu jay-lar-da dayarda-l-ip jat-a-t. (Kutbilim)
勉強する 所-PL-LOC 準備する-PASS-CVB jat-PRS-3
「今は（以前と異なり）二つの科目がよく分かる専門家の育成は高等教育機関で行われている。」

上記の例のように、発話時の「今」を示す *azir*、*čmi* が用いられている場合、現在の意味が明確に示され、発話時において動作が進行中であることが分かる。しかし、それと同時に(1)の「議論する」ことと(3)の「育成が行われている」ことが長い時間を必要とする動作であるため、発話時において動作が進行中であるとしても、発話後も動作が続くと考えれば、〈動作のくりかえし〉の意味を表すことになる。

第1章の3.2節で述べた、キルギス語における単純現在形の本動詞の語幹に *-a/-y* 接辞を付加させたものがどのように異なるかも併せて考察していきたい。

(1)を *talkuula-y-büz* に、(2)を *küt-ö-büz* に、(3)を *dayarda-l-a-t* にというように単純現在形に変えたと、「これから議論する」、「これから待つ」、「これから行われる」というような未来の意味になるので、補助動詞 *jat-*が使われる場合とは異なり、発話時点での「動作の進行」を表す意味にはならない。

次の(4)~(6)の例では、「今」を表す語が使われずに、過去のある時点における動作の進行を表していることがわかる。

- (4) *Dal ošol ubak-ta men-in baldar-īm pianino-do*
 丁度 その 時-LOC 私-GEN 子供たち-1:POSS ピアノ-LOC
oynogon-du üyrön-üp jat-iš-kan. (3 *jaštan kiyin keč*)
 弾くこと-ACC 習う-CVB *jat-RECP-PAST2*
 「丁度その時に、私の子供たちはピアノを習っていた。」

- (5) *Anī jalpī okurman-dar özünčö baala-p oku-p jat-iš-ti.* (*Singan kilič*)
 それ-ACC 一般 読者-PL 自分で 評価する-CVB 読む-CVB *jat-RECP-PAST1*
 「それを一般の読者それぞれが評価し、読んでいた。」

- (6) *Abil-biy ėl-din tür-ü-n kara-p, söz jüyo-sü-n*
 PSN 人々-GEN 顔-3:POSS-ACC 見る-CVB 言葉 流れ-3:POSS-ACC
jogot-po-y süylö-p jat-ti. (*Singan kilič*)
 なくす-NEG-CVB 話す-CVB *jat-PAST1*
 「アビルビイは人々の顔を見て、話の流れに沿って話していた。」

以下の(7)~(11)の例は、主体の動作が発話時の前から始まっていて、現在も進行中であることを表している。

- (7) *Antkeni köp ilim-der juuru-l-uš-up,*
 なぜかと言うと 多い 科学-PL 練る-PASS-RECP-CVB

birig-ip **jat-iš-a-t.** (Kutbilim)

統合する-CVB jat-RECP-PRS-3

「なぜかと言うと、多くの科学は**統合**されている。」

- (8) Ošonduktan bazistik okuu plan-ın-da kēē bir
だから 基本的な 勉強 計画:3POSS-LOC ある 一つ

predmet-ter **integratsiyalan-īp** **jat-a-t.** (Kutbilim)

科目-PL 統合される-CVB jat-PRS-3

「だから基本的なカリキュラムにある科目は**統合**されている。」

- (9) Birok biz-din bilim berüü-dö
しかし 私たち-GEN 教育 あげる-LOC

kompyuter-ge keč **üyröt-üp** **jat-a-biz.** (Kutbilim)

コンピューター-LOC 遅い 教える-CVB jat-PRS-PL1

「しかし、私たちの教育ではコンピューターの科目は遅れて**教え**られている。」

- (10) Siz⁴² mukaktan-īp čert-īp **jat-a-siz,** tarih-ī karangi. (Küünün sirī)
あなた モタモタする-CVB 弾く-CVB jat-PRS-2 歴史-2:POSS 暗い

「あなたはモタモタして**弾**いている。曲の説明は不明である。」

- (11) Kara-Suu rayon-unda 60 üy-bülö elektr energiya-siz **jaša-p** **jat-a-t.** (İntimак.kg)

カラスウ 区-LOC 60 家族 電気なし 暮す-CVB jat-PRS-3

「カラスウ区に住んでいる 60 家族は電気がないなかで、**生活**している。」

しかし、(11)の動作の進行は、単純現在形の *jaša-y-t* でもを表せるが、補助動詞が使われる場合とどう異なるかということ、補助動詞の *jat*-があると以前は電気があつて何の不自由もなく生活していたが、最近では電気がない困った生活をするようになっていくというニュアンスがあるのに対して、単純現在形の場合にはそのようなニュアンスがなく、元々電気なしで生活してきたことが含意されている。日本語でも「今は電気がないところで苦勞している」というニュアンスを「生活し続けている」という表現で表すことができると思われる。

以上、動作動詞の場合、ある時点における〈動作の進行〉という意味を表わす場合について考えてきたが、先行研究でも指摘されているように *V-(i)p jat*-形式は、必ずしも〈動作の進行〉の意味だけを表すわけではない。例えば、文中に *kündö* (毎日)、*jil sayin* (毎年)、*apta sayin* (毎) などのように動作の頻度を表す副詞が現れる場合、*V-(i)p jat*-形式は、〈動作のくりかえし〉とい

⁴² *siz* は *sen* (あなた、君) を敬称する形である。

う文法的な意味を担うことになる。

- (12) Apta sayın makala jaz-ip kīrgīz ėli-ne
週 ごと 記事 書く-CVB キルギス 民-DAT
tarbiya ber-ip jat-a-siŋ. (Men miŋ jil jašadim)
教養 あげる-CVB jat-PRS-2SG
「毎週、記事を書いて、キルギス人に教養を与えている。」

- (13) Kīrgīzstan-da jil sayın aydooču-lar-din kübölüg-ün
キルギス-LOC 年 ごと 運転手-PL-GEN 免許証-3:POCC-ACC
al-gan-dar **köböy-üp jat-a-t.** (de-facto.kg)
取得する-PART-PL 増える-CVB jat-PRS-3SG
「毎年、車の免許取得者は増加している。」

- (14) Al apası-n sagın-ip, kündö ıyla-p **jat-a-t.** (super.kg)
彼は 母-3:POSS 会いたがる-CVB 毎日 泣く-CVB jat-PRS-3SG
「彼はお母さんに会いたがって、毎日泣いている。」

(14)の用例は、泣くことは必ずしも発話時点において主体の動作が持続している過程を表さず、発話時点前から始まっていて、その後も継続している可能性がある。jat-はキルギス語母語話者にとって動作の始まりや終わりの表示なしで用いられると考えられる。その動作がどのくらい持続しているかは jat-だけではなく、文脈によって決まってくる。

次の用例では、「雨/雪が降る」のような自然現象を表す動作動詞の場合、jat-は〈動きの持続〉⁴³という文法的な意味を担う。

- (15) A ėşik-te bol-so balbalaktagan, alma gül-dör-ü-nö
外-DAT なる-COND 真っ白の リンゴ 花-PL-3:POSS-DAT
okšo-gon kar **jaa-p jat-ti.** (Almalar güldöyt)
似ている-VN 雪 降る-CVB jat-PAST1
「外には真っ白なリンゴの花のような雪が降っていた。」

後述の(16)の例に見られる kiy は日本語の「着る」に対応するが、日本語の「着る」は動作動詞と変化動詞の両方の資質を持つ動詞である。

⁴³ アクマタリエワ(2014)は〈動きの持続〉という用語を使用しているが、筆者も主に人の場合に〈動作の進行〉、自然現象の場合に〈動きの持続〉という用語を使うことにする。

①今、**着物を着ています**が、上手に着られないので、手伝ってください。(動作動詞)

②あの青色の**着物を着ている**人は田中さんです。(変化動詞)

①は動作動詞で、今着つつある、進行中を表すが、②はもうすでに着物は着ていて、着物を着た結果の状態を表している。これらに対して、キルギス語は、(16)のように、今進行中の意味で動作動詞として使われる場合に *jat-* を用いる。しかし、(17)のように着物を着ている結果の状態を表す場合は *tur-* と置き換えることで、〈変化の結果の状態〉を表すことになる。

(16) Anın karbalasta-p šaš-ıp **kiyin-ıp** **jat-kan-ın**
彼-GEN 慌てる-CVB 急ぐ-CVB 着替える-CVB jat-PART-ACC
Kudaybergen bayka-p: (Kara šumkar)
PSN 気づく-CVB
「彼が大急ぎで**着替えている**のをクダイベルゲンが気づいて：」

(17) Tigi kök kimono **kiy-ıp** **tur-gan** adam Tanaka.
あの 青色 着物 着る-CVB tur-PART 人 PSN
「あの青色の**着物を着ている**人は田中さんです。」

次に、キルギス語における動作動詞の一つである移動動詞の場合を見る。この移動動詞は次の3つの形式の中で用いられる。なお、①と②の形式には *jat-* だけではなく、*tur-* と *jür-* も使うことができるが、③の形式においては *jat-* のみが使われる。さらに、この形式の移動動詞₂の位置に現れる *bar-a jat-a-t* と *kel-e jat-a-t* は音韻縮約されて、それぞれ *baratat-* と *keltat-* として使われる。このことが文法化されてきていることを意味していると思われる。

①「移動動詞-(i)p *jat-*」形式で現れる場合

②「V-(i)p 移動動詞-(i)p *jat-*」形式で現れる場合

③「移動動詞₁ V-(i)p 移動動詞₂ -(a/e) *jat-*」形式で現れる場合

以下、それぞれを順に見ていく。

①「**移動動詞-(i)p *jat-***」形式で現れる場合

移動動詞が本動詞として現れる場合、(18)～(22)の複数主体の場合、発話時点前から継続している〈動作のくりかえし〉を表すが、(23)～(25)から分かるように、同じ移動動詞でも単数主体の場合は現時点での〈動作の進行〉を表すことになる。

- (18) Biz-din aldan-ïp čet ölkö-gö čïg-ïp jat-kan⁴⁴
私達-GEN 騙される-CVB 外国-DAT 出かける-CVB jat-PART
kïz-kelin-der-ibiz-dïn san-ï köböy-üp jat-a-t. (azattïk.kg)
女子-妻-PL-1PL:POSS-GEN 数-ACC 増加する-CVB jat-PRS-3SG
「騙されて外国へ出かける女子達の数は増加している。」
- (19) Šayloo-ču-lar dobuš berüü-gö kel-ip jat-iš-a-t. (super.kg)
投票者-PL 投票 あげる-VN-DAT 来る-CVB jat-RECP-PRS-3
「投票者達は投票するために来ている。」
- (20) Köö-nün küzgü kün-dörü kizïktuu öt-üp jat-tï. (Kara šumkar)
金-GEN 秋 日-PL 面白い 過ぎる-CVB jat-PAST1
「金色の一色の秋の日が楽しく過ぎていた。」
- (21) 1990-jïl-dar-dïn baš-ïn-da mamlekettik kvota boyunča
1990年-PL-GEN 初め-3:POSS-LOC 国立 クォータ によって
student-ter kel-e bašta-gan, azïr da kel-ip jat-iš-a-t. (azattïk.kg)
学生-PL 来る-CVB 始める-PAST2 今も 来る-CVB jat-RECP-PRS-3
「1990年代初頭から国のクォータ制度によって、学生が来始め、今も来ている。」
- (22) ...ayrïm ël ökül-dör-ü öz kaaloo-lor-u menen
ある 国民 代表-PL-3:POSS 自分 希望-PL-3:POSS と
deputat-tïktan ket-ip jat-iš-a-t. (ktrk.kg/post)
議員-ABL 行く-CVB jat-RECP-PRS-3
「ある国民代表者達は自分の希望で議員職を辞任している。」
- (23) Menimče, biz-de jalpï ulut-tu bir maksat-ka bašta-gïday
私の考えで 私たち-LOC 一般 民族-ACC 一つ 希望-DAT 始める-ため
lider čïk-pa-y jat-kan-ï-nïn negizgi sebebi ulut bol-o
リーダー 出る-NEG-CVB jat-PART-3:POSS-GEN 主な 理由 民族 なる-CVB
al-ba-y, ramatïlik Alïm Toktomušev eşke sal-gan uruučulduk
取る-NEG-CVB 死んだ人 PSN 記憶 残す-VN 部族主義
degen köödök kurak-tan ös-üp čïg-a al-bay jat-kan-ibiz-da. (Kutbilim)
と 幼い 時期-ABL 成長する-CVB 出る-CVB 取る-NEG jat-PART-1PL-LOC

⁴⁴ この場合の čïg-ïp jat-kan を「出かけている」より「出かける」とする方が適格である。

「私の考えでは、国民全体を一つの夢に向かわせるためのリーダーが出ていない。その主な理由はなくなったアリム・トクトムショフの言うとおりに、部族主義という幼い頃から考えが抜けられないからである。」

- (24) Al jumuš-u-nan ket-ip jat-a-t. (super.kg)
 彼 仕事-2:POSS-ABL 行く-CVB jat-PRS-3
 「彼は仕事を辞めようとしている。」

- (25) Šumkar kol-u-na kel-gen-den berki anin kiyal-jorugun
 鷹 手-3:POSS-LOC 来る-PAST-ABL 後 彼の 性格出来事
 köz aldī-nan tasma-day čuba-p ötkör-üp jat-ti. (Kara šumkar)
 目 前-ABL 映画-のように 並べる-CVB 通す-CVB jat-PAST1
 「目の前で鷹が初めてきた頃から今までを彼は映画のように映していた。」

② 「V-(i)p 移動動詞-(i)p jat-」形式で現れる場合

この「V-(i)p 移動動詞-(i)p jat-」形式は、「移動動詞-(i)p jat-」と同様に、複数主体による用例が多い。この用例でも、jat-は、主体の〈動作の進行〉の意味を表す。

- (26) Alip-satuuču-lar arzan unaa-lar-di
 買う- 売る-者-PL 安い 車-PL-ACC
 Rossiya-dan al-ip kel-ip jat-iš-a-t. (barakelde.kg)
 ロシア-ABL 取る-CVB 来る-CVB jat-RECP-PRS-3
 「商売をする人たちはロシアから安い車を持って来ている。」

- (27) Alar atayin šaar-dan jer jemiš sat-ip kel-ip jat-iš-a-t. (super.kg)
 彼ら わざと 都会-ABL フルーツ 売る-CVB 来る-CVB jat-RECP-PRS-3
 「彼らはわざと都会からフルーツを買ってきている。」

なお、(26)と(27)の補助動詞 jat-を tur-や jür-に置き換えると、「動作のくりかえし」の意味を表す。しかし otur-に置き換えると、意味が通じなくなる。

③ 「移動動詞₁V-(i)p 移動動詞₂(a/e) jat-」形式の場合

ターライバクキズ(2007: 319)が述べているように、「走る」、「歩く」、「泳ぐ」、「飛ぶ」などの移動動詞の場合には、単に jat-を添えるだけでは「～テイル」で示されるような移動の進行を表すことができない。そうした意味を表すには「V₁-V₂(bar-a/kel-e) V₃(jat)」という形式をとること

が必要になる。つまり、*čurka-p bar-a jat-a-m* (走って行く途中、または走って行こうとしている)、*bas-ïp kel-e jat-a-m* (歩いて来ている途中、または歩いて来ようとしている) という形式になって初めてある方向に向かっての移動の進行を表す。このように、キルギス語ではある方向に向かっての移動の進行を表すためにはこの形式にしなければならない。

Oruzbaeva et al., Red (2009: 331) でも、同じ様に «бар» «кел» «кет» деген негизги компоненттер менен айкашкан учурда жардамчы этиши “жат” аркылуу кыймыл -аракеттин онуккон процесс сыяктуу созулушу корсотулот ошону менен бирге багытты билгизүү мааниси да орун алат. (「行く」「来る」「帰る」という動詞と組み合わせさせた場合、補助動詞 *jat* によって動作の進化したプロセスと同時に方向を示す意味も表示される。) という記述がある。

- (28) Alım kaškar tarap-ka ket-ip bar-a jat-kan⁴⁵.
 PSN カシュカル 方向-DAT 行く-CVB 行く-CVB jat-PAST2
 「アルムはカシュカル方面へ行っていた。」

ただし、この文は「 $V_1(\text{ket-}(\text{i})\text{p}/V_2(\text{bar-a})\text{ jat-}$ 」形式であり、「 $V-(\text{i})\text{p}$ 移動動詞-($\text{i})\text{p}$ *jat-*」形式とは異なるものである。この「 $V_1(\text{ket-}(\text{i})\text{p}/V_2(\text{bar-a})\text{ jat-}$ 」形式では、前半に以下のような移動動詞が来る。

bas 「歩く」、*čurka* 「走る」、*uč* 「飛ぶ」、*süz* 「泳ぐ」など
bas-ïp kel-e/ bar-a jat-a-t (歩いて来て/ 行っている)
čurka-p kel-e/ bar-a jat-a-t (走って来て/行っている)
uč-up ke-le/ bar-a jat-a-t. (飛んで来て/行っている)
süz-üp kel-e/ bar-a jat-a-t (泳いで来て/行っている)

- (29) Nečen jıl-dan beri birgeleş-ip tur-up kel-e jat-a-büz,
 いくつ 年-ABL から 一緒になる-CVB 立つ-CVB 来る-CVB jat-PRS-IPL
dalay ele tuz tat-ïp jür-ö-büz. (super.kg)
 いっぱい 塩 食べる-CVB jür-PRS-IPL
 「私たちはもうだいぶ前からお互いを支え合い、一緒に時間を過ごしている。」

この (29) の V_2 である *kel* は、伝統文法書では語彙的な意味で使われると述べているが、これは事実と反する。なぜなら、 V_2 としての *kel* は文法的な意味を示しており、*kel-e jat-a-büz* の本動詞の *tur-* (支える) を実現するための文法的な要素だと思われるからである。*kel-* (来る) は V_1 である *tur* と一緒に使われ昔から現在という方向性と進行の意味で使われている。ロシア語や

⁴⁵ *baratkan* は話し言葉としてよく用いられるが、最近では書き言葉としてもよく使われるようになっている。

日本語に訳すと *kel* は訳されない。以下の(30)~(32)は、「意見が言われている」「沈んで行った」「登りつつある」とだけ訳され、ある方向に向かって進行していることを表している。

- (30) *Mumiya-nyn jaralıš-ı jönüdü ar kim ar kanday*
 ミライ-GEN 出現-3:POSS について それぞれ 多様な
pikir-ler ayıl-ıp kel-e jat-a-t. (Tarih)
 意見-PL 言われる-CVB 来る-CVB jat-PRS-3
 「ミライの出現については今まで色々な意見が言われて来ている。」

- (31) *Kün bat-ıp bar-a jat-kan.* (作例)
 太陽 沈む-CVB 行く-CVB jat-PAST2
 「太陽が沈んでいった。」

- (32) *Kün çig-ıp kel-e jat-a-t.* (作例)
 太陽 昇る-CVB 来る-CVB jat-PRS-3
 「太陽が昇りつつある。」

なお、**Kün çig-ıp kel-ıp jat-a-t.* や **Kün bat-ıp bar-ıp jat-kan* が不自然な文になるため、 V_2 には(i)p 副動詞を使うことができない。

(31)と(32)をそれぞれ直訳すると「太陽が沈んで行っている」と「太陽が昇って来ている」となるが、他の言語に訳すとき「行く」「来る」という語彙的な意味は省略され、文法的な意味で使われる。つまり、*bar-a jat*の「行っている」は発話者から遠ざかる方に向かって弱まっていくことを表すのに対して、*kel-e jat*の「来ている」は発話者の方に向かって来るので動作の上昇を表す。例えば、*öl-üp bar-a jat-kan* (死につつあった)は少しずつ意識をなくしつつ死にかけている状態を表すのに対して、*tiril-ıp kel-e jat-kan*は(生き返りつつあった/意識が戻っている)状態を表す。

そして、この「移動動詞₁V-(i)p 移動動詞₂-(a/e)jat-」形式の移動動詞₁の代わりに他の動詞が来ることがある。以下のような対義語をもつ動詞の場合、*bar-a jat*と*kel-e jat*が用いられ、主体の動作がある方向に向かって進行していることを表している。そして、 V_1 には必ずしも移動動詞が来るわけではなく、*bar-a jat-a-t*と*kel-e jat-a-t*は音韻縮約されてそれぞれ*baratat-*と*keltat-*のように使われ、文法化していると思われる。日本語に直訳すると次のようになる。

çig-ıp bar-a jat-at vs. *kir-ıp kel-e jat-a-t* 「出ていっている 入ってきている」
açil-ıp bar-a jat-a-t vs. *bürköl-üp kel-e jat-a-t* 「晴れていっている 曇ってきている」

čonjuy-up bar-a jat-a-t vs. kičirey-ip kel-e jat-a-t

「大きくなっていっている 小さくなってきている」

ėrip bar-a jat-a-t vs. toŋ-up kel-e jat-a-t

「溶けていっている 凍ってきている」

tol-up bar-a jat-a-t vs. böksör-üp kel-e jat-a-t

「いっぱいになっていっている 少なくなってきている」

köböy-up bar-a jat-a-t vs. azay-ıp kel-e jat-a-t

「増加していっている 減少してきている」

semir-ip bar-a jat-a-t vs. arikta-p kel-e jat-a-t

「太っていっている 痩せてきている」

1.2 本動詞が変化動詞の場合

変化動詞とは、その動作が起こる前と後で変化が生じている動詞のことをいう。また、瞬間に終わってしまう動作を表し、その結果が残っていることを表しているのので、瞬間動詞ともいう。変化動詞は、基本的に主体の〈変化の結果の状態〉の意味を表す。つまり、動作が終わった後に、主体の変化した状態が持続することになる。

V-(i)p jat-形式の特徴は、以下の(33)と(34)が示しているように動詞「死ぬ」と組み合わせたり、必ず眼前で「死んでいる」状態を表すことである。日本語では「死ぬ」は変化動詞で〈変化の結果の状態〉の意味を表しているとされているが、キルギス語も同じ用法をもつと言えるだろうか。V-(i)p jat-形式は、「現在＋進行アスペクト」の意味が中心的であるが、この無意識的な状態変化を表す動詞「死ぬ」と結合できるのは、jat-の語彙的な意味「横たわる」に深く関わっていると考えられる。キルギスの日本語学習者も日本語の「死んでいる」という文を「死につつまる」と誤解し、〈変化の結果の状態〉の意味で捉えにくいのもその理由である。次の2つの例の文脈から分かるように、両方とも眼前で死んでいる人を指している。

(33) ...öl-üp jat-kan kiši-nin öl-gon-ü-nö da

死ぬ-CVB jat-PART 人-GEN 死ぬ-PART-3:POSS-ACC も

išene al-gan jok-mun. (Baši jok čabandes)

信じる-CVB al-PART NEG-1SG

「その人が死んでいることを信じられなかった。」

(34) Ušu-lar-din ič-i-nde čalka-si-nan tüš-üp kibila-ni

これ-PL-GEN 中-3:POSS-LOC 仰向け-3:POSS-ABL 降りる-CVB 祈り側-ACC

betten-ip öl-üp jat-kan Serikbay körün-du. (Dürbölöŋ zaman)

向かう-CVB 死ぬ-CVB jat-PART PSN 見える-PAST1

「これらの中に仰向けになって祈りの方角に向けて死んでいるセリクバイが見えた。」

これらの文では、人が「死ぬ」途中（あるいは「死にかけている」）のではなく、もうすでに「死んだ」後の変化した結果の状態を表している。このように「死ぬ」という動詞に関しては補助動詞 *jat-* が使われ、他の補助動詞 (*tur-*、*otur-*、*jür-*) を使うことができないのが特徴である。死んでいる姿が必ず眼の前に存在しなければならないという条件がある。もし眼の前になれば、「死ぬ」に *-gan* 接尾辞の不定過去形、または〈動作の完了〉を表す別の補助動詞 *kal-* が使われ、補助動詞 *jat-* は不要になる。

なお、変化動詞と補助動詞の *jat-* が用いられていても、主体の〈変化の結果の状態〉でも〈動作⁴⁶の進行〉の意味でも使われる用例がある。下の(35)～(38)の *ura-* (倒れる)、*küy-* (燃える)、*tokto-* (止まる)、*jayna-* (広がる) などの動詞を含む形式が該当し、ある時点における〈動作の進行〉と〈変化の結果の状態〉の両方の文法的な意味を表せると考えられる。すなわち、眼前に倒れている状態、燃えている状態、止まっている状態を表す時に *jat-* が使われるが、その状態は現在進行中なのか、結果として眼前に残っているのかで二つの文法的な意味を表すと考えられる。キルギス語の先行研究でも、*jat-* が〈変化の結果の状態〉を表すと記述されていないのは、*jat-* が進行アスペクト形式として捉えられているからと考えられる。

- (35) Sovetter Soyuz-un-da salın-gan mektep-ter бүгүнкү
ソビエト 連邦-3:POSS-LOC 建てられる-PART 学校-PL 今日
kündö **ura-p** **jat-a-t.** (barakelde.org/news)
日 倒れる-CVB *jat-PRS-3*
「現在、ソビエト時代に建てられた学校は倒壊しつつある。」

- (36) Īsik-Köl oblus-un-da tyan šyan karagay-ları küy-üp **jat-a-t.** (bulbul.kg)
イシククル 州-3:POSS-LOC 天山 トウヒ-PL 燃える-CVB *jat-PRS-3*
「イシククル州では天山トウヒが燃えている (燃えつつあった)。」

- (37) Kōmür kazuu-ču, kiš, sement čigar-uuču
炭 掘る-VN ブロック セメント 出す-VN
iškana-lar **tokto-p** **jat-a-t.** (kabarordo.kg)
工場-PL 止まる-CVB *jat-PRS-3*
「炭、ブロック、セメントを作る工場は止まっている。」

⁴⁶ ここでの動作とは、工藤 (1995: 70) が外的運動動詞 (開ける、切る、殺す、食べる、見る、読む、たたく、歩く、遊ぶ、動く、座る、行く、死ぬ、枯れる、曇る、結婚する) に対して用いている意味のことを指す。すなわち、外的運動動詞 (dynamic verb) は、時間のなかに成立 (開始)・展開・消滅 (終了) し、場合によっては、結果を残す、ものの動的な運動をとらえている動詞らしい動詞である。したがって、本論文での動作は、以上の工藤 (1995: 70) の定義に基づき、本来の動作よりも広い意味で用いることにする。

- (38) Ördök, kazdar top-top bol-up, biröö uç-sa,
 アヒル ガチョウ いっぱい なる-CVB 一人 飛ぶ-COND
 biröö kon-up, saz-din bet-in ber-be-y
 一人 着く-CVB 沼-GEN 面-3:POSS あげる-NEG-CVB
jayna-p jat-iš-kan ěken. (Kara šumkar)
 広がる-CVB jat-RECP-PAST2 MOD

「アヒルとガチョウは一緒になって、飛んだり、止まったりして沼の表面に広がっていた。」

- (39) Sögüp jiber-e tašta-p oktos ber-ip bar-ip,
 悪態つく-CVB しまう-CVB しまう-CVB 急なジャンプする-CVB 行く-CVB
 özün- özü araj **toktot-up jat-ti. (Kara šumkar)**
 自分自身 やっと 止めさせる-CVB jat-PAST1

「悪態をつくことを、自分自身でなんとか止めさせていた。」

- (40) Apa men-den ěmne-ni **jašir-ip jat-a-siz?** (super.kg)
 母 私-ABL 何-ACC 隠す-CVB jat-PRS-2

「お母さん、何を隠しているの？」

上記の(39)と(40)の本動詞は変化動詞であるが、これらも現在進行中の動作を表し、〈変化の結果の状態〉の意味を表すと位置付けるのには一考の余地がある。

アクマタリエワ (2014) では、(41)の *baš koš-* (結婚する) の例をみると、複数主語による動作であるから、*jat-*は、主体の〈動作のくりかえし〉の意味を表すが、(42)の (離婚する) の場合には〈変化の結果の状態〉の意味を表すと主張している。しかし、発話時点で複数の主語が (結婚する) 行為を行っているので、発話時前から始まっており、現在も継続しているので〈動作の進行〉として取ることができる。(離婚する) も発話時点で離婚しようとしている最中で、まだ離婚していない状態として捉えるのが直感的に妥当である。ここでは、〈変化の結果の状態〉の意味ではなく、両方とも〈動作の進行〉の意味を表すと考えられる。

- (41) Akirkı ubaktar-da jaran-dar ubaktiluu sotsialdik jana materialdik
 最後 時-PL-LOC 住民-PL 一時的 社会的 と 経済的
 abal-dar-ina kara-p **baš koš-up jat-iš-at. (kabarordo.kg)**
 状況-PL-3:POSS-ACC 見る-CVB 結婚する-CVB jat-RECP-PRS

「最近、人々は相手の社会的地位と経済的状況を見て結婚している。」

- (42) Biz **ajiraš-ip** **jat-a-biz**, birok anin sebeb-ter-in
 私たち 離婚する-CVB jat-PRS-1PL しかし その 理由-PL-ACC
 ayt-uu-ga mildet-tüü ėmes-min. (super.kg)
 言う-VN-DAT 義務-ADJ ない-1SG
 「私たちは離婚しようとしているが、その理由を説明する義務はない。」

なお、これらの用例に現れる jat-を他の補助動詞 (tur-、otur-、jür-) に置き換えることはできない。

1.3 本動詞が状態動詞の場合

V-(i)p jat-形式では、補助動詞 jat-が本動詞として元々状態動詞であり、「横たわっている」の意味で使用されることと研究対象である 4 つのうち jür- (動く) を除き、tur- (立っている)、otur- (座っている) も状態動詞であることは既に述べた。これら 4 つの動詞が本動詞として使われ、どのような補助動詞と組み合わせると状態を表すことができるのだろうか。以下の用例を見よう。

- (43) Men bugün kečke üy-dö **jat-ti-m/** bol-du-m. (作例)
 私 今日 ずっと 家-LOC 横たわる-PAST-1/ なる-PAST-1SG
 「私は今日ずっと家にいた。」

- (44) Al tamak bish-kiča **jat-ip** tur-du. (作例)
 彼 ご飯 出来上がる-まで 横たわる-CVB tur-PAST
 「彼のご飯が出来上がるまでは横になっていた。」

- (45) Kalıñ kar-dı üñküp kir-ip kork-up **jat-ip** ukta-p kal-a-siñ. (M.m.jj)
 厚い 雪-ACC 入る-CVB 怖がる-CVB jat-CVB 眠る-CVB 残る-PRS-2SG
 「厚い雪の中に入って、怖いまま横になっているとき眠ってしまう。」

(43)は、jat-が本動詞として使われ、日本語の「いる」に対応している。また、同じ意味での(いる)は bol- (なる)によっても表されている。さらに(44)が示しているように(いる)という状態の持続は、本動詞の jat-が補助動詞の tur- (立つ) とのみ結合して、jat-ip tur (横になっている) 状態となり、ある一定の時間における持続した状態を表すようになる。これに対して(45)の補助動詞 jat-は語彙的な意味で使われており、前接する動詞の kork- (怖がる) の次に来る ukta-「眠る」と直接関係し、「怖いまま横になっている時に眠ってしまう」という意味が読み取れる。

以下の用例では、必ずしも jat-の語彙的な意味が関わっているとはいえない。

- (46) Fasol' kanča-dan bol-up jat-a-t?
 ふっくら花まめ いくら-ABL なる-CVB jat-PRS-3SG
 「ふっくら花まめはいくらになっていますか？」
- (47) Küngöydö-gü kīrgīzdar alay-dülöy bol-up jat-a-t. (Dürbölöj zaman)
 山の太陽向け キルギス人-PL パニック なる-CVB jat-PRS-3PL
 「山の太陽の側にいるキルギス人はパニックになっている。」
- (48) «Te say-da ěmne bol-up jat-a-t ěken?» dep oylo-du ĉal
 あの 河床-DAT 何 なる-CVB jat-PRS-3 MOD と 考える-PAST 爺
 beš-inĉi kabat-ta tur-up. (Almalar güldöyt)
 5 番目 階-DAT 立つ-CVB
 「あの河床はどうなっているのかなとお爺ちゃんは5階にしながら考えた。」

これらの場合には、jat-の本来の語彙的な意味、つまり、「横たわる」という意味を表わしていると考えられない。したがって bol-のような(なる)の意味を表す動詞と共起する場合には、jat-は、主体の〈変化の結果の状態〉の意味を表しているといえる。

以上、文学作品から確認できたのは、V-(i)p jat-形式に現れることができる本動詞は状態を表す動詞 bol-だけである。

1.4 本動詞が内的感情動詞の場合

この類の本動詞が用いられる場合、V-(i)p jat-形式は、ある時点における〈心理的な状態〉という文法的な意味を表わす。

- (49) Al ěmi azīr kōrkōm gimnastika jōn gana suluu-luk,
 それでは 今 体操 ただ だけ 綺麗-NMZL
 mīktī kelbet-ten tīškari umtuluu-nu, kayrattuu
 完璧 体-ABL 以外 前進する-ACC 心強い
 bol-uu-nu üyröt-ör-ün tūšūn-üp jat-a-m. (super.kg)
 なる-VN-ACC 学ばせる-FUT-ACC 分かる-CVB jat-PRS-1SG
 「今、体操はただの綺麗な体を作るだけではでなく、精神的にも前向きにさせることがわかってきている。」

- (50) Men ošol üčün tolkundan-ip, kuban-ip jat-pa-y-mīn-bī. (Ĕkinĉi ömür)
 私 その 為 興奮する-CVB 喜ぶ-CVB jat-NEG-PRS-1SG-Q

「私はそれによって、興奮して、喜んでいるのじゃないか。」

- (51) Ayt-uu-dan uyal-ıp jat-kan-dır. (Kanıbek)

言う-VN-ABL 恥じる-CVB jat-PST2-MOD

「言うことを恥ずかしがっているかもしれません。」

- (52) Šumkar-dī kör-gön-dör-ünön da kör-ö elek el-der
 鷹-ACC 見る-PART-PL-3:POSS-ABL も 見る-CVB ない 人-PL
 türkün tür-gö sal-ıp dağazala-p jat-ış-ti. (Karašumkar)
 色々-DAT 入れる-CVB 褒める-CVB jat-RECP-PAST1

「鷹を見ていない人でも盛んに鷹を褒めていた。」

- (53) Kolu-butu bayla-n-ıp, kapasta korduk tart-ıp
 手 足-3:POSS 縛る-PASS-CVB バードケージ-LOC 侮辱 吸う-CVB
 jat-kan itelgi-ler-dey bol-gon jok. (Karašumkar)
 jat-PART 鷹-PL-のように なる-PART ない

「手足が結ばれ、バードケージで虐められている鷹のようにならなかった。」

- (54) Köpçülük uçur-da mugalim-der mina uşul
 多く 時-LOC 教師-PL ほら この
 ayırmaçılık-tar-dī bil-be-y jat-ış-iptir. (kutbilim)
 違い-PL-ACC 知る-NEG-CVB jat-RECP-PAST3

「多くの場合、教師達はこのような違いを知らなかったようだ。」

(54)の bil の本動詞（知る）は否定形で使われているが、同じ動詞を肯定の意味で使うと不自然な文になる。なお、日本語の「知っている」の意味を表すには、キルギス語では本動詞 bil-と補助動詞を用いて bil-ıp jat-a-m ではなく bil-e-m のように単純現在形の-eを使う。

- (55) Bul bilim berüü-nün jañi traektoriya-si-n,
 これ 教育 あげる-GEN 新しい 観点-3:POSS-ACC
 jañi filosofiya-si-n köpçülük uçur-da mugalim-der
 新しい 哲学-3:POSS-ACC 多い 場合-LOC 教師-PL
 sez-be-y jat-kan-in Abakir Mamıtov belgile-di. (kutbilim)
 感じる-NEG-CVB jat-PART-ACC PSN PSN 指摘する-PAST1

「多くの場合、教師達はこの教育の新しい観点、新しい哲学的な観点を感じていない

ことをアバキル・マミウトフさんは指摘した。」

- (56) Ošondon mugalim-der **čočula-p** **jat-iš-a-t.** (super.kg)
それから 教師-PL 怖がる-CVB jat-RECP-PRS-3
「このようなことから教師は**怖がっている**。」

- (57) Kiyinki mezigil-de baldar-din san-ī ös-üp
最近 時期-LOC 子供たち-GEN 数 3:POSS 増える-CVB
jat-kan-digün bayka-p jat-a-biz. (Kutbilim)
jat-VN-ACC 気づく-CVB jat-PRS-1PL
「最近、子供の数が**増えていることに気づいている**。」

- (58) Ošol kökürög-ün-dö kal-gan ün-süz
その 胸-3POSS-DAT 残る-VN 声-なし
kiykirik azir **kiyna-p jat-ti.** (super.kg)
叫び 今 苦しむ-CVB jat-PST1
「その胸に刻んだ声なしの叫びは**今も私を苦しませていた**。」

(55)~(58)の例は、ある時点における〈心理的な状態〉という文法的な意味を表わす。

1.5 jat-形式の過去と未来における〈動作の進行〉を表す場合

今回の言語資料から V-(i)p jat-の場合、以下の構文形式が現れていることが分かる。

- ① 「-(i)p jat-kan PART bol-PAST3-人称語尾」形式
- ② 「-(i)p jat-kan PART eken MOD」形式
- ③ 「-(i)p jat-kan PART bol-PRS-人称語尾」形式

以下、それぞれを見ていく。

① 「-(i)p jat-kan PART bol-PAST3-人称語尾」形式

「jat-補助動詞+kan 分詞+bol PAST3+人称語尾」の形式は過去における〈動作の進行〉を表す。この形式は、[jat 補助動詞+kan 分詞+bol 動詞の語幹+習慣過去形の-ču 接辞]を付加させた形である。これは他の過去形の接辞-dy、-kan、-iptir が使えないことが特徴である。

(59)と(60)の用例は、過去における進行中の動作を表す。

- (59) Ĕki jil-dan beri biz-din kolxoz öz küč-ü menen
 二 年-ABL から 私達-GEN コルホーズ 自分 力-3:POSS と
 jañi mektep kur-up jat-kan bol-ču. (Birinči mugalim)
 新しい 学校 建てて-CVB jat-PART なる-PST4
 「二年前から私たちのコルホーズは、自分達の力で新しい学校を建てていたんだ。」

- (60) Ĕki kün murun al bul jer-de kitep sat-ıp jat-kan bol-ču. (Poezd. b.)
 二 日 前 彼 ここ 土地-LOC 本 売る-CVB jat-PART なる-PAST3
 「二日前、彼はこの辺で本を売っていた。」

これらの文においては、過去にあることが行われていたが、現在はなんらかの理由で中断して行われていないという現在との対比の意味を表しているのが重要な点である。すなわち、(59)は「以前学校を建てていたが、今は建てていない」、(60)は「前は本を売っていたが、今は売っていない」という意味になる。

② 「-(i)p jat-kan PART eken MOD」形式

この形式も上記と同様、過去における動作の進行中を表すが、*eken* というモダリティによって、間接的に誰かに聞いた出来事を相手に伝える時に使われ、上記とは異なるタイプに位置づけられている。

- (61) ... kaza bol-gon adam buga čeyin andan baška da kışim-dar-di
 亡くなる-PART 人 これまで それより 以外 も 苦勞-PL-ACC
 körsöt-üp, ayil-ga tinčtik ber-bey jat-kan eken. (jumgal.kg)
 見せる-CVB 村-DAT 平和 あげる-NEG jat-PART MOD
 「亡くなった人は今までもそれ以外に村の人々に苦勞をかけ、迷惑をかけていたようだ。」

- (62) Ayt-kan-day kaliñ toodak otto-p jat-kan eken. (K. š)
 言う-PART-のように 厚い 野生のカモ 放牧する-CVB jat-PART MOD
 「言われたとおり、多くの野生のカモが放牧していたようだ。」

③ 「-(i)p jat-kan PART bol-PRS-人称語尾」形式

この形式は、①のタイプが過去における動作の進行を表すのとは対照的に、未来における〈動作の進行〉を表す。

- (63) Dagı bir neče jil öt-kön soñ men-i da oşondoy
 また いくつか 年 過ぎる-PAST2 後 私-ACC も そのよう

iygilik-ter küt-üp jat-kan bol-o-t. (kloop.kg)
 成功-PL 待つ-CVB jat-PART なる-PRS-3

「後、何年か過ぎたら、私もそのような成功が待っているだろう。」

(64) Sebebi, dal ošol uçur-da suu bet-i-nen milliondogon
 なぜならば ちょうど その 時-LOC 水 表面-3:POSS-GEN 数百万

suu molekula-lar-ī aba-ga kötör-ül-üp, buulanuu protsessi
 水 分子-PL:3POSS 空気-DAT 上がる-PASS-CVB 蒸気する プロセス

jür-üp jat-kan bol-o-t. (Wikipedia, tuman)
 行われる-CVB jat-PART なる-PRS-3

「なぜならば、ちょうどその時水の表面から数百万の分子が上昇し、蒸発が生じるようになってい

これらは、未来におけるある時点で、ある条件のもとで実現されるという意味を表し、jat-以外に tur-に置き換えることができる。

1.6 まとめ

以上、V-(i)p jat 形式について本動詞を動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞に分類して、それぞれの場合に実現される文法的な意味について見てきた。基本的に動作動詞の場合、〈動作の進行〉や〈動きの持続〉を表し、文中での言語的な条件によって〈動作のくりかえし〉や反復を表すこともできる。変化動詞の場合には、同じ文でも、〈動作の進行〉と〈変化の結果の状態〉の両方の文法的な意味を表せると考えられる。すなわち、眼前に横たわっているある状態を表す時に jat- が使われるが、その状態は現在進行中なのか、結果として眼前に残っているのかで二つの文法的な意味を表すことになる。しかし、キルギス語の伝統文法書では、V-(i)p jat 形式の〈変化の結果の状態〉の用法について触れていない。

本章では、V-(i)p jat 形式における結合可能な動詞と補助動詞について述べてきたが、結合できない動詞もある。それは、tap- (見つける)、okšoš- (似る)、(svet) küy- ((電気) が点く)、öç- (消える) bil- (知る) (肯定) などのような結果の面だけ有する動詞類である。

そして、キルギス語の伝統文法書では jat-、tur-、jur-、otur-形式は現在形の一種類として位置付けられているのに対して、本研究では、「-(i)p jat-kan PART bol-PAST3-人称語尾」形式と「V-(i)p jat-kan PART bol-PRS-人称語尾」形式によって、V-(i)p jat が現在形だけではなく、過去と未来における〈動作の進行〉を表すことを確認した。

2. V-(i)p tur- 形式:補助動詞が tur-の場合

2.1 本動詞が動作動詞の場合

動作動詞に tur-が後接すると、基本的にある一定の時間における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。主体が立って行うことのできる活動動作を表す動詞が多く現れ、また、それと同時に tur-の語彙的な意味で本動詞になる用例がある。

下の(65)は jirga-p tur「喜んでいる」というようにある一定の時間における〈動作の進行〉として捉える可能性はあるが、前後の文脈によって「起きる」の意味で本動詞として使われていることが明確になっている。しかし、(66)～(69)の用例は、「立って見ている」、「立って待っている」、「立って聞いている」のような解釈もできる。その場合、tur-は補助動詞ではなく、本動詞になり、前接する動詞は付帯的な役割で使われることになる。その一方、補助動詞として使われる場合、ある一定の時間における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。(68)の場合、文中に位格名詞が現れることによって、「立って待っている」の意味が明確にとれる。

- (65) Oygon-so-m tañ at-ïp kal-iptür.
目を覚ます-COND-1 夜明けになる-CVB 残る-PAST3
Köñül-üm çalk-ïp **jirga-p** **tur-du-m.** (M.m.j. j)
気分-1:POSS すっきりする-CVB 喜ぶ-CVB 起きる-PAST-1SG
「目を覚ますと夜明けになっていた。気分がすっきりして、**喜んで起きた。**」

- (66) Kız aldï-nda tur-gan adam-ga işen-erin je işen-be-sin
女性 前-3:POSS-LOC 立つ-VN 人-DAT 信じる-ACC また 信じる-NEG-ACC
bil-bey **tikte-p** **tur-du.** (super.kg)
知る-NEG-CVB 見る-CVB tur-PAST1
「女性は前に立っている人を信じて良いかどうか分からなくて**立っていた。**」

- (67) Uuru akča-nï al-a-t da ket-pe-y **küt-üp** **tur-a-t.** (Kabusname)
泥棒 金-ACC 取る-PRS-3 帰る-NEG-CVB 待つ-CVB tur-PRS-3SG
「泥棒はお金を取ったまま、帰らないで**待っていた。**」

- (68) Al mïna uşul jer-de özü-nün joldoş-un **küt-üp** **tur-a-t.** (Toolor kulaganda)
彼 ここ 場所-LOC 自分-GEN 友人-3:POSS 待つ-CVB tur-PRS-3
「彼はここで自分の友人を**待っている。**」

- (69) Oyno-gon baldar-din čijilda-gan ün-dör-ün
 遊ぶ-PST2 子供-PL-GEN 騒ぐ-PART 声-PL-ACC
ug-up tur-du. (Küünün siri)
 聞く-CVB tur-PST1
 「彼は遊んでいる子供たちの賑やかな声を聞いていた。」

V-(i)p tur-形式の場合、基本的にある一定の時間における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。これは、V-(i)p jat-形式の場合に現れる〈動作の進行〉という文法的な意味とは異なるものである。V-(i)p jat-形式の場合、発話時において主体の動作が進行している過程を表すが、V-(i)p tur-形式の場合、必ずしも発話時において動作が進行しているとは限らない。例えば、動詞 süz-「泳ぐ」を例に jat-と tur-の文法的な意味について考えてみよう。

- (70) Köl-dö süz-üp jat-kan-da
 湖-LOC 泳ぐ-CVB jat-PART-LOC
 čög-üp ket-e jazda-dī-m. (super.kg)
 溺れる-CVB 行く-CVB しそうになる-PAST1-1SG
 「私は湖で泳いでいる時に、溺れそうになった。」

- (71) Men kel-giče sen bul jer-de süz-üp tur. (Altın küz)
 私 来る-CVB あなた この ところ-LOC 泳ぐ-CVB tur:IMP
 「私が来るまであなたはここで泳いでいてください。」

(70)の süz-üp jat-の場合、発話時において主体の「泳ぐ」という動作がちょうど行なわれていて、〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。一方、(71)の süz-üp tur の場合、発話時の現在ではなく、私が来るまでのある一定の時間だけ泳ぐという〈動作の進行〉の意味を表している。なお、(70)と(71)の jat-と tur-は互いに置き換えることができない。

次の(72)は本動詞の jaša (住む) が、補助動詞 tur-と単純現在形の接辞によって発話時点で進行していることを表しているのではなく、過去のある時点で未来に住むことを考えていたことと、その住む期間がある一定の時間、すなわち夏だけであるため、tur-が使われている。しかし、日本語訳では「住んでいる」と訳すことができず、本動詞の「住む」としている。

- (72) Biz bul üi-dö jay ay-la-rin-da gana jaša-p
 私達 この 家-LOC 夏 月-PL-3:POSS-LOC だけ 住む-CVB

tur-a-biz dep oylo-gon-buz, birok... (barakelde.kg)
 tur-PRS-1PL と 思う-PAST2-1PL しかし
 「私たちはこの家に夏の間だけ**住もう**と思っていたのですが...」

また、動作の頻度を表わす「毎週」、「いつも」などの副詞によって、ある一定の時間における〈動作の進行〉の意味が、〈動作のくりかえし〉の意味を表すことになる。次の用例の場合、「ジムに通う」という動作が毎日、繰り返して行われることを表す。

(73) Men sport klub-da tın-ba-y **mašig-ıp** **tur-a-m.** (super.kg)
 私 スポーツクラブ-LOC 休む-NEG-CVB する-CVB tur-PRS-1SG
 「私はスポーツクラブへ休むことなしに**通っている**。」

(74) Ar juma sayın ar kimi-si kezek menen
 各 週 ごと 各 誰-3:POSS 順番 と
čakır-ıp **tur-uš-a-t.** (Turmuştan jaralğan čoku.)
 招待する-CVB tur-RECP-PRS-3
 「毎週、皆が順番に**招待し合っている**。」

次の用例では、経験や習慣を表わす接尾辞-ču がつくことによって、過去における〈動作のくりかえし〉の意味が示されている。

(75) Ošol učur-da juma sayın muzıka krujogu-na **bar-ıp** **tur-ču-mun.** (super.kg)
 その 時-LOC 週 ごと 音楽 サークル-DAT 行く-CVB tur-PST4-1SG
 「その頃、毎週、音楽のサークルに**通っていた**。」

なお、V-(i)p tur-形式の場合、tur-の語彙的な意味が読み取れない用例も存在する。例えば、(77)の arilt- (忘れさせる)、(78)の iyla- (泣く)などの動詞の場合、必ずしも立って行っている動作とはいえない。(76)~(81)の用例は人ではなく物が主語で使われ、ある一定の時間における〈動作の進行〉ではなく〈変化の結果の状態〉の意味を表している。

(76) Mınday sar-sanaanın nečenderi Kókumbay-dın
 この 心配-GEN いくつか PSN-GEN
 kan tamir-in-da tünü boyu tınım-sız **jügür-üp** **tur-du.** (K. š.)
 脈-3:POSS-LOC 夜 間中 継続-NEG 走る-CVB tur-PAST1
 「このような心配事がいくつかあって、コクムバイは一晩中、胸がドキドキしていた。」

- (77) Orkestr-din muzıka-sı köñül-dü kök-kö uçur-up,
 オーケストラ-GEN 音楽-3:POSS 気分-ACC 空-DAT 飛ばせる-CVB
 dilkaygı-dan arılt-ıp tur-du. (Toolor kulaganda)
 悲しみ-ABL 忘れさせる-CVB tur-PAST
 「オーケストラの音楽は気分を盛り上げて、悲しみを忘れさせてくれた。」

- (78) Jurög-ü İyla-p tur-ganda.....
 心臓 3:POSS 泣く-CVB tur-PART-LOC
 「心低泣いている時に…」

- (79) Kanat-tın küü-sü-nön zuu-zuu ėt-ken gana ün-dör
 翼-GEN 動き-3:POSS-ABL 擬音語 という-PART だけ 音-PL
 asman-dan jer-ge ugul-up tur-du. (Kara ŗumkar)
 空-ABL 土地-DAT 聞こえる-CVB tur-PAST1
 「空から翼の動きで出された音だけが聞こえていた。」

- (80) Ançalık İrak ėmes jer-den üy körün-üp tur-du... (B. j.ġ)
 そんなに 遠い ない ところ-ABL 家 見える-CVB tur-PAST1
 「そんなに遠くないところに家が見えていた。」

- (81) Al ėmi Nataŗa-nın men-den küdör-ü üzül-böy, sagın-ıp
 その PSN-GEN 私-ABL 期待-3:POSS 絶つ-NEG 恋しくなる-CVB
 jür-gön-ü, men-in üylön-gön— üylön-bö-gön-üm tuurasındagı
 jür-PART-ACC 私-GEN 結婚する-PART 結婚する-NEG-PART-1:POSS について
 kabar-dı anıkta-p bil-gisi kel-geni anın
 情報-ACC 確かめる-CVB 知る-たい-3 来る-CVB 彼女-GEN
 bul kat-İnan dapdaana körün-üp tur-a-t. (Orus kızı Nataŗa)
 この 手紙-3:POSS-ABL はっきりと 見える-CVB tur-PRS-3
 「それで、ナターシャは私に期待して、会いたがっていること、そして私が結婚したかどうかを確かめたがっていることがこの手紙からはっきり読み取れる。」

以下の(82)~(84)の動詞の場合、自然現象のある一定の時間における〈動きの持続〉という文法的な意味を表す。

- (82) Bul tilke-de jil boyu jaan **jaa-p** **tur-a-t.** (super.kg)
 この 地域-LOC 年 中 雨 降る-CVB tur-PRS-3SG
 「この地域では、一年中雨が**降っている**。」
- (83) Būgün kün sonun bol-up **tiy-ip** **tur-a-t.** (Astra gültü)
 今日 太陽 素敵 なる-CVB 照らす-CVB tur-PRS-3SG
 「今日は、太陽がとてもよく**照らしている**。」
- (84) ...den soolug-un jakši bol-so, balpaktap kar **jaa-p** **tur-sa,**
 健康-2:POSS 良い なる-COND ふわりと 雪 降る-CVB tur-COND
 sonor buz-up kar **keč-ip** **jür-sö-ŋ...** (M.m.j.j)
 新鮮な雪 壊す-CVB 雪 歩く-CVB jür-COND-2SG
 「健康でいれば、ふわりと雪が降って、降ったばかりの雪の上を**歩いている**と...」

V-(i)p tur-形式では、本動詞が移動そのものを表す場合、補助動詞の tur-は、主体の〈動作のくりかえし〉の意味を表す。tur-の場合、本動詞の kel- (来る)、bar- (行く)、ket- (行く)、čik- (出る)、kayt- (戻る) が現れる。

- (85) Biz-ge **kel-ip** **tur-gula,** bol-gon
 私達-DAT 来る-CVB tur-2PL:IMP なる-PART
 jardam-dar-ibiz-di ber-e-biz. (Men miñ jil jašadım)
 手伝い-PL-1PL:POSS-ACC 与える-PRS-1PL
 「私たちの方に**来る**ようにしてください。できる限り、手伝いをしてあげます。」

また、本動詞が並列的に現れる場合にも、〈動作のくりかえし〉の意味が生じる。

- (86) Ošol altı kün-dün bir-in da kur kaltır-gan
 その 6 日-GEN 1 日-ACC も 空っぽ 残す-VN
 jok Mambetalı, tünküsün üy-dö bol-up,
 ない PSN 夜中 家-LOC なる-CVB
 kündüzündö uya-ga **bar-ıp-kel-ip** **tur-du.** (Kara šumkar)
 昼 巢-DAT 行く-CVB 来る-CVB tur-PAST1
 「その6日間、一日も休まないで、マムベタルは夜中家にいた。お昼は巢に行ったり来たりしていた。」

2.2 本動詞が変化動詞の場合

V-(i)p tur-形式に現れる変化動詞の場合、主体の動作が終わった後に、その主体の状態が持続することを表す。これらの場合も主語がほとんど物であり、〈変化の結果の状態〉の意味を表す。たとえば、以下のような用例である。

- (87) Ošo bešene-ge jazıl-gan tagdır tabiřmag-ı-nın jandırmag-ın
 その 運命-DAT 書かれる-PART 運命 謎-3:POSS-GEN 解け方-ACC
 kütüü-nün özü kün-dön kün-dü **jarat-ıp** **tur-a-t.** (Toolor kulaganda)
 待つ GEN 自分 日-ABL 日-ACC 発生する-CVB tur-PRS-3
 「その運命の謎を解くのを待つことは新たな日につながっている。」

- (88) Keč-ki iñir-de bölmö-dö-gü üstöl-dö řaytan
 夜-ki タ-LOC 部屋-LOC-ki 机-LOC 鬼
 čırak ülpüldö-p **küy-üp** **tur-gan.** (Čalgınčılar)
 ろうそく 微かに 燃える-CVB tur-PST2
 「夕方、部屋にある机の上で鬼ろうそくが微かに灯っていた。」

- (89) Kalıñ top keñse al-dın tügöl kama-p al-gan soñ,
 太い 団 事務所 前-GEN 全部 閉鎖する-CVB 取る-PAST 後
 bir azga tümtirs **bol-up** **tur-du...** (Dürbölöñ zaman)
 一 少し 静か なる-CVB tur-PAST
 「多くの人々が事務所の前を閉鎖した後に、少しの間静かになった。」

- (90) Jalgız biz-din kol-ubuz-dan iş atkaruu kiyin
 一人 私達-GEN 手-3PL:POSS-ABL 仕事 果たす-VN 困難
bol-up **tur-a-t.** (Dürbölöñ zaman)
 なる-CVB tur-PRS-3SG
 「私達だけで仕事を進めることが困難になっている。」

- (91) Ar dayım kün menen tün **alma-ř-ıp** **tur-a-t.**
 いつも 昼 と 夜 交代する-RECP-CVB tur-PRS-3SG
 「いつも昼と夜が交代している。」

- (92) Dağı kaytala-p koy-ču nerse, jalpı okuu jüktöm
 また 繰り返す-CVB 置く-PART もの 全体 カリキュラム

- tolugu menen **saktalı-p** **tur-a-t.** (Kutbilim)
 満 と 保管する-CVB tur-PRS-3SG
 「また繰り返して言うが、カリキュラムの全体象は**保管**されている。」
- (93) Kōl-dün bet-i-ne gül-dör ös-ö-t, ös-kön gül-dör
 湖-GEN 表面-3:POSS-LOC 花-PL 咲く-PRES-3 咲く-PART 花-PL
 künügö ěki-ge **köböy-üp** **tur-a-t.** (super.kg)
 毎日 2-DAT 増える-CVB tur-PRS-3SG
 「湖の表面に花が咲いていて、その花の数が毎日2倍に**増え**ている。」
- (94) Tüş oop, kün boz çangıl **tart-íp** **tur-gan.** (Almalar güldöyt)
 昼 過ぎる-CVB 外 グレー 染める-CVB tur-PAST2
 「お昼をすぎて外はグレーに**染め**られていた。」
- (95) Al ěmi sırt-ta alma-lar bajıray-íp **güldö-p** **tur-a-t.** (Almalar güldöyt)
 それで 外-LOC リンゴ-PL 奇麗になる-CVB 咲く-CVB tur-PRS-3SG
 「外ではリンゴの花がきれいに**咲**いている。」
- (96) Mambetalı kol tiygiz-gen sayın söök-tör-ü **kıçıra-p** **tur-du.** (Kara şumkar)
 PSN 手 触れる-VN ごと 骨-PL-3POSS きしむ-CVB tur-PAST1
 「マムベタルは手が触れる度に骨が**きし**んでいた。」
- (97) Būgün a-nın jürög-ü da baştagı-dan da bir başkaça
 今日 彼-GEN 心臓-3:POSS 前-ABL 一 違う
 katuu sog-up, tamır-ı-nın kagışi kulag-ı-na **jeti-p tur-du.** (K.š)
 強い 心拍する-CVB 脈-3:POSS-GEN 打ち方 耳-3:POSS-DAT 着く-CVB tur-PAST1
 「今日は彼の心拍は前より強くなり、脈が**聞**こえていた。」
- (98) Keregenin⁴⁷ baš-in-da **ilin-ip** **tur-gan**
 壁-GEN 上-3:POSS-LOC 掛けられる-CVB tur-VN
 kuš mēěley-in al-íp kiy-ip... (Kara şumkar)
 鷹手袋-ACC 取る-CVB する-CVB
 「壁に**掛**けられている鷹手袋をとって手にして…」

⁴⁷木で作られたユルタ（モンゴルのゲルと同様）の壁のことである。

(99) Jaš ayal-din bütkün boyu kozgol-gon sayın şarakta-p ün čig-ıp tur-du. (K.š)
 若い 女-GEN 全部体 動く-VN 度に 騒ぐ-CVB 声 出る-CVB tur-PAST1
 「若い女性の体が動く度に賑やかな声を出していた。」

(100) birde ildiy, birde öydö uç-up tur-up, anan tik
 ある時 低い あるとき高い 飛ぶ-CVB tur-CVB そして まっすぐ
 atıl-ıp kel-ıp döböčö-gö je čoŋ-uraak taš bol-so ošo-nun
 飛ぶ-CVB 来る-CVB 岩-DAT また 大きい 石 なる その-GEN
 üstü-nö ěki kanat-in irme-bey otur-up kal-a-t. (Kara şumkar)
 上-DAT 二つ 羽-3:POSS まとめる-NEG 座る-CVB kal-PRS-3SG
 「ある時は低く、ある時は高く飛び、そしてまっすぐ飛んできて岩や大きい石の上に羽を
 広げて止まってしまう。」

(100)の用例の、tur-は従属節で使われ-(i)p 副動詞（ここでは-up）に前接しているが、この場
 合、日本語に訳すと「飛んでから」という意味になり、〈動作の進行〉も〈動作のくりかえし〉
 も表さず、〈変化の結果の状態〉を表すと言える。

2.3 本動詞が状態動詞の場合

V-(i)p tur-形式の場合、補助動詞の tur-が擬態的な様子を表す動詞とともに使われる用例が現れ
 るのが特徴的である。(101)のような主語が人である場合には、〈一時的な状態の持続〉を表して
 いるが、(102)と(103)のように主語が物である場合には〈恒常的な状態〉を表す。そして(101)
 の例では「ニコニコしながら立っていた」とも解釈が可能であるが、主語が物である(102)と(103)
 においては「立つ」の語彙的な意味で使われていると解釈することができない。

(101) Oşentse da mışkıldagan-day jılmay-ıp tur-gan. (Ėne měčrimi)
 それでも バカにする-MOD ニコニコする-CVB tur-PST2
 「それでも、バカにしたようにニコニコしていた。」

(102) Kilič-tin sinig-ınday töbö-dö jıldız-dar jarkir-ap tur-du. (M.j.j.)
 刀-GEN 破片のように 頭の上-LOC 星-PL キラキラする-CVB tur-PAST1
 「刀の破片のように星が空にキラキラしていた。」

(103) ...biyik dubal-day düküy-üp tur-gan
 高い 壁-MOD 切り立つ-CVB tur-PART

tokoy-du karay jügür-üp jönö-š-tü. (Čalgınčılar)
 森-ACC 方面 走る-CVB 出発する-RECP-PST1
 「...高い壁のように切り立っている森の方をめざして、走り始めた。」

2.4 本動詞が内的感情動詞の場合

V-(i)p tur-形式において、主体の感情を表す動詞が用いられる場合、基本的にある一定の時間における〈感情状態の持続〉を表すが、その一方で、tur-が本動詞に対して付帯的な状況が与えられると解釈することもできる。すなわち、ある一定の時間「考えながら立っていた」、「感じながら立っていた」、「悲しんで立っていた」ということである。

(104) Kanıbek köpkö çeyin oylo-n-up tur-du. (Kanıbek)
 PSN 長く まで 考える-REFL-CVB tur-PST1
 「カヌベクは、長い時間考えていた。」

(105) Karıpbek künöökör jigit uşul ёken-in sez-ip tur-du. (Super.kg)
 PSN 容疑者 男性 この MOD-ACC 感じる-CVB tur-PAST1
 「カルプベクは容疑者がこの男性であるのを感じていた。」

(106) Üy-gö kel-se-m, apa-m kat-ti oku-p, kapalan-íp tur-uptur. (M.m.j.j.)
 家-DAT 来る-COND-1 母-1:POSS 手紙-ACC 読む-CVB 悲しむ-CVB tur-PAST3
 「家に帰ったら、お母さんが手紙を読んで悲しんでいた。」

2.5 まとめ

動作動詞に tur-が後接すると、基本的にある一定の時間における〈動作の進行〉という文法的な意味を表わす。また、動作の頻度を表わす副詞などが添えられることによって、ある一定の時間における〈動作の進行〉の意味が、〈動作のくりかえし〉の意味を表すようになる。主体の立って行うことができる活動動作を表す動詞が多く現れ、また、それと同時に tur-が語彙的な意味の本動詞として使われる用例がある。その場合、tur-は補助動詞ではなく、本動詞となり、前接する動詞にとって付帯的な役割で使われることになる。

tur-の語彙的な意味が読み取れない用例も存在するが、その場合、主語が物に限られる。変化動詞に後接すると〈変化の結果の状態〉の意味が表される。

そして、jat-形式と同様に、tur-形式も現在形の一種類として位置付けられているのに対して、本研究では以上の補助動詞が現在だけではなく、過去と未来における〈動作の進行〉を表すことを確認した。

3. V-(i)p otur- 形式: 補助動詞が otur-の場合

この第3節では、V-(i)p otur-形式において、補助動詞としての otur-が本動詞の動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞それぞれとどのように結びつくかについて考察する。しかしながら、その前に otur-が本動詞の意味で使われている用例を確認しておく。次の(107)の用例は、単純現在の形になっており、日本語に訳すと「座っている」というように「～テイル」が用いられる。この例では、奪格名詞相当の「-den obočo」によって、「座っている」状態が時間的に過程の途中にあることを表している。

- (107) Kanıbek čogul-gan ěl-den_____obočo, aylana-nĩ
カヌベック 集まる-PART 人々-ABL 横に 周り-ACC
kara-p jalgĩz otur-a-t.
見る-CVB たった一人 座る-PRS-3SG
「カヌベックは集まった人々から離れて、周りを見てたった一人で座っている。」

これに対して、(108)の用例を見ると、「座っている」は本動詞として使用されている過去の「座っていた」というように「タ」形になっている。

- (108) Kanıbek činĩ-nĩ al-ĩp Anarhan-ga jakĩn otur-du.
カヌベック 茶碗-ACC 取る-CVB アナルハン-DAT 近い 座る-PST1
「カヌベックは茶碗を持って、アナルハンの隣に座っていた。」

- (109) Men sen-i tigi tarap-tan izde-p jũr-sõ-m,
私 あなた-ACC そこ 方向-ABL 探す-CVB jur-COND-1SG
ušul jer-de otur-gan ěken-sĩj.
この 場所-LOC 座る-PST2 MOD-2SG
「私はあなたをあの方向で探していたら、この辺に座っていたのね。」

(109)は文中に位格名詞の jer-de が現れることによって、話し手が見つかった時に、もうすでに「座っている」状態であり、眼前でその状態が継続していたことを表している。

3.1 本動詞が動作動詞の場合

V-(i)p otur-⁴⁸形式は、主体のある時点における〈動作の進行〉の意味を表す。これが成立するためには、(110)の oku-や (111)süylö-のように本動詞が座って行うことができる主体の活動動作を表す動詞でなければならない。(110)のように、場所を示す位格がついている場合には、ある時点における〈動作の進行〉の意味がより明瞭に表れる。なお、位格が現れる場合、主体が座って動作を行っていることが読み取れる。

- (110) Sara skver-din arasına koyul-gan skameyka-lar-din
 サラ 公園-GEN 中 置く-PART ベンチ-PL-GEN
 birin-de jalgız kitep **oku-p** **otur-du.** (K.k.S)
 一つ-LOC 一人 本 読む-CVB otur-PST1
 「サラは公園の中にあるベンチに座って一人で本を**読んでいた。**」

- (111) Jıldız menen köpkö **süylö-şü-p** **otur-du.**
 ジルデイス と 長い時間 話す-RECP-CVB 座る-PST1
 「ジルデイスと長く**話していた。**」

以下の(112)～(114)の用例は、位格名詞が現れなくても、ある時点における〈動作の進行〉の意味を表す。これらの例においては、座って行われていることが明確に読み取れる。

- (112) Kudaybergen Kara şumkar-dī köpkö čeyin
 クダイベルゲン 黒い 鷹-ACC 長く まで
 kol-u-nan tüşür-bö-y **tikte-p** **oltur-du.** (Kara şumkar)
 手-3:POSS-ABL 降ろす-NEG-CVB 見る-CVB otur-PAST1
 「クダイベルゲンは黒い鷹を長い時間手から離さないで**見て(座って)いた。**」

- (113) Ėki köz-ü bürküt uya-dan öt-üp, keter-ketkenče
 二 目-2:POSS 鷹 巣-ABL 通る-CVB 帰る-まで
 anin ooz-un **kara-p** **oltur-ču.** (Kara şumkar)
 それ-GEN 口-ACC 見る-CVB otur-PAST3
 「彼は帰るまで、ずっと鷹の巣を**見ていた。**」

- (114) ...ošolor-don uya-ni tart-ip al-gan minday baatyr-lar-di
 それら-ABL 巣-ACC 取る-CVB 取る-VN このような 英雄-PL-ACC

⁴⁸ otur-は書き言葉において oltur-という形で現れることもあるが意味の面で違いがない。

Mambetalı ömür-ü-ndö bir-inçi jol-u **kör-ü-p** **otur-a-t.** (Kara şumkar)
 PSN 人生-3:POSS-LOC 一回 目-3:POSS 見る-CVB otur-PRS-3SG
 「彼らから巢を取ってしまった英雄をマムベタルは人生で初めて**見ている。**」

このように、**otur-**が本動詞として本来もっている意味は文法的な意味に影響しており、**otur-**が補助動詞なのか本動詞なのかが明確ではない場合がある。このことに関して、アクマタリエワ(2014:56)では、以下の2つの場合を挙げている。

- ①副動詞と動詞の表す動きが継起的である場合
- ②副動詞の表す動きが動詞にとって付帯状況的である場合

アクマタリエワ(2014: 56)では、①の場合について次の例を挙げ、説明を付している。

Kanıbek üy-gö **kir-ip** **otur-du.**
 PSN 家-DAT 入る-CVB otur-PST1
 「カヌベックは家に入って、**座った**」

副動詞 **kirip** と **otur** の結びつきが弱く、それぞれが「入る」、「座る」という動作を別々に表している。2つの動作が別々なので、上の例の副動詞と **otur** の間に **stolgo** 「椅子に」、或は **kečke** 「ずっと」などのように位格場所名詞や副詞などを挿入することができ、こうしたことによっても、それぞれの **otur** の意味に変化は生じない。

(アクマタリエワ 2014: 56)

アクマタリエワ(2014: 56)では、このように本動詞に付随する **V-p** 副動詞と補助動詞 **otur-**の結びつきが弱いとし、名詞や副詞を挿入しても **otur-**の意味に変化は生じないと述べている。以上の①と②の分類に従うと、(115)の用例は副動詞と動詞の表す動きが継起的であると言えるが、(116)～(118)の場合はそうだと言えるであろうかやや疑問が残る。

(115) Asan dōṅ-gö **kel-ip** **otur-du.**
 アサン 丘-DAT 来る-CVB 座る-PST1
 「アサンは丘に来て座った。」

この文は容易にアとイの二つの独立文に分解することができ、もとの文の意図と大きく変わらず、意味も十分通じる。

ア. Asan dōṅ-gö kel-di 「アサンは丘に来た。」
 アサン 丘-DAT 来る-PST1

イ. Asan dōŋ-gō otur-du. 「アサンは丘に座った。」
アサン 丘-DAT 座る-PST1

(116) Stol-dun burč-u-nda Volkov kaltıra-p otur-gan. (Dürbölöŋ zaman)
机-GEN 角-3POSS-LOC PSN 震える-CVB otur-PST2
「机の角にヴォルコフは震えて(座って)いた。」

(117) Kapitan menen Kanıbek köpkö meltire-p otur-uş-tu. (Uč ölüm)
キャプテン と PSN 長い 黙る-CVB otur-RECP-PST1
「キャプテンとカヌベクは長い間黙って(座って)いた。」

(118) Anarhan šilkī-īp otur-du.
アナルハン 下向く-CVB otur-PST1
「アナルハンは下を向いて (座って) いた。」

(116)～(118)はアクマタリエワ(2014)の②の分類に従うと、副動詞の表す動きが動詞にとって付帯状況的である。すなわち、これらの例では、「震えた状態のまま」、「黙った状態のまま」、「下を向いたまま」の状態で「座っている」という意味になる。また、上記(116)～(118)の用例は(115)とは異なり、別々の動作として捉えにくく、otur-を削除してしまうと意味が通じなくなる。これらの場合、本動詞か補助動詞かが明確に規定できないので、「座って」を括弧に入れてある。

この②の分類〔副動詞の表す動きが動詞にとって付帯状況的である場合〕には、以下のような動詞がある。これらはすべて瞬間動詞である。

kir-ip otur=入って座る
čig-ip otur=上がって座る
tüš-üp otur=降りて座る
kel-ip otur=来て座る
aç-ip otur=開けて座る
bar-ip otur=行って座る
učuraš-ip otur=挨拶して座る

V-(i)p otur-形式において、本動詞としての otur-の語彙的な意味としての「座っている」が読み取れない用例も存在する。たとえば、(119)における jür-üp (走る)、(120)における küt-üp (待つ)などの動詞の場合、必ずしも座って行っている動作とはいえない。また、(120)のように文中に 8 jıldan beri 「8年前から」などのような時間の起点や終点を明示して表す副詞が現れる場合、

ある時点における〈動作の進行〉の意味が表されるが、「8年の間ずっと」というニュアンスが生じる。

- (119) Uşunday alakula menen **jür-üp** **otur-up,** bir kez-de
 このような 急ぎ と 走る-CVB otur-CVB ある時-DAT
 köçönün orto çenin-de bir kaldaygan darbaza-ga tokto-ş-tu.
 通り-GEN 真中 側-LOC 一 大きい 門-LOC 止まる-RECP-PST1
 「このような急ぎで走っていて、ある時通りの真ん中にある大きい門の前に止まった。」

- (120) Joro-nun kiz-i 8 jıl-dan beri ėr-ge tiy-bey,
 PSN-GEN 娘-3:POSS 8年-ABL から 旦那-DAT 出る-NEG
 Muslimahun-du **küt-üp** **otur-gan** imiş.
 PSN-ACC 待つ-CVB otur-PART MOD
 「ジョロの娘は結婚しないで、ムシルマフンを8年間ずっと待っていたそうだ。」

以下の(121)～(124)の用例は補助動詞の *otur-*が副動詞 *-up* とともに従属節に現れている場合である。このような場合、日本語に「～し続ける」という意味になり、ある時間内で動作が継続され、最後に何かの結果の形で現れるのが特徴である。

- (121) Ata-bala ar kaysinin başın ayt-íp **koburaş-íp** **oltur-up,**
 父子 色々 頭-3:POSS-ACC 話す-CVB 喋る-RECP-CVB otur-CVB
 bayagı bürküt uya-nın tuşu-na kel-iş-ti. (Kara şumkar)
 その 鷹 巢-GEN 前-DAT 来る-RECP-PAST1
 「父と子は色々なことについて喋り続けて、その鷹の巢の前に来た。」

- (122) Ata-bala **süylö-ş-üp** **otur-up,** üy-lör-ü-nö kaday
 父子 話し合う-CVB otur-CVB 家-PL-DAT どう
 jet-ken-in bil-bey kal-iş-ti. (Poezddegi baarlaşuu)
 着く-PAST-ACC 知る-NEG しまう-RECP-PAST
 「親子は話し合っていて、家にいつ着いたのかわからなくなった。」

- (123) Al ėl arala-p **bas-íp** **otur-up**
 彼 民 回る-CVB 歩く-CVB otur-CVB
 too-nun booru-n-dagı akirkı bir tam-ga jet-ti. (A.u.t.)
 山-GEN 側-3:POSS-DAT 最後 一 家-DAT 着く-PST1
 「彼は、人々の家を回り、歩き続け、山側にある最後の家にたどり着いた。」

- (124) Janakī ěki itelgi korku-p kal-iš-kan-bī biyikte-gen-den **biyikte-p**
 先 二 鷹 怖がる-CVB 残る-RECP-PART-Q 高める-PART-ABL 高める-CVB
otur-uš-up, tunuk asman-dīn kindig-i-ne kir-ip ket-ken-dey bol-uš-tu. (K. š.)
 otur-RECP-CVB 透明 空-GEN 臍-3:POSS-DAT 入る-CVB 行く-PART なる-RECP-PAST1
 「先の二羽の鷹は怖がってしまったのか**遠く飛び続けて**、透明の空に入ってしまった
 ように見えた。」

次に(125)~(128)の用例では、本動詞が主体の移動を表しており、〈動作の進行〉という意味を表すことができない。これらの文において、「来る」という動作がすでに行われ、otur-によってその〈変化の結果の状態〉の意味が表されている。

- (125) ...jazda yua-dan karma-l-gan kara šumkar-dī tartuula-p,
 春-LOC 巢-ABL 捕まる-PASS-PAST 黒い 鷹-ACC 贈呈する-CVB
 koy tukum ümtöt-üp **kel-ip** **oltur-a-t.** (Kara šumkar)
 羊 子孫 期待する-CVB 来る-CVB otur-PRS-3SG
 「春に巢で捕まった黒い鷹を贈呈して、その代わりに羊をもらうことを**期待して来**
 ている。」

- (126) Jenijok-toy uluu akin-dar-ī-biz-dīn körköm döölöt-tör-ün-dö
 PSN-のように 偉大 詩人-PL-3:POSS-GEN アート 遺産-PL-3:POSS-LOC
 katil-gan tarbiya jarayan-dar-ī-na kayradan baš otu-buz
 潜む-VN 教養 課程-PL-3:POSS-ACC もう一回 頭-PL
 menen kir-ip, ruhaniy baylik-tar-ī-biz-dī baldar-ī-biz-dīn
 と 入る-CVB 精神的な 豊富-PL-1PL:POSS-ACC 子供-1PL:POSS-GEN
 bilim-i-ne aykalištiruu uçur-u **kel-ip** **otur-a-t.**
 教育-3:POSS-DAT 組み合わせる- 時-3:POSS 来る-CVB otur-PRS-3SG
 「ジェニジョクのように偉大な詩人の遺産課程に改めて専念して、精神的な豊さを子供たち
 の教育と組み合わせる時が**来ている**。」

- (127) Al ulam joluna tuš kel-e kal-gan darak-ti buyta-p öt-üp,
 彼 また 道 前 来る-CVB 残る-PART 木-ACC 避ける-CVB 通る-CVB
 öpkö-sü köb-ö entik-kenine kara-bay, **jügür-üp** **otur-du.** (K.kS)
 肺-3:POSS 膨らむ-CVB 息くるしくなる-ACC 見る-NEG 走る-CVB otur-PAST1
 「彼女は道にあった木を避けて通り、息が苦しくなることも気にせず**走っていた**。」

- (128) Oşol otuz jıl ömür-ü-nün içi-nde mınday şumduk,
 この 30 年 人生-3:POSS-GEN 中-LOC このような 不遜
 mınday kızıık okuya-nı birinçi jolu kör-üp,
 このような 面白い 出来事-ACC 一番 目 見る-CVB
 birinçi jolu üstü-nön çıg-ıp oltur-a-t. (Kara şumkar)
 一番 回 上-GEN 出る-CVB otur-PRS-3SG

「この 30 年間の人生の中で初めてこのような不遜な出来事に遭遇している。」

3.2 本動詞が変化動詞の場合

V-(i)p otur-形式では、本動詞が変化動詞の場合にも補助動詞 otur-に語彙的な意味がある程度残っており、その変化した状態がある時点まで継続することを表す。以下の用例では、〈変化の結果の状態〉を表している。

- (129) Buga čeyin bılık čet-pey senek bol-up oltur-gan
 これ まで 動く-NEG 固い なる-CVB otur-PART
 biz-ge Tomo kariya söz bašta-dı. (Kara şumkar)
 私たち-DAT PSN お爺さん 言葉 始める-PAST1

「今まで動くことなく、固まって(座って)いたトモは話し始めた。」

- (130) Alar-dın aldı-n-da ěle Kudaybergen kara şumkar-dı
 彼ら-GEN 前-3:POSS-LOC PSN 鷹-ACC
 tuur-dan koluna al-ıp kondur-up oltur-gan. (Kara şumkar)
 台座-ABL 手-3:POSS-DAT 取る-CVB 乗せる-CVB otur-PAST2

「彼らの前でクダイベルゲンは黒い鷹を手に乗せて(座って)いた。」

次の(131)と(132)のように、otur-が副動詞-upとともに従属節に現れている場合、「～し続ける」の意味が強くなり、〈変化の結果の状態〉を表しているとは言えなくなる。

- (131) Ulam biröö sözü-nün ayagı-na čık-kan-da, ěkinči-si bašta-p
 また 一人 話-3:POSS-GEN 終わり-DAT 来る-PART-LOC 二人目始める-CVB
 oltur-up ubakıt-tın kaday öt-kön-ün bayka-bay kal-iş-ču. (Altın küz)
 otur-CVB 時間-GEN どう 過ぎる-PART 気づく-NEG しまう-RECP-PAST

「一人が話し終わったら、二人目が話し始めていて、時間がいつ過ぎたのか気付かなかった。」

- (132) Kökümbay-din üstü-nö kel-gende bir-den tēp **tüşür-üp otur-up,**
 PSN-GEN 上-DAT 来る-PART-LOC 一つ 蹴る-CVB 下す-CVB otur-CVB
 Kökümbay-din tegere-gin ördök-tör-gö toltur-up üymöl-öp tašta-y-t. (K.SH)
 PSN-GEN 周り-ACC アヒル-PL 溢れる-CVB いっぱいになる-CVB しまう-PRS-3
 「(鷹が) コクムバイの上に来たら、アヒルを一羽ずつなげ下ろし続けて、彼の周り
 はアヒルでいっぱいになってしまった。」

次の用例では、主体に見られる〈変化の結果の状態〉の意味を表している。つまり、ここでは、*kiy-* (着る) という動作がすでに行われており、着た後の変化の結果の状態を表している。

- (133) 33 jili biz **kiy-ip otur-gan** kiyimi-biz menen ėle kal-dġ-k. (azattik.kg)
 33 年 私達 着る-CVB otur-PART 服-1PL と MOD 残る-PAST1-1PL
 「1933年に私達には着ていた服だけが残った。」

*V-(i)p otur-*形式には、以下の(134)~(137)のように〈動作の進行〉を表す文法的な意味ではなく、本動詞の意味として使われているとも考えられない用例がある。これらの場合では *otur-*が現在形の接辞で使われているが、〈変化の結果の状態〉の意味を表している。例えば、(134)は発話時前にすでに手紙が書き始められて、その後も書き続けられているという訳ではない。手紙がもう書き終わり、完了の意味になっている。すなわち、前接動詞が限界動詞であれば、もう終了した出来事になり、*otur-*を使うことによって、その出来事に対して話者の評価が関与していると考えられる。すなわち、なんらかのモダリティ的な意味を表している。(134)は後悔の意味、(135)は仕方がない状況、(136)は自分が悪いということの承認、(137)はこれからずっと払わなければならない状態の意味を表している。

- (134) Menin bul kati-m dagi abdan keċ **jazil-ip otur-a-t.** (B.k.m)
 私-GEN この 手紙-1POSS また とても 遅い 書く-PASS-CVB otur-PRS-3SG
 「私のこの手紙も非常に遅れて書かれている。」

- (135) Zunnahun **kama-t-ip otur-a-t.** (Sirender guldögön maalda)
 PSN 逮捕する-CAUS otur-PRS-3SG
 「ズンナフンに逮捕されてしまった。」

- (136) Men bagġ-ŋ-di **bayla-p otur-a-m.** (Belgisiz kizdin mahabati)
 私 幸せ-2POSS-ACC 縛る-CVB otur-PRS-1SG
 「私はあなたを不幸にしている。」

- (137) ... 300 boo čöp berese **bol-up otur-a-m.** (Jilandin süyüüsü)
 300 本 牧草 返済 なる-CVB otur-PRS-1SG
 「300束の牧草を返さなければならないことになっている。」

3.3 本動詞が状態動詞の場合

V-(i)p otur-形式の場合、V-(i)p tur-形式の状態動詞と同様に、本動詞には主体の擬態的な様子を表す動詞類が現れる。実際、こうした場合、otur-（座っている）が本動詞として使われる用例がある。例えば、以下の(138)～(140)では、ある時点における状態の持続を表している。

- (138) ...čet-te bir kiz **muğay-ıp otur-a-t.** (super.kg)
 横-LOC 一人 女性 悲しむ-CVB otur-PRS-3SG
 「横にいる一人の女性は 悲しんで（座って）いる。」

- (139) Kapitan menen Kanıbek köpkö **meltire-p otur-uş-tu.** (Üç ölüm)
 キャプテン と PSN 長い間 黙る-CVB otur-RECP-PST1
 「キャプテンとカヌベクは長い間黙って（座って）いた。」

- (140) Anarhan **şilkıy-ıp otur-du.** (Sirender guldögön maalda)
 PSN 下向く-CVB otur-PST1
 「アナルハンは下を向いて（座って）いた。」

これらの用例でも分かるように、「座っている」の意味が完全になくなっているわけではない。主体の「悲しんで座っている」、「黙って座っている」、「下を向いて座っている」という状態が明確にとれるからである。

3.4 本動詞が内的感情動詞の場合

V-(i)p otur-形式において現れる内的感情動詞は変化動詞の次に使用頻度が高い動詞類である。これらの場合も、otur-が本来もっている（座っている）という意味が文法的な意味に全く影響していないとは言えない。すなわち、「座って悲しんでいる」、「座って考えている」、「座って喜んでいる」というように解釈できるし、その状態がある時点まで持続しているとも解釈できる。

- (141) Kačan bar-sa-m al üy-dö **kapalan-ıp otur-gan bol-o-t.** (M.m. j.)
 いつ 行く-COND-1 彼 家-LOC 悲しむ-CVB otur-PART なる-PRS-3SG
 「いつ行っても彼は家で（座って）悲しんでいる。」

(142) Al köpkö unčuk-pa-y oylo-n-up otur-du. (Üč ölüm)
 彼 長い間 話し出す-NEG-CVB 考える-REFL-CVB otur-PST1
 「彼は長い時間黙って（座って）考えていた。」

(143) Baarı jok-tu bil-ip otur-uš-a-t. (Kanıbek)
 全て 無-ACC 知る-CVB otur-RECP-PRS-3PL
 「みんな無いこと（貧しさ）を（座って）知っている。」

(144) ...čet-te bir kiz kuban-ıp otur-a-t. (super.kg)
 横-LOC 一人 女性 喜ぶ-CVB otur-PRS-3SG
 「横にいる一人の女性は（座って）喜んでいる。」

3.5 まとめ

第3節では V-(i)p otur-形式に現れる本動詞のタイプによって表される文法的な意味について見てきた。

動作動詞の場合、基本的にある時点における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。しかし、この場合、「座っている」という本動詞の意味で使われているのか、補助動詞として使われているのかを規定するのが難しい。一方、変化動詞の場合には、(座っている)という本動詞の意味がなくなっており、補助動詞として機能しているが、その場合に、何らかのモダリティ的な意味が生じている。また、otur-形式が副動詞の-upとともに従属節の中に現れると、当該の動作が「～続けていく」という意味になる。そしてその場合には、述語に来る出来事が前件の出来事の影響を受け、何らかの結果として残ることを表している。

さらに、本動詞が移動動詞として述語に現れる場合は、〈変化の結果の状態〉の意味を表す。また、bil- (知る)、kiy- (着る)などの本動詞と組み合わせさせた場合も〈動作の進行〉ではなく、〈変化の結果の状態〉の意味を表している。

最後に内的感情動詞の場合は、ある時点における〈感情の持続〉を表すと同時にその状態が「座ったまま」行われているというニュアンスが含まれている。

4. V-(i)p jür- 形式: 補助動詞が jür-の場合

前節と同様にこの第4節でも、V-(i)p jür- 形式において jür-が本動詞として用いられる用例の確認から始める。次の(145)と(146)においては、それぞれの主語は人と物であり、形容詞 (sergek、iygilituu) + jür- で構成され、「すっきりしている」と「うまくいく」のように訳される。また、(147)においては、「行われる」という意味で用いられている。

(145) Sen bari-dan murda kariluu bol-so-ŋ, sergek **jür-ö-sün.** (M. m. j.j)
 君 全部-ABL 先 強い なる-CVB-2 すっきり jür-PRS-2SG
 「何よりも強い体を持っていれば、いつもすっきりしている。」

(146) A degende iš-i-m iygilik-tüü **jür-dü.** (M. m. j.j)
 あ と言う-PART-LOC 仕事-1:POSS 成功-ADJ jür-PAST1
 「最初は仕事がうまく行った。」

(147) Maydan biz-din jer-den alista-batiš-ta **jür-üp jat-a-t.** (M. m. j.j)
 戦争 私達-GEN 土地-ABL 遠い-LOC 西-LOC jur-CVB jat-PRS-3
 「戦争は私達のところから遠く西で行われている。」

4.1 本動詞が動作動詞の場合

V-(i)p jür-形式において、本動詞としての動作動詞は、補助動詞の jür-と組み合わせさせて主体の〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。これまでみてきた補助動詞と異なって、V-(i)p jür-形式の場合では、ište- (働く)、oyno- (遊ぶ)、izde- (探す)、kil- (する)、šaš- (急ぐ) などのように移動を伴う持続的な動作動詞が多く現れるのが特徴的である。これは、jür-がもつ語彙的な意味の (動く) から来ていると思われる。

(148) Ėl munu menen da šorpo-šileŋ-den öksü-bö-y **ookattan-ip jür-üş-tü.** (Ürkün)
 人々 これ と スープ-ABL 困る-NEG 生きる-CVB jur-RECP-PAST1
 「人々はこのようなスープがあるから食料に困らず生きていた。」

(149) Al bizdin kel-iš-i-biz-di murdatan ėle **küt-üp jür-üptür.** (K. k.E)
 彼 私-GEN 来る-RECP-3PL:POSS-ACC 前 待つ-CVB jur-PAST3
 「彼は私たちの来ることを前から待っていたそうだ。」

(150) Čatir-di kara-sa-m aga-m karındaš-tar-im
 テント-ACC 見る-COND-1SG 兄-1SG:POSS 妹-PL-1SG:POSS
 menen **oyno-p jür-ö-t.** (Turmuštan jaralgan čoku)
 と 遊ぶ-CVB jür-PRS-3SG
 「私がテントを見たら、兄が妹達と遊んでいた。」

上の用例では、ookattan- 「(食べて) 動いて生きる」、küt- 「動いて待っている」、oyno- 「動いて遊んでいる」というニュアンスが含まれており、主体の動作が動いて行われることを意味する。

次の例も同様なことがいえる。

- (151) Al dayıma **šaš-ı̇p** **jür-ö-t** ėmnedir. (super.kg)
彼は いつも 急ぐ-CVB jür-PRS-3SG なぜか
「彼はなぜかいつも**急いでいる**。」

また、以下のような主体の長期的な活動動作を表す動詞に **jür-** が後接する場合、主体の長期にわたる〈動作の進行〉の意味を表す。

- (152) **Zarla-p** **jür-ü̇p** bala-luu bol-uš-kan (super.kg)
懇願する-CVB jür-CVB 子供-ADJ なる-RECP-PAST2
「(ずっと) 懇願し続けて、子供ができた。」

- (153) Mektep-te baldar-ga tarih sabag-ınan ber-ip **ište-p** **jür-ö-m.** (T.m.)
学校-LOC 子供達-DAT 歴史 科目-ABL あげる-CVB 勤める-CVB jür-PRS-1SG
「学校に勤めて、子供達に歴史を**教えている**。」

- (154) Oš šaar-in-dagi jaš üy bülö-lör-dün deerlik 60 payızı miyzamduu nıke
オシュ町-3:POSS-LOC 若い 家族-GEN 約 60 パーセント 法律的 結婚
kagazi jok, šariyat nıke-si menen **jaša-p** **jür-ö-t.** (kabarordo.)
紙-3:POSS ない シャリヤ 結婚-3:POSS と 住む-CVB jür-PRS-3SG
「オシュ市の若い家族の約 60 パーセントは法律上の結婚証明書無しで、シャリヤ (イスラム教の法) 結婚法のもと一緒に**暮らしている**。」

なお、**V-(i)p jür-** 形式の場合に特徴的なのは、まず、動作の開始を表す副詞相当句と共に起して現れることである。時間の起点や終点を明示して表す **beri** (～から)、**čeyin** (～まで) を含む副詞相当語句が使用されることがある。これらの副詞相当句が **jür-** と共起する場合、主体の長期にわたる〈動作の進行〉の意味が補強される。

- (155) Agam-dın dos-u köp jıl-dan beri čet ölkö-dö **ište-p** **jür-ö-t.** (super.kg)
兄-GEN 友人-3:POSS 沢山 年-ABL 外国-LOC 働く-CVB jür-PRS-3SG
「兄の友人はもう大分前から外国で**働いている**。」

- (156) Men bul sözün köpkö čeyin **unut-pa-y** **jür-dü-m.** (A.s.k)
私 この 言葉-3:POSS 長い間 まで 忘れる-NEG-CVB jür-PAST1-1

「私は（彼）の言葉をいつまでも忘れないでいた。」

- (157) Kōrsō al ěki jıl-dan beri men-i **alda-p** **jür-üptür** (super.kg)
見る-COND 彼 二年-ABL から 私:ACC だます-CVB jür-PST3
「彼は二年前から私をだましていたみたい。」

- (158) Dos-u köp-tön beri čet ölkö-gö işte-p kel-genge **čakır-ıp** **jür-gön**. (Bötön j. b.)
友人-3:POSS 長い間-ABL 外国-LOC 働く-CVB 来る-CVB 呼ぶ-CVB jur-PAST3
「友人はずっと前から外国で働くように私を呼んでいた。」

- (159) Rasim mırza, men siz-di köp-tön beri **süy-üp**
PSN ミスター 私 あなた-ACC たくさん-ABL 前から 愛する-CVB
jür-gön bir jaš kiz-mın. (Tuyuk mahabat)
jur-PART 一人 若い 女-ISC
「ラシムさん、私はあなたをずっと前から愛している一人の女です。」

jür-は、次の(160)のような sayın（毎回）、(161)のような anča-mınča（小数）などのような動作の頻度を示す副詞と共起する場合、〈動作のくりかえし〉の意味を表わす。

- (160) Kečki jumuš-u bütö-ön sayın biz-dikine **kel-ıp** **jür-dü**. (P.b.)
夜 仕事-3:POSS 終わる-PART ごと 私達-DAT 来る-CVB jür-PST1
「夜の仕事の帰りごとに私達のところに来ていた。」

- (161) ...kiz kez-i-nde šaar-ga ket-ıp, kiyin okumuštuu
女 時期-3:POSS-LOC 都会-DAT 行く-CVB 後 学者
bol-gon-u-n anča-mınča **ug-up** **jür-gö-m**. (Birinči mugalim)
なる-VN-3:POSS-ACC 何回か 聞く-CVB jür-PST2:1SG
「...少女時代に都会に行き、その後学者になったことを何回か聞いていた。」

以下の(162)～(165)のような例は、過去において行われた長期間にわたる〈動作の進行〉を表す。

- (162) Ėl ürk-üp ket-ken-den kiyin Tüp-tün bay-ları, kirkiz
民 逃げる-CVB ket-PAST-ABL 後 チュプ-GEN 金持ち-PL キルギス
jeri-ne kel-ıp, čöp čaap, **ėgin** **sal-ıp** **jür-čü ėken**. (Kiyin kezen)
土地-DAT 来る-CVB 草 刈る-CVB 種まき 入れる jur-PAST3 MOD

「人々が逃げてしまった後チュプの金持ちがキルギスの地に来て、草を刈って、農業
 していたそうだ。」

- (163) Ošondoy kenen imeriliš-tin birinde ördögü jok, kazı jok atayılap
 そのような 広い 湖-GEN 一つ-LOC アヒル 無い ダック 無い わざと
 irge-p koy-gon-doy bir öñčöy ak kuu-lar **süz-üp jür-gön eken.**(K. š)
 選定する-CVB 置く-のように 同色 白鳥-PL 泳ぐ-CVB jur-PAST2 MOD
 「そのような大きい湖なのにアヒルもダックもいなく、選ばれたかのように白鳥だけ
 が泳いでいた。」

- (164) Kočkor-Ata-nin öndür-ün **kidir-ip jür-üş-üp**
 コチュコル アタ-GEN 草原-ACC 歩き回る-CVB jur-RECP-CVB
 bir da toodak tap-pa-y koy-uš-tu. (Kara šumkar)
 一つ も 野生のカモ 見つかる-NEG-CVB 置く-RECP-PAST1
 「コチュコル・アタの草原を歩き回っても、一匹の野生のカモも見つからなかった。」

- (165) Činikan kel-gen-de Toktosun tur-up,
 PSN 来る-PART-LOC PSN 立つ-CVB
 arı-beri **bas-ip jür-gön.** (Küyümdüü jurök)
 あちこち 歩く-CVB jür-PST2
 「ティニカンが来た時、トクトスンは立って、あちこち歩いていた。」

4.2 本動詞が変化動詞の場合

V-(i)p jür-形式の場合、本動詞は動作動詞が圧倒的に多いが、変化動詞も少なからずある。変化動詞の場合、以下の(166)～(170)が示すように、基本的に主体の動作が終わった後に生じる〈変化の結果の状態〉の意味を表す。こうした場合、jür-は本来の語彙的な意味としての「動く」の意味ではなく、補助動詞として〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表すのに大きく関わっている。また、V-(i)p jür-形式では、これまでの補助動詞とは異なり、人が主語となる文が多い。

- (166) Basa men da ušunday bol-or-un bil-ge-m,
 ちなみに 私 も このように なる-FUT-ACC 知る-PAST2-1SG
 bul Uzak-ti **azgir-ip jür-ö-t.** (Durbölön zaman)
 これ PSN-ACC 誘惑する-CVB jur-PRS-3SG
 「これはウザクを誘惑しているとちなみに私もこのように思っていた。」

(167) El-di **büldür-üp** **jür-gön** kişi-ler jakında toluk
 民-ACC 不和にする-CVB jur-PART 人-PL 近い内 完全
 karmal-ıp jaza-sın tart-a-t. (Durbölöj zaman)
 捕まえる-CVB 罪-3:POSS-ACC 取る-PRS-3SG

「国民を不和にしている人々は近いうちに罪を問われる。」

(168) Ilgerte-den beri **bayla-p** **jür-gön** jara-sın bugün sirtı-na
 昔-ABL 結ぶ-CVB jur-PART 傷-3:POSS-ACC 今日 表-DAT
 aqtar-ıp čığar-ıp, köz aldı-na jayna-tıp sal-ganday bol-du. (D.Z)
 裏返す-CVB 出す-CVB 目 前-DAT 広げる-CVB しまう-のよう なる-PAST1

「昔から残っている心の傷を今日は表に出し、目の前に広げてしまったようになった。」

(169) Alistagı biyik bet-te **jayıl-ıp** **jür-gön** koylor
 遠い 高い 側-LOC 広がる-CVB jur-PART 羊-PL
 jibıra-gan kurt-tay bol-up körün-ö-t. (Durbölöj zaman)
 はびこる-PART 虫-のよう なる-CVB 見える-PRS-3SG

「遠くの高いところに広がっている羊ははびこった虫のように見える。」

(170) Satkın ğene-si-nen kal-gan čepken-di
 PSN 母-3:POSS-ABL 残る-PAST ジャケット-ACC
 köpkö čeyin **kiy-ıp** **jür-gön.** (Jortuul)
 長い まで 着る-CVB jür-PST2

「サトクンはお母さんが残したジャケットを着ていた。」

この(170)と次の(171)の場合、長時間にわたり、ずっと着ていたという点で主体における〈変化の結果の状態〉の意味を表す。

(171) 1937-38 jıl-darı Aalı menen Tümonbay kamalar-da da dal uşunday
 1937-38 年-PL PSN と PSN 逮捕される-PART-LOC も この ような
 ğski čepken **kiy-ıp** **jür-üş-kön** tüş-üm-dö. (M m j j)
 古い ジャケット 着る-CVB jur-RECP-PAST2 夢-1:POSS-LOC

「私の夢の中で 1930 年代にアールとトムンバイは逮捕される前にこのような古いジャケットを着ていた。」

(172) Al nečen jil-dan beri uşunday at menen **atal-ïp jür-ö-t.** (Çagılğan)
 彼 いつ 年-ABL このような 名前 と 名付けられる-CVB jür-PRS-3SG
 「彼はもう大分前からこのように名付けられている。」

(173) Čoñ apa-m-din süröt-ü men-de oşol
 大きい 母-1:POSS-GEN 写真-3:POSS 私-LOC その
 boydon **sakta-l-ïp jür-ö-t.** (Alıkuldu süygön kız)
 まま 保管する-PASS-CVB jür-PRS-3SG
 「お婆さんの写真はそのまま保管されている。」

(172)と(173)の用例では、本動詞は受け身形で用いられ、〈変化の結果の状態〉の意味を表している。このような意味を表すためには、主語は物であることが必要である。

4.3 本動詞が状態動詞の場合

V-(i)p jür-形式には本動詞として状態動詞が使われる用例が見られない。これは補助動詞の jür-がもともと本動詞として「動く」という意味をもっていることに起因していると思われる。すなわち、本動詞の状態性と補助動詞 jür-がもつ動作性とが相容れないと考えられる。

4.4 本動詞が内的感情動詞の場合

V-(i)p jür-形式において本動詞として内的感情動詞が補助動詞の jur-とともに使用される場合、(174)～(181)が示すとおり主体の長期にわたる〈心理的な状態〉を表す。

(174) Ini-si ěköö tayake-si-nin üy-ün-dö aşıkcä bol-up
 弟-POSS:3 二人 伯父さん-3:POSS-GEN 家-3:POSS-LOC 余り なる-CVB
 jat-kan-yn köpt-ön beri **sez-ip jür-ö-t.** (superinfo)
 jat-PART-ACC 長い間-ABL 前から 感じる-CVB jur-PRS-3SG
 「弟二人は伯父さんの家では必要でないことを前から**感じている**。」

(175) 31-jil-dan kiyin jürök ooru-dan **japa čeg-ip**
 31 年-ABL 後 心臓 病-ABL 苦しむ-CVB
jür-gön čal-din salamat-tigi-na kara-p, Yačevskiy-ler 1932-jili
 jur-PART お爺さん-GEN 健康-3:POSS-ACC 見る-CVB PSN-PL 1932 年
 kišin-da Vilne-de jaša-š-ti. (Emne üçün)
 冬-LOC ビルネ-LOC 住む-RECP-PAST1
 「1931 年から心臓の病気で苦しんでいたおじいさんの健康のためにヤチェヴスキー家

は冬にはビルネに住んでいた。」

- (176) Ubagında Salijan Jigitov kīrgīz-ga uluttuk jana mamlekettik degen
時期 PSN キルギス人-DAT 国民 と 国家 という
söz-dün maani-mañjīzīn čačīrat-īp **tūšūndūr-ūp jūr-ūp** öt-ūp ket-ti. (Kutbilim)
単語-ABL 内容 溢れる-CVB 説明する-CVB jur-CVB 通る-CVB 行く-PAST1
「サリジャン・ジギトフは国民と国家という単語の意味をずっと詳しく説明し続け
て他界してしまった。」

- (177) Jardam bermek tūgūl «a baykuš, buga ėmne-sin ber-e-t» de-p,
手伝い あげる より 可哀相に この人-DAT 何-3:POSS あげる-PRS-3 言う-CVB
kay birōō Kōkūmbay-ga jolo-bo-y sīrt sal-īp **ušakta-p jūr-ō-t.**
ある 人 PSN-DAT 近づく-NEG-CVB 外 入れる-CVB 噂言う-CVB jur-PRS-3SG
「手伝うことはなく「可哀相にこの人に何をしてあげられるだろう」とある人はコクムバイ
に近づかないで、陰で噂をしている。」

- (178) Kudaybergen da bir kōr-sō-m de-p, ėkōō tej
PSN も 一 見る-COND:1SG と言う-CVB 二人 とも
biri-biri-ne **ėjse-p jūr-ūš-čū.**
お互い-DAT 会いたがる-CVB jur-RECP-PAST3
「クダイベルゲンも彼女も二人ともお互いに会いたがっていた。」

- (179) ...atagī alīsta-p ket-ken Tomo degen münūškōr-dū kōr-sō-m
名前 遠く行く-CVB 行く-PART PSN と言う ホーカー-ACC 会う-COND-1
de-gen-de **ak ėt-ken-den tak ėt-ip jūr-gōn** kez-i-m.
言う-PART-LOC 待ち通す-CVB jūr-PART 時期-1:POSS
「有名なトモという人に会いたいと夢見ていたときだった。」

- (180) Apa, maga kōp-tōn beri bir nerse-ni ayt-a al-ba-y
母 私-DAT 長い-ABL から 一つ もの-ACC 言う-CVB 取る-NEG-CVB
kīynal-īp jūr-ō-süz, balkim ayt-ar-sīz. (super.kg)
困る-CVB jur-PRS-2SC 多分 話す-FUT-2SG
「お母さん、何か言いたいことを言えずに困っているの?良かったら話してくれない?」

- (181) Biz anin čet-jaka-si-n ug-up ayabay okün-üp jür-dük. (M.m. j. j)
 私達 それ-GEN 少し-3:POSS-ACC 聞く-CVB とても 後悔する-CVB jur-PAST1
 「私達はそれを少しだけ聞いてとても後悔していた。」

4.5 まとめ

第4節では、V-(i)p jür-形式に現れる文法的な意味について考察してきた。本動詞が動作動詞の場合、基本的に長時間にわたる〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。これまでの補助動詞と異なり、補助動詞の jür-がもつ語彙的な(動く)という意味は文法的な意味にそれほど影響していないと考えられる。それは(動く)の意味からくる「動きながら何かをする」という意味の性質に起因するものだと思われる。その裏づけとして、主語はほとんど人であり、物が主語である用例は見られなかった。

また、文中に現れる期間を規定する副詞によって〈動作のくりかえし〉という文法的な意味が表される。さらに、文中に副詞が現れなくても「ずっと、途切れなく」というニュアンスが含まれている用例があることも確認した。

変化動詞の場合には、〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表すが、変化動詞の数は動作動詞よりも少ない。本動詞が受け身形をとり、物が主語である場合には〈変化の結果の状態〉の意味を表す。

V-(i)p jür-形式において特徴的なのは補助動詞の jür-が状態動詞と結合できないことである。

最後に内的感情動詞の場合、長期間にわたる〈心理的な状態〉という文法的な意味を表す。そして、他の補助動詞と同様に、過去形でも使用されることが確認できた。

5. 第2章のまとめ

この章では、「V-(i)p jat- 補助動詞」の形式に焦点を当て、補助動詞の jat-、tur-、otur-、jür-が本動詞である動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞とどのように結びついて、それぞれの文法的な意味を表すかについて考察した。例えば、一般に補助動詞は本動詞の動作動詞と結びついて〈動作の進行〉、変化動詞と結びついて〈変化の結果の状態〉という文法的な意味が表される。しかし、これらの文法的な意味以外に、文中での語彙的・文法的な条件によって、〈動作のくりかえし〉や〈変化の結果の状態〉を表す場合がある。この第2章を締めくくりに当たり、V-(i)p jat- 形式、V-(i)p tur- 形式、V-(i)p otur- 形式、V-(i)p jür- 形式という4つの場合に分けて、こうした文法的な意味および文中での語彙的・文法的な条件によって生じる意味についてまとめることにする。

[1] V-(i)p jat- 形式の場合

補助動詞の jat- は、他の補助動詞と同様に本動詞として単独で用いられる場合、語彙的な意味を表す。jat- (横たわっている) は状態動詞で、文中に場所を示す位格名詞をともなって、「divan(ソファ)+da(位格) jat-a-m(「横たわっている」-現在形接辞-人称語尾)」という形式で用いられる場合には「ソファに横たわっている」という状態を表し、語彙的な意味で使われる。その一方で、V-(i)p jat-形式において jat-が補助動詞として用いられる場合は、他の補助動詞よりも文法化が進んでおり、他の補助動詞と比べて汎用性があるといえる。

V-(i)p jat-形式は、基本的に動作動詞が用いられる場合、〈動作の進行〉や〈動きの持続〉を表し、変化動詞の場合は〈変化の結果の状態〉を表すことを様々な用例で確認した。しかし、変化動詞の場合には、ある状態は現在進行中なのか、結果として眼前に残っているのかによって〈動作の進行〉と〈変化の結果の状態〉の両方の文法的な意味を表せることもある。文中に kündö (毎日) などのように動作の頻度を表す副詞が現れると、V-(i)p jat-形式は、〈動作のくりかえし〉という文法的な意味を表す。また、V-(i)p jat 形式はほとんどの動詞と結合できるが、結合できない動詞も少なからずある。それは、「見つける」、「似る」、「知る」などのような結果の面だけを問題とする動詞類である。

そして、他の補助動詞と同様に jat-に過去形の接辞-di/-kan/-iptir/-ču が後接することによって過去において行われた〈動作の進行〉や〈動作のくりかえし〉を表す。また、jat- に-kan 分詞+bol-o-t(「なる」動詞に単純現在形接辞が付加されたもの)が後接する形式については、未来において行われる〈動作の進行〉を表す用例を示し、既存の文法書では現在形の一部として定着しているとの記述があるのに対して異をととえ、これらの補助動詞は現在形ではなく、過去形でも未来形でも使用されることを示した。

以下、jat-とともに用いられる本動詞の特徴について述べる。特に、動作動詞の代表として移動動詞を例に挙げる。移動動詞は以下の3つのグループに分けることができる。

① 移動動詞-(i)p jat- 形式で現れる場合

移動動詞が本動詞として現れる場合、補助動詞の jat- は、(182)が示すとおり現在における〈動作の進行〉を表す。下の(183)の tur-と(184)の jur-と比較してみると、(183)の場合は、定期的に「来ている」という意味になり〈動作のくりかえし〉の意味を表す。(184)の場合は、「ずっと前から来ている」という意味になるが、「話し手に見えないように来ている」という微妙なニュアンスが感じられる。なお、この場合に otur-を用いることはできない。

- (182) Šayloo-ču-lar dobuš berüü-gö kel-ip jat-iš-a-t. (super.kg)
投票-者-PL 投票 あげる-VN-DAT 来る-CVB jat-RECP-PRS-3PL
「投票者達は投票するのに来ている。」

(183) Šayloo-ču-lar dobuš berüü-gö **kel-ip** **tur-uš-a-t.**
 投票-者-PL 投票 あげる-VN-DAT 来る-CVB tur-RECP-PRS-3PL
 「投票者達は投票するのに来ている。」

(184) Šayloo-ču-lar dobuš berüü-gö **kel-ip** **jür-üş-ö-t.**
 投票-者-PL 投票 あげる-VN-DAT 来る-CVB jür-RECP-PRS-3PL
 「投票者達は投票するのに来ている。」

② V-(i)p 移動動詞-(i)p jat- 形式で現れる場合

この「V-(i)p 移動動詞-(i)p jat-形式」は、「移動動詞-(i)p jat-形式」と同様に、複数主語による用例がほとんどである。これらの用例でも、jat-は、主体の〈動作の進行〉の意味を表す。

(185) Alip-satuuču-lar arzan unaa-lar-dī
 買う- 売る-者-PL 安い 車-PL-ACC
 Rossiya-dan **al-īp** **kel-ip** **jat-iš-a-t.** (barakelde.kg)
 ロシア-ABL 取る-CVB 来る-CVB jat-RECP-PRS-3PL
 「商売者はロシアから安い車を運んで来ている。」

(185)の jat-は、tur- (立つ) と jür- (動く) に置き換えると、tur-は〈動作のくりかえし〉、jür-は「ずっと前からしている」という意味を表すが、otur- (座る) は使えない。

③ 移動動詞₁V-(i)p 移動動詞₂-(a/e) jat-] 形式で現れる場合

jat-は bar (行く) と kel (来る) という移動動詞と組み合わせると、baratat と keltat このように音韻縮約した形で使われ、上記の①、②とは対照的に文法化が進んでいると言える。全体として動作のある方向に向かって進行していることを表す。

(186) Kün **batip** **bar-a** **jat-kan.**
 太陽 沈む-CVB 行く-CVB jat-PAST2
 「太陽が沈みつつあった。」

(187) Kün **čig-ip** **kel-e** **jat-a-t.**
 太陽 昇る-CVB 来る-CVB jat-PRS-3
 「太陽が昇りつつある。」

(186)と(187)は、補助動詞の jat-だけに見られる特徴で、他の補助動詞と置き換えることはでき

ない。また、V-(i)p jat-形式の場合、動詞の öl- (死ぬ) が現れるが、他の補助動詞の場合には現れない。

[2] V-(i)p tur- 形式の場合

補助動詞の tur-も本来は状態動詞で、本動詞として用いられる場合、(立っている) という意味で使われる。その場合、jat-と同様に場所を示す位格名詞を必要とし、「ėšik-(外)+te(位格) tur-a-t(「立っている」+現在形接辞+人称語尾)」という形式で「外で立っている」という状態を表す。

動作動詞に tur-が後接すると、「ある一定の時間における〈動作の進行〉」という文法的な意味を表し、主体の立って行くことができる活動動作を表す動詞が用いられることが多い。したがって(188)は「立って見ていた」という意味が含まれ、tur-に後接している過去形の接辞-du によりその動作が一定の時間内継続されたことを表す。

- (188) Kız aldī-nda tur-gan adam-ga išen-erin je išen-be-sin
女性 前-3:POSS-LOC 立つ-VN 人-DAT 信じる-ACC また 信じる-NEG-ACC
bil-bey tikte-p tur-du. (super.kg)
知る-NEG-CVB 見る-CVB tur-PAST1
「女性は前に立っている人を信じてよいのか信じてはならないのかが分からないまま見ていた。」

次の用例は、「スポーツクラブに通う」動作が毎日繰り返して行われることを表している。

- (189) Men sport klub-da tin-ba-y mašig-ip tur-a-m. (super.kg)
私 スポーツクラブ-LOC 休む-NEG-CVB する-CVB tur-PRS-1SG
「私はスポーツクラブに休むことなしに通っている。」

一般に各補助動詞形式における変化動詞は、動作動詞の次に多く現れることが分かった。無意志的な状態変化を表す動詞は、本論文が取り上げている4つの補助動詞の場合に現れている。このタイプの動詞が最も多く出現しているのは、V-(i)p tur-形式の場合である。主語が物で本動詞が瞬間動詞の場合、〈変化の結果の状態〉を表す。例えば、svet küyüp turat「電気がついている」、tereze açılıp turat「窓が開いている」、mašina toktop turat「車が止まっている」などである。

しかし、tur-の語彙的な意味が読み取れない用例も数多くある。次の arilt- (忘れさせる) は必ずしも立って行っている動作とはいえない。この場合、ある一定の時間における〈動作の進行〉を表す。

- (190) Orkestr-din muzika-si köñül-dü kök-kö uçur-up,
 オーケストラ-GEN 音楽-3:POSS 気分-ACC 空-DAT 飛ばせる-CVB
 dilkaygı-dan arılt-ıp tur-du. (Toolor kulaganda)
 悲しみ-ABL 忘れさせる-CVB tur-PAST1
 「オーケストラの音楽は気分を盛り上げて、悲しみを忘れさせてくれた。」

[3] V-(i)p otur- 形式の場合

補助動詞の otur-も状態動詞で、本動詞として用いられる場合、(座っている)の意味で使われる。その場合、jat-と tur-の本動詞の用法と同様、場所を示す位格名詞を必要とし、「stul-(椅子)+da(位格) otur-a-t(「座っている」+現在形接辞+人称語尾)」という形式で「椅子に座っている」という状態を表す。

V-(i)p otur-形式は、基本的に、座って行うことができる主体の活動動作を表す動詞の場合、主体のある時点における〈動作の進行〉の意味を表す。しかし、語彙的な意味としての(座っている)が読み取れない用例も存在する。たとえば、(191)のような kel- (来る)という動詞の場合、必ずしも座って行っている動作とはいえない。この場合には、〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表し、同時に他の補助動詞と異なり、モダリティ的な意味を表す。この場合、何らかの出来事が起こり、そうしたやむをえない状況の結果として「ここに来ている」という意味になる。

- (191) Mın-dan bölök korgo-lor jer-im jok
 これ:ABL 以外 守る-PART 地-1SG:POSS 無
 bol-gon-duk-tan kel-ıp otur-a-m. (Boorondun күntü)
 なる-PART-duk-ABL 来る-CVB otur-PRS-1SG
 「ここ以外に身を守る場所がないため、来ている。」

- (192) Menin bul katı-m dağı abdan keç jazıl-ıp otur-a-t.
 私-GEN この 手紙-1POSS また とても 遅い 書く-PASS-CVB otur-PRS-3SG
 「私のこの手紙も非常に遅れて書かれている。」

(192)の物主語の場合、結果として手紙が話し手の目の前にあり、遅く書かれたことに対して後悔の意味を含意し、〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表すことになる。

このような用例が otur-には数多く見られ、otur-形式の特徴だといえる。

状態動詞は、擬態的な動詞と、otur-と tur-の場合に現れるのが特徴的である。

- (193) Anarhan **şilkîy-îp** **otur-du.**
 アナルハン 下向く-CVB otur-PST1
 「アナルハンは下を向いて座っていた。」

上の用例では、下を向いた状態のままで「座っている」という行為をしたことを表す。つまり、otur-にとって付帯的な状況である。この場合、主体の〈付帯的な状態〉を表すと位置付けた。この用例では、otur-は本動詞であるのか、補助動詞であるのかが明確に規定できない。

- (194) Ata-bala **süylö-ş-üp** **oltur-up,** **üy-lör-ü-nö** **kanday**
 父 子 話し合う-CVB otur-CVB 家-PL-3:POSS-DAT どう
 jet-ken-in bil-be-y kal-iş-tî.
 着く-PART-ACC 知る-NEG-CVB 残る-RECP-PAST1
 「親子は話し合っていて、家にどうやって着いたのかわからなくなりました。」

この(194)は otur-が従属節の中で用いられた例である。この場合、「座って話している」とは考えにくく、ある一定の時間内に動作が継続され、その結果として後件にくる新たな状態が発生するという意味を表している。このような捉え方で使われる用例が多く見られる。

[4] V-(i)p jür- 形式の場合

補助動詞の jür-は、本動詞として使用される場合、「動く」や「いる」の意味で使われる。その場合には、補助動詞の jat-、tur-、otur-と同様、場所を示す位格名詞を必要とし、「mektep-(学校)+te(位格) **jür-ö-m**(いる+現在形接辞+人称語尾)」という形式で「学校にいる」という状態を表す。

V-(i)p jür-形式の場合、状態動詞以外のすべての種類の動詞が現れた。動作動詞の場合、主体の〈動作の進行〉という文法的な意味を表わす。主語についていえば、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-形式の場合に人と物が主語で現れるのに対して、V-(i)p jür-形式の場合は人主語が多い。

なお、V-(i)p jür-形式の場合に特徴的なのは、時間の起点や終点を明示して表す副詞 beri (～から)、çeyin (～まで) が使用されることである。これらは jür-と共起する場合、主体の長期にわたる〈動作の進行〉の意味が補強される。それと同時にモダリティ的な意味を表す。

第3章 日本語とキルギス語の従属節のテンス・アスペクト

0. 本章の概要

従来、日本語のアスペクト研究の中心は主節における述語のテンス・アスペクトを対象にしたもの、あるいは、「スル」と「テイル」といった形態的に対立する表現に関する研究が主流であったが、本章では従属節のテンス・アスペクトに注目する。キルギス語学の分野でも、主節の位置のテンス・アスペクト形式について研究がある程度進められているが、従属節についての議論は主節ほど活発に行われていない。そこで手順としては、日本語から出発して、キルギス語の従属節のテンス・アスペクト形式の特徴を見ていき、そこから日本語の従属節におけるテンス・アスペクトの特徴を改めて見ることに少し触れる。

1. 日本語の従属節のテンス・アスペクト

日本語には時間を表す副詞節として、トキ(ニ)、アイダ(ニ)、マエ(ニ)、アト(デ)などで終わる従属節がある。時間を表す従属節を含む複文が複数の出来事の様々な時間関係を表して、主節、従属節の述語のテンス・アスペクトが絡み合ってくる。そうした時間を表す副詞節に現れる動詞のテンス・アスペクトは、日本語学習者にとって習得しやすくはない。特にトキ節の場合、多岐にわたる複雑な様相を呈している。マエ(ニ)とアト(デ)は、複数の出来事の時間的前後関係を表すのに使われ、主節時基準⁴⁹の違いによってル形とタ形を使い分けている。一方、トキ節には、「スルまえに」、「シタあとで」とは異なり、ル形やタ形のみならず、スル形、シタ形、シテイル形、シテイタ形など様々な形式が現れる。また、主節時基準と発話時基準の両方が許容されることもあるため、学習者が悩まされる。これらの副詞節は上記の格助詞の有無によっても使い分けがある(寺村 1983、益岡 1997、岩崎 1993)ため、理解がさらに困難になる。

(1) a 本を読んでいる時に、友達から電話がかかってきた。(主節時基準)

b 本を読んでいた時に、友達から電話がかかってきた。(発話時基準)

(1a)では従属節のテンスが「読んでいる」というように「テイル」形になっているのに対し、(1b)では「読んでいた」と「テイタ」形になっている。それぞれの違いは、(1a)では従属節の「本を読んでいる」という事態が、「友達から電話がかかってきた」という主節時から見て、同時であるとして「テイル」形になっている。(1b)では従属節の事態が、発話時から見て過去として「テイタ」形になっている。(1a)のように従属節のテンスが主節時を基準にして従属節事態が前か後かあるいは同時かを表すものが相対的テンスであり、(1b)のように、従属節のテンスが発話時を基準にして従属節が前か後かあるいは同時かを表すものが絶対的テンスである。

⁴⁹ 主節の時間を基準に従属節のテンスを判断する場合を主節時基準という。一方、発話時の時を基準に従属節のテンスを判断する場合を発話時基準という。

「トキ」節に関する先行研究として寺村（1984: 322-323）は、次のように述べている。

英語では‘テンスの一致’の法則によって、主節の動詞が過去形のときは

‘when・・・’節の動詞は現在形で使えないが、日本語では、たとえば、

〔9〕 a 日本へ来ルトキ、友ダチが空港マデ来テクレタ

b 日本へ来タトキ、友ダチが空港マデ来テクレタ

の両方とも可能であり、しかも両者は明瞭に異なる内容を表わしている。主人公がたとえばタイ人だとすると、〔9〕 a の空港はバンコック、〔9〕 b のそれは羽田か伊丹ということになる。つまり、ここでは下線の‘現在形’は主節の動詞の表わしている時点（この場合は過去）において‘来ル’という動作・でき事が未だ完了していないことを、‘過去形’はそれが完了していたことを表わしている。つまりテンス的対立でなくしてアスペクト的対立である。

この寺村(1984)は、従属節と関わりがあるタ形の意味をどう考えるかという問題と取り組んでいる。基本的に、タ形の意味を①過去だけとするもの、②完了だけとするもの、③過去と完了の両方とするものという3つの立場があるが、現在の主流の考え方は③となっていると言える。このように、トキ節の研究に当たっては、出来事の様々な時間関係を表すテンスとアスペクトが絡み合っているため、これらも慎重に考えなければならない重要な課題となっている。

工藤（1995: 222）では、〈表 11〉が示すように、時間関係を表す複文について、時間的順序性（タクシス）と時間的枠づけ方の観点からトキ節のみならず他の節の場合も含めて次のように体系化している。

〈表 11〉

| | | 時期 | 期間 |
|--------|---------|-------|--------|
| 共起（同時） | | トキ（ニ） | アイダ（ニ） |
| 継起 | 後続（-先行） | マエ（ニ） | マデ（ニ） |
| | 先行（-後続） | アト（デ） | カラ |

時間を表す従属節は、従属節の出来事と主節の出来事の時間的順序関係の観点から、共起的時間関係を表すグループと継起的時間関係を表すグループに分けている。また、時間的枠づけ方の観点から、主節の出来事の成立時期を限定するものと、成立期間を限定するものに分けている。さらに、継起的時間関係を表すグループには後続を示すものと先行を示すものがあるとしている。

本研究では、この分類の方法に従って後ほどキルギス語との比較対照を行う。なぜなら、両言語を比較対照する上で、次の理由でこうした分類方法が適切だと考える。複数の出来事間の様々な時間関係を表す共起性（同時性）を伴う表現として「トキ」、「アイダ」があり、継起性を伴う表現として「マエ」、「マデ」、「アト」、「カラ」があり、これらの表現は主節・従属節のテンス・アスペクト性と相関している。したがって、両言語の複文においてそれぞれの時間関係

を表すためには、この分類がそれぞれの分析に欠かせない視点であると考えからである。

そして工藤（1995: 229）は、主節、従属節の出来事のアスペクトと出来事間の時間関係を時間的限界のアスペクト的観点から大きく次のように2つに分類している。

〈表 12〉

〈アクチュアルな時間的限界有〉

〈アクチュアルな時間的限界無〉

| A | | B | |
|-----------------|------------------|---------|---------------------|
| 運動動詞完成相 | | 運動動詞持続相 | |
| A.1 限界動詞 完成相 | A.2 非限界動詞 完成相 | 運動動詞持続相 | 存在動詞 形容詞 名詞述語 |

開く、割れる、止まる、濡れる、 歩く、回る、遊ぶ、動く、降る 開いている、行っている、 いる、ある、
 入る、行く/開ける、割る たたく、押す、見る、読む 止まっている、開けている、 痛い、忙しい、
 （以下 A、B に入る動詞などを一部省略）

A に属するものは運動動詞完成相で、さらに A.1 のような限界動詞と A.2 のような非限界動詞に分類される。一方、B に属するものは①運動動詞の持続相及び、②「スル」と「シテイル」のアスペクト対立のない存在動詞、形容詞、名詞述語である。

以上の A（運動動詞完成相）と B（運動動詞持続相）は、工藤（1995: 231）の時間の従属節（工藤は従属文としている）において主節のアスペクトと次のように相関していると述べている。

〈主文の述語〉

- 時期 トキ、マエ、アト A、B
トキニ、マエニ、アトデ A
- 期間 アイダ、マデ B (A.2)
アイダニ、マデニ A

時期を表す従属文において、ニまたはデがない場合は、どのようなタイプも主文の述語に来ることができるが、ニ（デ）がある場合は、基本的に A（運動動詞の完成相）に限られるとし、期間を表す従属文においては、ニがつかない場合は B または A.2 のタイプに限定され、ニがある場合は A に限定されると説明している。

一方、工藤（1995: 233）では従属文のアスペクトとの相関性については以下のように示している。

<従属文の述語>

| | |
|-------------------|-----|
| 同時性 (トキ、アイダ) | A、B |
| 継起性 (マエ、マデ、アト、カラ) | A |

継起性を表す場合には、従属文の述語は A (完成相) に限定されるが、一方、同時的時間関係の場合には、従属文の述語は A、B どちらも可能である。これに対し、テンスと時間に関する従属文と主文の相関性は、主文の述語は発話時との時間関係を表し、従属文の述語は、主文の出来事時との時間関係を表す。従属文の述語が表す時間的意味には、2つのタイプが生じると述べている。

1. 「マエ、マデ、アト」のような<継起的関係>の場合は、主文の出来事時を基準とする<相対的テンス>が前面化される。「トキ、アイダ」のような時間関係の場合のシテイル形式も発話時ならぬ<主文の出来事との同時性>という相対的テンスとなるがゆえに、過去のことではあっても「昨日デパートで買い物をしているとき、財布をとられた」のように言える。

2. 「トキ、アイダ」のような2つの出来事が<同時関係>にむすばれている場合に、従属文の述語としてスル形式、シタ形式が使われたときは、「マエ、マデ、アト」のような継起関係にある場合と異なり、主文の出来事時よりあと、あるいは出来事時よりまえという相対的テンスの意味を実現しえなくなつて、<限界達成前の段階－限界達成後の段階>というかたちでのアスペクト対立が前面化される。

学校に行くとき、鐘が鳴っていた。 <限界達成前の段階と同時>

学校に行ったとき、鐘が鳴っていた。 <限界達成後の段階と同時>

こうして、従属文の述語は、発話時との時間関係は主文にまかせて、主文の出来事との時間関係を表すことを基本的任務とすることになる。そしてこのことによって、2つの出来事を1つの文の中に統一的にまとめあげるのである。

(工藤 1989: 174-175)

そして、工藤 (1989: 21-22) はこうした対立が「テキスト (discourse)」のタイプが関係するとして、次のように述べている。

従属文におけるスル、シタ、シテイル、シテイタの基本的使命は、その機能上主文の出来事時との時間関係をしめすことである。従って、従属文のテンス＝アスペクト対立の仕方にいくつかのバリエーションがあったとしても以上のすべてにおいて、発話時からぬ主文の出来事時との時間関係を問題とするという<相対的テンス化>の原則が働いている。2つの出来事を1つの文にまとめあげるとすれば、従属文の述語がこのような意味＝機能をもってくるのは必然であろう。スル－シタ

がアスペクト的に対立する場合でも主文と従属文との時間関係が同時であるということが前提として存在する。にもかかわらず、従属文が発話時との関係を直接的に表してしまう場合もある。この<絶対的テンス化>の現象は「シテイタとき」の場合を除けば、基本的に<はなしあい>にあらわれ、<かたり=他の文>には現れにくい。

さらに、三原（1992: 22）は従属節の時制に関して次のような視点の原理を提案している。

視点の原理（tense perspective）

- a. 主節・従属節時制形式が同一時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は発話時視点によって決定される。
- b. 主節・従属節時制形式が異なる時制形式の組み合わせとなる時、従属節時制形式は主節時視点によって決定される。

三原のこの原理をトキ節に当てはめると、前述の「本を読んでいる時に、友達から電話がかかってきた」は「テイル、テキタ」である主節と従属節が異なる時制の主節時視点で、「本を読んでいた時に、友達から電話がかかってきた」は「テイタ、テキタ」である同一時制の発話時視点となる。この原理の中心となるのは、主節・従属節で記述されている事態がどのような順序関係で行われているのかという点である。

以上が、寺村（1984）、工藤（1989、1995）、三原（1992）による日本語の従属節に関するテンス・アスペクトの先行研究である。こうした先行研究を踏まえ、先述した日本語の(1a)に見られる従属節の主節時基準（相対的テンス）と(1b)に見られる従属節の発話時基準（絶対的テンス）の例については、キルギス語では、日本語に見られるような(1a)と(1b)の区別をせずに、一括して以下の(2)～(5)の下線部のような表現が可能である。

- (2) Men kitep oku-p jat-kan-da dosu-m telefon čal-ıp kal-dī.
 私 本 読む-CVB jat-PART-LOC 友達-1:POSS 電話 かかる-CVB 残る-PAST1
 「私は本を読んでいる/いた時に、友達から電話がかかってきた。」

(2)では、キルギス語のテンス・アスペクトは「jat-補助動詞+kan 分詞+da 位格」によって表示され、発話時基準のみで使われている。そして、第2章で補助動詞が主に主節の述語である場合、どのようなアスペクト的な意味を表すのかを考察したが、周知のとおり、補助動詞jat-以外にjür-, tur-, otur-の使い分けがあり、従属節でも同様にこれらが接続して現れる。

- (3) Men kitep oku-p otur-gan-da dos-u-m telefon çal-ıp kal-dī.
 私は本 読む-CVB otur-PART-LOC 友達-1:POSS 電話 かかる-CVB 残る-PAST1
 「私は本を（座って）読んでいる／いた時に友達から電話がかかってきた。」

以上4つの補助動詞の中から jat-「横たわる」に加えて otur-（座る）が使われている。(3)の場合、「座って読んでいた時」の意味が強く残る。しかし、残りの jür-（動く）、tur-（立つ）は、(3)の用例に関して言えば使えないが、(4)の用例では使うことができる。

- (4) Men ötköndö uşul jer-de bas-ıp jür-gön-dö sen-i ěste-di-m.
 私は この前 ここ 場所 歩く-CVB jur-PART-LOC 君-ACC 思い出す-PAST1-1SG
 「私はこの間ここを歩いていた時、君のことを思い出した。」

- (5) Men jol-du kara-p tur-gan-da apa-m çakır-ıp kal-dī.
 私 道路-ACC 見る-CVB tur-PART-LOC 母-1:POSS 呼ぶ-CVB 残る-PAST1
 「私は道路を見ている／いた時、お母さんが呼んできた。」

以上の(3)~(5)は、それぞれは「座って読んでいる時」、「動きながら歩いている時」、「立って見ている時」のように補助動詞の語彙的な意味が関係してくるので、ある程度わかりやすい。一方、下の(6)のように抽象的な事柄について話す場合は、汎用性が高い jat-が用いられることが多い。

- (6) Oşon üçün önör-gö üyrön-üp jat-kan-da jana bilim aluu-da
 だから 技術-DAT 勉強する jat-PART-LOC と 教育 受ける-LOC
 ooz-du aç-ıp, ubakıt-ti tekke ketir-beş kerek. (Kabusname)
 口-ACC 開く-CVB 時間-ACC 無駄 行かせる-NEG 必要
 「だから勉強している／いた時に口を開けっ放しにして、時間を無駄にしない方がいい。」

- (7) Biz mektep-te oku-p jür-gön-dö kompyuter-di kantip
 私たち 学校-DAT 勉強する-CVB jur-PART-LOC コンピューター-ACC どうやって
 küygüz-ö-büz ěmne-ni bas-a-biz dep oylon-gučakti sabak büt-üp kal-ču.
 つける-PRS-PL 何-ACC 押す-PRS-PL と 考え-まで 授業 終わる-CVB しまう-PAST3
 「私たちは学校で勉強している／いたときにコンピューターをどうやってつけるか、何を押すかを考えているうちに授業が終わってしまっていた。」

このように、キルギス語は従属節にも4つの補助動詞は接続して現れる点が複雑であるかもしれないが、日本語学習者にとって、「トキ」節の時制を発話時基準で限定するキルギス語と比べて日本語の「トキ」節は複雑である。そこで第2節では、日本語のトキ(ニ)節から始め、第3節ではアイダ(ニ)節、第4節ではマエ(ニ)とアト(デ)節のテンス・アスペクトをめぐってキルギス語と比較対照しながら考察していく。

2. 日本語とキルギス語の従属節におけるテンス・アスペクトの比較対照

この第2節では、日本語とキルギス語の従属節の持つアスペクトの特徴について分析を試み、従属節の出来事と主節の出来事の時間的順序関係の観点から共起的時間関係を表す日本語のトキ(ニ)節とそれに対応するキルギス語の例を比較対照する。なお、同様に共起的時間関係を表すアイダ(ニ)節は第3節で行い、継起的時間関係を表すマエ(ニ)節、アト(デ)節を中心とした考察は第4節で行うことにする。

2.1 共起的時間関係を表すトキ(ニ)節

前述したように工藤(1995)では、「トキ」節を共起(同時)関係を表すこととし、マエ(ニ)やアト(デ)節が継起関係を表す場合と区別している。そして、継起性-同時性というタクシス関係(時間的順序関係)により、従属文の述語形式が、アスペクト的意味を実現するか、相対的テンス的意味を実現するか、絶対的テンス的意味を実現しうるかを決めていくと指摘している。このように主節のテンスに比べ、従属節のテンスは難しい問題を含んでいる。

- (8) a. 去年、ソビエトに行くときは、新潟からの船を使いました。
b. 去年、ソビエトに行ったときは、新潟からの船を使いました。

工藤(1989: 4)

以上の(8a)の下線が相対的テンス、(8b)の下線が絶対的テンスの例である。しかし、日本語は基準設定によって、一見同じ文に見える「ル・テイル」と「タ・テイタ」の選択の使い分けがあり、理解しにくい。特に相対的テンスを理解しないと、正しい日本語の文を作ることができない。主節の述語は発話時を基準とした絶対的テンスであるが、従属節の述語のテンスは主節の述語を基準として、それより前に起きているか、後に起きているか、または同時に起きているかを示す相対的テンスがある。このため、上記の副詞節のうち「トキ」節は非過去・過去の述語に接続し、主節が過去でも、従属節には非過去の「ル」が現れたり、逆に主節が非過去でも、従属節に過去の「タ」が現れることもあり、日本語学習者の誤用も多い。

寺村(1984)では、「トキ」節表現の一部しか取り扱っておらず、それ以外の用法についての分析が必要となる。そこで、本章ではキルギス語と対照を通して日本語の「トキ」節におけるテンス・アスペクトの使用実態を包括的に明らかにする。

まず、従属節としての「トキ」節と主節の可能な組み合わせを示してみる。具体的には、後続する主節に現れるテンス・アスペクトを示す表現のうち「ル」形の場合を A グループとし、「タ」形を B グループ、「テイル」形を C グループ、「テイタ」形を D グループとすると、各々グループの主節に先行する従属節としての「トキ」節にはテンス・アスペクトを示す表現がそれぞれ 1～4 までの 4 種類ある。これらをまとめると〈表 13〉のようになる。

〈表 13〉 日本語の複文における従属節と主節のテンス・アスペクト

| | 従属節 | 主節 |
|---|--|--------|
| A | 1. スルとき 2. *シタとき 3. シテイルとき 4. *シテイタとき | 「ル」形 |
| B | 1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. シテイタとき | 「タ」形 |
| C | 1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. *シテイタとき | 「テイル」形 |
| D | 1. スルとき 2. シタとき 3. シテイルとき 4. シテイタとき | 「テイタ」形 |

この表の従属節の中にある*の記号は、非文法的であることを表す。例えば、表中の A4 にある「*シテイタとき」は、主節が「ル」形の場合、それに先行する従属節内に「シテイタとき」が現れると非文法的であることを示す。この表に対応する日本語の例文は、以下の 2.2 節～2.5 節に示すことにする。

2.2 主節が「ル」形の場合

A1 スルとき

- (9) 子供たちは、年間を通してプールで遊び、卒園する時にはほとんどの子供たちが顔を水につけることができますようになります。（「福祉の地域づくりをはじめよう」）

- (10) Baldar jil boyu basseyn-ge tüš-üş-üp bakča-nī
 子供たち 年 ずっと プール-DAT 入る-RECP-CVB 幼稚園-ACC
 бүт-үп jat-kan-da köbünčösü bet-in suu-ga
 終わる-CVB jat-PART-LOC 多く 顔-3:POSS 水-DAT
 sal-gandī üyrön-üp kal-ış-a-t.
 入れる-PART-ACC 学ぶ-CVB 残る-RECP-PRS-3PL

(9) の日本語の文において、主節の動作と「トキ」節の動作の時間的前後関係を見ると、主節が示している「顔を水につけることができるようになる」のは従属節が表す「卒園する」前に起こる関係となっており、このような場合は「ル」形が使われている。それに対し、(10) のキルギス語では、構文として「顔を水につけることができるようになる」のは「卒園する」と同時に起こることを示している。しかし、主節に補助動詞の kal- (残る) が用いられることによって主節が示している事柄が「卒園する」前に起こるという意味が生じるため、(10) の文は全体として (9) の日本語と同様の解釈となっている。

A 2 シタとき

- (11) *せきをした時に寝ている赤ん坊が目がさめる⁵⁰。

- (12) Jötöl-gön-dö ukta-p jat-kan bala čoču-p ket-e-t.
 せきする-PART-LOC 寝る-CVB jat-PART 子 びっくりする-CVB 行く-PRS-3SG

用例の(11)では、従属節の「せきをした」の「タ」は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できない。一方、(12) のキルギス語では従属節に jat- が用いられず、「jötöl- (せきをす) の動詞語幹+-gön 分詞+-dö 位格」によって表され、主節は čoču-p ket-e-t のように単純現在形を用いることができる。さらに čoču-p ket-ti のように過去形を使用することができ、日本語の方は「咳をした時に寝ている赤ん坊が目を覚ました。」のように「タ」形の過去形を使用しないと不自然な文になってしまう。

A 3 シテイルとき

- (13) さらに、話をしているとき、純子はときどき目を伏せ軽く笑いかけた表情をする。

(『ある少年の愛と性の物語』)

- (14) Anan dagi süylö-p jat-kanda Jyunko keede
 そして も 話す-CVB jat-PART-LOC じゅんこ 時々

⁵⁰ この文は作例であり、日本語話者のチェックを受けている。

köz-dör-ün jašint-ïp külümdö-gön-süy-t.
 目-PL-3:POSS 伏せる-CVB 微笑む-PART-のように-3SG

- (15) 例えば日本のサラリーマンは会議室で会議をしているとき、あまり発言しない。
 (『気くばりのすすめ』)

(16) Misali Japoniya-nyn jumušču-lar-ï jïynališ
 例えば 日本-GEN サラリーマン-PL:3POSS 会議
 učur-un-da unčug-uš-pa-y-t.
 時-3:POSS-LOC 発言する-RECP-NEG-PRS-3SG

(13)と(15)日本語の用例においては、従属節は「話をしている」、「会議をしている」のシテイルが動作の進行を表し、それぞれの主節は「ル」形の肯定と否定が現れている文である。それぞれに対応するキルギス語の文は、(14)は süylö-p jat-kanda のように「補助動詞 jat-+kan 分詞」に-da 位格を後続させる形式と、(16)のような jïynališ učurunda (「名詞+トキ」という句で表されている。

A 4 シテイタとき

- (17) *さらに、話をしていたとき、純子とはときどき目を伏せ軽く笑いかけた表情をする。

A 4 「～テイタとき、～スル」というパターンは手元にあるコーパスを利用して調べてみたが、これに該当する用例は出てこなかった。三原(1992)の原理を用いて、文法的に合わない理由を述べる。三原(1992)の原理 b に従えば、主節にある非過去形の「ル」が従属節の過去形「タ」に影響を与えて、非過去の意味に解釈することが可能となると予測をする。しかし、事実は異なり、(17)は非文法的であるため三原(1992)の原理 b は成立しない。これを回避するためには、主節が「タ」形の場合に限り、原理 b が適用されるとするか、あるいは別の方法を考える必要がある。今のところ筆者はその答えが明確ではないが、非過去形の「ル」が主節時視点で従属節の過去形「タ」の時制を決定して非過去形の解釈を与えるほど強力ではなく、敢えてそうした解釈を与えようとするともとの意図から逸脱するということが関連するかもしれない。そして、(17)は A3 の「話をしているとき」を「話をしていたとき」に置き換えたなら非文になっているが、キルギス語は(14)の文と同じ文になり、従属節の形式は主節の時制に影響を与えず、主節は現在形あるいは過去形でも、非文にならない。すなわち、「V-(i)p+jat-kan-da」は過去、現在、未来の時間について中和していると言える。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「ル」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、A グループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点を概観してみる。

キルギス語の「トキ」を表す時間副詞節には、上記の「-gan 分詞+da 位格」以外に、動詞の語幹に「-gan 分詞+kezde/ubakta/učurda/mezgilde/maalda/čakta/čende」という位格と合体した様々な副詞が存在し、主節の動作・作用がどんな時に行われるかを表す (Oruzbaeva et al., Red 2009: 718)。これらはいかなる品詞と接続するかによって使い分けられている。例えば、「学生の時」のように名詞と接続すると student kezde のように使われる。しかし、「会議の時」だと kezde が使用できず、učurda 副詞に位格の前に所有接尾辞を付加させて、jıynalıš učurunda のように用いる。以下は、「トキ」の時間副詞節に対応して動詞に ubakta、učurda、mezgilde という副詞が接続した用例である。

- (18) Küz ay-lar-ï tol-up tur-gan ubakta, Kara-Alma tokoyu-nun
 秋 月-PL-3:POSS 溢れる-CVB tur-PART 時 カラ・アルマ 森-GEN
 körk-ü özünčö bir šumduktuu. (N.B)
 景色-3:POSS 特に 一 美しい
 「秋が真っ盛りの時カラ・アルマ森の景色が特に美しい。」
- (19) Miltik atıl-ıp jat-kan učurda, siz ukta-p kal-sa-ñız kerek. (T.S)
 銃 撃たれる-CVB jat-PART 時 あなた 寝る-CVB 残る-COND-2 必要
 「銃撃されていた時にあなたは寝てしまったかもしれない。」
- (20) Süröt sabag-ï jür-üp jat-kan mezgilde, biz-din klass-tın
 美術 授業-3:POSS 行われる-CVB jat-PART 時 私たち-GEN クラス-GEN
 eşig-i dayıma açıl-ıp kal-a tur-gan. (A.T)
 ドア-3:POSS いつも 開けられる-CVB 残る-CVB tur-PAST2
 「美術の授業が行われている時私達のクラスのドアはいつも開いていた。」

2.3 主節が「タ」形の場合

B1 スルとき

- (21) 私は結婚する時、着物は用意しませんでした。 (『Yahoo!知恵袋』(2005))

- (22) Men küyöö-gö tiy-er-de kimono dayarda-gan ėmes-min.
 私は 夫-DAT 結婚する- PART-DAT 着物 用意する-PAST ない-1SG

(22)の用例においては、これまで例示した-gan 分詞ではなく、-er 未来分詞 (母音調和のために -ar がこの形になっている) が使われている。もし、(22) に-gan 分詞が用いられたら、「結婚した時」という過去の意味になる。しかし、(21)の日本語では「結婚する時」が非過去形の「ル」

で表されているから、キルギスで語は「結婚する前」という意味で-er 分詞、すなわち未来形を構成する接辞で表され、「結婚した時」とは異なる形式で示す。

B 2 シタとき

(23) 自転車を降りて歩き出したとき、階段を降りていく男を見かけたんだ。（『摩天崖』）

(24) Velosiped-den tüş-üp bas-ıp bašta-gan-da tepkič-ten tüş-üp
 自転車-ABL 降りる-CVB 歩く-CVB 始める-PART-LOC 階段-ABL 降りる-CVB
 kel-e jat-kan érkek-ti kör-dü-m.
 来る-CVB jat-PART 男-ACC 見る-PAST-1

工藤 (1995)は主節におけるシタが表すアスペクト的意味を「パーフェクト」と呼び、従属節においてトキの前に位置するシタが表すアスペクト的意味を「限界達成性」として両者を区別している。これは、スル、シタ、シテイル、シテイタが、従属節の述語であるときには、主節の位置にあるときとは異なるテンス・アスペクト的意味を表して、異なるテンス・アスペクトの対立をなすということを意味している。(24)の下線部は、上の(22)と異なり、-gan 分詞で表示され、日本語の過去形の「シタ」に対応する。

B 3 シテイルとき

(25) 研究と経営の両方に忙しくしているとき父に呼ばれてふるさともどり

結婚しました。（『世界にかがやいた日本の科学者たち』）

(26) Izildöö menen birge ište-p jürgön-dö ata-m
 研究する と 同時 働く-CVB jur-PART-LOC 父-1:POSS
 čakır-ıp kal-ıp, ayıl-im-a bar-ıp üylön-dü-m.
 呼ぶ-CVB 残る-CVB 故郷-1:POSS-DAT 行く-CVB 結婚する-PAST-1

ここでの「忙しくしている」の「テイル」は動作の進行形で、アスペクト的に継続を表している。この場合は、「忙しくしていた」にも置き換えられる。一方、キルギス語は jür-補助動詞で表されている。発話時点で継続しているという意味で jat-も使用可能であるが、「働く」という動作動詞を考えているから jür-の方が自然である。そして、(第2章で記述したように jür-は基本的に長期的な活動を表す動詞と結合し、当該の動作をずっと前からしているという意味) 補助動詞が現れている時は、日本語でもキルギス語でもすでに働き始めていることが前提となっており、(22)とこの点が異なっている。

B 4 シテイタとき

(27) 校門のわきで立ち話をしていたとき、めぐみは聞き耳を立てていた。

(『おしゃべりな天使たちの教室』)

(28) Mektep-tin darbaza-si-nin janin-da tur-gan boydon
 学校-GEN 門-3:POSS-GEN わき-LOC 立つ-PART まま
süylös-üp tur-gan-da Megumi ug-up tur-uptur.
 話し合う-CVB tur-PART-LOC めぐみ 聞く-CVB 立つ-PAST3

(29) Mektep-tin darbaza-si-nin janin-da tur-gan boydon
 学校-GEN 門-3:POSS-GEN わき-LOC 立つ-PART まま
süylös-üp tur-sa-k Megumi ug-up tur-uptur.
 話し合う-CVB tur-COND-1PL めぐみ 聞く-CVB 立つ-PAST3

(27)の日本語の用例は「立ち話をしていた」の「立つ」がある関係で、キルギス語の用例(28)でも tur-という「立つ」を表す補助動詞をともなって「立って話をしている」という形式が使われている。しかし、(29)の用例のように「tur-補助動詞+sa 条件」を表す-sa 接辞の形式を用いてトキの従属節を表すこともできる。直訳すると「立ち話をしていると」となる。この場合は、(28)の tur-gan-da より条件法の-sa を使うと、後件にくる事が「発見」の意味を表し、特殊なニュアンスが出る。

以上の(28)と(29)では、意味的には相違がないが、-gan 分詞や-sa 条件詞が形式的には動詞語幹に後続するものではなく、補助動詞に後続することが特徴的である。この点で、一般の条件文とは異なり、主節の述語のテンスと従属節のテンスが一致し、同時に行われたことを表している。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「タ」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、B グループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- 日本語では、A グループの主節が「ル」形の場合と異なり、B グループの主節が「タ」形の場合には4つの形式が使える。
- 日本語の「～シタ時／～シテイタ時～スル」形式においては、従属節の「タ」形は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できないが、キルギス語は従属節の形式は主節の時制に影響を与えず、主節は現在形あるいは過去形でも、非文にならない。
- 日本語においては従属節に非過去の「ル」形が来る場合、対応するキルギス語は-ar 未来分詞が使われ、過去の「タ」形が来る場合には-gan 過去分詞が使われる。

- キルギス語ではトキの従属節を上記の-ar/-gan 分詞+da 位格の形式の他に「補助動詞+sa」条件を表す-sa 接辞を用いて表すこともできる。

2.4 主節が「テイル」形の場合

C 1 スルとき

- (30) 田舎に帰省するときなど遠出に合わせて、大きな買い物をするようにしています。

(『Yahoo!知恵袋』)

- (31) Ayıl-ga kayt-aar-da je alıs jak-ka ket-eer-de,
 田舎-DAT 帰省する-PART-LOC 又 遠い所-DAT 行く-PART-LOC
 köptögön nerseler-di **sat-ıp** **al-ıp** **tur-a-m.**
 多く 物-PL-ACC 買う-CVB とる-CVB tur-PRS-1

C 2 シタとき

- (32) お酒を飲み過ぎた時に胃薬を飲んでいる。

- (33) Arak köp içken-de aškazan-dın darı-sı-n **iç-ıp** **tur-a-m.**
 酒 たくさん 飲む-PART-LOC 胃-GEN 薬-3:POSS-ACC 飲む-CVB tur-PRS-1

上記の(30)と(32)の日本語の文は、従属節がそれぞれ「ル」形と「タ」形となっているが、主節は「テイル」形で共通している。このように、主節が「～するようにしている」のように日常的行われていることを表す場合には、習慣として行っているという意味で tur-補助動詞（太文字で示す）を使用するのが適切である。さらに、従属節における述語の形式は jat-と、補助動詞のいずれも使用せず、「kayt(帰省する)/iç-(飲む)」という動詞語幹+-ar または -ken 分詞（母音調和のために-gan がこの形になっている）+位格」によって表される。つまり、従属節の「ル」形の場合に、-ar 未来分詞と「タ」形の場合に-ken 過去分詞が使われ、出来事の時間関係を明確にする。

C 3 シテイルとき

- (34) 私は勉強をしている時、音楽を聴いている。

- (35) Men sabak oku-p jat-kan-da muzika ug-a-m.
 私 勉強 する-CVB jat-PART-LOC 音楽 聴く-PRS-1

上の(34)の文においては、日常的に何かをしている際に何かをしているという意味で従属節と主節の出来事が同時的な関係を示している。そして、従属節と主節にある述語の両方が動作動詞で、動作の継続を表している点に特徴がある。これに対してキルギス語の(35)は、okup jat+kan

分詞+da 位格が用いられ、日本語の「テイル」との対応を見せている。しかし、主節の述語に *ugu-p jat-a-m*⁵¹のように *jat*-補助動詞は使用せず、日本語のような「テイル」形ではなく、*ug-a-m* のように単純現在形を使う点が日本語と異なっている。

C4 シテイタとき

(36) *部屋を掃除していたとき庭に朝顔が咲いている⁵²。

(37) *Men üy-dü jïyna-p jat-kan-da kaymak gül güldö-p tur-a-t.
私 家-ACC 片づける-CVB jat-PART-LOC クリーム 花 咲く-CVB tur-PRS-3

(38) Men üy-dü jïyna-p jat-kan-da kaymak gül güldö-p tur-uptur.
私 家-ACC 片づける-CVB jat-PART-LOC クリーム 花 咲く-CVB tur-PAST3

この(36)のような「～テイタ時～テイル」形式の文は、日本語母語話者にとって不自然である。キルギス語も(37)のように現在形だと不自然な文になるが、(38)のように過去形を使う方が自然になる。日本語も「部屋を掃除していたとき、庭に朝顔が咲いていた。」とすると自然な文になる。その場合に従属節と主節の主語は一つではなく、主節の過去形が時期や実現がはっきり区別されていない過去の動作を表す場合には *-iptir* 不定過去を使用し、「私が掃除をしていたとき朝顔が咲いていた」と言える。すなわち、いつ咲いたか分からないが、掃除をしていた時に朝顔が咲いたことに気付いたという意味を表している。さらに注意を向けたいのが、*tur*-補助動詞の使用である。第2章で考察したように、ここでも変化の結果の状態というアスペク的な意味を表しているため *tur*-が使われていると言える。

しかし、キルギス語の場合に従属節の形式は主節の時制に影響しないと述べたことが事実であれば、(37)は容認可能な文になるはずである。次の(39)はその例である。

(39) Men üy-dü jïyna-p jat-kan-da muzika ug-a-m.
私 家-ACC 片づける-CVB jat-PART-LOC 音楽 聴く-PRS-1
「私は部屋を掃除しているとき音楽を聴く。」

実際、この(39)は(34)と同様な文である。日本語の「私は勉強していた時音楽を聴いている。」と言えないが、キルギス語は(39)のように言える。このことは何を意味するのだろうか。キルギス語の(37)が容認不可能の理由は、主節に来る事柄と従属節に来る事柄の関係が結びにくくなっ

⁵¹ *jat*-の他に習慣的に行っているという意味で補助動詞 *tur*-を使うことができるが、本動詞単独で使う方が自然である。

⁵² この文は作例であり、日本語話者のチェックを受けている。

ているため接続できないということかもしれない。しかし、動作主を一人にすれば、主節は現在形で表せる。

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「テイル」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、Cグループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- 日本語の「～スル時／シタ時～テイル」形式の場合に、キルギス語では主節に現れる形式として「するようにしている」の意味で「-ip tur-+a 現在形接尾辞+人称」が用いられる
- C3の「～シテイル時～テイル」形式の場合に、日本語の主節では「テイル」が使われるのに対して、キルギス語の主節で jat-補助動詞ではなく、単純現在形が用いられる。
- 一方、「～シテイタ時～テイル」形式の場合には、日本語もキルギス語も容認不可能な文になる。しかし、キルギス語は、動作主を一人にし、主節に来る事柄と従属節の事柄を同じ人物が行うような文にすると自然な文になる。

2.5 主節が「テイタ」形の場合

D1 スルとき

(40)a 私が学校に行くとき雨が降っていた。

b 私が学校に行ったとき雨が降っていた。

| | | | | | | |
|-------|-------|-----------|---------------------|------|--------|------------|
| (41)a | Men | mektep-ke | <u>barat-kan-da</u> | jaan | jaa-p | jat-ti. |
| | 私 | 学校-DAT | 行っている-PART-LOC | 雨 | 降る-CVB | jat-PAST1 |
| b | Men | mektep-ke | <u>barat-kan-da</u> | jaan | jaa-p | jat-kan. |
| | 私 | 学校-DAT | 行っている-PART-LOC | 雨 | 降る-CVB | jat-PAST2 |
| c | ??Men | mektep-ke | <u>barat-kan-da</u> | jaan | jaa-p | jat-iptir. |
| | 私 | 学校-DAT | 行っている-PART-LOC | 雨 | 降る-CVB | jat-PAST3 |
| d | ??Men | mektep-ke | <u>barat-kan-da</u> | jaan | jaa-p | jat-ču. |
| | 私 | 学校-DAT | 行っている-PART-LOC | 雨 | 降る-CVB | jat-PAST4 |

(40a,b)に対応するキルギス語を示すと上記のように4通りがある。ただし、(41c,d)は不自然な文になる。いずれも過去に起きた出来事であることが共通しているが、主節に現れる過去形の種類で文のニュアンスが異なっている。これらの中で当該の日本語の文に一番適切な文は(41a)の jaa-p jat-ti のような確定過去である。それに対して、(41b)のような主節に-kan 接尾辞の過去形を使う場合には前後の文脈が必要となる。すなわち、過去に起きたある特定の日について思い出

して「その日学校に行っている時、雨が降っていた」という意味になる。次に、(41c)のような-iptir 不定過去と(41d)のような-ču 習慣過去はこの文では不適切である。なぜなら、(41c)の場合には、話し手が雨が降っていることを分っていないような文になり、学校に行く時に雨が降っていたのを誰かに気づかされた時の発言になってしまい、非論理的になる。(41d)も習慣過去の場合には、学校に行く際にいつも雨が降っていたと言えないために不自然な文となる。

D2 シタとき

(42) 私がここに来たとき、彼はもう夕食を食べ始めていた。

(43) Men bul jer-ge kel-gen-de al ěbak tamak je-p bašta-ptir.
私 この 場所-DAT 来る-PART-LOC 彼もう 料理 食べる-CVB 始める-PAST3

(42)の主節の「テイタ」は、通常の継続と異なり、「食べ始める」という行為が継続しているわけではない。この場合の「テイタ」は基準時以前に行われたことを示し、完了を表す。キルギス語の場合は、je-p bašta-ptirのように動詞bašta-（始める）に-iptir接尾辞が付加された過去形が用いられる。この接尾辞は不定過去を表し、上記の(41c)と同様に基本的に時期や実現がはっきり確認されていない過去の動作を表し、人から聞いた動作や予想外の動作などを表すが、ここでは、従属節の事態が生起する前に動作が始められ、「来たとき」も食べることが継続していたという意味で使われている。このように過去完了の用法に対して、次のように従属節が「ル」形の場合には、主節の「テイル」は未来完了を表すとされている。

(44) 来週ここに来るときにこの本を読み終わっているだろう。

(45) Emki juma bul jer-ge kel-eer-de bul kitep-ti oku-p büt-ö-t boluš kerek.
次 週 ここ-DAT 来る-PART-LOC この 本-ACC 読む-CVB 終わる-PRS-3 だろう 必要

キルギス語の場合も、主節の oku-p büt-ö-t は未来における完了を表している。

D3 シテイルとき

(46) あの雨が降っているとき、弟はサッカーをしていた。

(47) Ošol kün-ü jaan jaap jat-kan-da ini-m futbol oyno-p jat-ti.
その 日-3:POSS 雨 降る-CVB jat-PART-LOC 弟-1:POSS サッカーする-CVB jat-PAST1

(47)のキルギス語の場合には従属節にも主節にも補助動詞 jat-が使われて、-ti 過去接尾辞を付加することによって過去のある時点における動作の進行を表している。そして、他の補助動詞ではなく、2つの位置に jat-を使うことが特徴だと言える。これとは対照的に、次の(49)のキルギス語の文が挙げられる。

D4 シテイタとき

(48) 僕が会社で仕事をしていたとき、母は家事をしていた。

(49) Men firma-da ište-p jür-gön-dö üy jumuš-tar-ın apa-m kıl-ıp tur-ču.
私 会社-LOC 仕事する jur-PART-LOC 家事-PL-ACC 母-1:POSS する-CVB tur-past3

上の(46)と(48)の従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「テイタ」形式の特徴は、主語が一つではないということである。すなわち、(48)は「僕が会社で仕事をしていたとき、僕は家事をしていた。」のように使えない。これに対して(49)のキルギス語は、従属部分には ište-p jür-gön-dö のように jür-補助動詞と主節は kıl-ıp tur-ču のように tur-補助動詞が用いられている。主節の述語は、習慣として行っているという意味で tur-補助動詞を使用することが適切である。そして過去接尾辞として-ču を接続することによって過去における習慣のように毎日行われる動作を表すことになる。次の(50)のキルギス語は従属節に同じ jür-補助動詞が用いられた例である。

(50) Soodager bak ič-in arala-p jür-gön-dö bir-inen biri aš-kan
商売者 木 中-ACC 歩く-CVB jür-PART-LOC 一-ABL 一 溢れる-PART
ukmuš-tar-dī kör-ö ber-ıp, ěmi alar-dın kaysi-nisi-na
不思議-PL-ACC 見る-CVB あげる-CVB もう それら-GEN どれ-3:POSS-ACC
tañ kal-ar-in da bil-be-y kal-dī.
驚く-FUT-ACC も 知る-NEG-CVB 残る-PAST1

「商人は庭を歩いているとき次々優れた不思議を見ていてどれに驚くかは分からなくなってきた。」

以上が、日本語において主節のテンス・アスペクトが「テイタ」形の場合、トキ節の使用実態と対応するキルギス語の例を示したものである。

最後に、D グループに示した日本語の特徴及びキルギス語との相違点をまとめると次のようになる。

- 日本語とキルギス語では、どちらも従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「テイタ」形式の特徴は、主語が一つではないということである。
- 日本語の従属節は「～テイル／～テイタ」形式に時間を特定する要素があれば、キルギス語は jat-補助動詞を使用し、出来事の進行を表す。
- 全体的に言えることとして、主節では動詞の語彙的な意味は文法的意味に影響するが、従属節では動詞の語彙的な意味が補助動詞の選択に関わる。

なお、第2節を締めくくるに当たりキルギス語における小説からの従属節の実例とその日本語訳を付記すると、以下の(51)～(55)のようになる。付記した理由は、これまでの議論とは逆の方向でキルギス語の従属節におけるテンス・アスペクト形式から日本語を見てみると、日本語の従

属節におけるテンス・アスペクト（例えば、「タ」形や「テイル」形など）が融合的で包括的であるという特徴が分かるからである。

- (51) Šaar-ga alip kel-gen-de özü-nün ėmne bol-up jat-kan-in
 都会-DAT 取る-CVB 来る-PART-LOC 自分-GEN 何 なる-CVB jat-PART-ACC
 tüşün-bö-dü, ayabay zerig-ip kusa bol-du. (Mumu)
 分かる-NEG-PAST1 とても 退屈する-CVB 恋しい なる-PAST1
 「都会に連れて来られた時に自分がどうなっているかわからなくて、とても退屈した。」

- (52) Gerasim-di kıştak-tan al-íp kel-iş-ken-de, Tat`yana
 PSN-ACC 田舎-ABL 取る-CVB 来る-RECP-PART-LOC PSN
 anin ebegeysiz zor tulkun kör-üp, ėsi oo-p kal-a jazda-gan.
 彼-GEN 巨大 大きい 体型 見る-CVB 意識 なくす-CVB しそうになる-PAST2
 「ゲラシムを村から連れて来た時にタチャナは彼の巨大な体型を見て、意識をなくし
 倒れそうになった。」

- (53) ...üy-dön kir juuy tur-gan jay-ga šaš-íp baratkan-da, Gerasim-din
 家-ABL 洗濯 洗う 立つ-PART ところ-DAT 急ぐ-CVB 行っている-PART-LOC PSN-GEN
 janinan čimın kuyun bol-up čurka-p ötüp ket-ken uçur-ları bol-gon.
 隣-ABL ハエ なる-CVB 走る-CVB 通る-CVB 行く-PART とき-PL なる-PAST2
 「家から洗濯する場所に急いで行く時にゲラシムのそばを走って通ってしまうことが
 あった。」

- (54) Al biyik kerebet-ten turgan-da, kiyim-keče-si bütündöy dayar ėken,
 彼 高い ベッド-ABL 起きる-PART-LOC 洋服-3:POSS 全部 用意 MOD
 jüz čaykaš üçün hrustal` čara-ga suu kuyul-up tur-a-t, al kiyin-ip,
 顔 洗う ため クリスタル容器-DAT 水 注ぐ-CVB tur-PRS-3 彼 着る-RECP-CVB
 juun-up, bul janjı ukmuš-ka dagı tañ kal-íp otur-du: stol-dun
 洗う-RECP-CVB この 新しい 不思議-ACC も 驚く-CVB otur-PAST1 机-GEN
 üstün-dö čaj menen kofe, alar-din janin-da tattuu tokočtor.(K.k.g)
 上-LOC お茶 と コーヒー それら-GEN そば-LOC 甘い パン-PL
 「彼は高いベッドから起きた時に洋服が用意され、顔を洗うためのクリスタル容器に水が注いで
 あった。彼は着替えて、顔を洗った後にまた新しい不思議に驚いている。テーブルの上にお茶と
 コーヒー、そばには甘いパンが置いてあった。」

- (55) Ošentip jol jür-üp kelatkan-da tün da tüš-tü;
 そうする-CVB 道 歩く-CVB 来ている-PART-LOC 夜 も 降りる-PAST1
 aylana köz-gö say-sa körün-güs karaŋgī.
 周り 目-DAT 指す-COND 見える-NEG 闇
 「そうして帰っている時に周りは目を指しても見えないくらい真っ暗になった。」

3. 共起的時間関係を表すアイダ（二）節

日本語学習者はアイダ（二）節の格助詞「ニ」の有無による意味の違いを十分理解せず、アイダとアイダニの使い分けについて戸惑うことがある。また、キルギス語では「トキ」と「アイダ」形式を区別する表現がなく、トキ（ニ）、アイダ（ニ）を同一の表現で表している。例えば、次の例がある。

- (56) 私は日本にいる間ロシア語を教えました。
 (57) Men Japoniya-da jür-gön kez-de orus til üyröt-čü-mün.
 私 日本-LOC いる-PART 間/時-LOC ロシア語 教える-PAST3-1

この文を「私は日本にいる時ロシア語を教えました。」と訳す可能性もある。2.2 節で述べたキルギス語の「トキ」節を表す時間副詞節に対応する「-gan 分詞+kezde/ubakta/učurda/mezgilde/maalda/čakta/čende」という位格と合体した形式は日本語の「アイダ」節にも対応するので、これらの使い分けについて触れておく。この時間副詞の使い方は前接する語の種類によって決まってくると思われる。例えば、kezde の前に来るのは student（学生）、jaš（若い）、bala（子供）のように世代を代表する語である。mezgilde は季節を意味しているので jaz（春）、jay（夏）、küz（秋）、kiš（冬）と共起し、jaz mezgilde（春に）のように使われる。kezde と mezgilde は互いに置き換えることができない。それに対して ubakta、maalda は主に動詞と接続し、uktap jatkan ubakta/maalda（寝ているとき/あいだ）のように用いられる。čakta は一般的に azirkī čakta（今の時、現在）のように使われる。čende は主に 8 čende（8時ごろ）のように時間を表す語に接続する。učurda は名詞にも動詞にも接続させて使うことができるが、Eñ kiyin učurum apamdī jogotkon kün.「私が最も大変だった時は母を亡くされた日である。」における kiyin učurum のような「形容詞+ učurda」のように接続し、また、Lekciya učurunda ulam eşikti karap tīnčsizdanip oturdu.「講義の時何度もドアを見てイライラしていた。」における lekciya učurunda のように「名詞+učurda」のように接続する。このような場合、učurda は čakta や čende などに置き換えられない。そして (57) の例に関しては、kezde の方が適切で učurda、mezgilde、maalda、čakta、čende に置き換えると不自然になる。

格助詞（二）の有無について日本語の教科書や文法辞典などで説明されている⁵³のは、「アイダ」はその従属節で示された期間ずっとという意味を表し、主節には継続する動作や状態を表す表現がくる。それに対して「アイダニ」は主節に点でとらえられるような瞬間的な表現が用いられ、その出来事や動作が従属節で示された期間の中のどこかの時点で起こったということを示している。すなわち「アイダ」はその従属節で示された期間ずっとという意味を表し、主節にはアイダ（二）はトキと同様、期間を表す表現であるため、その節にはいわゆる瞬間動詞を用いることができない。しかし、瞬間動詞であっても「～テイル」形で、動きの結果を表す形にすればアイダ（二）でも用いることができる。

(58) 電気が消えている間、懐中電灯とろうそくで過ごした。

Svet öčköndö/ öčük kezde fonarik jana sveča menen jaša-p jat-ti-k.
電気 消える-PART-LOC/ 懐中電灯 とろうそく と 生活する-CVB jat-PAST1-IPL

(59) *2 人が {結婚する／結婚している} 間に、花束が届いた。

Ėköö üylön-üp jat-kan-da buket gül-dü al-ıp kel-iš-ti.
2 人 結婚する-CVB jat-PART-LOC 束 花-ACC 持つ-CVB 来る-RECP-PAST1

(59)は非文と判断されているが、「結婚している」事態が、以下のようにアイダ（二）節に現れることができる。

(60) 2 人は結婚している間（に）、何度もホームパーティーを開いた。

(61) *Ėköö üylön-üp jat-kan-da bir kanča jolu oturuš kil-iš-ti.
2 人 結婚する-CVB jat-PART-LOC 一 いくつ 度 パーティー する-RECP-PAST

(62) Ėköö üylön-üp jaša-p jür-gön-dö bir kanča jolu oturuš kil-iš-ti.
2 人 結婚する-CVB 住む-CVB jur-PART-LOC 一 いくつ 度 パーティー する-RECP-PAST

日本語の(60)は「結婚する」という動作の結果が継続しているという状態を表している。一方、キルギス語では、(61)のようにすると動作の継続として捉えられ、誤解される可能性がある。日本語の文を正確に理解した上で、(62)のように動作の結果が継続している状態と解釈し、「2 人が一緒に暮らしている間に」と語句を補って、やっと適格な翻訳ができるようになる。そして(61) は jat-のままでは非文になるが、(62)のように jür-を用いて、結婚している過程が継続しているという意味になると容認可能になる。もう一つ重要な点は、キルギス語にはアイダとトキの区別がなく、両方とも「-gan 分詞+da 位格」によって表されることである。

⁵³ 例えば、砂川 (1986)が挙げられる。

(63) Men bolnitsa-da jat-kan-da⁵⁴ apa-m dayıma janım-da bol-du.
私 病院-LOC 横たわる-PART-LOC 母-1:POSS いつも そば-LOC いる-PAST
「私が入院していた間、母がずっとそばにいてくれた。」

(64) Men bolnitsa-ga jat-kan-da apa-m dayıma janım-da bol-du.
私 病院-DAT 横たわる-PART-LOC 母-1:POSS いつも そば-LOC いる-PAST
「私が入院していた間、母がずっとそばにいてくれた。」

ここでも「トキ」と区別されていないが、bolnitsa-da 位格名詞によってその期間ずっとという意味が保証される。(64)のように bolnitsa-ga 与格名詞になっていれば、入院した時というその期間の一点だけを取り上げ、過去の出来事として位置づけられる。しかし、キルギス語話者は「トキ」との区別ができず、日本語に (63) と (64) のどちらも「私が入院していた時、母がずっとそばにいてくれた」と訳す可能性が高い。以下の例も同様である。

(65) 彼女がコンピューターを使っている間、私は本を読んで待っていた。
Al komp`yuter koldon-up büt-küçö men kitep oku-p küt-üp jat-ti-m.
彼女パソコン 使う-CVB 終わる-まで 私 本 読む-CVB 待つ-CVB jat-PAST-1

(66) Al komp`yuter koldon-up jat-kan-da men kitep oku-p küt-üp jat-ti-m.
彼女パソコン 使う-CVB jat-PART-LOC 私 本 読む-CVB 待つ-CVB jat-PAST-1
「彼女がコンピューターを使っている間、私は本を読んで待っていた。」

しかし、(65)の用例は、「トキ」の副詞で表現できず、「終わる」を表す動詞を用いて、「使い終わるまで」という形で表す方が違和感がない。(66)のように jat-補助動詞を使うと日本語の「使っている時に」という解釈になるが、いつまで本を読んでいたのかははっきりわからない文になってしまう。次の(67)は büt-補助動詞が使われている用例で、「見終わるまで」という期間を明示している。

(67) 子供たちがテレビを見ている間、私は本を読んでいた。
Baldar televizor kör-üp büt-küçö men kitep oku-p jat-ti-m.
子供たち テレビ 見る-CVB 終わる-まで 私 本 読む-CVB jat-PAST-1

⁵⁴ bolnitsa-da jat-kan-da は「入院するとき」の意味であるが、もし病院ではなく、ベッドを使うと töšök-tö jat-kan-da 「ベッドで寝るとき」の位格名詞の場合「いつも、ずっと」の意味で使われる。ただし、与格名詞を用いて töšök-kö jat-kanda とすると不自然な文になる。

(68) ゆうべ、寝ている間に地震がありました。

Keçinde ukta-p jat-kan-da jer titire-di.

ゆうべ 寝る-CVB jat-PART-LOC 土地 震える-PAST1

(69) 私がご飯を食べている間に兄が来た。

Men tamak je-p jat-kan-da bayke-m kel-di.

私 料理 食べる-CVB jat-PART-LOC 兄-1:POSS 来る-PAST1

(68)と(69)の日本語の用例においては、主節に過程性がない場合はアイダ(二)を使うことが適切だとされている。キルギス語は、ここでも「トキ」の副詞で表示され、「食べている時に」という意味で解釈され、jat-補助動詞が使われている。すなわち、「食べ始めたが食べ終わっていない間」、その食べる過程のある一点で主節の出来事が起こることを表している。しかし、(68)と(69)の用例では、主節に来る事態が従属節の示す期間内で継続しなければならないので、(67)のように「終わる」という意味を表すキルギス語の補助動詞を添えて「～シオエルアイダ」という意味を示すと「アイダ」の意味で用いることができる。

(70) 大学に通っている間、ずっと京都に住んでいた。

Universitet-te oku-p jür-gön-dö Kyoto-do jaša-p jür-dü-m.

大学-LOC 勉強する-CVB jur-PART-LOC 京都-LOC 住む-CVB jur-PAST-1

(71) 両親が旅行をしている間、僕が毎日食事を作りました。

Ata-ene-m sayakatta-p jür-gön-dö men kündö tamak jasa-ču-mun.

両親-1:POSS 旅行する-CVB jur-PART-LOC 私 毎日 料理 作る-PAST3-1

(72) 子供が寝ている間に洗濯をした。

Baldar ukta-p jat-kan kez-in-de kir juu-p al-di-m.

子供たち 寝る-CVB jat-PART 間-3:POSS-LOC 洗濯 洗う-CVB 取る-PAST-1

(70)～(72)は、キルギス語においてはトキに相当する形式である jür-gön-dö、kez-in-de が用いられている用例である。キルギス語の場合、アイダ(二)に対応する副詞が存在せず、トキを示す副詞でカバーしているように考えられる。また、「アイダ」の意味は、「最初から最後までずっと」というような表現であり、また「終わるまで」を示す補助動詞を補って表すことがある。

(73) Bas-kan-di, süz-gön-dü, siygalan-gan-di uşun-un baarı-n

歩く-PART-ACC 泳ぐ-PART-ACC 滑る-PART-ACC これら-GEN 全部-ACC

bala oyno-p jat-ïp özdöštür-ö-t. (3-jaštan kiyin keč)

子供 遊ぶ-CVB jat-CVB 身に付ける-PRS-3

「歩くことや泳ぐこと、滑ることなどこれらは子供が遊んでいるうちに身に付ける。」

(74) Telefon-du koy-up jat-ïp üškür-ün-dü.

電話-ACC 置く-CVB jat-CVB ため息つく-REFL-PAST1

「電話を切りながらため息をついた。」

そして(73)の例のように、補助動詞の jat-と副動詞の-ïp を後接することによって「アイダ」の意味を表したり、(74)のように「ナガラ」の意味を表したりすることができる。

4. 継起的時間関係を表すマエ（ニ）節とアト（デ）節

前節で述べたように工藤（1995: 232-235）は、マエ（ニ）、アト（デ）を含む、トキ（ニ）、アイダ（ニ）、マデ（ニ）、カラの各節における、テンス・アスペクトの体系を記述しようとしたものであり、以下の2つの指摘がある。

指摘1. マエ、アトなど、「ニ」「デ」がないものでは、主節の述語は運動動詞・完成相、運動動詞・継続相、存在動詞、形容詞、名詞述語になる。マエニ、アトデなど、「ニ」「デ」があるものでは、主節の述語は運動動詞・完成相になる。

指摘2. マエニ、アトデなどが、シテイル（運動動詞継続相）と共起している場合は、そのシテイルはパーフェクトになる。

(75) a 宿に着く前にお腹が痛くなった。

b *宿に着く前にお腹が痛かった。

工藤（1995: 232）

(75a)の「痛くなった」というのは動作性の述語であり、この場合はマエニが適切であるが、(75b)の「痛かった」というのは状態性の述語で、マエニでは不適切になるという。

指摘2については以下の例を見る。マエニ節の文で主節の動詞が「～テイル」形であるが、この「～テイル」形はパーフェクトの解釈になることを確認されたい。

(76) 釈放後の今村が初めて仙台へ行ったとき、彼を出迎えた人々の中に、戦中のラバウ

ルで歩兵を務めた後藤金哉の嬉しさを包みかねた笑顔もあった。後藤は駅に出迎えに行く前に、今村家の墓所を入念に掃除していた。

（工藤 1995: 232-233、下線は筆者による）

この用例については、キルギス母語話者が「パーフェクト」の意味に解釈せず、「進行」として解釈する可能性が高い。

4.1 継起的時間関係を表すマエ(ニ)節

以下では、日本語のマエ(ニ)に対応するキルギス語の用例を見ていく。

(77) 私は日本に来るまえ/まえに日本語を勉強しました。

(78) a Men Japon-go kel-er-den murun japon til oku-du-m.
私 日本-DAT 来る-PART-ABL 前 日本語 勉強する-PAST1

b Men Japongo kel-er-din astında japon til oku-du-m.
私 日本-DAT 来る-PART-GEN 前 日本語 勉強する-PAST1

c Men Japon-go kel-er-ge čeyin japon til oku-du-m.
私 日本-DAT 来る-PART-DAT 前 日本語 勉強する-PAST1

d Men Japon-go kel-gičekti japon til oku-du-m.
私 日本-DAT 来る-CVB 前 日本語 勉強する-PAST1

ここで(78a)~(78d)のそれぞれが互いにどう異なるかについて見る。(78a)の kel-er-den のように「kel+er 未来分詞+den 奪格」に副詞 murun が後接する形式は、「まず日本語を勉強してから日本に行った。」のような意味を表し、出来事の順序をはっきり示す時に用いられる。(78b)では「日本に来る直前に勉強した」という意味で副詞 astında が用いられている。それに対して(78c)と(78d)は「日本に来る前からずっと日本語を勉強していた」という解釈になる。

(79) 彼はビシケクに行くまえ/まえにタシケントに行ったそうだ。

Al Biškeke-ke bar-ar-dan murun Taškent-ke bar-iptir.
彼 ビシケク-DAT 行く-PART-ABL 前 タシケント-DAT 行く-PAST4

(80) 彼は死ぬ前に、「苦しい、お母さん」と言った。

Al öl-ör-dün astın-da “Kıynal-ıp jat-a-m, apa!” dep ait-ti.
彼 死ぬ-PART-GEN 前-LOC 苦しむ-CVB jat-PRS-1 母 と 言う-PAST

この例では、-ar 分詞(未来形の接辞)が使われている点においては共通しているが、その後のマエに当たる副詞が異なるため-ar 分詞に後続する格も異なっている。(79)は「動詞語幹+-ar 分詞 +dan 奪格+副詞 murun」によって、(80)は「動詞語幹+-ar 分詞+din 属格+astinda⁵⁵副詞」によって表されている。以下の(81)~(83)のキルギス語の用例はともに副詞 murun を用いて、「食べるマエ(ニ)」という時間節を表している。しかし、日本語の文では「ニ」格助詞が付くか付かないかによって意味が区別されることがあるが、このような区別はキルギス語にはない。

(81) Tamak ič-er-den murun kol-uŋ-du juu.
料理 飲む-PART-GEN 前 手-2:POSS-ACC 洗う
「ご飯を食べる前に手を洗いなさい。」

(82) Tamak ič-er-den murun darī-nī ičiš kerek.
料理 飲む-PART-ABL 前 薬-ACC 飲む 必要
「ご飯を食べる前に薬を飲まなければならない。」

(83) 何かを決める前に、よく考えた方がいい。
Bir čečim-ge kel-er-den murun jakšilap oylon-up tur-up čeč-ken oŋ.
一 解決-DAT 来る-FUT-ABL 前 よく 考える-CVB tur-CVB 決める-PAST 右
「何かを解決する前によく考えてから決めた方がいい。」

(84) ご飯を食べる前に、さっきのお客さんが来た。
Tamak je-yin de-p jat-sa-m janagī konok kel-ip kal-dī.
料理 食べる-VOL と言う-CVB jat-COND-1 さっき お客 来る-CVB 残る-PAST
「ご飯を食べようとしたときにさっきのお客さんが来てしまった。」

(84)のようにマエ(ニ)は、キルギス語では je-r-din astinda (食べる前に) je-yin de-p jat-sa-m 「食べようとした時」を示す形式によっても表すことができる。日本語もキルギス語と同じ意味で「食べようとしたときに」にする方が適切であると思われる。

4.2 継起的時間関係を表すアト(デ)節

先述したマエ(ニ)節と同様に時を表す従属節の中にはアト(デ)節があり、格助詞のデがつきアトデという形をとる場合と、何もつかないでアトという形をとる場合がある。このアト(デ)節に関する先行研究として益岡(1995)がある。

⁵⁵ astinda の同じ意味の aldinda もあるが、ここでは astinda を代表させて使用する。

益岡 (1995: 151-152) は、アト(デ)節について、格助詞をもつ場合には時を特定する格成分として機能し、持たない場合には時を設定する状況成分として機能すると指摘している。格成分と状況成分の違いは、前者が事態を叙述する部分の内部要素であり、後者が外部要素であるとして、そのため前者は焦点化されるが、後者は焦点化されないと述べ、以下の2つの例を挙げている。

(85) 由紀子に電話したあとでこの手紙を書いたのだ。

(86) 由紀子に電話したあとこの手紙を書いたのだ。

「この手紙を書いたのは、由紀子に電話したあとだ」というような、アトに焦点を置く解釈ができるのは、(85)のように格助詞のデがついたアトデの方であって、(86)のように格助詞のデがついていない例ではそのような解釈ができない。

これらの例をキルギス語に直すと、二つとも次の(87)のようになり、アトデとアトの違いが見られない。

(87) Yukiko-go telefon čal-gan-dan kiyin bul kat-ti jaz-dī-m.
 由紀子-DAT 電話する-PART-ABL あと この 手紙-ACC 書く-PAST1-1

(87)のキルギス語のアト(デ)形式は、マエ(ニ)節と同様に奪格を取るが、過去分詞という異なる分詞の形をとり、副詞の kiyin を付加させる。つまり、「čal-動詞語幹+gan 分詞+dan 奪格+kiyin」になる。例えば、次のような例がある。

(88) Imperator Aleksandr Pavlovič Vena keŋešme-sin büt-kön-dön kiyin
 天皇 PSN PSN ヴェナ 協議-3:POSS-ACC 終わる-PART-ABL 後
 Evropa-ni sayakatta-p, ar türdüü ölkö-lör-dü kör-güsü kel-di. (Sologoy)
 ヨーロッパ-ACC 旅行する-CVB 様々な 国-PL-ACC 見る-たい3 来る-PAST1
 「アレクサンドル パヴロヴィチはヴェナ協議が終わった後ヨーロッパを旅行して様々な国
 を見たかった。」

しかし、キルギス語に対して益岡 (1995) が提案した日本語の時を特定する格成分と時を設定する状況成分という説明が与えられると、特定と設定の意味の違いが区別できるようになる。次の例で確認しよう。

(89) Yukiko-go telefon čal-ip tur-up, bul kat-ti jaz-dī-m.
 由紀子-DAT 電話 する-CVB tur-CVB この 手紙-ACC 書く-PAST1-1

この例では、本動詞 *çal-* に補助動詞 *tur-* を添えることによって、初めて「この手紙を書いたのは、由紀子に電話したあとだ」というような、アトに焦点を置いた解釈になると考えられる。このように補助動詞が用いられる形式があるのに対して、(87)の例ではそうした解釈がない。このようなアト(デ)に焦点を置いた解釈は、以下の(90)と(91)の例でも確認できる。

(90) *Jakši ėš al-ĭp tur-up kayradan bul jumuš-ka baš-otu menen kirüü...*

良い 休養する-CVB tur-CVB 再び この 仕事 頭 と 入る

「よい休養をとったあと (で) 再びこの仕事に集中する...」

(91) *Dos-un ċakır-ĭp tur-up, birgeleš-ip plan tüz-üš-tü.*

友人-3:POSS 呼ぶ-CVB tur-CVB 一緒になる-CVB 計画 立てる-RECP-PAST1

「友人を呼んだあと (で) この計画を立てた。」

このように、補助動詞の *tur-* が使われているキルギス語の例では、アト (デ) の前の事態が起きないとその後にくる事態も起きないというような解釈がなされ、前にある事態を強調していることも含意されている。

以上、日本語の従属節のテンス・アスペクトにおけるトキ(ニ)節、アイダ(ニ)節、マエ(ニ)節、アト(デ)節を取り上げ、キルギス語と対照させた。

5. 第3章のまとめ

本章では、日本語とキルギス語の従属節の持つアスペクト的特徴について分析を試み、従属節の出来事と主節の出来事の時間的順序関係の観点から共起的時間関係を表すトキ(ニ)節、アイダ(ニ)節と継起的時間関係を表すマエ(ニ)節、アト(デ)節を中心に考察をした。

まず、トキ(ニ)節の主節のテンス・アスペクトを「ル」形、「テイル」形、「タ」形、「テイタ」形の4種類に分けて考察した。その結果、トキに対応するキルギス語のトキ(ニ)節について、次のようにまとめることができる。

- ① 本研究の対象である4つの補助動詞は、主節の述語に来る場合と同様に従属節にも現れ、動作の進行、主節の動作・作用と同時に進行することを表す。ただし、ここでも補助動詞それぞれの語彙的な意味が大いに関わってくる。もし、その動作の内容が抽象的な事柄であれば、一般性の高い補助動詞 *jat-* が用いられる。
- ② キルギス語には日本語のトキ(ニ)節に相当する構文的な形式は三通りある。
 - (1) 「動词语幹または補助動詞 + *-gan, -ar* 分詞 + *da* 位格」
 - (2) 「動词语幹 + *-gan* 分詞 + 副詞 *kezde/ubakta/učurda/mezgilde/maalda/čakta/čende*」
 - (3) 「本動詞 + 副動詞 + 補助動詞 + *-sa* 条件接辞形」

- ③ 日本語の従属節は「スル」、「シタ」、「シテイル」、「シテイタ」形で、主節のテンス・アスペクトを区別しているのに対し、キルギス語の従属節は「動詞語幹+**-gan** 分詞+**da** 位格」によって表示され、テンスとアスペクトの線が引けず、融合したものとして扱われていると考えられる。両言語の複文における従属節と主節のテンス・アスペクトの比較対照をまとめると、以下のようになる。
- 日本語の「～シタとき／～シテイタとき～スル」形式においては、従属節の「タ」形は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できないが、キルギス語は従属節の形式が主節の時制に影響を与えず、主節が現在形あるいは過去形でも、非文にならない。
 - 日本語において従属節に非過去の「ル」形が来る場合、対応するキルギス語では**-ar** 未来分詞が使われ、過去の「タ」形が来る場合には**-gan** 過去分詞が使われる。
 - キルギス語では、トキの従属節を上記の「**-ar/-gan** 分詞+**da** 位格」の他に「補助動詞+**-sa** 条件接辞形」を用いて表すこともできる。
 - 日本語の「～スルとき／シタとき～テイル」形式の場合、キルギス語では主節に現れる形式として「するようにしている」の意味で「**-(i)p tur-+a** 現在形接尾辞+人称」が用いられる
 - 「～シテイルとき ～テイル」形式の場合、日本語の主節では「テイル」が使われるのに対して、キルギス語の主節では **jat**-補助動詞ではなく、単純現在形が用いられる。
 - 一方、「～シテイタとき ～テイル」形式の場合は、日本語もキルギス語も容認不可能な文になる。しかし、キルギス語では、人称を問わずに動作主を一人とし、主節に来る事柄と従属節の事柄を同じ人物が行うような文にすると自然な文になる。
 - 日本語とキルギス語では、どちらも従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「テイタ」形式に見られる特徴は、主語が一つではないということである。
 - 日本語の従属節において「～テイル／～テイタ」形式に時間を特定する要素があれば、キルギス語では **jat**-補助動詞が使用され、出来事の進行を表す。
 - 全体的に言えることとして、主節では本動詞の語彙的な意味が文法的意味、例えば動作動詞の場合〈動作の進行〉に影響するが、従属節では本動詞の語彙的な意味が補助動詞の選択に関わる。
- ④ 共起関係を表すアイダ(二)の従属節をまとめると以下のようになる。すなわち、キルギス語の場合アイダ(二)節に対応するものが存在せず、トキを表す副詞を補っているように考えられる。「アイダ」の意味は、「最初から最後までずっと」というような表現を用いてあるいは「終わるまで」という補助動詞を加えて表すこともある。

- ⑤ 継起的時間関係を表すマエ(ニ)節とアト(デ)節をまとめると、キルギス語では、マエ(ニ)節に相当する形式は「-ar 分詞+-dan 奪格+murun 副詞」または「-ar 分詞+-dın 属格+astında 副詞」として二通りに表されるが、意味的には特に変化が生じないことになる。
- ⑥ キルギス語のアト(デ)形式は、マエ(ニ)形式と同様に奪格を取るが、過去分詞という異なる分詞の形をとり、副詞の *kiyin* を付加させる。つまり、「動詞語幹+-gan 分詞+-dan 奪格+ 副詞 *kiyin*」になる。そして、アト(デ)形式の意味で補助動詞の *tur-*が使われ、従属節にある事態が前に起きないとその後にくる事態も起きないというような解釈がなされ、前にある事態を強調していることも含意されている。
- ⑦ 以上までの議論の方向とは逆に、キルギス語の従属節におけるテンス・アスペクト形式から日本語を見てみると、日本語の従属節におけるテンス・アスペクト形式（例えば、「タ」形や「テイル」形など）が融合的・包括的であるという特徴が明確となり、その点で日本語はキルギス語よりもテンス・アスペクトに関する文法化が進んでいると言える。

第4章 本論文の成果と今後の課題

この章では、本論文の成果について明らかにする。そして、残された問題点と今後の課題も述べることにする。

1. 本論文の成果

本論文では、日本語から出発し、日本語の進行アスペクト「～テイル」に対応するキルギス語の補助動詞を含む形式である V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-の文法的な意味や使用される環境を考察し、併せて日本語のトキ(ニ)、アイダ(ニ)、マエ(ニ)、アト(デ)を含む従属節とそれに対応するキルギス語の従属節に着目し、比較対照も少し試みた。以下、第1章から第3章までについて、本論文で得られた成果を章ごとにまとめることにする。

第1章では、一般言語学から見た動詞のアスペクトとテンスについて、主に Comrie (1976)と Plungyan (2011)などを取り上げ、「テンス」と「アスペクト」の用語の定義を行い、アスペクトの二つの意味の対立：完了体と不完了体について確認した。また、日本語のアスペクト研究の現状と日本語の基本的なアスペクト体系を明確にした後、「～テイル」が表す文法的アスペクト研究として工藤 (1995)および語彙的アスペクト研究として金田一(1950)と奥田 (1977)を取り上げ、「～テイル」と運動動詞の相関関係を中心に述べた。そして、進行を表すキルギス語のアスペクト形式である V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-としての補助動詞に関わる諸記述をし、例えば以下のような先行研究の問題点を示した。

具体的には、文法書としての Oruzbaeva et al., Red (2009)では、各補助動詞の文法的な意味について代表的な例を示し、簡潔な記述にとどまっており、それぞれの使い分けや使用される環境に関しては言及されていない。どのような語彙的・文法的な条件の下でその文法的な意味が実現されるのかが、示されていない。また、伝統的な文法書では、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-は現在時制を表すものとして位置づけられているが、実際には過去形でも未来形でも使用されることを示した。キルギス語は補助動詞の数が多くあり、本動詞や副動詞接尾辞など他の要素との関連性を有するにもかかわらずキルギス語の動詞がアスペクトの観点から研究されていないことと上記の補助動詞のアスペクト的意味の〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉の意味が中心に記述され、〈変化の結果の状態〉という文法的な用法については言及されていないという問題点も示した。それに対して本研究では、前接する動詞の種類や文脈によって〈動作の進行〉を表す補助動詞が、〈変化の結果の状態〉の意味を表すことがあることを確認した。なお、最近の研究としてアクマタリエワ(2014)では、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-の各補助動詞の構文的な位置、すなわち主節における述語の場合と連用節における述語の場合が区別されず、一つの基準で分析されていることを問題点として挙げた。

このように、第1章では日本語とキルギス語のアスペクトとテンスに関する先行研究の意義と問題点を論じた上で、最後に筆者の立場を明確に示し、第2章での考察と第3章での比較対照に備えた。筆者の立場は次のとおりである。

- キルギス語の補助動詞を考察する際に、日本語の文法的アスペクトとして工藤(1995)の「～テイル」の文法的な意味である〈動作の継続〉と〈変化の結果の状態〉及び文中での語彙的な条件によって生じる〈反復〉という三つのアスペクト的な意味に注目する。なお、〈パーフェクト〉を除外する。
- 工藤(1995)とアクマタリエワ(2014)と同様の方法で分析する。具体的には各補助動詞のアスペクト的な意味が前接する本動詞の語彙的な意味によって異なるという分析を行い、その際に本動詞を動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞の4つに分類する。

第2章では、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-形式として生じるそれぞれのアスペクトとテンスに関する文法的な意味について考察した。考察に当たっては、本動詞の語彙的な意味に基づいた動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞という4つの分類に従い、それぞれの場合に現れる文法的な意味を考察した。以下、本論文の成果を動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞の順でまとめていく。

動作動詞

各補助動詞形式において動作動詞が圧倒的に多く現れている。

V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p jür-、V-(i)p otur-は動作動詞と結合して動作や動きの進行を表すが、その中で結合できる動詞とできない動詞がある。4つの補助動詞が結合できる本動詞は、基本的に、動作・作用がある時間内に続いて行われる動詞、すなわち継続動詞が多い。実例に基づく調査から、次の各動詞と結合することが分かった。

oku- (読む)、ayt- (言う)、ič- (飲む)、ırda- (歌う)、ište- (働く)、ıyla- (泣く)、jaz- (書く)、kara- (見る)、kıl- (する)、küt- (待つ)、öt- (通る)、oylo- (考える)、oyno- (遊ぶ)、süylö- (話す)、süylöš- (話し合う)、ukta- (寝る)

まず、以下では、oku- (読む) という動作動詞を例に各補助動詞形式に現れる文法的な意味の違いについてまとめる。

- (1) Meder kaysi kitep **oku-p** jat-a-t? (kutbilim.kg)
 メデル どんな 本 読む-CVB jat-PRS-3SG
 「メデルはどんな本を**読んで**いる？」

(2) Aga akin-din kotormo-lor-u özgöçö jakin,
 彼-DAT 詩人-GEN 訳-PL-ACC 特に 近い
 jana azir-kiga çeyin kaytala-p oku-p tur-a-t. (super.kg)
 と 今 まで 読み返す-CVB 読む-CVB tur-PRS-3SG
 「彼に詩人の訳は特に近いので今まで読み返して**読んでいる**。」

(3) Al köptön beri filosofiya kitep-ter-in oku-p jür-ö-t. (super.kg)
 彼 長い時間 前 哲学 本-PL-ACC 読む-CVB jür-PRS-3SG
 「彼はずっと前から哲学を**読んでいる**。」

(4) Čoň ata-m gezit oku-p otur-a-t. (bulbul.kg)
 大きい 父-1:POSS 新聞 読む-CVB otur-PRS-3SG
 「おじいさんは新聞を**読んでいる**。」

このように動詞 oku- (読む) は、すべての補助動詞と組み合わせることができる。上の用例においては、各補助動詞は〈動作の進行〉という文法的な意味を表す点で共通している。しかし、この文法的な意味は時間軸での捉え方において異なっている。

まず、okup jat-については、ある時点における〈動作の進行〉の意味を表す。つまり、この場合には、発話時において動作主の「読む」という動作が進行中である。

次に、okup tur-の場合、一定の時間における〈動作の進行〉の意味を表す。この場合、文中に azir-kiga çeyin kaytala-p oku-p tur-a-t 「今まで読み返して読んでいる」というように、動作主の「読む」という動作が現時点において進行しているのではなく、前から始まり、現在も継続しているから〈動作のくりかえし〉を表す。

そして、okup jür-については、長期にわたる〈動作の進行〉の意味を表す。この場合には、動作主が時間的な区切りがなく、長い時間において「読む」という動作を行うことを表す。その一方、動作主の「読む」という行為は、話し手にとって興味がないというニュアンスがあるのに対して、tur-にはそのようなニュアンスがなく、okup tur-a-t のように話し手が自慢しているような場合に使われる。

最後に、okup otur-については、ある時点における〈動作の進行〉の意味を表す。この場合には、動作主が「読む」という動作自体を長く行っていることを表す。なお、otur-は、主に「座って行うことができる」ことを示す動詞に後接することが多くみられる。すなわち、4つの補助動詞は〈動作進行〉という点で共通しているが、時間軸における捉え方が異なっているということである。

変化動詞

各補助動詞形式における変化動詞は、動作動詞の次に多く現れることが分かった。最も多く出現しているのは、V-(i)p tur-形式の場合である。

V-(i)p jat-形式の場合、動詞 öl- (死ぬ) が現れるが、他の補助動詞の場合には現れない。

- (5) Uşu-lar-din iç-i-nde çalka-si-nan tüş-üp kîbîla-nî
これ-PL-GEN 中-3:POSS-LOC 仰向け-3:POSS-ABL 降りる-CVB 折り側-ACC
betten-ip **öl-üp** **jat-kan** Serikbay körün-du. (Dürbölög zaman)
向かう-CVB 死ぬ-CVB jat-PART PSN 見える-PAST1
「これらの中に仰向けになって祈りの方角に向いて**死んでいる**セリクバイが見えた。」

変化動詞の場合、基本的に主体の〈変化の結果の状態〉という文法的な意味を表す。

- (6) Oşo beşene-ge jazıl-gan tagdîr tabîşmag-î-nîn jandîrmag-în
その 運命-DAT 書かれる-PART 運命 謎-3:POSS-GEN 解け方-ACC
kütüü-nün özü kün-dön kün-dü **jarat-îp** **tur-a-t.** (Toolor kulaganda)
待つ GEN 自分 日-ABL 日-ACC 発生する-CVB tur-PRS-3SG
「その運命に書かれた謎が解けるのを待つことで日々が**過ぎ去って**いく。」

- (7) Satkîn ёnesinen kal-gan ёepken-di
PSN 母-3:POSS-ABL 残る-PAST ジャケット-ACC
kõpkõ ёeyin **kiy-ip** **jür-gõn.** (Jortuul)
長い まで 着る-CVB jür-PST2
「サトクンはお母さんが残したジャケットを**着ていた**。」

状態動詞

各補助動詞形式における状態動詞は、元々動作動詞の語彙的な意味を持つ jür-を含む V-(i)p jür-形式以外に現れている。しかし、4つの分類の中では一番少ない動詞類である。これは、補助動詞の tur-、otur-自体が状態動詞であるから、結合することが少ないと考えられる。それでも、少数であるが、V-(i)p tur-と V-(i)p otur が擬態的な様子を表す動詞と結合し、ある時点における〈状態の持続〉を表す。

内的感情動詞

各補助動詞形式において内的感情動詞は、すべての補助動詞と共起できる。このタイプの場合、V-(i)p jat-と V-(i)p jür-は主体の〈心理的な状態〉、V-(i)p tur-と V-(i)p otur-は主体のある時点における〈感情状態の持続〉を表すと位置付けた。また、一人称の文だけではなく、二人称・三人称の場合にも使われる。

以上、各補助動詞形式のAspectに関する文法的な意味とそれらの特徴を示した。考察の結果、V-(i)p jat-、V-(i)p tur-、V-(i)p otur-、V-(i)p jür-形式における各補助動詞は本動詞として語彙的な意味がある程度残っていることから、日本語の「～テイル」とは異なり、完全に文法化しているとはいえない。これらの補助動詞の中で特に otur-と tur-の（座る）、（立つ）という意味が文法的な意味に影響し、本動詞として機能しているのかそれとも補助動詞として機能しているのかが明確に規定できない用例が少なからずあった。さらに、これらは〈動作の進行〉という文法的な意味を表す点で共通しているが、それぞれの使い分けとしてなんらかのモダリティ的な意味が大きく関わっている。そして、これらの補助動詞は、過去と未来における〈動作の進行〉や〈動きの進行〉の文法的な意味を表している。

以下、各補助動詞の場合に取り出された本動詞の分類ごとに現れる文法的な意味についてまとめると、次の〈表 14〉になる。

〈表 14〉 各補助動詞と共起する本動詞の種類とAspect的な意味

| 補助動詞 動詞分類 | jat- | tur- | otur- | jür- |
|--------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 動作動詞 | 〈動作の進行〉 〈動きの持続〉 | 〈動作の進行〉 〈動作の繰り返し〉 〈動きの持続〉 | ある時点における 〈動作の進行〉 | 長期間にわたる 〈動作の進行〉、 〈動作の繰り返し〉 |
| 変化動詞 | 〈動作の進行〉 〈変化の結果の状態〉 | 〈変化の結果の状態〉 | 〈変化の結果の状態〉 | 〈変化の結果の状態〉 |
| 状態動詞 | 〈変化の結果の状態〉 | 一時的な〈状態の持続〉 恒常的な〈状態の持続〉 | ある時点における 〈状態の持続〉 | なし |
| 内的感情動詞 | 〈心理的な状態〉 | ある一定の時間における 〈感情状態の持続〉 | ある時点における 〈感情状態の持続〉 | 長期間にわたる 〈心理的な状態〉 |

次に、本論文の成果としてそれぞれの補助動詞形式の特徴をまとめてみると、以下の1～4のようになる。

1. **V-(i)p jat** 形式は、基本的に動作動詞の場合、〈動作の進行〉や〈動きの持続〉を表し、文中での言語的な条件によって〈動作のくりかえし〉や〈反復〉を表すこともできる。変化動詞の場合には、同じ文でも、〈動作の進行〉と〈変化の結果の状態〉の両方の文法的な意味を表せると考えられる。

(8) Sovetter Soyuz-un-da salin-gan mektep-ter bügünkü
ソビエト 連邦-3:POSS-LOC 建てられる-PART 学校-PL 今日
kündö **ura-p jat-a-t.** (barakelde.org/news)
毎日 倒れる-CVB jat-PRS-3SG
「現在、ソビエト時代に建てられた学校は**倒壊**しつつある。」

(9) İsik-Köl oblus-un-da tyan šyan karagay-larī küy-üp **jat-a-t.** (bulbul.kg)
イシククル 州-3:POSS-LOC 天山 トウヒ-PL 燃える-CVB jat-PRS-3
「イシククル州では天山トウヒが**燃えている** (燃えつつあった)。」

すなわち、眼前に横たわっているある状態を表す時に **jat-** が使われるが、その状態は現在進行中なのか、結果として眼前に残っているのかで二つの文法的な意味を表すことになる。しかし、キルギス語の伝統文法書では、**V-(i)p jat** 形式の〈変化の結果の状態〉の用法について触れていない。

V-(i)p jat 形式における結合可能な動詞と補助動詞について述べてきたが、結合できない動詞もある。それは、**tap-** (見つける)、**okšoš-** (似る)、**(svet) küy-** ((電気) が付く)、**oč-** (消える) **bil-** (知る) (肯定) などのような結果の面だけを示す動詞類である。

そして、キルギス語の伝統文法書では **jat-**、**tur-**、**jür-**、**otur-** 形式は現在形の一種類として位置付けられているのに対して、本研究では、「**-(i)p jat-kan PART bol-PAST3-**人称語尾」形式と「**-(i)p jat-kan PART bol-PRS-**人称語尾」形式によって、**V-(i)p jat** が現在形だけではなく、過去と未来における〈動作の進行〉を表すことを確認した。

(10) Ėki jıl-dan beri biz-din kolhoz öz küč-ü menen
二年-ABL から 私達-GEN コルホーズ 自分 力-3:POSS で
janı mektep **kur-up jat-kan bol-ču.** (Birinči mugalim)
新しい 学校 建てる-CVB jat-PART なる-PST4
「二年前から私たちのコルホーズは、自分達の力で新しい学校を**建てていたんだ**。」

- (11) Dagı bir neçe jil ötkön soñ men-i da oşondoy
 また いくつか 年 過ぎる-PAST2 後 私-ACC も そのよう
 iygilik-ter **küt-üp** **jat-kan** **bol-o-t.** (kloop.kg)
 成功-PL 待つ-CVB jat-PART なる-PRS-3SG
 「後、何年か過ぎたら、私もそのような成功が**待っている**だろう。」

2. **V-(i)p tur-**形式は動作動詞と接続すると、ある一定の時間における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。また、動作の頻度を表す副詞などが添えられることによって、ある一定の時間における〈動作の進行〉の意味が、〈動作のくりかえし〉の意味を表すようになる。主体の立って行うことができる活動動作を表す動詞が多く現れ、また、それと同時に **tur-**が語彙的な意味の本動詞として使われる用例がある。その場合、**tur-**は補助動詞ではなく、本動詞となり、前接する動詞にとって付帯的な役割で使われることになる。そして、文脈によって補助動詞 **tur-**が必ずしも発話時点で進行している動作を表しているのではなく、過去のある時点で未来に当該動作の実行を考えていたことと、そしてその動作が行われる期間がある一定の時間の場合に、**tur-**が使われる。その場合、日本語に「～ている」というように「テイル」を添えて訳すことができず、本動詞の意味で訳すのが適切である。

- (12) Biz bul üy-dö jay ay-la-rin-da gana **jaşa-p**
 私達 この 家-LOC 夏 月-PL-3:POSS-LOC だけ 住む-CVB
tur-a-biz dep oylo-gon-buz, biroq... (barakelde.kg)
 tur-PRS-1PL と 思う-PAST2-1PL しかし
 「私たちはこの家に夏だけ**住む**とと思っていたのですが...」

また、**tur-** (立つ) の語彙的な意味が読み取れない用例も存在するが、その場合、主語が物に限られる。変化動詞に後接すると〈変化の結果の状態〉の意味が表される。

- (13) Köl-dün bet-i-ne gül-dör ös-ö-t, ös-kön gül-dör
 湖-GEN 表面-3:POSS-LOC 花-PL 咲く-PRS-3 咲く-PART 花-PL
 künügö eki-ge **köböy-üp** **tur-a-t.** (super.kg)
 毎日 2-DAT 増える-CVB tur-PRS-3SG
 「湖の表面に花が咲いていて、その花の数が毎日2倍に**増えている**。」

そして、*jat*-形式と同様に、*tur*-形式も現在形の一種類として位置付けられているのに対して、本研究では以上の補助動詞が現在だけではなく、過去と未来における〈動作の進行〉も表すと位置づけている。

(14) Ėmki jilī ušul maal-da alma-lar bajīray-īp güldö-p tur-gan bol-o-t.
 次 年 この 頃-LOC リンゴ-PL 奇麗になる-CVB 咲く-CVB tur-PART なる-PRS-3SG
 「来年のこの頃、リンゴの花がきれいに咲いているだろう。」

(15) Ošol jilī jaz-da alma-lar bajīray-īp güldö-p tur-gan bol-ču.
 その 年 春-LOC リンゴ-PL 奇麗になる-CVB 咲く-CVB tur-PART なる-PAST3
 「その年の春、リンゴの花がきれいに咲いていた。」

V-(i)p tur-形式において特徴的なのは、**V-(i)p tur-up** 形式で従属の位置に本動詞と共に現れる場合、アト(デ)の意味で使われることである。この場合には一般の形式である「動詞語幹+*-gan* 分詞+*-dan* 奪格+ 副詞 *kiyin*」と異なって、アトに焦点を置いた解釈になると考えられる。

(16) Dos-un čakīr-īp tur-up, birgeleš-īp plan tüz-üş-tü.
 友人-3:POSS 呼ぶ-CVB tur-CVB 一緒になる-CVB 計画 立てる-RECP-PAST1
 「友人を呼んだあと(で)この計画を立てた。」

3. **V-(i)p otur-**形式に現れる本動詞のタイプによって表される文法的な意味について見てきた。動作動詞の場合、基本的にある時点における〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。しかし、この場合、「座っている」という本動詞の意味で使われているのか、補助動詞として使われているのかを規定するのが難しい。

(17) Sara skver-din ara-sī-na koy-ul-gan skameyka-lar-din
 サラ 公園-GEN 中-3:POSS-LOC 置く-PASS-PART ベンチ-PL-GEN
 birin-de jalgiz kitep oku-p otur-du. (K.k.S)
 一つ-LOC 一人 本 読む-CVB otur-PST1
 「サラは公園の中にあるベンチに座って一人で本を読んでいた。」

一方、変化動詞の場合には、(座っている)という本動詞の意味がなくなっており、補助動詞として機能しているが、その場合に、何らかのモダリティ的な意味が生じている。

- (18) Men bagı-ŋ-dī bayla-p otur-a-m. (Belgisiz kizdın mahabatı)
 私 幸せ-2POSS-ACC 縛る-CVB otur-PRS-1SG
 「私はあなたを不幸にしている。」

また、otur-形式が副動詞の-up とともに従属節の中に現れると、当該の動作が「～続けていく」という意味になる。そしてその場合には、述語に来る出来事が前件の出来事の影響を受け、何らかの結果として残ることを表している。

- (19) Ata-bala ar kaysinin başın ayt-ıp koburaş-ıp otur-up,
 父子 色々 頭-3:POSS-ACC 話す-CVB 喋る-RECP-CVB otur-CVB
 bayagı bürküt uya-nin tuşu-na kel-iş-ti. (Kara şumkar)
 その 鷹 巢-GEN 前-DAT 来る-RECP-PAST1
 「父と子は色々なことについて喋り続けて、その鷹の巢の前に来た。」

さらに、本動詞が移動動詞として述語に現れる場合は、〈変化の結果の状態〉の意味を表す。また、bil- (知る)、kiy- (着る) などの本動詞と組み合わせた場合も〈動作の進行〉ではなく、〈変化の結果の状態〉の意味を表している。内的感情動詞の場合は、ある時点における〈感情の持続〉を表すと同時にその状態が「座ったまま」行われているというニュアンスが含まれている。

4. **V-(i)p jür-**形式は、本動詞が動作動詞の場合、基本的に長時間にわたる〈動作の進行〉という文法的な意味を表す。これまでの補助動詞と異なり、補助動詞の jür-がもつ語彙的な意味(動く)という意味は文法的な意味にそれほど影響していないと考えられる。それは(動く)の意味からくる「動きながら何かをする」という意味の性質に起因するものだと思われる。その裏づけとして、主語はほとんど人であり、物が主語である用例は見られなかった。

また、文中に現れる期間を規定する副詞によって〈動作のくりかえし〉という文法的な意味が表される。さらに、文中に副詞が現れなくても「ずっと、途切れなく」というニュアンスが含まれている用例があることも確認した。

変化動詞の場合には、本動詞が受け身形をとる場合と物が主語である場合には〈変化の結果の状態〉の意味を表す。

- (20) Čoŋ apa-m-din süröt-ü men-de oşol
 大きい 母-1:POSS-GEN 写真-3:POSS 私-LOC その
 boydon sakta-l-ıp jür-ö-t. (Alikuldu süygön kız)
 まま 保管する-PASS-CVB jür-PRS-3SG

「お婆さんの写真はそのまま保管されている。」

V-(i)p jür-形式において特徴的なのは補助動詞の jur-が状態動詞と結合できないことである。内的感情動詞の場合、長期間にわたる〈心理的な状態〉という文法的な意味を表す。そして、他の補助動詞と同様に、現在だけではなく、過去と未来においての〈動作の進行〉の意味を表す。

第3章では、日本語とキルギス語の従属節のテンス・アスペクトの比較対照を行った。まず、日本語のトキ節と共起する主節のテンス・アスペクトを「ル」形と「テイル」形、「タ」形と「テイタ」形の4種類に分けて考察した。その結果、本論文の成果として、日本語のトキ節に対応するキルギス語の「-(i)p jat-kanda、-(i)p tur-ganda、-(i)p otur-ganda、-(i)p jür-göndö」の各従属節について、次のようにまとめることができる。

- ① 本研究の対象である4つの補助動詞は、主節の述語に来る場合と同様に従属節にも現れ、動作の進行、主節の動作・作用と同時に進行することを表す。ただし、ここでも補助動詞それぞれの語彙的な意味が大いに関わってくる。もし、その動作の内容が抽象的な事柄であれば、一般性の高い jat-が用いられる。
- ② キルギス語には日本語のトキ節に相当する構文的な形式は三通りある。
 - [1] 「動詞語幹または補助動詞+gan; -ar 分詞+da 位格」
 - [2] 「動詞語幹+gan 分詞+kezde/ubakta/uçurda/mezgilde/maalda/çakta/çende 副詞」
 - [3] 「本動詞+副動詞+補助動詞+sa 条件接辞形」
- ③ 日本語の従属節は「スル」、「シタ」、「シテイル」、「シテイタ」形で、主節のテンス・アスペクトとの対応関係を区別していることに対し、キルギス語の従属節は日本語の従属節で現れる「～テイル/～テイタ」形式を「動詞語幹+gan 分詞+da 位格」で表し、この点に関してはテンスとアスペクトの線が引けず、融合したものとして扱われていると考えられる。両言語の複文における従属節と主節のテンス・アスペクトの比較対照をまとめると、以下ようになる。
 - 日本語の「～シタとき/～シテイタとき ～スル」形式においては、従属節の「タ」形は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できないが、キルギス語は従属節の形式が主節の時制に影響を与えず、主節が現在形あるいは過去形でも、非文にならない。
 - 日本語において従属節に非過去の「ル」形が来る場合、対応するキルギス語では-ar 未来分詞が使われ、過去の「タ」形が来る場合には-gan 過去分詞が使われる。

- キルギス語では、トキの従属節を上記の「-ar/-gan 分詞+da 位格」の他に「補助動詞 +sa 接辞形」を用いて表すこともできる。
 - 日本語の「～スルとき／シタとき ～テイル」形式の場合、キルギス語では主節に現れる形式として「するようにしている」の意味で「-ip tur+-a 現在形接尾辞+人称」が用いられる。
 - 「～シテイルとき ～テイル」形式の場合、日本語の主節では「～テイル」が使われるのに対して、キルギス語の主節では jat-補助動詞ではなく、単純現在形が用いられる。
 - 「～シテイタとき ～テイル」形式の場合は、日本語もキルギス語も容認不可能な文になる。しかし、キルギス語では、人称を問わず動作主を一人とし、主節に来る事柄と従属節の事柄を同じ主体が行うような文にすると自然な文になる。
 - 日本語とキルギス語では、どちらも従属節における「～テイル／～テイタ」と呼応する主節が「～テイタ」形式に見られる特徴は、主語が一つではないということである。
 - 日本語の従属節において「～テイル／～テイタ」形式に時間を特定する要素があれば、キルギス語では jat-補助動詞が使用され、出来事の進行を表す。
 - 全体的に言えることとして、主節では本動詞の語彙的な意味が補助動詞が担う文法的な意味に影響するが、従属節では本動詞の語彙的な意味が補助動詞の選択に関わると言える。
- ④ 共起関係を表すアイダ(ニ)の従属節をまとめると以下のようなになる。すなわち、キルギス語の場合アイダ(ニ)節に対応するものが存在せず、トキを表す副詞を補っているように考えられる。「アイダ」の意味は、「最初から最後までずっと」というような表現を用いてあるいは「終わるまで」という補助動詞を加えて表すこともある。
- ⑤ 継起的時間関係を表すマエ(ニ)節とアト(デ)節をまとめると、キルギス語では、マエ(ニ)節に相当する形式は「-ar 分詞+-dan 奪格+ murun 副詞」または「-ar 分詞+-dyn 属格+ astinda 副詞」として二通りに表されるが、意味的には特に変化が生じないことになる。
- ⑥ キルギス語のアト(デ)形式は、マエ(ニ)形式と同様に奪格を取るが、過去分詞という異なる分詞の形をとり、副詞の kiyin を付加させる。つまり、「動詞語幹+-gan 分詞+-dan 奪格+ 副詞 kiyin」になる。そして、アト(デ)形式の意味で補助動詞の tur-が使われ、従属節にある事態が前に起きないとその後にくる事態も起きないというような解釈がなされ、前にある事態を強調していることも含意されている。

- ⑦ 以上までの議論の方向とは逆に、キルギス語の従属節におけるテンス・アスペクト形式から日本語を見てみると、日本語の従属節におけるテンス・アスペクト形式（例えば、「タ」形や「テイル」形など）が融合的・包括的であるという特徴が明確となり、その点で日本語はキルギス語よりもテンス・アスペクトに関する文法化が進んでいると言える。

この節の締めくくりとして、本論文全体を通して得られた成果をまとめてみると、以下のようになる。

[1] 言語類型論から見て互いに類似している日本語とキルギス語に着目して特に日本語の進行アスペクトを表す「～テイル」の観点からキルギス語のアスペクト・テンス形式を分析したこと。

本研究では、日本語のアスペクト研究は、スル・シテイルといった形態論的な対立に基づいてアスペクト的意味の対立を中心に研究が進められてきたのに対して、本研究では、キルギス語が補助動詞によって表される動作の局面に着目し、本動詞の語彙的アスペクトを中心に分析を行った。

具体的には、日本語の「～テイル」形式から出発して、日本語とキルギス語における主節及び従属節に現れるテンス・アスペクトを表す形式の実態について分析を行い、日本語の「～テイル」とキルギス語の補助動詞のアスペクト的特徴について論じた。すなわち、アスペクト・テンス体系に関して、日本語の「～テイル」が形態論的にも文法的なアスペクト的意味に融合しているのに対して、キルギス語の場合「V-(ip)副動詞+補助動詞 (jat/tur/otur/jur) +現在／過去時制接辞+人称接尾辞」という形式をとることについて詳述した。

キルギス語においては、汎用性を持つ補助動詞 *jat* が主節に現れる場合と従属節の位置に現れる場合に成立するアスペクト的意味が異なる。主節では〈動作の進行〉や〈動作のくりかえし〉などの文法的な意味を表すのに対して、本動詞と接続して、副動詞の *-ip* とともに従属節の中に現れると、付帯状況を表すようになる。Telefon-du *koy-up jat-ip, üškürün-dü*. 「電話を切りナガラため息をついた。」のように主節の事態が成立するときに同時に付随的に生じている同じ主体の状態を表す場合、V-(ip) *jat-ip* 形式が用いられ、日本語のナガラ節との対応を示す。そして、V-(ip) *tur-up* 形式で補助動詞 *tur* が *-up* 副動詞とともに従属節に現れる場合、Dos-un *čakir-ip tur-up, birgeleš-ip plan tüzüş-tü*. 「友人を呼んだあと一緒に計画を立てた。」のようにアト(デ)節に対応し、アトに焦点を置いた解釈がされる。さらに、V-(ip) *otur-up* 形式が補助動詞 *otur* が *-up* 副動詞とともに従属節に現れる場合、Ata-bala *süylö-š-üp oltur-up, üy-lör-ü-nö kanday jet-ken-in bil-bey kal-iš-ti*. 「親子は話し合っていて、家にいつ着いたのかわからなくなった。」のように「～し続ける」の意味を担うようになる。V-(ip) *jür-üp* 形式も V-(ip) *otur-up* 形式と同様に従属節においては、「～し続ける」の意味で *Zarla-p jür-üp bala-luu bol-uš-kan*. 「(ずっと)懇願し続けて、子供ができた。」のように用いられる。

[2] キルギス語研究への貢献: キルギス語のアスペクト・テンス体系についてロシア語ではなく日本語の視点からより正確に記述したこと。

キルギス語におけるアスペクト的意味を表す補助動詞の研究が十分行われていないことを先行研究の問題点のところで述べたが、本研究の対象である V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür- という4つの形式は複合現在形を構成する形式として深く定着している。このことは、テンスとアスペクトという二つの文法範疇は、厳密に区別されていないことを意味するが、本研究では、ロシア語の体の存在を意識した解釈でされてきた研究とは異なり、継続相の解明に重要である補助動詞に先行する本動詞の語彙的な意味と文脈に着目し、補助動詞のアスペクト的意味について日本語からの視点を手がかりとして論じた。V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür- は現在時制を表すものとして位置づけられているが、実際には過去形でも未来形でも使用されることを示し、アスペクト的意味の〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉の意味が中心に記述されているのに対して〈変化の結果の状態〉という文法的な意味も表すと位置づけた。

最後に、V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür-形式の文法化の問題に関しては、V-(i)p tur-, V-(i)p otur-形式の「立つ」と「座る」の意味が見えてしまうため、そのような語彙的な意味があまり見えない V-(i)p jat- と V-(i)p jür-形式の方が V-(i)p tur-, V-(i)p otur-形式よりより文法化が進んでいると考えられる。特に、最も文法化されている形式は jat-補助動詞を含む「移動動詞₁V-(i)p 移動動詞₂(a/e) jat-」である。

[3] 日本語研究への貢献: 日本語の従属節と主節におけるテンス・アスペクトの特徴がキルギス語からの視点を通じてより一層鮮明になったこと。

日本語とキルギス語は SOV 語順をとり、膠着言語である点で共通しているが、相違点もある。日本語の場合、従属節と主節に現れる「～テイル」形式の両者がどこで共通しどこで相違するかということは、あまり明らかになっていない。本研究では、第2章と第3章の「～テイル」のアスペクト・テンスを考察した結果、明らかになったのは、両言語の形式上の違いである。キルギス語は「V-(ip)副動詞+補助動詞(jat/tur/otur/jür)+現在/過去時制接辞+人称接尾辞」を添えた形で表される点で分析的であるのに対して、日本語のテンス・アスペクトを表す形式は、形態と文法の両面において融合的かつ包括的である。日本語は人称という文法カテゴリーを有していないため、主語がない文においては、動作主を特定しにくく、キルギス語が名詞や動詞などに人称語尾を付加させて明示できるのとは対照的である。

[4] キルギスにおける日本語学習者への示唆

キルギスにおけるキルギス語母語話者を中心とした日本語教育と日本語母語話者のためのキルギス語学習において、「～テイル」と V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür-のアスペクト・テンス形式の理解に貢献すると思われる。

- 日本語の進行アスペクト「～テイル」に対応する V-(i)p jat-, V-(i)p tur-, V-(i)p otur-, V-(i)p jür-, 形式は〈動作の進行〉と〈動作のくりかえし〉というアスペクト的意味を表す点で共通しているが、V-(i)p tur-形式は瞬間動詞と接続する場合に〈変化の結果の状態〉というアスペクト的意味を表すことになる。
- 日本語の主節に来る「～テイタ」形に対応する -di/-gan/iptir/ču 接辞の4種類の過去形のうち、-gan 接辞は相対的テンスの役割をする。
- 日本語の従属節のテンス・アスペクトの習得に当たって、述語のテンスは主節の述語を基準として、それより前に起きているか、後に起きているか、または同時に起きているかを示す相対的テンスの理解が重要である。
- 日本語の「～シタとき／～シテイタとき ～スル」形式においては、従属節の「タ」形は完了を表し、現在・未来を表す主節の「ル」形と接続できないが、キルギス語は従属節の形式が主節の時制に影響を与えず、主節が現在形あるいは過去形でも、非文にならない。
- 「～シテイルとき ～テイル」形式の場合、日本語の主節では「～テイル」が使われるのに対して、キルギス語の主節では jat-補助動詞ではなく、単純現在形が用いられる。

2. 今後の課題

日本語の「～テイル」とキルギス語のアスペクト形式 V(i)p jat-, V(i)p tur-, V(i)p otur-, V(i)p jür-の比較対照については、日本語を学習した経験と日本語教育に従事してきた経験が研究の出発点だった。キルギスにおける日本語教育現場で「～テイル」形式は、一つの形式が多様な意味機能を示すため、形式と意味との対応関係は日本語学習者に理解しにくいものであり、さらに中上級レベルになっても明確な学習項目として意識されず、ただロシア語訳やキルギス語訳が教師によって与えられているのが現状である。

キルギス語の進行アスペクトを表す形式は、異なる4つの補助動詞をそれぞれ含む V(i)p jat-, V(i)p tur-, V(i)p otur-, V(i)p jür-が用いられ、日本語の「～テイル」との対応関係を示している。しかし、これらは「～テイル」の〈動作の進行〉と〈動作の繰り返し〉という文法的な意味を表す点においては共通しているが、派生的な意味としての〈パーフェクト〉と基本的な意味としての〈変化の結果の状態〉という文法的な意味についてどのように対応しているかを論じる研究は、本論文を含めて今のところ行われていない。本研究では、本動詞をその語彙的な意味に基づいて動作動詞、変化動詞、状態動詞、内的感情動詞の4つに分類し、各補助動詞がそれぞれの本動詞と組み合わせられた時にどのような文法的な意味を表し、それらがいかなる条件下で実現されるのかについて分析した。これらの補助動詞は〈パーフェクト〉の用法を表せないため、(不確定過去形で表される) 〈パーフェクト〉についての研究は今後の課題として残されている。

本研究では、日本語学習者に日本語のテンス・アスペクト形式を教える時、どんな内容をどのように教えるのかを念頭において、トキ(ニ)節、アイダ(ニ)節、マエ(ニ)節、アト(デ)節を中心に従属節の記述を試みた。研究対象の4つの補助動詞は、従属節の場合でも文脈や動作主の姿勢と絡み合って表現されるため、さらに内容を膨らませ、分析を進める必要がある。これは、各表現形式と動詞の共起関係を詳細に調べることで、動詞自体の語彙的アスペクトが特定されると思われる。語彙的アスペクトが特定されると、より具体的な動詞の分類が可能になると考える。各補助動詞のアスペクト的特徴と動詞の語彙的アスペクトの関係については、今後の大きな研究課題である。

さらに、「～テイタ」形式のアスペクト的意味とキルギス語との対応関係を明らかにすることが今後の研究課題として残されている。現在進行を表す4つの補助動詞に過去形の接辞を付加すると、過去における〈動作の進行〉を表すことを示したが、それ以外に、キルギス語は過去形に4つの種類があるため、さらなる考察が必要である。上述したように、本研究では「～テイル」の〈パーフェクト〉の用法を扱うことができなかったが、「～テイタ」形式と4つの過去形としての確定過去、不確定過去、不定過去、習慣過去を対照し、詳細に調べることによって、キルギス語のテンス・アスペクト形式全体についての説明が可能になると考えられる。

そして、本研究を通して、分かったことであるが、キルギス語母語話者は、同じ文法的な意味を表す各補助動詞の使い分けとして、モダリティ的な観点が大きく関わってくる。したがって、テンスとアスペクトとムードの相関性についての研究を進めなければならない。

最後に、研究の冒頭で述べたように、キルギスの日本語学習者に対して「～テイル」の用法を明確な学習項目として意識させ、日本語教育の場でどのように活用するかについては、さらに検証を進めなければならない。

これらのことを今後の研究課題としたい。

参考文献

- 秋元実治 (2001) 『文法化—研究と課題』、英湖社.
- アクマタリエワ ジャクシルク(2011)「キルギス語の補助動詞について—補助動詞-tur-の意味用法—」、『コーパスに基づく言語学教育研究報告』№6 東京外国語大学大学院総合国際学研究院.
- アクマタリエワ ジャクシルク (2014) 「キルギス語の「持続」を表す補助動詞—jat- tur- jür- otur-を中心に—」、東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士論文.
- 奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」(宮城教育大『国語国文』87) .
- 奥田靖雄 (1984) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『ことばの研究・序説』、むぎ書房刊.
- 尾上圭介 (1982) 「現代語のテンスとアスペクト」、『日本語学』Vol.1-No.2、17-29.
- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』、くろしお出版.
- 井島正博 (1991) 「従属節におけるテンスとアスペクト」、『東洋大学日本語研究』、№4、13-57、東洋大学言語文化研究会.
- 井上優・生越直樹・木村英樹 (2002) 「テンス・アスペクトの比較対照日本語・朝鮮語・中国語」、シリーズ言語科学4『対照言語学』、125-159、東京大学出版会.
- 井上和子 (1989) 「テンス・アスペクト4」『日本文法小辞典』、大修館書店.
- 井上優 (2002) 『日本語文法のしくみ』町田健(編)シリーズ・日本語のしくみを探る1、研究社.
- 岩崎卓 (1999) 「マエとマエニのちがいについて」『日本語・日本文化』第25号、大阪外国語大学留学生日本語教育センター.
- 岩崎卓 (2000) 「日本語における文法カテゴリーとしてのテンスとは何か」、『日本語学』、Vol.19 No.5、28-38.
- 岩本遠億 (2008) 『事象アスペクト論』、開拓社.
- 大崎紀子 (2006) 「チュルク語・モンゴル語の使役と受動の研究—キルギス語と中期モンゴル語を中心として」京都大学博士論文.
- 大堀壽夫 (2004) 『認知コミュニケーション論』、大修館書店.
- 風間伸次郎 (2014) 「日本語の類型について—「アルタイ型言語」の解明を目指して—」、北方言語研究4:157-171、北方言語ネットワーク編、北海道大学大学院文学研究科.
- 加藤泰彦・福地務 (1989) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ15 テンス・アスペクト』、荒竹出版.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996) 『言語学大辞典』(術語編)第6巻、三省堂.

- 金子亨（1995）『言語の時間表現』、ひつじ書房.
- 菅野裕臣（1990）『動詞アスペクトについて（I）』、学習院大学東洋文化研究所.
- 菅野裕臣（1992）『動詞アスペクトについて（II）』、学習院大学東洋文化研究所.
- 金水敏（1987）「時制の表現」『時代と文法—現代語』、国文法講座、第6巻、明治書院.
- 金水敏（1994）「連体修飾の「～タ」について」、『日本語の名詞修飾表現』、くろしお出版.
- 金水敏（1995）「いわゆる「進行態」について」、『築島裕博士古稀記念国語学論集』、（築島裕博士古稀記念会編）、波古書院.
- 金水敏（1996）「日本語のアスペクト形式の類型」、『国語学会平成8年秋季大会要旨集』、59-66.
- 金水敏（2000）「時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子（著）『日本語の文法2 時・否定と取り立て』、岩波書店.
- 金水敏（2001）「文化化と意味「～おる（よる）」論のために」、「國文学（解釈と教材の研究）」46-2、15-19.
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子（2000）「時の表現」、『時・否定と取り立て』、岩波書店.
- 久野暉（1973）『日本文法研究』、大修館書店.
- 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』15（金田一春彦（編）に再録）.
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』、ひつじ書房.
- 影山太郎（1996）『動詞意味論』、くろしお出版.
- 工藤真由美（1982）「シテイル形式の意味記述」、『人文学会雑誌』13-14、武蔵大学.
- 工藤真由美（1985）「日本語の文の時間表現」、『言語生活』、№403、48-56.
- 工藤真由美（1987）「現代日本語のアスペクトについて」、『教育国語』.
- 工藤真由美（1989）「現代日本語の従属文のテンスとアスペクト」第36巻、横浜国立大学.
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』、ひつじ書房.
- 国広哲弥（1982）「日本語・英語」『講座日本語学11 外国語との対照II』明治書院.
- 言語学研究会・構文論グループ（1989）「接続詞『とき』によってむすばれる、時間的なつきそい・あわせ文」『ことばの科学3』、119-134、むぎ書房.
- グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』、くろしお出版.
- 小泉保ほか（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館.
- コムリー・バーナード著山田小枝訳（1988）『アスペクト』、むぎ書房刊.
- 佐藤純一（1992）『基本ロシア語文法』8版発行、東京・昇龍堂出版株式会社.
- 庄垣内正弘（1988）「キルギス語」、亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典』、第1巻、1416-1422、三省堂.
- 白井恭弘（2002）「動詞の意味特性と動詞形態素の習得—プロトタイプ形成と生得性」、シリーズ言語科学3『認知言語学II：カテゴリー化』、163-182、東京大学出版会.
- 城田俊（2003）『現代ロシア語文法 中・上級編』、東洋書店.

- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』、むぎ書房.
- 鈴木 忍 (1978) 『教師用日本語教育ハンドブック 3 文法 1 助詞の諸問題 1』、凡人社.
- 杉本武 (1988) 「動詞+ている」の表すアスペクトについて、『論集ことば』、101-115、くろしお出版.
- 須田義治 (2010) 『現代日本語のアスペクト論—形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論』、ひつじ書房.
- スバゴジョエワ アセリ (2014) 「日本語の『テイル』形式とそれに対応するキルギス語のアスペクト諸形式—キルギス人日本語学習者の習得状況調査をもとに—」 『外国語教育研究』 第 17 号、59-76、外国語教育学会.
- 副島健作 (2007) 『日本語のアスペクト体系の研究』、ひつじ書房{言語編}第 44 卷.
- 高橋太郎 (1985) 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』、秀英出版.
- 高橋太郎 (2003) 『動詞九章』、ひつじ書房.
- ターライバク キズ、ジャーナルクル (2007) 「日本語の『V - テイル』に対応するキルギス語の『V-jat』のアスペクト的な意味用法をめぐる」、国際交流基金日本語国際センター、国立国語研究所、政策研究大学院大学編、『日本言語文化研究会論集』 3: 305-334.
- 辻幸夫 (2002) 『認知言語学キーワード事典』、研究社.
- 寺村秀夫 (1983) 「時間的限定の意味と文法的機能」 『副用語の研究』 渡辺実 (編) 明治書院 (寺村 (1992) に所収) .
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味』 第 II 卷、くろしお出版 .
- 寺村秀夫 (1990) 「アスペクト」、「テンス」 (日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』 (大修館書店、1990) に所収) .
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集 1 —日本語文法編—』、くろしお出版.
- Narrog Heiko (2002) 『認知言語学 II : カテゴリー化』 シリーズ言語科学 3、217-251、東京大学出版会.
- 仁田義雄 (2007) 『現代日本語文法 3』 日本語記述文法研究会、くろしお出版.
- 丹羽哲也 (1996) 「ル形とタ形のアスペクトとテンス-独立文と連体節-」、 『人文研究』 第 48 卷、第 10 分冊、大阪市立大学文学部.
- 野村剛史 (2004) 「近世スタンダードの動詞アスペクト」、 『月刊言語』 第 33 卷第 4 号通巻 393 号、50-57、大修館.
- 益岡隆志 (1997) 『複文』 新日本語文法選書 2、くろしお出版.
- 町田健 (1989) 『日本語の時制とアスペクト』、アルク.
- 三原健一 (1992) 『時制解釈と統語現象』、くろしお出版.
- 三原健一 (1997) 「動詞のアスペクト構造」、中右実 (編) 『ヴォイスとアスペクト』、研究社.
- 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版.
- 森山卓郎 (1984) 「アスペクトの意味の決まり方について」 『日本語学』 3:12 明治書院.

- 森山卓郎 (1986) 「日本語アスペクトの時定項分析」 『論集日本語研究 (一) 現代編』、所収むぎ書房.
- 森山卓郎 (2002) 『表現を味わうための日本語文法』、岩波書店.
- 森雄一・高橋英光 (2013) 『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版.
- 服部四郎 (1960) 「ソシュールの *langue* と言語過程説」 『言語学の方法』、166-218、岩波書店
- 藤井正 (1966) 「『動詞』+ているの意味」 『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦(1976)、97-116、むぎ書房に所収.
- 山口薫 (2014) 「外国人留学生の作文に現れるテンス・アスペクト形式の分析」、『南山大学国際教育センター紀要』、第 14 号.
- 吉川武時 (1971) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」 『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦(1976)、157-323、むぎ書房に所収.
- 吉田一彦 (2000) 「状態の変化を伝える言語形式の日・タイ対照研究」、『言語・地域文化研究』7、21-37、東京外国語大学大学院.
- 吉田一彦 (2001) 「埋め込み文をともなう形式「〜とき」の名詞句性と時間関係を標示する動詞述語形式-teiru/ -teita の交替」、『横浜国立大学留学生センター紀要』8、19-64.
- 吉村大樹 (2012) 「チュルク諸語研究のスコープ」、大阪大学世界言語研究センター「地政学的研究」プロジェクト、谿水社.
- 吉村公宏 (2004) 『はじめての認知言語学』、研究社.
- ライヘンバッハ、R (1947) 『記号論理学の原理』(石本新訳)、大修館書店.
- 鷲尾龍一・三原健一 (1997) 『ヴォイスとアスペクト』中右実編、日英比較選書7、研究社.

ロシア語・キルギス語・英語文献

- Abduldaev, E. (1998) *Azirkı kirkiz tili*, Kırğızstan, Biškeek.
- Baskakov, A.N. (1969) *Vvedenie v izučenie tyurkskih yazikov*, Moskva.
- Bartold, V. (1997) *Kirkizdar*, Biškeek.
- Bondarko, A.B. (1971a) *Vid i vremya russkogo glagola (značenie i upotreblenie) M.*, "Prosvešenie"
- Bondarko, A. B. (1983) *Printsipy funktsionalnoy grammatiki I voprosi aspectologii*, 2-izdanie (2001)
- Bondarko, A.B. (1984) *Funkcionalnaya grammatika*, Nauka.
- Comrie, B. (1976) *Aspect*, Cambridje University Press.
- Davletov, S. and Kudaybergenov, S. (1980) *Azirkı kirkiz tili: Morfologiya*, Mektep, Frunze.
- Dmitriev, N.K. (1962) *Stroy tyurkskih yazikov*, Moskva.
- Gadjiev, E.N. (2006) *Aspectualnost'-vayneišiy kategorialniy priznak kumikskogo glagola (sravnitel'no s tureckim)*, Dagestanskiy gosudarstvenniy pedagogičeskiy universitet, Mahačkala.
- Ganiev, F.A. (1963) *Vidovaya harakteristika glagolov tatarskogo yazika: Problema glagolnogo vida v tatarskom yazike*, Kazan'.

- Hironori, I. (2001) *Harakteristika i analiz grammatičeskikh ponyatij yaponskogo I tyurkskih yazikov*, Kırğız State University Press:Biškeek.
- Kononov, A.N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo yazıka*, Akademiya Nauk SSSR, Leningrad.
- Kudaybergenov, S. (1980) *Kırğız adabiy tilinin grammatikası*, Ilim, Frunze.
- Mamanov, I.E. (1949) *Vspomogatelnie glagoli v kazahskom yazıke*, Alma-Ata.
- Mamanov, I.E. (1958) *Glagonie vidı i ih virajenie v kazahskom yazıke "Voprosi grammatiki tyurkskih yazikov"*, AN Kazah.SSR, Alma-Ata.
- Maslov, Y. S. (1965) *Sistema osnovnih ponyatij i terminov slavyanskoy aspectologii. Voprosi obšego yazıkoznaniya*, Leningrad.
- Maslov, Y. S. (1967) *Voprosi glagolnogovida v sovremennom zarubejnom yazıkoznanii*, Moskva.
- Maslov, Y. S. (1984a) *Očerki po aspectologii*, Leningrad.
- Maslov Y.S. (1984b) *K osnovaniyam sopostavitelnoy aspectologii "Voprosi sopostavitelnoy aspektologii"*, LGU, L.
- Maslov, Y. S. (1987) *Vvedenie v yazıkoznanie*, Viščaya škola, Moskva.
- Maslov, Y.S. (2004) *Izbrannie trudi: Aspectologiya, Obšee yazıkoznanie*, Y.S.K.
- Nasilov, D. (1989) *Problema tyurkskoy aspektologii*, Nauka:Leningrad.
- Oruzbaeva, B. (2004) *Kırğız til ilimi*, Kırğız Respublikasınin Uluttuk ilimler akademiyası, Ilim: Biškeek.
- Oruzbaeva, B., Tursunov, A., Sydykov, J., Akmatalliev, A., Musaev, S., Sadykov, T., (2009) *Azirkı Kırğız adabiy tili*, Kırğız Respublikasınin Uluttuk ilimler Akademiyası, Avraziya Press:Biškeek.
- Padučeva, E. V. (2010) *Semantičeskie issledovaniya. Semantika vremeni i vida v russkom yazıke*, Yazıki slavyanskoy kul'turi, Moskva.
- Petruhina, E.V. (2009) *Russkiy glagol: kategorii vida i vremeni (v kontekste sovremennih lingvističeskih issledovaniı): učebnoe posobie*, Moskva.
- Plungyan, V. A. (2011) *Vvedenie v grammatičeskuyu semantiku: grammatičeskie značeniya i grammatičeskie sistemı yazıkov mira: učebnoe posobie*, Moskva.
- Reichenbach (1947) *Elements of Symbolic* (石本新訳 (1982) 『言語理論学の原理』大修館書店) .
- Remčukova, E.N. (2007) *Morfologiya sovremennogo russkogo yazıka. Kategoriya vida glagola*, Nauka Moskva.
- Sartbaev, K.K. (1962) *Türk tilderinin salıštırma grammatikası (Kırğız, kazah, uzbek tilderi)*, Mektep, Frunze.
- Serebrennikov B.A., Gadjieva N.Z. (1979) *Sravnitelno-istoričeskaya grammatika tyurksjih yazıkov*, Maarif, Baku.
- Serebrennikov B.A. (1958) *Problemi glagolnogo vida v tyurkskih yazıkah. Voprosi grammatiki*, Nauka, Moskva.

- Ševčenko, L.A., Pipčenko, N.M (1995) *Russkiy yazik* , Universiretskae, Minsk.
- Tohnina, E.T.(2006) “Bivervalnĭe konsruksii s aspektualnoy semantikoy nedlitelnosti v altayskom yazıke, sopostavlenii s šoršim yazıkom” (Biverbal construction from aspectual semantic non-durable in the Altay language in comparison with the Šor language) 、Mining Altay State University、Novosibirsk.
- Tursunov, A. (1958) “Deepričastie v kirgizskom yazıke, aftoreferat, Frunze.
- Tursunov, A. (1959) *Kirgiz tilindegi etišterdin keler čađı mene učur čađı*, Kırđız SSR İlimder Akademiyası, Frunze.
- Yudahin (1965) *Kirgizsko-russkiy slovar`*, Sovetskaya Enciklopediya, Moskva.
- Yunusaliev, B.M. (1949) “Vspomogatelnĭe glagoli v kırđızskom yazıke” , Frunze, Avtoreferat.
- Zeno Vendler (1967) *Linguistics in philosophy*, Ithaca: Cornell University Press.

引用例文出典

本論文で使用したキルギス語の言語資料は、以下の文学作品から手作業で収集した実例である。

小説

- Aytmatov, Č. (1974) *Erte kelgen turnalar*, Kırđızstan, Biškeek.
- Aytmatov, Č. (2011) *Samančĭnin jolu*, Iz- Basma, Biškeek.
- Aytmatov, Č. (2011) *Betme-bet*, Iz-Basma, Biškeek.
- Aytmatov, Č. (2009) *Kassandra tamgası*, Učkun, Biškeek.
- Aytmatov, Č. (2009) *Toolor kulaganda*, Učkun, Biškeek.
- Akmatov, K. (2005) *Arhat I, II*, Mamlekettik til jana enciklopediya borboru, Biškeek.
- Kapalbek uulu N. (2007) *Mahabatsız ömür jok*, Biyiktik, Biškeek.
- Seyitbekova, B. (2007) *Sirender güldögön maalda*, Biyiktik, Biškeek.
- Sıdıkbekov, T. (1998) *Men miň jil jašadım*, Akıl, Biškeek.

インターネット

キルギスのサイト、<http://www.bizdin.kg> , <http://www.literatura.kg> に掲載されている書籍を利用して収集した。最終アクセス日は、2016年1月30日である。

- Arslan Kapai uulu Koyčiev (2012) *Ayta bar menin kebimdi*, Biškeek.
- Askarov, Č. (2011) *Poezddegi baarlašuu*, Bishkek.
- Askarov, Č. (2004) *Belgisiz kizdin mahabatı*, Biškeek.
- Askarov, Č. (2008) *Ataman uurulardın tagdırı*, Biškeek.
- Auezov, M. (1987) *Dürbölöň zaman*, (Ykaev,K.訳), Biškeek.

- Bayjiev, M.(2005) *Altin küz*, Biškeek.
- Ėlebesov, B. (2008) *Turmuřtan jaralġan čoku*, Darhan, Karakol.
- Ėřimkulova, G. (2008) *Köygöy*, Biyiktik: Biškeek.
- Ėřimkulova, G. (2006) *Akademik*, Biyiktik: Biškeek.
- Ėlebaev, M. (1974) *Uzak jol*, Mektep, Frunze.
- Imanaliev, K. (2010) *Tagay biy*, Biškeek.
- Isabaeva, J. (2011) *Alikuldu süygön kiz*, Biškeek.
- Isabaeva, J. (2008) *Jilandin süyüüsü*, Biškeek.
- Kasimbekov, T.(1966) *Singan kilič*, Mektep, Frunze.
- Main, Rid. (1987) *Baři jok čabandes*,(Bektursunov, S.訳) Mektep, Frunze.
- Mederbek Adilbek uulu (2012) *Uluttun jogolġon bayliġi*, Biškeek.
- Soltombekov, B.(2003) *Karamoldonun küülörü*, Kırgızstan, Biškeek.
- Sıdıgaliev, K.(2005) *Čagılġan*, Biškeek.

新聞

www.barakelde.org/news

www.bulbul.kg

www.de-facto.kg

www.jumgal.kg

www.kabarordo.kg

www.kutbilim.kg

www.ktrk.kg

www.superinfo.kg

日本語の引用例文出典

『ある少年の愛と性の物語』

『おしゃべりな天使たちの教室』

「公報紙」

「世界にかがやいた日本の科学者たち」

「福祉の地域づくりをはじめよう」

『摩天崖』

『Yahoo！知恵袋』

『現代社会学への誘い』

(KOTONOHA) <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

謝辞

本博士論文を執筆するにあたり、主指導教員の田巻松雄教授と副指導教員の佐々木一隆教授のご指導がなくては、本論文の完成は全く不可能であり、ご支援下さいましたことに心より厚くお礼を申し上げます。常に終始熱心なご指導をいただいた佐々木先生より、厳しくも細やかな、丁寧で的確なご指導と励ましの言葉を得て、本論文をこのような形で完成させることができたと思います。本当に有り難うございました。

博士前期課程の在学時から言語分析の手法や面白さ、言語学の基礎を教えていただきました吉田一彦教授にも感謝を申し上げます。

次に、博士後期課程に進学後に、大変お世話になりました副指導教員の友松篤信教授、マリーケオマノータム教授と松尾昌樹准教授に感謝の意を申し上げます。三人の先生方には示唆に富んだご助言を多くいただきました。

また、修士論文の執筆の時からお世話になった高山道代先生には予備論文の審査においてご指摘・ご助言をいただき、本論文を修正する際に役立ちました。感謝の意を表します。

学外審査をお引き受け下さった東京外国語大学の川口裕司教授には貴重なご指摘を多くいただきました。川口先生からいただいた論文の要点を突いた鋭いご指摘は、本論文を修正するにあたり大いに参考になりました。博士後期課程1年次に学会で発表した際にもご助言をいただき、大変勇気づけられました。この場を借りて厚く感謝の意を申し上げます。

日本語表現のネイティブチェックをして下さった宇都宮大学大学院博士前期課程に在籍している阿部優子さん、柳田文さん、伊藤和也さん、宇都宮大学国際学部生の佐藤亜有子さん、日頃の研究活動でお世話になりました国際学研究科の教員と院生の皆様にお礼を申し上げます。

そして留学中の6年間にわたり山形貴江さんからは日本のお母さんとして日本の文化を教えただけだったり、精神面で支えていただいたりして大変お世話になりました。この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

最後に、私の日本での留学・研究生活を支えてくれた家族にお礼を言いたい。日頃から研究の進み具合を気にかけてくれた父のスバゴジョエフ・オスコンとキルギス語の用例収集に協力してくれた母のシュルエワ・ジャミラに心から感謝します。また、いつも私を理解し、論文の完成に向けて励ましてくれた夫のアサノフ・エルニスにもお礼を言いたい。そして、小学生の息子ヌルボルとこの春、桜が満開の時にこの世に生まれてきた娘のサクラに、この小さな論文を捧げたい。

2016年6月16日
スバゴジョエワ アセリ